

# 上智大学大学院 研究科・専攻・学位プログラムの 3つのポリシー

Three Integrated Policies for  
Graduate Schools and Programs, Sophia University

(予定)  
(Tentative)

本資料に記載の情報は、2026年5月現在の計画に基づくものです。  
今後、内容が変更となる可能性がありますので、  
あらかじめご了承くださいませようお願い申し上げます。

The information contained in this document is based on plans as of May 2026.  
Please note that the content is subject to change.

## 目次

### 神学研究科

神学専攻の 3 つのポリシー.....	1
組織神学専攻の 3 つのポリシー.....	5

### 文学研究科

文学研究科の 3 つのポリシー.....	8
哲学専攻の 3 つのポリシー.....	12
史学専攻の 3 つのポリシー.....	21
国文学専攻の 3 つのポリシー.....	27
英米文学専攻の 3 つのポリシー.....	33
ドイツ文学専攻の 3 つのポリシー.....	40
フランス文学専攻の 3 つのポリシー.....	52
新聞学専攻の 3 つのポリシー.....	58
文化交渉学専攻の 3 つのポリシー.....	64

### 実践宗教学研究科

実践宗教学研究科死生学専攻の 3 つのポリシー.....	70
------------------------------	----

### 総合人間科学研究科

総合人間科学研究科の 3 つのポリシー.....	79
教育学専攻の 3 つのポリシー.....	84
心理学専攻の 3 つのポリシー.....	94
社会学専攻の 3 つのポリシー.....	104
社会福祉学専攻の 3 つのポリシー.....	110
看護学専攻の 3 つのポリシー.....	116

### 法学研究科

法学研究科の 3 つのポリシー.....	119
法律学専攻の 3 つのポリシー.....	123

### 法曹養成専攻(法科大学院)

法曹養成専攻の 3 つのポリシー.....	129
-----------------------	-----

## 経済学研究科

経済学研究科の3つのポリシー.....	135
経済学専攻の3つのポリシー.....	139
経営学専攻の3つのポリシー.....	147

## 言語科学研究科

言語科学研究科言語学専攻の3つのポリシー.....	153
---------------------------	-----

## グローバル・スタディーズ研究科

グローバル・スタディーズ研究科の3つのポリシー.....	162
国際関係論専攻の3つのポリシー.....	166
地域研究専攻の3つのポリシー.....	173
Three Policies of the Graduate Program in Global Studies(GPGS) ....	180
Three Policies of the Graduate Program in Global Studies Master's in Japanese Studies (Japanese Studies Area) .....	192
Three Policies of the Graduate Program in Global Studies Ph.D. in Japanese Studies (Japanese Studies Area) .....	198
Three Policies of the Graduate Program in Global Studies Master's in International Business and Development Studies (International Business and Development Area) .....	204
Three Policies of the Graduate Program in Global Studies Master's in Global Studies (Global Studies Area).....	210
Three Policies of the Graduate Program in Global Studies Ph.D. in Global Studies (Global Studies Area).....	216
国際協力学専攻の3つのポリシー.....	222

## 理工学研究科

理工学研究科理工学専攻の3つのポリシー.....	226
理工学専攻機械工学領域の3つのポリシー.....	234
理工学専攻電気・電子工学領域の3つのポリシー.....	240
理工学専攻応用化学領域の3つのポリシー.....	247
理工学専攻化学領域の3つのポリシー.....	255
理工学専攻数学領域の3つのポリシー.....	262
理工学専攻物理学領域の3つのポリシー.....	270
理工学専攻生物科学領域の3つのポリシー.....	277
理工学専攻情報学領域の3つのポリシー.....	285

理工学専攻グリーンサイエンス・エンジニアリング領域の 3 つのポリシー .....	291
Three Policies of the Green Science and Engineering Division, Graduate Program in Science and Technology .....	295
理工学専攻グリーンサイエンス・エンジニアリング領域の 3 つのポリシー .....	301
Three Policies of the Green Science and Engineering Division, Graduate Program in Science and Technology .....	305
<b>地球環境学研究科</b>	
地球環境学研究科地球環境学専攻の 3 つのポリシー .....	311
Three Policies of the Graduate Program in Global Environmental Studies .....	314
地球環境学専攻の 3 つのポリシー .....	320
Three Policies of the Graduate Program in Global Environmental Studies .....	324
<b>応用データサイエンス学位プログラム(修士課程)</b>	
応用データサイエンス学位プログラムの 3 つのポリシー .....	330

## 神学研究科神学専攻の3つのポリシー

### ■ 博士前期課程

#### I. ディプロマ・ポリシー（学位授与の方針）

神学専攻博士前期課程は、カトリック神学を研究し、高度な専門的知識と研究能力にもとづいて現代世界の諸問題を解決するために貢献する人材の育成を目的としています。

そうした目的を達成するため、上智大学大学院のディプロマ・ポリシーを踏まえ、本専攻博士前期課程では、4つのコース（組織神学コース、聖書神学コース、キリスト教教育コース、宣教実務者コース）のいずれかを選択し、所定の教育課程を修め、学位論文または特定課題研究（課題研究報告書）の審査に合格することで、次の資質・能力を身につけたと認められる者に学位を授与します。

#### 1. 専門家としての資質・研究倫理

gmDP1-1.

神学を基礎的・中心的研究対象とし、世界的視野の下で、他の思想・文化・宗教との対話の重要性にも注意することができる力

gmDP1-2.

高い倫理観・規範意識を持って研究を進める力

#### 2. 高度な専門的知識

gmDP2-1.

神学専攻の各コースに必要な専門知識と研究能力

・組織神学コースでは、体系的なカトリック神学の専門知識と研究能力（これに加えて、カトリック教会の司祭志願者の場合は、司祭になるために必要な専門知識と実践力）

・聖書神学コースでは、聖書研究の方法論にもとづいて聖書のテキストを研究する能力

・キリスト教教育コースでは、基礎的な神学理論を踏まえながら、実践的な司牧のあり方について研究する能力

・宣教実務者コースでは、教会における奉仕の現場に携わる人材としての能力

#### 3. 社会を先導する力

gmDP3-1.

修士論文および課題研究報告書の作成において、論文構成が的確で、論理展開に整合性・一貫性があり、説得力のある学術論文を作成し、研究成果を社会に発信する力

## Ⅱ. カリキュラム・ポリシー(教育課程の編成・実施の方針)

神学専攻博士前期課程では、ディプロマ・ポリシーに示す資質・能力等の目標を学生が達成できるようにするため、教育課程編成、学修内容・学修方法、学修成果評価について、以下のよう  
にカリキュラム・ポリシーを定めます。

### 1. 教育課程の編成方法

本課程では、専門分野についての高度な知識と様々な理論と実践を効果的に修得できるよう、以下のようにカリキュラムを編成しています。

- (1) カトリック神学の伝統に基づいて、キリスト教に関する専門科目を、包括的・展開的に設置します。
- (2) 教義神学、教会史、キリスト教教育、キリスト教文学、聖書神学、聖書釈義、倫理神学、教会法、典礼神学、霊性神学、ギリシア語・ヒブル語などの古典文献学の科目を設置します。
- (3) 基礎的学習の専門性を深めるために、組織神学コース、聖書神学コース、キリスト教教育コース、宣教実務者コースの4コースを設置します。
- (4) 修士論文および課題研究報告書作成のための「研究指導」を必修科目として設置します。
- (5) 研究倫理に関する規範意識を身につけるために、研究倫理教育を受ける機会を設けます。
- (6) 教皇庁認可神学部共通の国際的学位である *Sacrae Theologiae Baccalaureatus (STB)*・*Sacrae Theologiae Licentiatu (STL)*・*Sacrae Theologiae Doctor (STD)*を取得するための基準に則した神学専門科目を設置します。

### 2. 学修内容・学修方法

本課程の修了に必要な知識・技能を修得するため、講義・演習・実習等を組み合わせた様々な授業形態・授業方法による学修・研究指導の機会を提供します。

さらに、課題設定等を通じて授業時間外の学修を促し、学修時間の確保と成果の定着を図ります。

- (1) 講義では教義神学、教会史、キリスト教教育、キリスト教文化、聖書神学、聖書釈義、倫理神学、教会法、典礼神学、霊性神学、宣教学、ギリシア語・ヒブル語などの古典文献学に関する特定のトピックについて理解し、演習では議論を重ねることにより研究を展開するために必要な基礎的な思考力を深め、調査研究能力を修得し、情報収集力や分析力を身につけます。
- (2) 「研究指導」では、修士論文および課題研究報告書の作成にあたり、指導教員を中心

とする論文指導を受け、研究テーマに関する知識を深めるとともに、研究能力を身につけます。

### **3. 学修成果の評価方法**

ディプロマ・ポリシーに示す目標に対する学生の学修到達状況は、シラバス等に明示された評価基準・方法に基づき、筆記試験、プレゼンテーション、レポート等を用いて多角的に評価します。学位論文については、審査基準と審査方法を明示し、それに基づき学位論文審査委員会による論文審査および最終試験を厳格に行います。

### Ⅲ. アドミッション・ポリシー(入学者受入れの方針)

神学専攻博士前期課程では、ディプロマ・ポリシーに定める人材を育成するため、求める学生像、入学前に身につけていることを求める能力、入学者選抜の方法について、以下のようにアドミッション・ポリシーを定めます。

#### 1. 求める学生像

本課程では、「他者のために、他者とともに」という本学の教育精神およびディプロマ・ポリシーで掲げる目標を踏まえ、次のような資質・能力を高めたいと望む学生を求めています。

- (1) カトリック神学の専門的知識と研究能力
- (2) 高度な専門的知識と研究能力にもとづいて現代世界の諸問題を解決するために社会に貢献する能力
- (3) 異文化や国際性に開かれた柔軟な思考能力

#### 2. 入学前に身につけていることを求める能力

入学前には、次の知識・能力・態度を持つことを求めます。

- (1) カトリック神学の基礎を修得し、論理的に思考して論述する能力
- (2) 英語をはじめ専門分野に関する語学力があり、異文化・国際性に開かれている姿勢
- (3) 人間の尊厳・基本的人権を適切に認識するとともに、社会正義の理解・実践に積極的である態度

#### 3. 入学者選抜の方法

入学者選抜の基本方針として、アドミッション・ポリシーに定める「求める学生像」にふさわしい入学者を選抜するにあたり、「入学前に身につけていることを求める能力」を評価するため、出願書類、筆記試験、口述試験の結果により総合的に選抜を実施します。

入学者選抜方法の詳細は大学院入学試験のHPをご覧ください。

[https://adm.sophia.ac.jp/jpn/in\\_ad/innyushi/](https://adm.sophia.ac.jp/jpn/in_ad/innyushi/)

## 組織神学専攻の3つのポリシー

### ■ 博士後期課程

#### I. ディプロマ・ポリシー（学位授与の方針）

組織神学専攻博士後期課程は、カトリック神学を自立的、専門的に研究し、高度な専門的知識と研究能力にもとづいて現代世界の諸問題を解決するために貢献する人材の育成を目的としています。

そうした目的を達成するため、上智大学大学院のディプロマ・ポリシーを踏まえ、本専攻博士後期課程では、所定の教育課程を修め、学位論文の審査に合格することで、次の資質・能力を身につけたと認められる者に学位を授与します。なお、教皇庁の定める必要要件を満たしている場合には、教皇庁の学位 *Sacrae Theologiae Doctor* (STD) の学位も授与します。

#### 1. 専門家としての資質・研究倫理

gdDP1-1.

カトリック神学の基礎を踏まえながら、自らの研究テーマを独創的な観点から取り上げ、それを論理的・発展的に提示することができる力

gdDP1-2.

高い倫理観・規範意識を持って研究を進める力

#### 2. 高度な専門的知識

gdDP2-1.

西洋において発展したカトリック神学の研究とともに、日本の思想・文化との対話を通して、独自の神学の樹立を目指すことができる力

#### 3. 社会を先導する力

gdDP3-1.

博士論文の作成において、論文構成が的確であり、論理展開に整合性・一貫性があり、先行研究を十分に踏まえて、独自性のある高度な学術論文を作成し、国内外で発信する力

## Ⅱ. カリキュラム・ポリシー(教育課程の編成・実施の方針)

組織神学専攻博士後期課程では、ディプロマ・ポリシーに示す資質・能力等の目標を学生が達成できるようにするため、教育課程編成、学修内容・学修方法、学修成果評価について、以下のようにカリキュラム・ポリシーを定めます。

### 1. 教育課程の編成方法

本課程では、専門分野における専門知識と様々な理論と実践を効果的に修得できるよう、以下のようにカリキュラムを編成しています。

- (1) 「研究指導」と「教育訓練」を配置します。「研究指導」では、指導教員の下で博士論文の作成、および学会等での研究発表を指導します。「教育訓練」は、指導教員、あるいは研究科委員長が適切だと認めた研究科教員の講義・演習科目における、講義実習や演習指導実習によって行います。
- (2) 組織神学、聖書学、実践神学、キリスト教文化の各分野の科目を設置します。
- (3) 研究倫理に関する規範意識を身につけるために、研究倫理教育を受ける機会を設けます。
- (4) 教皇庁認可神学部共通の国際的学位である *Sacrae Theologiae Doctor* (STD) を取得するための基準に則した神学専門科目を設置します。

### 2. 学修内容・学修方法

本課程の修了に必要な知識・技能を修得するため、講義・演習等を組み合わせた様々な授業形態・授業方法による学修・研究指導の機会を提供します。

さらに、課題設定等を通じて授業時間外の学修を促し、学修時間の確保と成果の定着を図ります。

- (1) 前期課程で積み上げたカトリック神学の専門的知識や修士論文の成果をふまえて、独自の博士論文を執筆するために、「研究指導」、「教育訓練」を中心に科目を履修し、高度な研究能力を養います。
- (2) 専門的研究を通じて高度な資料分析能力を養うために「研究指導」、「教育訓練」に基づき、国内外の学会・学術誌への論文発表を積極的に行い、自立した研究者としての能力を身につけます。

### 3. 学修成果の評価方法

ディプロマ・ポリシーに示す目標に対する学生の学修到達状況は、シラバス等に明示された評価基準・方法に基づき、筆記試験、プレゼンテーション、レポート等を用いて多角的に評価します。学位論文については、審査基準と審査方法を明示し、それに基づき学位論文審査委員会による論文審査および最終試験を厳格に行います。

### Ⅲ. アドミッション・ポリシー(入学者受入れの方針)

組織神学専攻博士後期課程では、ディプロマ・ポリシーに定める人材を育成するため、求める学生像、入学前に身につけていることを求める能力、入学者選抜の方法について、以下のように入学者選抜の方針を定めます。

#### 1. 求める学生像

本課程では、「他者のために、他者とともに」という本学の教育精神およびディプロマ・ポリシーに掲げる目標を踏まえ、次のような資質・能力を高めたいと望む学生を求めています。

- (1) カトリック神学の高度な専門的知識・技能および学際的な深い教養
- (2) 高度な専門的知識と研究能力にもとづいて現代世界の諸問題を解決するために社会に貢献する能力
- (3) 現代世界の諸問題の本質を解明する多角的な視座や課題解決力

#### 2. 入学前に身につけていることを求める能力

入学前には、次の知識・能力・態度を持つことを求めます。

- (1) カトリック神学に関する自らの研究テーマを独創的な観点から取り上げ、それを論理的・発展的に構築し、それを国際的にも提示できる能力
- (2) 基礎的な哲学的素養を修得しているとともに、英語をはじめ専門領域に関する高度な語学力
- (3) 自らの研究を通して、キリスト教的価値観・意義を、カトリック世界に止まらず、広く一般社会にも提示・貢献する態度

#### 3. 入学者選抜の方法

入学者選抜の基本方針として、アドミッション・ポリシーに定める「求める学生像」にふさわしい入学者を選抜するにあたり、「入学前に身につけていることを求める能力」を評価するため、出願書類、筆記試験、口述試験の結果により総合的に選抜を実施します。

入学者選抜方法の詳細は大学院入学試験のHPをご覧ください。

[https://adm.sophia.ac.jp/jpn/in\\_ad/innyushi/](https://adm.sophia.ac.jp/jpn/in_ad/innyushi/)

## 文学研究科の3つのポリシー

### I. ディプロマ・ポリシー（学位授与の方針）

上智大学大学院文学研究科は、幅広い教養と柔軟な思考力を備えた研究者の養成を目指すとともに、国際的な水準に達した高度な専門知識を有して国内外で活躍し、それぞれの専門分野で研究・教育に携わることができる人材の育成を目的としています。

そうした目的を達成するため、上智大学大学院のディプロマ・ポリシーを踏まえ、本研究科の学位プログラムでは、所定の教育課程を修め、学位論文の審査に合格することで、次の資質・能力を身につけたと認められる者に学位を授与します。

#### 1. 専門家としての資質・研究倫理

gsDP1-1.

哲学・思想、歴史、文学、芸術・文化などへの深い理解と学識

gsDP1-2.

未知なるものを解き明かそうとする探究心を持って、問題を科学的に論証し結論へと導こうとする思考力

gsDP1-3.

高い倫理観・規範意識を持って研究を進める力

#### 2. 高度な専門的知識

gsDP2-1.

文学研究科の各専攻・学位課程に必要とされる高度な知識・技能

gsDP2-2.

研究を遂行するために必要な専門的知識を活用する力

#### 3. 社会を先導する力

gsDP3-1.

課題を解決に導く独創性の高い実践力

gsDP3-2.

専門分野の学びによって培った叡智を社会に還元し、皆が心豊かに生きてゆくことのできる社会の実現に寄与する力

gsDP3-3.

最新の研究成果を国内外の専門学会において、学術論文として発信する力

## Ⅱ. カリキュラム・ポリシー(教育課程の編成・実施の方針)

上智大学大学院文学研究科では、ディプロマ・ポリシーに示す資質・能力等の目標を学生が達成できるようにするため、教育課程編成、学修内容・学修方法、学修成果評価について、以下のようにカリキュラム・ポリシーを定めます。

### 1. 教育課程の編成方法

本研究科では、哲学専攻、史学専攻、国文学専攻、英米文学専攻、ドイツ文学専攻、フランス文学専攻、新聞学専攻、文化交渉学専攻の8専攻を設置し、広範な分野についての専門知識と様々な理論と実践を効果的に修得できるよう、各専攻の専門性に鑑みて、以下のようにカリキュラムを編成しています。

- (1) 博士前期課程では、1年次には各専攻分野における基礎科目や、論文作成の基本に習熟するための科目を配置して、専門分野における基礎の構築を図ります。2年次には修士論文の作成に向けて、各専攻分野に関わる講義科目や演習科目を選択科目として配置しています。また、自身の専攻以外の分野についても広く知識を修得するために、他専攻の科目を選択可能とします。
- (2) 博士後期課程では、各専攻分野に関わる講義科目、博士論文作成のための演習科目、研究指導を行うための科目を配置します。
- (3) 研究指導科目を通じて、研究倫理に関する規範意識を身に着けるための、研究倫理教育を受ける機会を設けます。

### 2. 学修内容・学修方法

各専攻・学位課程の修了に必要な知識・技能を修得するため、講義・演習等を組み合わせた様々な授業形態・授業方法による学修・研究指導の機会を提供します。

さらに、課題設定等を通じて授業時間外の学修を促し、学修時間の確保と成果の定着を図ります。

- (1) 博士前期課程において、講義では哲学・思想、歴史、文学、芸術・文化など各専攻の専門分野に応じた知識を修得し、演習では、議論を重ねることにより理解を深め、調査研究能力を修得し、専門的な文献読解力、情報収集力、柔軟な思考力・分析力を身につけます。
- (2) 博士後期課程では、前期課程で積み上げた基礎知識や修士論文の成果をふまえて、さらに高度な研究を行います。また、研究指導に基づき、国内外の学会における研究発表、学術誌への論文発表を積極的に行い、自立した研究者としての能力を身につけます。

### 3. 学修成果の評価方法

ディプロマ・ポリシーに示す目標に対する学生の学修到達状況は、シラバス等に明示され

た評価基準・方法に基づき筆記試験、レポート等を用いて多角的に評価します。学位論文については、審査基準と審査方法を明示し、それに基づき学位論文審査委員会による論文審査および最終試験を厳格に行います。

### Ⅲ. アドミッション・ポリシー(入学者受入れの方針)

上智大学大学院文学研究科では、ディプロマ・ポリシーに定める人材を育成するため、求める学生像、入学前に身につけていることを求める能力、入学者選抜の方法について、以下のよう  
にアドミッション・ポリシーを定めます。

#### 1. 求める学生像

本研究科では、「他者のために、他者とともに」という本学の教育精神およびディプロマ・  
ポリシーで掲げる目標を踏まえ、次のような資質・能力を高めたいと望む学生を求めています。

- (1) 哲学・思想、歴史、文学、芸術・文化などへの深い理解と学識、未知なるものを解き明  
かそうとうする探究心、問題を科学的に論証し結論へと導く思考力
- (2) 哲学・思想、歴史、文学、芸術・文化などを過去から現在へと繋がる歴史的・通時的文  
脈の上に捉え、他分野との関係性をも視野におさめて理解しようとする包括的な理  
解力
- (3) 社会の変革に対応できる多角的な視座や課題解決力
- (4) 高度な研究能力や専門性を活かして、皆が心豊かに生きてゆくことができる社会の  
実現に寄与する力

#### 2. 入学前に身につけていることを求める能力

入学前には、次の知識・能力・態度を持つことを求めます。

- (1) 文学研究科の専攻分野に対する強い関心
- (2) 専門的な研究を実施するに際し、自ら課題を見出し探究しようとする意欲
- (3) 各専攻・学位課程が求める文献読解力や語学能力などの基礎的能力と論理的思考力
- (4) 研究を遂行する際に必要な日本語や外国語のリテラシーやコミュニケーション能力

#### 3. 入学者選抜の方法

入学者選抜の基本方針として、各専攻・学位課程に応じて複数の受験機会や多様な学生  
を評価できる入試を提供します。アドミッション・ポリシーに定める「求める学生像」にふさわ  
しい入学者を選抜するにあたり、「入学前に身につけていることを求める能力」を評価する  
ため、出願書類、筆記試験、口述試験の結果により総合的に選抜を実施します。

入学者選抜方法の詳細は大学院入学試験のHPをご覧ください。

[https://adm.sophia.ac.jp/jpn/in\\_ad/innyushi/](https://adm.sophia.ac.jp/jpn/in_ad/innyushi/)

## 哲学専攻の3つのポリシー

### ■ 博士前期課程

#### I. ディプロマ・ポリシー（学位授与の方針）

哲学専攻博士前期課程は、哲学専修コースと現代思想コースの2つのコースを設置しています。いずれのコースにおいても本課程では、研究に対して高い倫理観を有し、西洋哲学史の基礎知識をもとに各自の研究テーマの専門性を高め、これを社会に広く還元しうる人材の育成を目的としています。

そうした目的を達成するため、文学研究科のディプロマ・ポリシーを踏まえ、本専攻博士前期課程では、所定の教育課程を修め、学位論文の審査に合格することで、次の資質・能力を身につけたと認められる者に学位を授与します。

#### 1. 専門家としての資質・研究倫理

gmDP1-1.

西洋哲学史全般に関する基礎知識をもとに各自の研究テーマを掘り下げて考え抜く力と、時流に流されない深い学識

gmDP1-2.

現代社会のグローバルな危機に対して、対症療法に終わらない深い次元から解決の方向を見出す洞察力と賢慮

gmDP1-3.

高い倫理観と規範意識を持って研究を進める力

#### 2. 高度な専門的知識

gmDP2-1.

複数の外国語（英語・ドイツ語・フランス語・ラテン語・ギリシア語）で記された難解な古典文献を読解する力

gmDP2-2.

書き言葉と話し言葉の両面にわたる適切な表現能力

gmDP2-3.

異なる文化的背景をもった人々に共通理解をもたらす説明能力

gmDP2-4.

専門分野の研究実践能力を活かして修士論文をまとめる力

#### 3. 社会を先導する力

gmDP3-1.

学会活動等を通して、自らの研究成果を社会に還元する力

gmDP3-2.

専門研究を進める過程で得た知見を、広く社会で活かす力

## Ⅱ. カリキュラム・ポリシー(教育課程の編成・実施の方針)

哲学専攻博士前期課程では、ディプロマ・ポリシーに示す資質・能力等の目標を学生が達成できるようにするため、教育課程編成、学修内容・学修方法、学修成果評価について、以下のよう  
にカリキュラム・ポリシーを定めます。

### 1. 教育課程の編成方法

本課程では、専門分野についての高度な知識と様々な理論と実践を効果的に修得できるよう、哲学専修コースと現代思想コースを設け、以下のようにカリキュラムを編成しています。

- (1) 哲学専修コースでは、哲学史上重要な文献研究を行う力を養うことを目途に、カリキュラムを設定しています。
- (2) 現代思想コースでは、哲学上の重要なトピックを現代的諸問題から扱う力を養うことを目途に、カリキュラムを編成しています。
- (3) 哲学専修コース・現代思想コースとも、修了には所定の単位を取得し、研究指導を受け、修士論文を提出し、修士論文審査での合格することが必要です。
- (4) 哲学専修コース・現代思想コースに共通の必修科目として、「哲学総合演習 A」「哲学総合演習 B」を設けています。
- (5) 開講科目は文献研究科目群と研究科目群に分かれています。文献研究科目群の科目では哲学史を踏まえて、古代哲学・中世哲学・近代哲学・現代哲学の古典を原典(英語・ドイツ語・フランス語・ラテン語・ギリシア語)で講読します。研究科目群の科目では、多様な観点から現代倫理学・美学芸術学・宗教思想への知見を広げます。
- (6) 哲学専修コースと現代思想コースでは、履修可能な選択必修科目に違いがあります。
- (7) 研究倫理については、哲学専修コース・現代思想コースとも、「研究指導」および「哲学総合演習 A」「哲学総合演習 B」を通して学びます。

### 2. 学修内容・学修方法

本課程の修了に必要な知識・技能を修得するため、講義・演習を組み合わせた様々な授業形態・授業方法による学修・研究指導の機会を提供します。

さらに、課題設定等を通じて授業時間外の学修を促し、学修時間の確保と成果の定着を図ります。

- (1) 学生は、修士論文作成およびこれに有機的に関わる学会活動の基礎の修得のため、講義科目と演習科目を履修します。講義科目では原語による文献研究能力と哲学的主題を掘り下げる力を養い、演習科目ではプレゼンテーション能力とディスカッション能力および研究倫理を身に付けます。
- (2) 学生は、自ら決めた指導教員から授業時間外に研究指導を受け、論文作成能力、研究発表能力、研究に際しての規範意識を高めます。

### 3. 学修成果の評価方法

ディプロマ・ポリシーに示す目標に対する学生の学修到達状況は、シラバス等に明示された評価基準・方法に基づき、プレゼンテーション、レポート等を用いて多角的に評価します。

学位論文については、審査基準と審査方法を明示し、それに基づき学位論文審査委員会による論文審査および最終試験を厳格に行います。

### Ⅲ. アドミッション・ポリシー(入学者受入れの方針)

哲学専攻博士前期課程では、ディプロマ・ポリシーに定める目的を達成するため、求める学生像、入学前に身につけていることを求める能力、入学者選抜の方法について、以下のようにアドミッション・ポリシーを定めます。

#### 1. 求める学生像

本課程では、「他者のために、他者とともに」という本学の教育精神およびディプロマ・ポリシーに掲げる目標を踏まえ、次のような資質・能力を高めたいと望む学生を求めています。

- (1) 明確なテーマを持って研究を遂行する力
- (2) 文献を正確に解釈する力
- (3) 研究発信を積極的に行う姿勢
- (4) 研究能力や専門性を活かして、広く社会に貢献する力

#### 2. 入学前に身につけていることを求める能力

入学前には、次の知識・能力・態度を持つことを求めます。

- (1) 一定の長さの論文を作成した経験
- (2) 英語の読解能力および一定の運用能力
- (3) 哲学史に関する基礎知識
- (4) 上記に加え、哲学専修コースでは原典講読で必要とされる古典語を含めた語学力、現代思想コースでは広汎な現代社会の諸問題に対する関心と予備知識

#### 3. 入学者選抜の方法

入学者選抜の基本方針として、複数の受験機会や多様な学生を評価できる入試を提供します。アドミッション・ポリシーに定める「求める学生像」にふさわしい入学者を選抜するにあたり、「入学前に身につけていることを求める能力」を評価するため、出願書類、筆記試験、口述試験の結果により総合的に選抜を実施します。

入学者選抜方法の詳細は大学院入学試験のHPをご覧ください。

[https://adm.sophia.ac.jp/jpn/in\\_ad/innyushi/](https://adm.sophia.ac.jp/jpn/in_ad/innyushi/)

## ■ 博士後期課程

### I. ディプロマ・ポリシー（学位授与の方針）

哲学専攻博士後期課程は、研究に対する高い倫理観を有し、西洋哲学史の広範な知識をもとに各自の研究テーマの専門性を高め、これを社会に広く還元しうる人材の育成を目的としています。

そうした目的を達成するため、文学研究科のディプロマ・ポリシーを踏まえ、本専攻博士後期課程では、所定の教育課程を修め、学位論文の審査に合格することで、次の資質・能力を身につけたと認められる者に学位を授与します。

#### 1. 専門家としての資質・研究倫理

gdDP1-1.

高い規範意識と専門性を持って国内外の研究者と協力しつつ研究を遂行する能力

gdDP1-2.

論文等の作成・公表に際し、研究倫理を遵守してこれを行う能力

#### 2. 高度な専門的知識

gdDP2-1.

複数の外国語（英語・ドイツ語・フランス語・ラテン語・ギリシア語）で原典を厳密に解釈する能力

gdDP2-2.

多言語で著わされた二次文献を批判的に読解し、研究に活かす能力

gdDP2-3.

研究指導や国内外の研究者との交流を通して得た知識をもって、国内外の学会において多言語で発表する能力

gdDP2-4.

必要な研究指導を受け、それまでの研究成果の精度を上げつつ、博士論文としてまとめ上げる能力

#### 3. 社会を先導する力

gdDP3-1.

大学等の高等教育機関において、教育・指導にあたる高度な専門力

gdPD3-2.

専門研究を進める過程で修得した高度な知見を、研究成果の発信を通して、広く社会に還元する能力

## Ⅱ. カリキュラム・ポリシー(教育課程の編成・実施の方針)

哲学専攻博士後期課程では、ディプロマ・ポリシーに示す資質・能力等の目標を学生が達成できるようにするため、教育課程編成、学修内容・学修方法、学修成果評価について、以下のよう  
にカリキュラム・ポリシーを定めます。

### 1. 教育課程の編成方法

本課程では、研究分野に特化した知識と様々な理論と実践を効果的に修得できるよう、  
以下のようにカリキュラムを編成しています。

- (1) 研究成果の発表能力と討論する力を涵養すべく、「哲学特殊研究 A」「哲学特殊研究 B」を必修科目として設置しています。
- (2) 哲学史上重要な文献を講読する科目を選択科目として配置します(「哲学特殊研究・古代」「哲学特殊研究・中世」「哲学特殊研究・近代」「哲学特殊研究・現代」等)。
- (3) 哲学上の主要テーマを研究する講義を選択科目として配置します(「哲学特殊研究・現代倫理学」「哲学特殊研究・美学芸術学」「哲学特殊研究・宗教思想」等)。
- (4) 学際性に鑑み、他研究科開講科目を「借入科目」としています。
- (5) 修了には、所定の科目・単位を取得し、学生自身が定めた指導教員のもとで授業時間外の研究指導を受けることが必要です。
- (6) 研究倫理については、「研究指導」および「哲学特殊研究 A」「哲学特殊研究 B」で修得します。

### 2. 学修内容・学修方法

本課程の修了に必要な知識・技能を修得するため、様々な授業形態・授業方法による学  
修・研究指導の機会を提供します。

- (1) 前期課程で獲得した知識や修士論文の成果をふまえて、独創的な博士論文の執筆をするために、指導教員による「研究指導」に加え、必修科目「哲学特殊研究 A」「哲学特殊研究 B」で、研究成果のプレゼンテーション能力とディベートする力を養います。
- (2) 哲学史上重要な文献を原語で研究する能力を養います。
- (3) 哲学上の主要テーマを多言語で研究する力を養います。
- (4) 他研究科開講科目を通して、専門に隣接する広い視野を身に付けます。
- (5) さらに、課題設定等授業時間外の学修を促し、学修時間の確保と成果の定着を図ります。

### 3. 学修成果の評価方法

ディプロマ・ポリシーに示す目標に対する学生の学修到達状況は、シラバス等に明示された評価基準・方法に基づき、プレゼンテーション、レポート等を用いて多角的に評価します。学位論文については、審査基準と審査方法を明示し、それに基づき学位論文審査委員会に

よる論文審査および最終試験を厳格に行います。

### Ⅲ. アドミッション・ポリシー(入学者受入れの方針)

哲学専攻博士後期課程では、ディプロマ・ポリシーに定める目的を達成するため、求める学生像、入学前に身につけていることを求める能力、入学者選抜の方法について、以下のようにアドミッション・ポリシーを定めます。

#### 1. 求める学生像

本課程では、「他者のために、他者とともに」という本学の教育精神およびディプロマ・ポリシーに掲げる目標を踏まえ、次のような資質・能力を高めたいと望む学生を求めています。

- (1) 高い規範意識をもって研究を進める資質
- (2) 一次文献および二次文献を読解するに足る語学力
- (3) 学会で活発に活動し、学術発信を盛んに行う資質
- (4) 明確な研究計画と将来設計を有する資質
- (5) 研究職ならびに本課程で得た知見を活かす職業を目指す資質

#### 2. 入学前に身につけていることを求める能力

入学前には、次の知識・能力・態度を持つことを求めます。

- (1) 哲学を主題とする修士論文、ないしそれと同程度の学術性を有する論文を執筆した実績
- (2) 哲学史と哲学の主要テーマについての該博かつ専門的な知識
- (3) 専門的な研究を実施するために必要な語学力
- (4) 研究遂行のための自身の研究の目的と手法について考察し、探究しようとする意欲

#### 3. 入学者選抜の方法

入学者選抜の基本方針として、複数の受験機会や多様な学生を評価できる入試を提供します。アドミッション・ポリシーに定める「求める学生像」にふさわしい入学者を選抜するにあたり、「入学前に身につけていることを求める能力」を評価するため、出願書類、筆記試験、口述試験の結果により総合的に選抜を実施します。

入学者選抜方法の詳細は大学院入学試験のHPをご覧ください。

[https://adm.sophia.ac.jp/jpn/in\\_ad/innyushi/](https://adm.sophia.ac.jp/jpn/in_ad/innyushi/)

## 史学専攻の3つのポリシー

### ■ 博士前期課程

#### I. ディプロマ・ポリシー（学位授与の方針）

史学専攻博士前期課程は、現代社会を現状固定的にではなく、歴史的に形成されてきたものとして批判的にとらえ、多元的な歴史認識と国際的な視野をもって、歴史学の専攻分野における研究の能力または専門性が求められる職業を担い、持続可能な社会・文化の発展に貢献しうる人物の養成を目的としています。

そうした目的を達成するため、文学研究科のディプロマ・ポリシーを踏まえ、本専攻博士前期課程では、所定の教育課程を修め、学位論文の審査に合格することで、次の資質・能力を身につけたと認められる者に学位を授与します。

#### 1. 専門家としての資質・研究倫理

gmDP1-1.

歴史学を中心として、関連分野の知識も含む幅広い教養に基づく多角的な思考力

gmDP1-2.

高い倫理観・規範意識を持って研究を進める力

#### 2. 高度な専門的知識

gmDP2-1.

歴史学分野の体系的な専門知識と明確な問題意識に基づいて研究課題を設定し、それを解決するための研究を遂行することができる力

gmDP2-2.

先行研究の検討・吟味と、史料に基づく実証研究によって、専攻分野の知識向上に寄与できる力

#### 3. 社会を先導する力

gmDP3-1.

自己の研究成果を社会に還元して、社会・文化の発展に寄与する力

gmDP3-2.

研究成果を、出典の記載や引用を適切に行い、的確な言語表現と整合性のある構成をとった修士論文にまとめ、発信する力

## II. カリキュラム・ポリシー(教育課程の編成・実施の方針)

史学専攻博士前期課程では、ディプロマ・ポリシーに示す資質・能力等の目標を学生が達成できるようにするため、教育課程編成、学修内容・学修方法、学修成果評価について、以下のよう  
にカリキュラム・ポリシーを定めます。

### 1. 教育課程の編成方法

本課程では、歴史学の専門知識と関連する様々な分野の知識、理論と実践を効果的に修得できるように、以下のようにカリキュラムを編成しています。

- (1) 各自の問題関心に最も近い教員を指導教員とする「研究指導」を行います。特定の地域・時代を探究する「演習」、時代・地域を超えた研究を学ぶ「特研」および「修士論文演習」を開設します。
- (2) 研究倫理・規範意識については、「研究指導」のほか、「演習」および「特研」のなかで指導します。
- (3) 学びを深めるために、指導教員の承認を得た上で、他専攻の科目や他研究科の科目、協定を結んだ他大学大学院の科目を、所定の条件のもとで履修できます。

### 2. 学修内容・学修方法

本課程の修了に必要な知識・技能を修得するために、つぎのような授業形態・授業方法による学修・研究指導の機会を提供します。

さらに、課題設定等を通じて授業時間外の学修を促し、学修時間の確保と成果の定着を図ります。

- (1) 「演習」では、特定の地域・時代の史料読解力を磨き、研究史を学び、研究を進めるために必要な調査能力、分析力、思考力などを身につけます。
- (2) 「特研」では、専門とする地域・時代を超えた学生が集まり、比較研究や幅広い議論を行い、各自の専門領域をより客観的に見る姿勢と、研究成果を社会に還元する力を養います。
- (3) 「修士論文演習」では、修士論文完成まで数回報告を行い、指導教員を含む複数の教員の指導のもと、プレゼンテーション能力を養い、論文のまとめ方を修得します。

### 3. 学修成果の評価方法

ディプロマ・ポリシーに示す目標に対する学生の学修到達状況は、シラバス等に明示された評価基準・方法に基づき、プレゼンテーション、レポート等を用いて多角的に評価します。学位論文については、審査基準と審査方法を明示し、それに基づき学位論文審査委員会による論文審査および最終試験を厳格に行います。

### Ⅲ. アドミッション・ポリシー(入学受入れの方針)

史学専攻博士前期課程では、ディプロマ・ポリシーに定める人物を育成するため、求める学生像、入学前に身につけていることを求める能力、入学選抜の方法について、以下のようにアドミッション・ポリシーを定めます。

#### 1. 求める学生像

本課程では、「他者のために、他者とともに」という本学の教育精神およびディプロマ・ポリシーに掲げる目標を踏まえ、次のような資質・能力を高めたいと望む学生を求めています。

- (1) 歴史学分野における専門的知識・技能および学際的な教養
- (2) 社会の変革に対応できる多角的な視座や課題解決力
- (3) 研究能力や専門性を活かして社会に貢献する力

#### 2. 入学前に身につけていることを求める能力

入学前には、次の知識・能力・態度を持つことを求めます。

- (1) 歴史学の専攻分野に対する強い関心
- (2) 専門的な歴史研究の目的と方法について考察し、自ら新たな課題を見出して探究しようとする意欲
- (3) 歴史学全般に関する基礎知識と論理的な思考力
- (4) 専攻分野の研究を遂行する際に必要な言語による読解力やコミュニケーション能力

#### 3. 入学選抜の方法

入学選抜の基本方針として、多様な学生を評価できる入試を提供します。アドミッション・ポリシーに定める「求める学生像」にふさわしい入学選抜にあたり、「入学前に身につけていることを求める能力」を評価するため、出願書類、筆記試験、口述試験の結果により総合的に選抜を実施します。

入学選抜方法の詳細は大学院入学試験のHPをご覧ください。

[https://adm.sophia.ac.jp/jpn/in\\_ad/innyushi/](https://adm.sophia.ac.jp/jpn/in_ad/innyushi/)

## ■ 博士後期課程

### I. ディプロマ・ポリシー（学位授与の方針）

史学専攻博士後期課程は、現代社会を現状固定的にではなく、歴史的に形成されてきたものとして批判的にとらえ、多元的な歴史認識と国際的な視野をもって、歴史学の分野で自立して研究活動を行い、またはその研究能力と豊かな学識を活かす高度に専門的な業務に従事し、持続可能な社会・文化の発展に貢献しうる人物の養成を目的としています。

そうした目的を達成するため、文学研究科のディプロマ・ポリシーを踏まえ、本専攻博士後期課程では、所定の教育課程を修め、博士論文の審査に合格することで、次の資質・能力を身につけたと認められる者に学位を授与します。

#### 1. 専門家としての資質・研究倫理

gdDP1-1.

歴史学を中心として、関連分野の知識も含む幅広い教養に基づく学際性を備えた多角的な思考力

gdDP1-2.

高い倫理観・規範意識を持って研究を進める力

#### 2. 高度な専門的知識

gdDP2-1.

歴史学分野の高度な専門知識と明確な問題意識に基づいて研究課題を設定し、それを解決するための研究を遂行することができる力

gdDP2-2.

先行研究の網羅的な検討・吟味と、史料に基づく実証研究によって、専門分野における新しい史実の発見ないしは既知の史実に対する新しい解釈の提示ができる力

#### 3. 社会を先導する力

gdDP3-1.

自己の研究成果を積極的に社会に還元して、社会・文化の発展に貢献する力

gdDP3-2.

自立した研究者として独創的かつ先端的な研究を行い、その研究成果を、出典の記載や引用を適切に行い、的確な言語表現と整合性のある構成をとった博士論文にまとめ、国内外で発信する力

## Ⅱ. カリキュラム・ポリシー(教育課程の編成・実施の方針)

史学専攻博士後期課程では、ディプロマ・ポリシーに示す資質・能力等の目標を学生が達成できるようにするため、教育課程編成、学修内容・学修方法、学修成果評価について、以下のよう  
にカリキュラム・ポリシーを定めます。

### 1. 教育課程の編成方法

本課程では、歴史学の高度な専門知識と関連する分野の幅広い知識、様々な理論と実践を効果的に修得できるよう、以下のようにカリキュラムを編成しています。

- (1) 各自の研究テーマに最も近い教員を指導教員とする「研究指導」を行います。教員の指導のもと、博士論文の作成を進める「博士論文演習」を開設します。
- (2) 研究倫理・規範意識については、「研究指導」のほか、「博士論文演習」のなかで指導します。

### 2. 学修内容・学修方法

本課程の修了に必要な知識・技能を修得するため、つぎのような授業形態・授業方法による学修・研究指導の機会を提供します。

さらに、課題設定等を通じて授業時間外の学修を促し、学修時間の確保と成果の定着を図ります。

- (1) 博士前期課程で身に付けた知識・技能や修士論文の成果をふまえて、独創的な博士論文を執筆するために、指導教員が担当する「研究指導」、「博士論文演習」を履修し、高度な研究を行います。
- (2) 本課程が提供する科目の履修以外に、指導教員の承認を得た上で、海外留学や学会・研究会報告、学術誌への論文の発表を行い、自立した研究者としての研鑽を積み  
ます。

### 3. 学修成果の評価方法

ディプロマ・ポリシーに示す目標に対する学生の学修到達状況は、シラバス等に明示された評価基準・方法に基づき、プレゼンテーション、レポート等を用いて多角的に評価します。学位論文については、審査基準と審査方法を明示し、それに基づき学位論文審査委員会による論文審査および最終試験を厳格に行います。

### Ⅲ. アドミッション・ポリシー(入学者受入れの方針)

史学専攻博士後期では、ディプロマ・ポリシーに定める人物を育成するため、求める学生像、入学前に身につけていることを求める能力、入学者選抜の方法について、以下のようにアドミッション・ポリシーを定めます。

#### 1. 求める学生像

本課程では、「他者のために、他者とともに」という本学の教育精神およびディプロマ・ポリシーに掲げる目標を踏まえ、次のような資質・能力を高めたいと望む学生を求めています。

- (1) 歴史学分野における高度な専門的知識・技能および学際的な深い教養
- (2) 社会の変革に対応できる多角的な視座や高い課題解決力
- (3) 高度な研究能力や専門性を活かして、社会に貢献する力

#### 2. 入学前に身につけていることを求める能力

入学前には、次の知識・能力・態度を持つことを求めます。

- (1) 歴史学の専攻分野に対する強い関心
- (2) 博士前期課程の研究をふまえて、専門的な歴史研究の目的と方法について考察を深め、独創性のある研究課題を見出し、それを探究しようとする意欲
- (3) 歴史学全般に関する専門的な知識と論理的な思考力
- (4) 専攻分野の研究を遂行する際に必要な言語による読解力やコミュニケーション能力

#### 3. 入学者選抜の方法

入学者選抜の基本方針として、多様な学生を評価できる入試を提供します。アドミッション・ポリシーに定める「求める学生像」にふさわしい入学者を選抜するにあたり、「入学前に身につけていることを求める能力」を評価するため、出願書類、筆記試験、口述試験の結果により総合的に選抜を実施します。

入学者選抜方法の詳細は大学院入学試験のHPをご覧ください。

[https://adm.sophia.ac.jp/jpn/in\\_ad/innyushi/](https://adm.sophia.ac.jp/jpn/in_ad/innyushi/)

## 国文学専攻の3つのポリシー

### ■ 博士前期課程

#### I. ディプロマ・ポリシー（学位授与の方針）

国文学専攻博士前期課程は、幅広い教養と柔軟な思考力を有しつつ、世界と未来に開かれた新しい知を創造する力を伸ばすために、「国文学」を出発点とした文化の総体の探究、現代社会との連結、文献読解能力・語学能力の涵養に重点を置いた実践教育を行い、社会・文化の発展に貢献しうる人材を養成することを目的としています。

そうした目的を達成するため、古典学の方法論を踏まえつつ、本専攻博士前期課程では、所定の教育課程を修め、学位論文の審査に合格することで、次の資質・能力を身につけたと認められる者に学位を授与します。

#### 1. 専門家としての資質・研究倫理

gmDP1-1.

国語学・古典文学・近代文学・漢文学を総合した「国文学」のみならず、哲学・思想、歴史、芸術・文化などへの深い理解と探究心を備えた多角的な思考力

gmDP1-2.

高い倫理観・規範意識を持って研究を進める力

#### 2. 高度な専門的知識

gmDP2-1.

国語学・古典文学・近代文学・漢文学を総合した「国文学」に対する高度な知識と文献読解能力

gmDP2-2.

研究を遂行するために必要な専門的知識を研究・教育に活用する力

#### 3. 社会を先導する力

gmDP3-1.

課題を解決に導く独創性の高い実践力、および専門分野への貢献を通して、日本文化の発展に寄与する力

gmDP3-2.

高度な知識と緻密な分析に依拠し、研究成果を的確に構成された学術論文としてまとめ、発信する力

## Ⅱ. カリキュラム・ポリシー(教育課程の編成・実施の方針)

国文学専攻博士前期課程では、ディプロマ・ポリシーに沿って、古典学を研究・教育の根幹に置いた「国文学」を総合的に追究するため、以下のようにカリキュラム・ポリシーを定めます。

### 1. 教育課程の編成方法

本課程では、専門分野についての高度な知識と様々な理論と実践を効果的に修得できるよう、以下のようにカリキュラムを編成しています。

- (1) 博士前期課程では、古典学を研究・教育の根幹に置いた国語学・古典文学・近代文学・漢文学を実践的に追究するために、1年次からそれぞれの分野に関する「特殊講義・演習」の科目を配置しています。同時に、自身の研究以外の分野についても広く知識を修得するために、上記の4領域のうち3領域の科目の履修を義務づけるとともに、他専攻の科目を選択可能とします。
- (2) 高い倫理観・規範意識を持って、「国文学」の総合的知見に基づいた修士論文を執筆するために、研究指導を行うための科目を配置します。

### 2. 学修内容・学修方法

本課程の修了に必要な知識・技能を修得するため、講義・演習等を組み合わせた様々な授業形態・授業方法による学修・研究指導の機会を提供します。

さらに、課題設定等を通じて、授業時間外の学修を促し、十分な学修時間の確保と学修成果の定着を図ります。

- (1) 本課程においては、「特殊講義・演習」の講義で、特定のテーマについての専門知識を修得していくとともに、演習を通して、議論を重ねることにより理解を深め、調査研究能力を修得し、専門的な文献読解力、情報収集力、柔軟な思考力・分析力を身につけます。
- (2) 本課程の「研究指導」においては、個別指導を通して、「国文学」の総合的知見に基づいた修士論文を執筆する能力を身につけます。

### 3. 学修成果の評価方法

ディプロマ・ポリシーに示す目標に対する学生の学修到達状況は、シラバス等に明示された評価基準・方法に基づき、授業内の発表、レポート等を用いて多角的に評価します。学位論文については、審査基準と審査方法を明示し、それに基づき学位論文審査委員会による論文審査および最終試験を厳格に行います。

### Ⅲ. アドミッション・ポリシー(入学者受入れの方針)

国文学専攻博士前期課程では、ディプロマ・ポリシーに定める人材を育成するため、求める学生像、入学前に身につけていることを求める能力、入学者選抜の方法について、以下のよう  
にアドミッション・ポリシーを定めます。

#### 1. 求める学生像

本課程では、「他者のために、他者とともに」という本学の教育精神および本課程のディプロマ・ポリシーで掲げる目標を踏まえ、日本文学研究の中核を担う、さらに上級の学問を修得することを目指すため、次のような資質・能力を高めたいと望む学生を求めています。

- (1) 「国文学」に関する深い理解と学識、未知なるものを解き明かそうとする探究心、問題を学術的に論証し結論へと導く思考力
- (2) 「国文学」を過去から現在へと繋がる歴史的・通時的文脈の上に捉え、他分野との関係性をも視野におさめて理解しようとする包括的な理解力
- (3) 社会の変革に対応できる多角的な視座や課題解決力
- (4) 高度な研究能力や専門性を活かして、皆が心豊かに生きてゆくことができる社会の実現に寄与する力

#### 2. 入学前に身につけていることを求める能力

入学前には、次の知識・能力・態度を持つことを求めます。

- (1) 国文学専攻で扱う「国文学」の分野に対する強い関心
- (2) 専門的な研究を実施するに際し、自ら課題を見出し探究しようとする意欲
- (3) 国文学専攻が求める文献読解力や語学能力などの基礎知識と論理的思考力
- (4) 研究を遂行する際に必要な日本語や外国語のリテラシー、およびコミュニケーション能力

#### 3. 入学者選抜の方法

入学者選抜の基本方針として、複数の受験機会や多様な学生を評価できる入試を提供します。アドミッション・ポリシーに定める「求める学生像」にふさわしい入学者を選抜するにあたり、「入学前に身につけていることを求める能力」を評価するため、出願書類、筆記試験、口述試験の結果により総合的に選抜を実施します。

入学者選抜方法の詳細は大学院入学試験のHPをご覧ください。

[https://adm.sophia.ac.jp/jpn/in\\_ad/innyushi/](https://adm.sophia.ac.jp/jpn/in_ad/innyushi/)

## ■ 博士後期課程

### I. ディプロマ・ポリシー（学位授与の方針）

国文学専攻博士後期課程は、幅広い教養と柔軟な思考力を有しつつ、世界と未来に開かれた新しい知を創造する力を伸ばすために、「国文学」を出発点とした文化の総体の探究、現代社会との連結、文献読解能力・語学能力の涵養に重点を置いた実践教育を行い、国際的な水準を有して社会・文化の発展に貢献しうる人材を養成することを目的としています。

そうした目的を達成するため、古典学の方法論を踏まえつつ、本専攻博士後期課程では、所定の教育課程を修め、学位論文の審査に合格することで、次の資質・能力を身につけたと認められる者に学位を授与します。

#### 1. 専門家としての資質・研究倫理

gdDP1-1.

国語学・古典文学・近代文学・漢文学を総合した「国文学」に対する高度かつ緻密な研究能力を備えつつ、他分野における研究も視野に入れた、多角的な思考力

gdDP1-2.

高い倫理観・規範意識を持って研究を進める力

#### 2. 高度な専門的知識

gdDP2-1.

国語学・古典文学・近代文学・漢文学を総合した「国文学」に対する広汎かつ高度な知識と文献読解能力

gdDP2-2.

研究を遂行するために必要な専門的知識を研究・教育に活用する力

#### 3. 社会を先導する力

gdDP3-1.

課題を解決に導く独創性の高い実践力、および専門分野の学びによって培った叡智を社会に還元し、日本文化の発展に寄与する自律的な力

gdDP3-2.

研究成果を学術論文としてまとめ、国内外の専門学会において、最新の研究成果を発信する力

## Ⅱ. カリキュラム・ポリシー(教育課程の編成・実施の方針)

国文学専攻博士後期課程では、ディプロマ・ポリシーに沿って、古典学を研究・教育の根幹に置いた「国文学」を総合的に追究するため、以下のようにカリキュラム・ポリシーを定めます。

### 1. 教育課程の編成方法

本課程では、ディプロマ・ポリシーに沿って、古典学を研究・教育の根幹に置いた「国文学」を総合的に追究するために、領域ごとに開設する特殊研究の科目、および世界から見た日本文学の科目を履修するよう、以下のようにカリキュラムを編成しています。

- (1) 本課程では、各専門分野に関わる「特殊研究」科目を配置し、自身の専門分野の科目については、毎年必ず履修するものとし、さらなる知識と研究能力の養成を行います。
- (2) 博士論文を執筆するために、各専門分野に関わる「研究指導」科目を配置し、論文作成に関わる指導を行うとともに、研究倫理教育を受ける機会を設けます。

### 2. 学修内容・学修方法

本課程の修了に必要な知識・技能を修得するため、「特殊研究」と「研究指導」を組み合わせた授業形態・授業方法による学修・研究指導の機会を提供します。

さらに、課題設定等を通じて、授業時間外の学修を促し、十分な学修時間の確保と学修成果の定着を図ります。

- (1) 本課程では、前期課程で積み上げた基礎知識、研究能力、および修士論文の成果をふまえて、さらに高度な研究を行います。
- (2) 本課程の「研究指導」に基づき、国内外の学会における研究発表、学術誌への論文発表を積極的に行い、自立した研究者としての能力を身につけます。

### 3. 学修成果の評価方法

ディプロマ・ポリシーに示す目標に対する学生の学修到達状況は、シラバス等に明示された評価基準・方法に基づき、授業内の発表、レポート等を用いて多角的に評価します。学位論文については、審査基準と審査方法を明示し、それに基づき学位論文審査委員会による論文審査および最終試験を厳格に行います。

### Ⅲ. アドミッション・ポリシー(入学受入れの方針)

国文学専攻博士後期課程では、ディプロマ・ポリシーに定める人材を育成するため、求める学生像、入学前に身につけていることを求める能力、入学選抜の方法について、以下のよう  
にアドミッション・ポリシーを定めます。

#### 1. 求める学生像

本課程では、「他者のために、他者とともに」という本学の教育精神およびディプロマ・ポ  
リシーで掲げる目標を踏まえ、日本文学研究の中核を担う、さらに上級の学問を修得するこ  
とを目指すため、次のような資質・能力を高めたいと望む学生を求めています。

- (1) 国語学・古典文学・近代文学・漢文学を有機的に関連させて総合的に追究する、「国文学」に関する深い理解と学識、未知なるものを解き明かそうとする探究心、問題を学術的に論証し結論へと導く思考力
- (2) 「国文学」を過去から現在へと繋がる歴史的・通時的文脈の上に捉え、他分野との関係性をも視野におさめて理解しようとする包括的な理解力
- (3) 社会の変革に対応できる多角的な視座や課題解決力
- (4) 高度な研究能力や専門性を活かして、皆が心豊かに生きてゆくことができる社会の実現に寄与する力

#### 2. 入学前に身につけていることを求める能力

入学前には、次の知識・能力・態度を持つことを求めます。

- (1) 国文学専攻の専攻分野に対する強い関心
- (2) 専門的な研究を実施するに際し、自ら課題を見出し探究しようとする意欲
- (3) 国文学専攻が求める文献読解力や語学能力などの基礎知識と論理的思考力
- (4) 研究を遂行する際に必要な日本語や外国語のリテラシー、およびコミュニケーション能力

#### 3. 入学選抜の方法

入学選抜の基本方針として、複数の受験機会や多様な学生を評価できる入試を提供し  
ます。アドミッション・ポリシーに定める「求める学生像」にふさわしい入学選抜するにあ  
たり、「入学前に身につけていることを求める能力」を評価するため、出願書類、筆記試験、  
口述試験の結果により総合的に選抜を実施します。

入学選抜方法の詳細は大学院入学試験のHPをご覧ください。

[https://adm.sophia.ac.jp/jpn/in\\_ad/innyushi/](https://adm.sophia.ac.jp/jpn/in_ad/innyushi/)

## 英米文学専攻の3つのポリシー

### ■ 博士前期課程

#### I. ディプロマ・ポリシー（学位授与の方針）

英米文学専攻博士前期課程は、キリスト教的ヒューマニズムに基づいて、英米文学を西欧文明という大きな全体の一環を成す試みとしてとらえることを前提とします。人文学的な教養に基づいて、英米文学、英語学、英語教育の各専門領域を、歴史、宗教、思想、文化の諸領域とのつながりのなかでとらえる視野と理解力を養成し、それらの専門領域の知見から、社会や文化の抱える多様な問題に切り込み、よりよい解決に寄与することのできる人材の育成を目的としています。

そうした目的を達成するため、文学研究科のディプロマ・ポリシーを踏まえ、本専攻博士前期課程では、所定の教育課程を修め、学位論文または特定課題研究(リサーチ・ペーパー)の審査に合格することで次の資質・能力を身につけたと認められる者に学位を授与します。

#### 1. 専門家としての資質・研究倫理

gmDP1-1.

人文学の幅広い教養と学識に裏打ちされた英米文学、英語学、英語教育に関する高度な専門知識の獲得を志向する自立した精神

gmDP1-2.異なる価値観をもつ他者を理解しようとする柔軟な学際性

gmDP1-3.

高い倫理観と規範意識を持って研究を推進する力

#### 2. 高度な専門的知識

gmDP2-1.

英米文学、英語学、英語教育分野の学術文献の読解、分析に必要とされる日英両言語の高度な運用能力

gmDP2-2.

英米の文学・思想・文化、英語学、英語教育についての体系的知識

gmDP2-3.

新たな課題の探求へと向かう創造的な思考力と応用力

#### 3. 社会を先導する力

gmDP3-1.

英米文学、英語学、英語教育分野の知識と人文学の教養を、研究、教職、その他専門的な職業に従事することで社会に還元する力

gmDP3-2.

研究の成果を、適切な構成、緻密な分析、明快な論理展開、豊かな言語表現を備えた説得力のある学術論文にまとめ、国内外の学会で発信する力

## II. カリキュラム・ポリシー(教育課程の編成・実施の方針)

英米文学専攻博士前期課程では、ディプロマ・ポリシーに示す資質・能力等の目標を学生が達成できるようにするため、教育課程編成、学修内容・学修方法、学修成果評価について、以下のようにカリキュラム・ポリシーを定めます。

### 1. 教育課程の編成方法

本課程では、専門分野についての高度な知識と様々な理論と実践方法を効果的に修得できるように、以下のようにカリキュラムを編成しています。

- (1) 1年次に「文学研究法 I」(使用言語は日本語)と「文学研究法 II」(使用言語は英語)を必修科目として設置し、リサーチ、研究発表、論文執筆を英語と日本語の両言語でおこなうための基礎力を養います。
- (2) Aコース(後期課程進学)とBコース(前期課程完結)を設け、前者では研究者養成を目的とする研究指導をおこない、後者では研究の基礎を学びます。
- (3) 研究倫理については、「研究指導」のほか、大学院生が一堂に会する中間発表会の場を通して指導します。

### 2. 学修内容・学修方法

本課程の修了に必要な知識・技能を修得するため、講義・演習を組み合わせた様々な授業形態・授業方法による学修・研究指導の機会を提供します。

さらに、課題設定等を通じて授業時間外の学修を促し、学修時間の確保と成果の定着を図ります。

- (1) 時代やジャンルに偏りの生じないように開講された英米文学、英語学、英語教育の特別講義・演習の授業で、少人数の演習形式を通して、テキスト読解能力、およびプレゼンテーションとディスカッションに必要な力を養います。
- (2) 2年次には、Aコースでは指導教員による個人指導のもとで英語による修士論文を作成し、Bコースでは修士論文もしくはリサーチ・ペーパーのどちらかを選択し、前期課程修了後の進路に対応した学修に取り組みます。
- (3) 自らの設定した論文テーマについて授業外でのリサーチを進めることで十分な学修時間を確保し、学修成果の定着化に取り組みます。

### 3. 学修成果の評価方法

ディプロマ・ポリシーに示す目標に対する学生の学修到達状況は、シラバス等に明示された評価基準・方法に基づき、筆記試験、プレゼンテーション、レポート等を用いて多角的に評価します。学位論文については、審査基準と審査方法を明示し、それに基づき学位論文審査委員会による論文審査および最終試験を厳格に行います。

### Ⅲ. アドミッション・ポリシー(入学者受入れの方針)

英米文学専攻博士前期課程では、ディプロマ・ポリシーに定める人材を育成するため、求める学生像、入学前に身につけていることを求める能力、入学者選抜の方法について、以下のように入学者選抜の方針を定めます。

#### 1. 求める学生像

本課程では、「他者のために、他者とともに」という本学の教育精神およびディプロマ・ポリシーに掲げる目標を踏まえ、次のような資質・能力を高めたいと望む学生を求めています。

- (1) 英米の文学、文化、言語、歴史、思想に関する専門的知識と人文学の教養
- (2) 専門的な研究を遂行するために必要な高度な語学力
- (3) 社会の変革に対応できる多角的な視座や、他者との協働に必要な対話力
- (4) 研究能力や専門性を活かして社会に貢献する力

#### 2. 入学前に身につけていることを求める能力

入学前には、次の知識・能力・態度を持つことを求めます。

- (1) 日本語・英語の両言語における文献読解に必要な語学力および読解力
- (2) 研究成果を受信・発信する際に必要な英語の運用能力やコミュニケーション能力
- (3) 英米文学専攻の分野に対する強い関心
- (4) 専門的な研究を遂行するための思考力

#### 3. 入学者選抜の方法

入学者選抜の基本方針として、複数の受験機会や多様な学生を評価できる入試を提供します。アドミッション・ポリシーに定める「求める学生像」にふさわしい入学者を選抜するにあたり、「入学前に身につけていることを求める能力」を評価するため、出願書類、筆記試験、口述試験の結果により総合的に選抜を実施します。

入学者選抜方法の詳細は大学院入学試験のHPをご覧ください。

[https://adm.sophia.ac.jp/jpn/in\\_ad/innyushi/](https://adm.sophia.ac.jp/jpn/in_ad/innyushi/)

## ■ 博士後期課程

### I. ディプロマ・ポリシー（学位授与の方針）

英米文学専攻博士後期課程は、キリスト教的ヒューマニズムに裏打ちされた人文学的な教養に基づいて、英米文学、英語学、英語教育の各領域における専門知をより一層深め、研究職、教職という専門職を通してその知の伝達に努めると同時に、その知を社会や文化の多様性から生まれる諸問題に向き合い、解決へのよりよい方途を模索するための叡智へと高めていくことのできる人材の育成を目的としています。

そうした目的を達成するため、文学研究科のディプロマ・ポリシーを踏まえ、本専攻博士後期課程では、所定の教育課程を修め、学位論文の審査に合格することで、次の資質・能力を身につけたと認められる者に学位を授与します。

#### 1. 専門家としての資質・研究倫理

gdDP1-1.

人文学の幅広い教養と学識に裏打ちされた英米文学、英語学、英語教育分野の高度な学術研究を地道かつ柔軟に持続するための自立した精神

gdDP1-2.

高度な倫理観と規範意識をもって、創造的な研究を推進していく力

#### 2. 高度な専門的知識

gdDP2-1.

英米文学、英語学、英語教育分野の学術文献の読解、分析に必要とされる日英両言語の高度な運用能力

gdDP2-2.

英米の文学・思想・文化、英語学、英語教育についての高度な専門的知識を有し、それぞれの分野で独自の研究テーマを探求する力

#### 3. 社会を先導する力

gdDP3-1.

英米文学、英語学、英語教育分野の学術的知識と人文学の教養を、研究職、教職、その他専門的な職業への従事を通して社会に還元する力

gdDP3-2.

最新の研究の成果を、適切な構成、緻密な分析、明快な論理展開、豊かな言語表現を備えた説得力のある学術論文にまとめ、国内外の学会で発信する力

## II. カリキュラム・ポリシー(教育課程の編成・実施の方針)

英米文学専攻博士後期課程では、ディプロマ・ポリシーに示す資質・能力等の目標を学生が達成できるようにするため、教育課程編成、学修内容・学修方法、学修成果評価について、以下のようにカリキュラム・ポリシーを定めます。

### 1. 教育課程の編成方法

本課程では、専門分野における専門知識と様々な理論と実践方法を効果的に修得できるよう、以下のようにカリキュラムを編成しています。

- (1) 「リーディング・コース」を毎年開講し、専門領域外の英米文学・英語学・英語教育に関する知見を学ぶ場を提供します。
- (2) 博士論文執筆の前段階として、「博士予備論文」作成の指導を行います。
- (3) 研究倫理については、「研究指導」のほか、大学院生が一堂に会する中間発表会の場を通して指導します。

### 2. 学修内容・学修方法

本課程の修了に必要な知識・技能を修得するため、講義・演習等を組み合わせた様々な授業形態・授業方法による学修・研究指導の機会を提供します。

さらに、課題設定等を通じて授業時間外の学修を促し、学修時間の確保と成果の定着を図ります。

- (1) 特別講義・演習と個人指導の両面から、博士論文作成にむけての実践的な訓練を受けます。
- (2) 博士論文執筆にむけてリサーチを進め、指導教員による「研究指導」を定期的を受けながら、国内外の学会・学術誌への論文発表を積極的に行い、自立した研究者としての能力を身につけます。
- (3) 授業外におけるリサーチ課題を通じて授業時間外の学修に取り組み、十分な学修時間を確保することで学修成果の定着化を図ります。

### 3. 学修成果の評価方法

ディプロマ・ポリシーに示す目標に対する学生の学修到達状況は、シラバス等に明示された評価基準・方法に基づき、筆記試験、プレゼンテーション、レポート等を用いて多角的に評価します。学位論文については、審査基準と審査方法を明示し、それに基づき学位論文審査委員会による論文審査および最終試験を厳格に行います。

### Ⅲ. アドミッション・ポリシー(入学者受入れの方針)

英米文学専攻博士後期課程では、ディプロマ・ポリシーに定める人材を育成するため、求める学生像、入学前に身につけていることを求める能力、入学者選抜の方法について、以下のように入学者選抜の方針を定めます。

#### 1. 求める学生像

本課程では、「他者のために、他者とともに」という本学の教育精神およびディプロマ・ポリシーに掲げる目標を踏まえ、次のような資質・能力を高めたいと望む学生を求めています。

- (1) 英米の文学、文化、言語、歴史、思想に関する専門的知識を教授できる力
- (2) 専門的な研究を遂行するために必要な高度な語学力
- (3) 社会の変革に対応できる多角的な視座や課題解決力
- (4) 研究能力や専門性を活かして社会に貢献する力

#### 2. 入学前に身につけていることを求める能力

入学前には、次の知識・能力・態度を持つことを求めます。

- (1) 日本語・英語両言語における専門文献読解に必要な語学力と読解力
- (2) 研究成果を受信・発信する際に必要な英語の運用能力やコミュニケーション能力
- (3) 英米文学分野の高度な研究を遂行するための専門知識に基づいた思考力
- (4) 学問を通じて得た学びを社会に還元したいという強い意欲

#### 3. 入学者選抜の方法

入学者選抜の基本方針として、多様な学生を評価できる入試を提供します。アドミッション・ポリシーに定める「求める学生像」にふさわしい入学者を選抜するにあたり、「入学前に身につけていることを求める能力」を評価するため、出願書類、筆記試験、口述試験の結果により総合的に選抜を実施します。

入学者選抜方法の詳細は大学院入学試験のHPをご覧ください。

[https://adm.sophia.ac.jp/jpn/in\\_ad/innyushi/](https://adm.sophia.ac.jp/jpn/in_ad/innyushi/)

## ドイツ文学専攻の3つのポリシー

### ■ 博士前期課程

#### I. ディプロマ・ポリシー（学位授与の方針）

ドイツ文学専攻博士前期課程は、ドイツ語を中心とする実践的な外国語運用能力、各種文献資料の読解能力、さらには幅広い文化現象を解析する能力を涵養することで、高度な専門的知識と同時に広い歴史的社会的視野を有するドイツ語圏文学・芸術の研究者の育成を目的としています。

そうした目的を達成するため、文学研究科のディプロマ・ポリシーを踏まえて、本専攻博士前期課程では、所定の教育課程を修め、学位論文の審査に合格することで、次の資質・能力を身につけたと認められる者に学位を授与します。

#### 1. 専門家としての資質・研究倫理

gmDP1-1.

ドイツ語圏の文学・芸術及びその背景となる歴史や社会への深い理解と学際的かつ多面的な視座

gmDP1-2.

高い倫理観・規範意識を持ちながら、文学・芸術の領域で意義ある研究を進める力

#### 2. 高度な専門的知識

gmDP2-1.

ドイツ語圏の文学・芸術に関する、高度かつ広範な知識に基づいて、自ら新たな課題を発見、設定して、これを論理的に考察していくための研究能力

gmDP2-2.

ドイツ語の原典や関連する文献資料を正確に読解するための高度な言語能力

gmDP2-3.

研究を遂行するために必要な、専門知識に裏付けられた問題解決力

#### 3. 社会を先導する力

gmDP3-1.

研究の過程で身に付けた問題解決能力と専門的知見を社会に還元する力

gmDP3-2.

文学や芸術を享受する喜びと感動を、自らの表現を通じて社会に伝え、より豊かな文化的社会の実現に寄与することのできる発信力

gmDP3-3.

専門分野に関する独創的な研究を行い、これを論理的整合性をもった修士論文にまとめ、また学問的議論を通じて広く発信する力

## II. カリキュラム・ポリシー(教育課程の編成・実施の方針)

ドイツ文学専攻博士前期課程では、ディプロマ・ポリシーに示す資質・能力等の目標を学生が達成できるようにするため、教育課程編成、学修内容・学修方法、学修成果評価について、以下のようにカリキュラム・ポリシーを定めます。

### 1. 教育課程の編成方法

本課程では、専門分野についての高度な知識と様々な理論と実践を効果的に修得できるよう、以下のようにカリキュラムを編成しています。

- (1) 1年次には自身の研究主題を明確にし、研究推進のために必要な専門的知識を得るため、教員の個別指導を受ける「研究指導」を必修科目としています。また専攻分野に関わる「文学研究」や「文化研究」を選択科目として配置します。さらに自身の専攻以外の分野についても広く知識を修得するために、他専攻の言語学やドイツ語教育法に関する科目が履修できます。2年次には、修士論文の作成に向けて、担当教員から必修の「研究指導」において、より専門的なアドバイスを受けるとともに、1年次に引き続き、専門領域に関わる知見や研究手法を獲得するための講義・演習科目を配置します。
- (2) 修士論文を作成する年度においては、指導教員以外の専攻科教員や他の大学院生から、自身の研究に対する建設的な批判を受け、より優れた論文の完成をめざすために、中間発表を行う機会が設けられています。
- (3) 研究倫理に関する規範意識を身につけるために、研究倫理教育を受ける機会を設けます。

### 2. 学修内容・学修方法

本課程の修了に必要な知識・技能を修得するため、講義・演習等を組み合わせた様々な授業形態・授業方法による学修・研究指導の機会を提供します。

さらに、課題設定等を通じて授業時間外の学修を促し、学修時間の確保と成果の定着を図ります。

- (1) 「文学研究」では特定の文学作品やジャンル、文学者についての理解を深めるため、少人数の演習方式で、テキストを読解し、また議論を重ねることによって、自身の研究を展開するために必要な基礎的な思考力と分析力、調査研究能力を修得します。「文化研究」では、文学以外の領域、例えば日独文化比較、音楽、美術、舞台芸術など幅広い文化領域について、専門的な知識を獲得することでドイツ語圏文化全般についての知見を拡大します。いずれの科目でも、ドイツ語だけが用いられる授業が複数開講されており、ドイツ語運用能力を増強することができます。
- (2) 必修の「研究指導」では、修士論文の執筆に向けて、各々の指導教員から論文指導を

受け、各自の研究テーマに関する知見を深めるとともに、調査研究能力、高度な言語能力に基づく文献読解力、そしてその成果を他者に的確に伝えるための表現力を養います。ドイツ語圏の大学への留学(1年程度)も推奨されています。

### 3. 学修成果の評価方法

ディプロマ・ポリシーに示す目標に対する学生の学修到達状況は、シラバス等に明示された評価基準・方法に基づき、筆記試験、プレゼンテーション、レポート等を用いて多角的に評価します。学位論文については、審査基準と審査方法を明示し、それに基づき学位論文審査委員会による論文審査および最終試験を厳格に行います。

### Ⅲ. アドミッション・ポリシー(入学者受入れの方針)

ドイツ文学専攻博士前期課程では、ディプロマ・ポリシーに定める人材を育成するため、求める学生像、入学前に身につけていることを求める能力、入学者選抜の方法について、以下のよう  
にアドミッション・ポリシーを定めます。

#### 1. 求める学生像

本課程では、「他者のために、他者とともに」という本学の教育精神およびディプロマ・ポ  
リシーで掲げる目標を踏まえ、次のような資質・能力を高めたいと望む学生を求めています。

- (1) ドイツ語圏の文学・芸術について専門的に研究するために必要な知識とドイツ語を中心とする外国語運用能力、様々な文化現象をその背景から解明しようとする積極的な探究心と問題解決能力、自らの研究成果を論理的に表現する日本語を含む諸言語での発信能力
- (2) 歴史的に特定の文化現象を把握し、また周辺領域との関連においてこれを的確に分析することのできる学際的・多角的な視座
- (3) 自身の研究能力や専門性を活かして、より豊かな社会の実現に貢献しようとする意欲

#### 2. 入学前に身につけていることを求める能力

入学前には、次の知識・能力・態度を持つことを求めます。

- (1) ドイツ語圏の文学・芸術の領域に対する強い関心、芸術作品を自発的に鑑賞し、楽しむことのできる豊かな感受性
- (2) 専門的な研究を実施するに際して、自ら課題を見だし、これを探究しようとする強い意欲と目的意識
- (3) ドイツ語圏の文学・芸術の領域全般に関する基礎的な知識と論理的思考力
- (4) 研究を遂行するために必要なドイツ語の基本的な運用能力、他者との議論や論文において、論理的に自己の見解を展開するための日本語能力

#### 3. 入学者選抜の方法

入学者選抜の基本方針として、複数の受験機会や多様な学生を評価できる入試を提供します。アドミッション・ポリシーに定める「求める学生像」にふさわしい入学者を選抜するにあたり、「入学前に身につけていることを求める能力」を評価するため、出願書類、筆記試験、口述試験の結果により総合的に選抜を実施します。

入学者選抜方法の詳細は大学院入学試験のHPをご覧ください。

[https://adm.sophia.ac.jp/jpn/in\\_ad/innyushi/](https://adm.sophia.ac.jp/jpn/in_ad/innyushi/)



## ■ 博士後期課程

### I. ディプロマ・ポリシー（学位授与の方針）

ドイツ文学専攻博士後期課程は、ドイツ語を中心とする実践的かつ学術的な外国語運用能力、各種文献資料の極めて精緻な読解能力、さらには幅広い文化現象を独自に解析する能力を涵養することで、高度な専門的知識と同時に広範な歴史的社会的視野を有するドイツ語圏文学・芸術の研究者の育成を目的としています。

そうした目的を達成するため、文学研究科のディプロマ・ポリシーを踏まえて、本専攻博士後期課程では、所定の教育課程を修め、学位論文の審査に合格することで、次の資質・能力を身につけたと認められる者に学位を授与します。

#### 1. 専門家としての資質・研究倫理

gdDP1-1.

ドイツ語圏の文学・芸術及びその背景となる歴史や社会への深い理解と高度に学際的かつ多面的な思考力

gdDP1-2.

極めて高い倫理観・規範意識を持ちながら、文学・芸術の領域で高度な研究を進める力

#### 2. 高度な専門的知識

gdDP2-1.

ドイツ語圏の文学・芸術に関する、極めて高度かつ広範な知識に基づき、自ら新たな課題を発見、設定して、これを論理的学術的に考察していくための優れた研究能力

gdDP2-2.

ドイツ語の原典や関連する文献資料を、正確かつ精緻に読解するための極めて高度な言語能力

gdDP2-3.

自律的に高いレベルでの研究を遂行するために必要な、広範な専門知識に裏付けられた問題解決力

#### 3. 社会を先導する力

gdDP3-1.

研究の過程で身につけた、高度な問題解決能力と専門的知見を広く社会に還元する力

gdDP3-2.

文学や芸術を享受する喜びと感動を、独自の表現を通じて広く社会に伝え、より豊かな文化的社会の実現に寄与することのできる高度な発信力

gdDP3-3.

専門分野に関する優れて独創的な研究を行い、これを高度な論理的整合性をもった博士論文にまとめ、また学問的議論を通じて広く国内外に発信する力

## Ⅱ. カリキュラム・ポリシー(教育課程の編成・実施の方針)

ドイツ文学専攻博士後期課程では、ディプロマ・ポリシーに示す資質・能力等の目標を学生が達成できるようにするため、教育課程編成、学修内容・学修方法、学修成果評価について、以下のようにカリキュラム・ポリシーを定めます。

### 1. 教育課程の編成方法

本課程では、研究分野に特化した知識と様々な理論と実践を効果的に修得できるよう、以下のようにカリキュラムを編成しています。

- (1) 1年次には博士前期課程(修士論文)での研究成果を踏まえて、自身の研究主題をより明確にし、研究推進のために必要な、より高度の専門的知識を得るため、教員の個別指導を受ける「研究指導」を必修科目としています。また専攻分野に関わる「文学特殊研究」や「文化特殊研究」を選択科目として配置します。さらに自身の専攻以外の分野についても広く知識を修得するために、他専攻の言語学やドイツ語教育法に関する科目が履修できます。2年次以降は、博士論文の作成に向けて、担当教員から、必修の「研究指導」を通して、より高度で専門的なアドバイスを受けるとともに、専門領域に関わる知見や研究手法を獲得するための講義・演習科目を配置します。
- (2) 指導教員以外の専攻科教員や他の大学院生から、自身の研究に対する建設的な批判を受け、研究の進展を図るために、当該年度に発表した(ないし発表予定の)論文について合評する機会が毎年設けられています。
- (3) 研究倫理に関する高い規範意識を身につけるために、研究倫理教育を受ける機会を設けます。

### 2. 学修内容・学修方法

本課程の修了に必要な知識・技能を修得するため、講義・演習等を組み合わせた様々な授業形態・授業方法による学修・研究指導の機会を提供します。

さらに、課題設定等を通じて授業時間外の学修を促し、学修時間の確保と成果の定着を図ります。

- (1) 「文学特殊研究」では特定の文学作品やジャンル、文学者についての理解を深めるため、少人数の演習方式で、テキストを読解し、また議論を重ねることによって、自身の研究を精緻に展開するために必要な高度な思考力と分析力、調査研究能力を修得します。「文化特殊研究」では、文学以外の領域、例えば日独文化比較、音楽、美術、舞台芸術など幅広い文化領域について、専門的な知識を獲得することでドイツ語圏文化全般についての知見を拡大します。いずれの科目でも、ドイツ語だけが用いられる授業が複数開講されており、ドイツ語運用能力を増強することができます。
- (2) 必修の「研究指導」では、博士論文の執筆に向けて、各々の指導教員から論文指導を受け、各自の研究テーマに関する学識を深めるとともに、調査研究能力、高度な言語

能力に基づく文献読解力、そしてその成果を他者に的確に伝えるための表現力を養います。可能な限り毎年、国内外の学会・研究会の機関誌に論文を投稿、ないし口頭発表を行い、自立した研究者としての能力を磨きます。ドイツ語圏の大学への留学(1～2年)も強く推奨されています。

### 3. 学修成果の評価方法

ディプロマ・ポリシーに示す目標に対する学生の学修到達状況は、シラバス等に明示された評価基準・方法に基づき、筆記試験、プレゼンテーション、レポート等を用いて多角的に評価します。学位論文については、審査基準と審査方法を明示し、それに基づき学位論文審査委員会(学外委員を含む)による論文審査および最終試験を厳格に行います。

### Ⅲ. アドミッション・ポリシー(入学者受入れの方針)

ドイツ文学専攻博士後期課程では、ディプロマ・ポリシーに定める人材を育成するため、求める学生像、入学前に身につけていることを求める能力、入学者選抜の方法について、以下のように入学者選抜の方針を定めます。

#### 1. 求める学生像

本課程では、「他者のために、他者とともに」という本学の教育精神およびディプロマ・ポリシーに掲げる目標を踏まえ、次のような資質・能力を高めたいと望む学生を求めています。

- (1) ドイツ語圏の文学・芸術について専門的に研究するために必要な、高度な学識とドイツ語を中心とする外国語の優れた運用能力、様々な文化現象をその背景から解明しようとする積極的な探究心と問題解決能力、自らの研究成果を日本語、外国語で論理的に表現する発信能力
- (2) 歴史的に多種多様な文化現象を把握し、また周辺領域との関連においてこれらを精緻に分析することのできる高度に学際的・多角的な視座
- (3) 自身の研究能力や専門性を活かして、関係する学界の発展はもとより、より豊かな社会の実現に貢献しようとする強い意志

#### 2. 入学前に身につけていることを求める能力

入学前には、次の知識・能力・態度を持つことを求めます。

- (1) ドイツ語圏の文学・文化の領域に対する強い関心と探求の実績、多種多様な芸術作品を自発的に鑑賞し、楽しむことのできる豊かで繊細な感受性
- (2) 専門的な研究を実施するに際して、自ら課題を見だし、これを探究しようとする強い意欲、様々な困難にもかかわらず自立した研究者を目指そうとする強固な目的意識
- (3) ドイツ語圏の文学・芸術の領域全般に関する高度な知識と精緻な論理的思考力
- (4) 研究を遂行し、内外の研究者との議論や論文において、論理的に自己の見解を展開するために必要な、高度なドイツ語および日本語の能力

#### 3. 入学者選抜の方法

入学者選抜の基本方針として、複数の受験機会や多様な学生を評価できる入試を提供します。アドミッション・ポリシーに定める「求める学生像」にふさわしい入学者を選抜するにあたり、「入学前に身につけていることを求める能力」を評価するため、出願書類、筆記試験、口述試験の結果により総合的に選抜を実施します。

入学者選抜方法の詳細は大学院入学試験のHPをご覧ください。

[https://adm.sophia.ac.jp/jpn/in\\_ad/innyushi/](https://adm.sophia.ac.jp/jpn/in_ad/innyushi/)

## フランス文学専攻の3つのポリシー

### ■ 博士前期課程

#### I. ディプロマ・ポリシー（学位授与の方針）

フランス文学専攻博士前期課程は、フランス文学・芸術を通して複眼的視点と問題意識をもって専門的な知識と深い教養を獲得し、研究成果として優れた論文が執筆できる人材の育成を目的としています。

そうした目的を達成するため、文学研究科のディプロマ・ポリシーを踏まえ、本専攻博士前期課程では、所定の教育課程を修め学位論文の審査に合格することで、次の資質・能力を身につけたと認められる者に学位を授与します。

#### 1. 専門家としての資質・研究倫理

gmDP1-1.

フランス文学を中心とした広範な知識を得る

gmDP1-2

文学・芸術が社会に与える影響などを多面的にとらえる力

gmDP1-3

高い倫理観・規範意識を持って研究を進める力

#### 2. 高度な専門的知識

gmDP2-1.

専門的な研究を遂行しうる高度なフランス語運用能力

gmDP2-2.

フランスおよびフランス語圏の文学・芸術に関する高水準の専門的研究をする能力

#### 3. 社会を先導する力

gmDP3-1.

さまざまな分野で職業人として活躍しうる能力・適性を身につけ、自己の研究成果を適切に評価し、それを社会に還元する力

gmDP3-2.

専門的な知識に基づいた的確な分析と論理的かつ説得力のある構成・展開を備えた学術論文を書くことができる能力

## II. カリキュラム・ポリシー(教育課程の編成・実施の方針)

フランス文学専攻博士前期課程では、ディプロマ・ポリシーに示す資質・能力等の目標を学生が達成できるようにするため、教育課程編成、学修内容・学修方法、学修成果評価について、以下のようにカリキュラム・ポリシーを定めます。

### 1. 教育課程の編成方法

本課程では、専門分野についての高度な知識と様々な理論と実践を効果的に修得できるよう、以下のようにカリキュラムを編成しています。

- (1) A群の科目を通して、フランスおよびフランス語圏の文学・芸術に関して、研究方法の修得・深化に役立つ専門的教育を行います。
- (2) A群の科目を通して、フランスおよびフランス語圏の文学・芸術に関して、多様な興味・関心を喚起しうる専門的教育を行います。
- (3) B群の科目を通して、高度なフランス語学力・論文作成力を養います。
- (4) 研究倫理に関する規範意識を身につけるために、研究倫理教育を受ける機会を設けます。

### 2. 学修内容・学修方法

本課程の修了に必要な知識・技術を修得するため、講義・演習等を組み合わせた様々な授業形態・授業方法による学修・研究指導の機会を提供します。

さらに、課題設定等を通じて授業時間外の学修を促し、学修時間の確保と成果の定着を図ります。

- (1) A群、B群の科目を通して高度なフランス語運用能力を養成するための実践的な語学的訓練を受けます。
- (2) 「研究指導」を通して、修士論文作成のために、テーマの掘り下げ、プランの策定、論述の整備などの指導を受けます。指導教員が中心となって論文指導を行い、研究テーマに関する知識を深めるとともに、リサーチ能力とプレゼンテーション能力を養います。

### 3. 学修成果の評価方法

ディプロマ・ポリシーに示す目標に対する学生の学修到達状況は、シラバス等に明示された評価基準・方法に基づき、筆記試験、プレゼンテーション、レポート等を用いて多角的に評価します。学位論文については、審査基準と審査方法を明示し、それに基づき学位論文審査委員会による論文審査および最終試験を厳格に行います。

### Ⅲ. アドミッション・ポリシー(入学受入れの方針)

フランス文学専攻博士前期課程では、ディプロマ・ポリシーに定める人材を育成するため、求める学生像、入学前に身につけていることを求める能力、入学選抜の方法について、以下のようにアドミッション・ポリシーを定めます。

#### 1. 求める学生像

本課程では、「他者のために、他者とともに」という本学の教育精神およびディプロマ・ポリシーで掲げる目標を踏まえ、次のような資質・能力を高めたいと望む学生を求めています。

- (1) フランス文学・芸術に関する専門的研究を遂行するための十分な意欲と能力
- (2) 情報の収集、分析、総合を的確におこない、かつ研究成果を正確に伝達する能力
- (3) 専門の枠にとらわれず広く芸術・文化の諸問題に関心をもって取り組む力
- (4) フランス文学・芸術に関する研究能力や専門性を活かして社会に貢献する力

#### 2. 入学前に身につけていることを求める能力

入学前には、次の知識・能力・態度を持つことを求めます。

- (1) フランス文学専攻の分野に対する強い関心
- (2) 専門的な研究を実施するために自身の研究の目的と手法について考察し、探究しようとする意欲
- (3) フランス文学の領域全般に関する基礎知識と論理的思考力
- (4) 専門の枠にとらわれず広く芸術・文化の諸問題に対する関心
- (5) 研究を遂行する際に必要なフランス語能力やコミュニケーション能力

#### 3. 入学選抜の方法

入学選抜の基本方針として、複数の受験機会や多様な学生を評価できる入試を提供します。アドミッション・ポリシーに定める「求める学生像」にふさわしい入学を選抜するにあたり、「入学前に身につけていることを求める能力」を評価するため、出願書類、筆記試験、口述試験の結果により総合的に選抜を実施します。

入学選抜方法の詳細は大学院入学試験のHPをご覧ください。

[https://adm.sophia.ac.jp/jpn/in\\_ad/innyushi/](https://adm.sophia.ac.jp/jpn/in_ad/innyushi/)

## ■ 博士後期課程

### I. ディプロマ・ポリシー（学位授与の方針）

フランス文学専攻博士後期課程は、前期課程で培った能力・技能を土台とし、複眼的視点と問題意識をもって、フランス文学・芸術に関してさらに高度な専門的な知識と深い教養を獲得し、研究成果として優れた論文が執筆できる人材の育成を目的としています。

そうした目的を達成するため、文学研究科のディプロマ・ポリシーを踏まえ、本専攻博士後期課程では、所定の教育課程を修め、学位論文の審査に合格することで、次の資質・能力を身につけたと認められる者に学位を授与します。

#### 1. 専門家としての資質・研究倫理

gdDP1-1.

フランス文学を中心に国際的に通用する広範かつ専門的な知識を得る力

gdDP1-2.

文学・芸術が社会に与える影響などを多面的にとらえる力

gdDP1-3.

高い倫理観・規範意識を持って研究を進める力

#### 2. 高度な専門的知識

gdDP2-1.

フランスおよびフランス語圏の文学・芸術に関して、国際的な水準で通用しうる高度な専門的研究をすることができる能力

gdDP2-2.

国際的な学術交流を可能にする高度なフランス語運用能力

#### 3. 社会を先導する力

gdDP3-1.

専門的な知識やフランス語運用能力を教育の現場に生かすことのできる能力・適性

gdDP3-2.

専門的な知識、先行研究の精査に基づく的確な分析と論理的かつ説得力のある構成・展開を備えた学術論文を執筆し、国内外に発信できる能力

## II. カリキュラム・ポリシー(教育課程の編成・実施の方針)

フランス文学専攻博士後期課程では、ディプロマ・ポリシーに示す資質・能力等の目標を学生が達成できるようにするため、教育課程編成、学修内容・学修方法、学修成果評価について、以下のようにカリキュラム・ポリシーを定めます。

### 1. 教育課程の編成方法

本課程では、専門分野における専門知識と様々な理論と実践を効果的に修得できるよう、以下のようにカリキュラムを編成しています。

- (1) フランスおよびフランス語圏の文学・芸術に関する高度な専門知識・研究方法を学ぶ「特殊研究」を複数開設します。
- (2) 博士論文作成のため必修科目「研究指導」を設けます。
- (3) 研究倫理に関する規範意識を身につけるために、研究倫理教育を受ける機会を設けます。

### 2. 学修内容・学修方法

本課程の修了に必要な知識・技能を修得するため、講義・演習等を組み合わせた様々な授業形態・授業方法による学修・研究指導の機会を提供します。

さらに、課題設定等を通じて授業時間外の学修を促し、学修時間の確保と成果の定着を図ります。

- (1) 「研究指導」においては、前期課程で積み上げた基礎知識や修士論文の成果をふまえて、博士論文作成のために、テーマの掘り下げ、プランの策定、論述の整備など、きめ細かい指導を受けます。
- (2) 各「特殊研究」科目においては、給費留学や研究集会での発表など、研究者としての国際的な活動に道を開くための方法を学びます。

### 3. 学修成果の評価方法

ディプロマ・ポリシーに示す目標に対する学生の学修到達状況は、シラバス等に明示された評価基準・方法に基づき、筆記試験、プレゼンテーション、レポート等を用いて多角的に評価します。学位論文については、審査基準と審査方法を明示し、それに基づき学位論文審査委員会による論文審査および最終試験を厳格に行います。

### Ⅲ. アドミッション・ポリシー(入学者受入れの方針)

フランス文学専攻博士後期課程では、ディプロマ・ポリシーに定める人材を育成するため、求める学生像、入学前に身につけていることを求める能力、入学者選抜の方法について、以下のようにアドミッション・ポリシーを定めます。

#### 1. 求める学生像

本課程では、「他者のために、他者とともに」という本学の教育精神およびディプロマ・ポリシーに掲げる目標を踏まえ、次のような資質・能力を高めたいと望む学生を求めています。

- (1) 国際的な水準でフランス文学・芸術に関する高度な専門的研究を遂行するための十分な意欲と能力
- (2) 情報の収集、分析、総合を的確におこない、それを独創的な研究成果としてまとめ、フランス文学・芸術に関する高度な研究能力や専門性を活かして社会に貢献する力

#### 2. 入学前に身につけていることを求める能力

入学前には、次の知識・能力・態度を持つことを求めます。

- (1) フランス文学専攻の分野に対する強い関心
- (2) 前期課程の研究をふまえ、独創性のある研究について考察し、それを探究しようとする意欲
- (3) 自身の研究領域に関する高度な専門的知識と論理的思考力
- (4) 研究を遂行する際に必要なフランス語能力、コミュニケーション能力

#### 3. 入学者選抜の方法

入学者選抜の基本方針として、多様な学生を評価できる入試を提供します。アドミッション・ポリシーに定める「求める学生像」にふさわしい入学者を選抜するにあたり、「入学前に身につけていることを求める能力」を評価するため、出願書類、筆記試験、口述試験の結果により総合的に選抜を実施します。

入学者選抜方法の詳細は大学院入学試験のHPをご覧ください。

[https://adm.sophia.ac.jp/jpn/in\\_ad/innyushi/](https://adm.sophia.ac.jp/jpn/in_ad/innyushi/)

## 新聞学専攻の3つのポリシー

### ■ 博士前期課程

#### I. ディプロマ・ポリシー(学位授与の方針)

新聞学専攻博士前期課程は、現代社会が直面する情報化やメディア、コミュニケーション等にかかる諸問題や地球規模の課題に、新聞学、ジャーナリズム研究、メディア・コミュニケーション研究の観点から対応すべく、専門分野における研究能力、または、これに加えて高度の専門性が求められる職業を担う人材の育成を目的としています。

そうした目的を達成するために、本専攻博士前期課程では、所定の教育課程を修め、学位論文の審査に合格することで、次の資質・能力を身につけたと認められる者に学位を授与します。

#### 1. 専門家としての資質・研究倫理

##### gmDP1-1

新聞学、ジャーナリズム研究、メディア・コミュニケーション研究にかかる基礎知識を有し、現前するメディアやジャーナリズムに関する諸問題を多面的にとらえる力

##### gmDP1-2

幅広い関心領域をもとに、情報社会において、今後、新たに生起する諸問題に関心を払い、それらに対して独自の洗練された問題意識と高い倫理感・規範意識を持って研究を進める力

#### 2. 高度な専門的知識

##### gmDP2-1

新聞学、ジャーナリズム研究、メディア・コミュニケーション研究にかかる基礎知識を活用して、新たな研究課題を設定し、解決するための研究能力

##### gmDP2-2

新聞学、ジャーナリズム研究、メディア・コミュニケーション研究で活躍できる専門知識を身につけるとともに、これらの領域において新たな課題を発見、研究を深める力

#### 3. 社会を先導する力

##### gmDP3-1

現代社会の動向に関心をもち、自己の研究成果を適切に評価し、それを社会に還元する力

##### gmDP3-2

専門分野に関する研究内容について、適切な論文構成や整合性のある論理展開で修士論文にまとめ発信する力

## Ⅱ. カリキュラム・ポリシー(教育課程の編成・実施の方針)

新聞学専攻博士前期課程では、ディプロマ・ポリシーに示す資質・能力を学生が達成できるよう、教育課程編成、学修方法、学修成果評価について、以下のようにカリキュラム・ポリシーを定めます。

### 1. 教育課程の編成方法

本課程では、専門分野についての高度な知識と様々な理論と実践を効果的に修得できるよう、以下のようにカリキュラムを編成しています。

- (1) マス・コミュニケーション理論、ジャーナリズム論、メディア分析の3分野を基本に据えたカリキュラムを構成し、その上で演習を配置し、学生が主体的に学問に取り組めるようカリキュラムを配置します。
- (2) 研究倫理に関する規範意識を身につけるよう「研究指導」科目により指導します。

### 2. 学修内容・学修方法

本課程の修了に必要な知識・技能を修得するため、講義・演習等を組み合わせた様々な授業形態・授業方法による学修・研究指導の機会を提供します。

さらに、課題設定等を通じて授業時間外の学修を促し、学修時間の確保と成果の定着を図ります。

- (1) ジャーナリズム、メディア・コミュニケーションをとりまく今日の諸問題を扱う科目をその都度設置して、学生がその関心に応じて時代の潮流に沿った柔軟な研究が可能となるカリキュラム編成とします。
- (2) 学生が修士論文を完成させるため、指導教員の指導のもと、各自が研究を推進できるよう指導體制を整えています。中間発表会を設置することで、修士論文の進捗状況をすべての教員が把握できる仕組みをとります。

### 3. 学修成果の評価方法

ディプロマ・ポリシーに示す目標に対する学生の学修到達状況を、科目等の適切な成績評価を通じて評価します。成績評価は、シラバス等に明示された評価基準・法に基づいて実施します。学位論文については、審査基準と審査方法を明示し、それに基づき学位論文審査委員会による論文審査および口頭試問を厳格に行います。

### Ⅲ. アドミッション・ポリシー(入学者受入れの方針)

新聞学専攻博士前期課程では、ディプロマ・ポリシーに定める人材を育成するため、求める学生像、入学前に身につけていることを求める能力、入学者選抜の方法について、以下のよう  
にアドミッション・ポリシーを定めます。

#### 1. 求める学生像

本課程では、「他者のために、他者とともに」という本学の教育精神およびディプロマ・ポ  
リシーに掲げる目標を踏まえ、次のような資質・能力を高めたいと望む学生を求めています。

- (1) 新聞学、ジャーナリズム研究、メディア・コミュニケーション研究における専門的知識・  
技能および学際的な深い教養
- (2) 社会の変革に対応できる多角的な視座や課題解決能力
- (3) 研究能力や専門性を活かして社会に貢献する力

#### 2. 入学前に身につけていることを求める能力

入学前には、次の知識・能力・態度を持つことを求めています。

- (1) 新聞学、ジャーナリズム研究、メディア・コミュニケーション研究に対する強い関心
- (2) 専門的な研究を実施するために自身の研究の目的と手法について考察し、探求しよ  
うとする意欲
- (3) 新聞学、ジャーナリズム研究、メディア・コミュニケーション研究の領域全般に関する  
基礎的知識と論理的思考力

#### 3. 入学者選抜の方法

入学者選抜の基本方針として、複数の受験機会や多様な学生を評価できる入試を提供し  
ます。アドミッション・ポリシーに定める「求める学生像」にふさわしい入学者を選抜するにあ  
たり、「入学前に身につけていることを求める能力」を評価するため、出願書類、筆記試験、  
口述試験の結果により総合的に選抜を実施します。

また、メディアやジャーナリズムの実務の現場で経験を積んだ学生が、その経験に基づく  
問題意識を発展させて研究する場として、社会人にも門戸を広げています。

入学者選抜方法の詳細は大学院入学試験のHPをご覧ください。

[https://adm.sophia.ac.jp/jpn/in\\_ad/innyushi/](https://adm.sophia.ac.jp/jpn/in_ad/innyushi/)

## ■ 博士後期課程

### I.ディプロマ・ポリシー(学位授与の方針)

新聞学専攻博士後期課程は、現代社会が直面する情報化やメディア、コミュニケーション等にかかる諸問題や地球規模の課題に、新聞学、ジャーナリズム研究、メディア・コミュニケーション研究の観点から対応すべく、専門分野における高度な研究能力、または、これに加えて高度の専門性が求められる職業において、アカデミックな技能を展開できる人材の育成を目的としています。

そうした目的を達成するために、本専攻博士後期課程では、所定の教育課程を修め、学位論文の審査に合格することで、次の資質・能力を身につけたと認められる者に学位を授与します。

#### 1. 専門家としての資質・研究倫理

##### gdDP1-1

新聞学、ジャーナリズム研究、メディア・コミュニケーション研究にかかる基礎知識を前提に、現前するメディアやジャーナリズムに関する諸問題を多面的にとらえる力

##### gdDP1-2

幅広い関心領域をもとに、情報社会において、今後、新たに生起する諸問題に関心を払い、アカデミックな知識・経験を基礎に、独自の洗練された強い問題意識と高い倫理感・規範意識を持って研究を進める力

#### 2. 高度な専門的知識

##### gdDP2-1

新聞学、ジャーナリズム研究、メディア・コミュニケーション研究にかかる基礎知識を活用して、新たな研究課題を設定し、解決するための高度な研究能力

##### gdDP2-2

新聞学、ジャーナリズム研究、メディア・コミュニケーション研究の領域で活躍できる専門知識を身につけるとともに、これらの領域において新たな課題を発見、研究を深める力

#### 3. 社会を先導する力

##### gdDP3-1

現代社会の動向に関心をもち、自己の研究成果を適切に評価し、それを社会に還元する力

##### gdDP3-2

専門分野に関する研究内容について、適切な論文構成や整合性のある論理展開で、博士論文にまとめ、学術的な貢献をするとともに、その成果を国内外に発信する力

## Ⅱ. カリキュラム・ポリシー(教育課程の編成・実施の方針)

新聞学専攻博士後期課程では、ディプロマ・ポリシーに示す資質・能力を学生が達成できるよう、教育課程編成、学修方法、学修成果評価について、以下のようにカリキュラム・ポリシーを定めます。

### 1. 教育課程の編成方法

本課程では、広範な分野についての専門知識と様々な理論と実践を効果的に修得できるよう、以下のようにカリキュラムを編成しています。

- (1) 新聞学における特定の領域にフォーカスした「特殊研究」や博士論文作成のための「研究指導」、「演習」を配置します。
- (2) 研究倫理に関する規範意識を身につけるよう「研究指導」科目により指導します。

### 2. 学修内容・学修方法

本課程の修了に必要な知識・技能を修得するため、講義・演習等を組み合わせた様々な授業形態・授業方法による学修・研究指導の機会を提供します。

課題設定等を通じて授業時間外の学修を促し、学修時間の確保と成果の定着を図ります。

- (1) 前期課程で積み上げた基礎知識や修士論文の成果を踏まえ、独創的な博士論文の執筆をするために、指導教員が担当する「研究指導」「論文演習」を中心に科目を履修し、高度なリサーチ能力と課題発見能力を養います。
- (2) 専門的研究を通じて高度な資料分析能力を養成するために「特殊研究」を履修し、「研究指導」に基づき、国内外の学会、学術誌への論文発表を積極的に行い、自立した研究者としての能力を身につけます。

### 3. 学修成果の評価方法

ディプロマ・ポリシーに示す目標に対する学生の学修到達状況を、科目等の適切な成績評価を通じて評価します。成績評価は、シラバス等に明示された評価基準・方法に基づいて実施します。学位論文については、審査基準と審査方法を明示し、それに基づき学位論文審査委員会による論文審査および口頭試問を厳格に行います。

### Ⅲ. アドミッション・ポリシー(入学者受入れの方針)

新聞学専攻博士後期課程では、ディプロマ・ポリシーに定める人材を育成するため、求める学生像、入学前に身につけていることを求める能力、入学者選抜の方法について、以下のよう  
にアドミッション・ポリシーを定めます。

#### 1. 求める学生像

本課程では、「他者のために、他者とともに」という本学の教育精神およびディプロマ・ポ  
リシーで掲げる目標を踏まえ、次のような資質・能力を高めたいと望む学生を求めています。

- (1) 新聞学、ジャーナリズム研究、メディア・コミュニケーション研究における高度な専門  
的知識・技能および学際的な深い教養
- (2) 社会の変革に対応できる多角的な視座や課題解決能力
- (3) 研究能力や専門性を活かして社会に貢献する力

#### 2. 入学前に身につけていることを求める能力

入学前には、次の知識・能力・態度を持つことを求めています。

- (1) 新聞学、ジャーナリズム研究、メディア・コミュニケーション研究に対する強い関心
- (2) 専門的な研究を実施するために自身の研究の目的と手法について 考察し、探求し  
ようとする意欲
- (3) 新聞学、ジャーナリズム研究、メディア・コミュニケーション研究の領域 全般に関する  
高度な知識と論理的思考力

#### 3. 入学者選抜の方法

入学者選抜の基本方針として、多様な学生を評価できる入試を提供します。アドミッシ  
ョン・ポリシーに定める「求める学生像」にふさわしい入学者を選抜するにあたり、「入学前に身  
につけていることを求める能力」を評価するため、出願書類、筆記試験、口述試験の結果に  
より総合的に選抜を実施します。

入学者選抜方法の詳細は大学院入学試験のHPをご覧ください。

[https://adm.sophia.ac.jp/jpn/in\\_ad/innyushi/](https://adm.sophia.ac.jp/jpn/in_ad/innyushi/)

## 文化交渉学専攻の3つのポリシー

### ■ 博士前期課程

#### I. ディプロマ・ポリシー（学位授与の方針）

文化交渉学専攻博士前期課程は、文化交渉の本質を理解し、多様な文化同士のあるべき交渉に資する研究者の養成や、新たな文化創造の基盤となる基礎研究に従事する人材の育成を目的としています。

そうした目的を達成するため、文学研究科のディプロマ・ポリシーを踏まえ、本専攻博士前期課程では、所定の教育課程を修め、学位論文の審査に合格することで、次の資質・能力を身につけたと認められる者に学位を授与します。

#### 1. 専門家としての資質・研究倫理

gmDP1-1.

様々な文化に関して広範に知識を得ることにより、文化交渉が人間社会や地球環境に与える影響などを多面的にとらえる力

gmDP1-2.

高い倫理観・規範意識を持って研究を進める力

#### 2. 高度な専門的知識

gmDP2-1.

先行研究を十分にふまえ、既存の学問領域の枠にとらわれずに、適切なテーマを設定する力

gmDP2-2.

テーマ設定に基づき、その解決のために必要な資料を読解し分析する力

#### 3. 社会を先導する力

gmDP3-1.

自己の研究成果を適切に評価し、それを新たな文化交渉の場に還元する力

gmDP3-2.

文化交渉に関する研究内容について、緻密な分析、論旨の整備等がそなわった明快な論文を作成する力

## Ⅱ. カリキュラム・ポリシー(教育課程の編成・実施の方針)

文化交渉学専攻博士前期課程では、ディプロマ・ポリシーに示す資質・能力等の目標を学生が達成できるようにするため、教育課程編成、学修内容・学修方法、学修成果評価について、以下のようにカリキュラム・ポリシーを定めます。

### 1. 教育課程の編成方法

本課程では、専門分野についての高度な知識と様々な理論を使って効果的に分析できるよう、以下のようにカリキュラムを編成しています。

- (1) 修士論文作成のための「論文作成法」を必修として配置します。専攻分野に関わる「異文化研究特講」や「文化交渉学特講」を選択科目として配置します。また、自身の専攻以外の分野についても広く知識を修得するために、他専攻の科目や履修できます。
- (2) 研究倫理に関する規範意識を身につけるために、指導教員の個人面談において指導します。

### 2. 学修内容・学修方法

本課程の修了に必要な知識・技能を修得するため、講義・演習等を組み合わせた様々な授業形態・授業方法による学修・研究指導の機会を提供します。

さらに、課題設定等を通じて授業時間外の学修を促し、学修時間の確保と成果の定着を図ります。

- (1) 講義ではさまざまな文化の特質、文化形成の歴史的経緯などを理解し、演習では議論を重ねることにより研究を展開するために必要な基礎的な思考力を深め、調査研究能力を修得し、情報収集力や分析力を身につけます。
- (2) 「研究指導」では、修士論文の執筆をするため、指導教員による論文指導を受け、研究テーマに関する知識を深めるとともに、緻密な分析をする力、プレゼンテーション能力を養います。
- (3) 文化交渉の手段の一つであり、新しい文化創造の契機ともなる翻訳について、文学と芸術の関わりを含めて研究する力を養成します。

### 3. 学修成果の評価方法

ディプロマ・ポリシーに示す目標に対する学生の学修到達状況は、シラバス等に明示された評価基準・方法に基づき、筆記試験、プレゼンテーション、レポート等を用いて多角的に評価します。学位論文については、審査基準と審査方法を明示し、それに基づき学位論文審査委員会による論文審査および最終試験を行います。

### Ⅲ. アドミッション・ポリシー(入学者受入れの方針)

文化交渉学専攻博士前期課程では、ディプロマ・ポリシーに定める人材を育成するため、求める学生像、入学前に身につけていることを求める能力、入学者選抜の方法について、以下のようにアドミッション・ポリシーを定めます。

#### 1. 求める学生像

本課程では、「他者のために、他者とともに」という本学の教育精神およびディプロマ・ポリシーで掲げる目標を踏まえ、次のような資質・能力を高めたいと望む学生を求めています。

- (1) 様々な文化に対する強い好奇心、さらには各文化間の交渉の様相や、交渉の結果生じる変容等を分析する能力
- (2) 哲学、文学、史学等、文科系の既存の学問領域を越え、科学技術といった理科系の分野まで含めた幅広い文化のありようを分析する能力
- (3) 研究能力や専門性を活かして社会に貢献する力

#### 2. 入学前に身につけていることを求める能力

入学前には、次の知識・能力・態度を持つことを求めます。

- (1) 文化交渉学専攻の分野に対する強い関心
- (2) 専門的な研究を実施するために自身の研究の目的と手法について考察し、探究しようとする意欲
- (3) 文化交渉学の領域全般に関する基礎知識と論理的思考力
- (4) 英語または日本語で、修士論文を作成するための、論理的思考能力と当該語学の基礎的な作文能力

#### 3. 入学者選抜の方法

入学者選抜の基本方針として、複数の受験機会や多様な学生を評価できる入試を提供します。アドミッション・ポリシーに定める「求める学生像」にふさわしい入学者を選抜するにあたり、「入学前に身につけていることを求める能力」を評価するため、出願書類、筆記試験、口述試験の結果により総合的に選抜を実施します。

入学者選抜方法の詳細は大学院入学試験のHPをご覧ください。

[https://adm.sophia.ac.jp/jpn/in\\_ad/innyushi/](https://adm.sophia.ac.jp/jpn/in_ad/innyushi/)

## ■ 博士後期課程

### I. ディプロマ・ポリシー（学位授与の方針）

文化交渉学専攻博士後期課程は、前期課程の研究を多様な文化交渉のあり方に即してさらに発展させて、文化交渉の本質を理解し、多様な文化同士のあるべき交渉に資する研究者を育成し、新たな文化創造の基盤となる基礎研究に従事する人材の育成を目的としています。

そうした目的を達成するため、文学研究科のディプロマ・ポリシーを踏まえ、本専攻博士後期課程では、所定の教育課程を修め、学位審査に合格することで、次の資質・能力を身につけたと認められる者に学位を授与します。

#### 1. 専門家としての資質・研究倫理

gdDP1-1.

様々な文化間の交渉の様相や、交渉の結果生じる変容等に対する興味

gdDP1-2.

高い倫理観・規範意識を持って研究を進める力

#### 2. 高度な専門的知識

gdDP2-1.

文化交渉学の専門分野において、自己の研究課題を設定し、それを解決するための高度な研究能力

gdDP2-2.

海外で活動するなど、研究を深化させる力

#### 3. 社会を先導する力

gdDP3-1.

自己の研究成果を社会に還元し、持続可能な社会の実現に貢献する力

gdDP3-2.

博士論文の核になる論文を、学会で発表したり、雑誌に投稿したりすることで、その成果を世に問う力

## Ⅱ. カリキュラム・ポリシー(教育課程の編成・実施の方針)

文化交渉学専攻博士後期課程では、ディプロマ・ポリシーに示す資質・能力等の目標を学生が達成できるようにするため、教育課程編成、学修内容・学修方法、学修成果評価について、以下のようにカリキュラム・ポリシーを定めます。

### 1. 教育課程の編成方法

本課程では、専門分野における専門知識と様々な理論と実践を効果的に修得できるよう、以下のようにカリキュラムを編成しています。

- (1) 「特殊研究」や博士論文作成のための「研究指導」を配置します。
- (2) 研究倫理に関する規範意識を身につけるための指導を「研究指導」の中で行います。

### 2. 学修内容・学修方法

本課程の修了に必要な知識・技能を修得するため、講義・演習等を組み合わせた様々な授業形態・授業方法による学修・研究指導の機会を提供します。

さらに、課題設定等を通じて授業時間外の学修を促し、学修時間の確保と成果の定着を図ります。

- (1) 前期課程で積み上げた基礎知識や修士論文の成果をふまえて、多様な文化交渉に関する独創的な博士論文の執筆をするために、指導教員が担当する「研究指導」、「特殊研究」を中心に科目を履修し、高度なリサーチ能力と課題発見能力を養います。
- (2) 文化交渉に関する専門的研究を通じて高度な資料分析能力を養成するために「特殊研究」を履修し、「研究指導」に基づき、専攻の紀要や国内外の学会・学術誌への論文発表を積極的に行い、自立した研究者としての能力を身につけます。

### 3. 学修成果の評価方法

ディプロマ・ポリシーに示す目標に対する学生の学修到達状況は、シラバス等に明示された評価基準・方法に基づき、筆記試験、プレゼンテーション、レポート等を用いて多角的に評価します。学位論文については、審査基準と審査方法を明示し、それに基づき学位論文審査委員会による論文審査および最終試験を厳格に行います。

### Ⅲ. アドミッション・ポリシー(入学者受入れの方針)

文化交渉学専攻博士後期課程では、ディプロマ・ポリシーに定める人材を育成するため、求める学生像、入学前に身につけていることを求める能力、入学者選抜の方法について、以下のように入学者選抜の方針を定めます。

#### 1. 求める学生像

本課程では、「他者のために、他者とともに」という本学の教育精神およびディプロマ・ポリシーに掲げる目標を踏まえ、次のような資質・能力を高めたいと望む学生を求めています。

- (1) 修士論文の成果を発展させ、さらに高度な研究を行う能力
- (2) 常に研究領域の拡大を考えて、新たな視野から国際的な文化理解に資するための資質
- (3) 高度な研究能力や専門性を活かして社会に貢献する力

#### 2. 入学前に身につけていることを求める能力

入学前には、次の知識・能力・態度を持つことを求めます。

- (1) 文化交渉に関する分野への強い関心
- (2) 前期課程の研究をふまえて、独創性のある研究をいかに実施するかについて考察し、それを探究しようとする意欲
- (3) 自身の研究領域に関する高度な専門的知識と論理的思考力
- (4) 研究を遂行する際に必要な語学力やコミュニケーション能力

#### 3. 入学者選抜の方法

入学者選抜の基本方針として、様々な学生を評価できる入試を提供します。アドミッション・ポリシーに定める「求める学生像」にふさわしい入学者を選抜するにあたり、「入学前に身につけていることを求める能力」を評価するため、出願書類、筆記試験、口述試験の結果により総合的に選抜を実施します。

入学者選抜方法の詳細は大学院入学試験のHPをご覧ください。

[https://adm.sophia.ac.jp/jpn/in\\_ad/innyushi/](https://adm.sophia.ac.jp/jpn/in_ad/innyushi/)

## 実践宗教学研究科死生学専攻の3つのポリシー

### ■ 博士前期課程

#### I. ディプロマ・ポリシー(学位授与の方針)

死生学専攻博士前期課程は、新たな取り組みが求められる現代の死生学的課題に対して、宗教的思想的基盤に基づきながら、宗教の公共性・死生観および生命倫理・臨床スピリチュアルケアの3領域からそれぞれ異なるアプローチで対処し、高度な専門的知識・技能を活かして、社会の現場における実践的課題の解決に貢献できる研究者や高度専門職業人の育成を目的とします。

そうした目的を達成するため、上智大学大学院のディプロマ・ポリシーを踏まえ、本専攻博士前期課程では、所定の教育課程を修め、学位論文の審査に合格することで、次の資質・能力を身につけたと認められる者に学位を授与します。

#### 1. 専門家としての資質・研究倫理

gmDP1-1.

死生学を中心として、関連分野の知識も含め広範に知識を得ることにより、死生学が現代社会の死生観や倫理観、宗教観に与える影響などを多面的にとらえる力

gmDP1-2.

高い倫理観・規範意識を持って研究を進める力

#### 2. 高度な専門的知識

gmDP2-1.

死生学分野の基礎知識と専門知識を有し、それらを活用して新たな研究課題を設定し、解決するための研究能力

(1)「宗教の公共性」領域では、特に宗教の社会实践に関わる宗教学等の分野の基礎知識と専門知識

(2)「死生観・生命倫理」領域では、特に死生観に関わる倫理学・社会学・心理学等の分野の基礎知識と専門知識

(3)「臨床スピリチュアルケア」領域では、特にスピリチュアルケアに関わる心理学・ケア等の分野の基礎知識と専門知識

gmDP2-2.

研究を遂行するために必要な専門的知識を活用する力

### 3.社会を先導する力

gmDP3-1.

現場における死生学的課題を解決に導き、各専門分野の深化・発展に貢献する実践力

gmDP3-2.

専門分野に関する研究内容について、適切な論文構成や整合性のある論理展開で修士論文にまとめて発信する力

## Ⅱ. カリキュラム・ポリシー(教育課程の編成・実施の方針)

死生学専攻博士前期課程では、ディプロマ・ポリシーに示す資質・能力等の目標を学生が達成できるようにするため、教育課程編成、学修内容・学修方法、学修成果評価について、以下のようにカリキュラム・ポリシーを定めます。

### 1. 教育課程の編成方法

本課程では、「宗教の公共性」「死生観・生命倫理」「臨床スピリチュアルケア」の3領域を設置し、専門分野についての高度な知識と様々な理論と実践を効果的に修得できるよう、以下のようにカリキュラムを編成しています。

- (1) 1年次に、研究の基礎となる方法論や研究倫理、外国語運用能力を修得する「死生学研究法 I」「死生学研究法 II」「英語文献講読」を必修科目として配置します。また、2年次までに「宗教の公共性」「死生観・生命倫理」「臨床スピリチュアルケア」の3領域から、演習科目3科目を選択必修科目として履修し、死生学の各領域について広く知識を修得します。その他、各領域に関わる演習科目、研究科目、講義科目を選択科目として配置します。また、自身の専攻以外の分野についても広く知識を修得するために、他専攻の科目を選択可能とします。
- (2) 死生学的課題に対する実践的な問題理解力を修得する「実践宗教学インターンシップ」「臨床集中実習」を選択科目として配置します。
- (3) 論文作成のための「研究指導」を配置します。

### 2. 学修内容・学修方法

本課程の修了に必要な知識・技能を修得するため、講義・演習・実習等を組み合わせた様々な授業形態・授業方法による学修・研究指導の機会を提供します。

さらに、課題設定等を通じて授業時間外の学修を促し、学修時間の確保と成果の定着を図ります。

- (4) 講義では死生学の3領域にかかわるトピックについて理解し、演習や研究では、文献読解や議論を重ねることにより理解を深め、調査研究能力を修得し、情報収集力や柔軟な思考力・分析力を身につけます。
- (5) 実習やインターンシップでは、死生学的課題の現場に実際に参与し、現場における問題を理解し対処する力・他者に対して傾聴する力を身につけます。
- (6) 「研究指導」では、適切な課題理解と研究方法に基づく修士論文を作成させるための能力を身につけます。

### 3. 学修成果の評価方法

ディプロマ・ポリシーに示す目標に対する学生の学修到達状況は、シラバス等に明示された評価基準・方法に基づき、筆記試験、プレゼンテーション、レポート等を用いて多角的に評

扱います。学位論文については、審査基準と審査方法を明示し、それに基づき学位論文審査委員会による論文審査および最終試験を厳格に行います。

### Ⅲ. アドミッション・ポリシー(入学者受入れの方針)

死生学専攻博士前期課程では、ディプロマ・ポリシーに定める人材を育成するため、求める学生像、入学前に身につけていることを求める能力、入学者選抜の方法について、以下のよう  
にアドミッション・ポリシーを定めます。

#### 1. 求める学生像

本課程では、「他者のために、他者とともに」という本学の教育精神およびディプロマ・ポ  
リシーで掲げる目標を踏まえ、次のような資質・能力を高めたいと望む学生を求めています

- (1) 死生学分野における高度な専門的知識・技能および学際的な深い教養
- (2) 現代社会で生じるさまざまな死生学的課題に対して対応できる多角的な視座や課題  
解決力
- (3) 高度な研究能力や専門性を活かして社会や臨床の現場に貢献する力

#### 2. 入学前に身につけていることを求める能力

入学前には、次の知識・能力・態度を持つことを求めます。

- (1) 死生学分野の各領域に対する強い関心
- (2) 専門的な研究を実施するために自ら課題を発見し探究しようとする意欲
- (3) 各領域が求める基礎知識と論理的思考力
- (4) 研究を遂行する際に必要な語学力やコミュニケーション能力

#### 3. 入学者選抜の方法

入学者選抜の基本方針として、複数の受験機会や多様な学生を評価できる入試を提供し  
ます。アドミッション・ポリシーに定める「求める学生像」にふさわしい入学者を選抜するにあ  
たり、「入学前に身につけていることを求める能力」を評価するため、出願書類、筆記試験、  
口述試験の結果により総合的に選抜を実施します。

入学者選抜方法の詳細は大学院入学試験のHPをご覧ください。

[https://adm.sophia.ac.jp/jpn/in\\_ad/innyushi/](https://adm.sophia.ac.jp/jpn/in_ad/innyushi/)

## ■ 博士後期課程

### I. ディプロマ・ポリシー(学位授与の方針)

死生学専攻博士後期課程は、新たな取り組みが求められる現代の死生学的課題に対して、宗教的思想的基盤に基づきながら、宗教の公共性・死生観および生命倫理・臨床スピリチュアルケアの3領域からそれぞれ異なるアプローチで対処し、高度な専門的知識・技能を活かして、社会の現場における実践的課題の解決に貢献できる研究者や高度専門職業人の育成を目的としています。

そうした目的を達成するため、上智大学大学院のディプロマ・ポリシーを踏まえ、本専攻博士後期課程では、所定の教育課程を修め、学位論文の審査に合格することで、次の資質・能力を身につけたと認められる者に学位を授与します。

#### 1. 専門家としての資質・研究倫理

gdDP1-1.

死生学を核とする人文学の高度な専門知識と学際的知識

gdDP1-2.

高い倫理観・規範意識を持って研究を進める力

#### 2. 高度な専門的知識

gdDP2-1.

死生学の専門領域において、自己の研究課題を設定し、それを解決するための高度な研究能力

(1) 「宗教の公共性」領域では、特に宗教の社会实践に関わる宗教学等の分野の高度な研究能力

(2) 「死生観・生命倫理」領域では、特に死生観に関わる倫理学・社会学・心理学等の分野の高度な研究能力

(3) 「臨床スピリチュアルケア」領域では、特にスピリチュアルケアに関わる心理学・ケア等の分野の高度な研究能力

gdDP2-2.

死生学における独立した研究者として学術に貢献するために必要な専門的知識を活用する力

#### 3. 社会を先導する力

gdDP3-1.

現場における死生学的課題を解決に導き、後進の育成にも貢献する実践力

gdDP3-2.

専門分野を中心に高い専門性や独創性のある研究を行い、それらを専門分野に貢献できる博士論文にまとめ、国内外で発信する力

## Ⅱ. カリキュラム・ポリシー(教育課程の編成・実施の方針)

死生学専攻博士後期課程では、ディプロマ・ポリシーに示す資質・能力等の目標を学生が達成できるようにするため、教育課程編成、学修内容・学修方法、学修成果評価について、以下のようにカリキュラム・ポリシーを定めます。

### 1. 教育課程の編成方法

本課程では、「宗教の公共性」「死生観・生命倫理」「臨床スピリチュアルケア」の3領域を設置し、広範な分野についての専門知識と様々な理論と実践を効果的に修得できるよう、以下のようにカリキュラムを編成しています。

- (1) 1年次に、学術研究に不可欠な建設的批判を行う能力や研究倫理、研究基礎力を修得する「実践宗教学コロキウムⅠ」「実践宗教学コロキウムⅡ」を必修科目として配置します。また、2年次までに「宗教の公共性」「死生観・生命倫理」「臨床スピリチュアルケア」の3領域から、特殊研究科目2科目を選択必修科目として履修します。その他、各領域に関わる特殊研究科目を選択科目として配置します。
- (2) 論文作成のための「研究指導」を配置します。

### 2. 学修内容・学修方法

本課程の修了に必要な知識・技能を修得するため、講義・演習等を組み合わせた様々な授業形態・授業方法による学修・研究指導の機会を提供します。

さらに、課題設定等を通じて授業時間外の学修を促し、学修時間の確保と成果の定着を図ります。

- (1) 死生学に関する専門的知識や修士論文の成果をふまえて、独創的な博士論文を執筆するために、指導教員が担当する「研究指導」、「実践宗教学コロキウム」を中心に科目を履修し、高度な研究能力と課題発見能力を養います。
- (2) 専門的研究を通じて高度な資料分析能力を養うために「特殊研究」を履修し、「研究指導」に基づき、国内外の学会・学術誌への論文発表を積極的に行い、自立した研究者としての能力を身につけます。

### 3. 学修成果の評価方法

ディプロマ・ポリシーに示す目標に対する学生の学修到達状況は、シラバス等に明示された評価基準・方法に基づき、筆記試験、プレゼンテーション、レポート等を用いて多角的に評価します。学位論文については、審査基準と審査方法を明示し、それに基づき学位論文審査委員会による論文審査および最終試験を厳格に行います。

### Ⅲ. アドミッション・ポリシー(入学者受入れの方針)

死生学専攻博士後期課程では、ディプロマ・ポリシーに定める人材を育成するため、求める学生像、入学前に身につけていることを求める能力、入学者選抜の方法について、以下のよう  
にアドミッション・ポリシーを定めます。

#### 1. 求める学生像

本課程では、「他者のために、他者とともに」という本学の教育精神およびディプロマ・ポ  
リシーで掲げる目標を踏まえ、次のような資質・能力を高めたいと望む学生を求めています。

- (1) 死生学分野における高度な専門的知識・技能および学際的な深い教養
- (2) 現代社会で生じるさまざまな死生学的課題に対して対応できる多角的な視座や課題  
解決力
- (3) 高度な研究能力や専門性を活かして社会や臨床の現場に貢献する力

#### 2. 入学前に身につけていることを求める能力

入学前には、次の知識・能力・態度を持つことを求めます。

- (1) 死生学分野の各領域に対する強い関心
- (2) 死生学に関する専門的な知識をふまえて、独創性のある研究課題について考察し、  
それを探究しようとする意欲
- (3) 各領域が求める高度な専門知識と論理的思考力
- (4) 研究を遂行する際に必要な語学力やコミュニケーション能力

#### 3. 入学者選抜の方法

入学者選抜の基本方針として、多様な学生を評価できる入試を提供します。アドミッショ  
ン・ポリシーに定める「求める学生像」にふさわしい入学者を選抜するにあたり、「入学前に身  
につけていることを求める能力」を評価するため、出願書類、筆記試験、口述試験の結果に  
より総合的に選抜を実施します。

入学者選抜方法の詳細は大学院入学試験のHPをご覧ください。

[https://adm.sophia.ac.jp/jpn/in\\_ad/innyushi/](https://adm.sophia.ac.jp/jpn/in_ad/innyushi/)

## 総合人間科学研究科の3つのポリシー

### I. ディプロマ・ポリシー（学位授与の方針）

上智大学大学院総合人間科学研究科は、現代社会が直面する国内外の様々な課題に、教育学、心理学、社会学、社会福祉学、看護学のそれぞれ異なるアプローチから、人間の尊厳を基盤に「理論」と「調査・実践・臨床」の両方にわたる研究を通じて、持続可能な社会の実現に貢献できる研究者や高度専門職業人の育成を目的としています。

そうした目的を達成するため、上智大学大学院のディプロマ・ポリシーを踏まえ、本研究科の学位プログラムでは、所定の教育課程を修めることで、学位論文または特定課題研究の審査に合格することで、次の資質・能力を身につけたと認められる者に学位を授与します。

#### 1. 専門家としての資質・研究倫理

gsDP1-1.

人間の尊厳に関わる関連分野の知識も含む幅広い教養

gsDP1-2.

人間の尊厳に関わる関連分野の知識も含む学際性を備えた多角的な思考力

gsDP1-3.

人間の尊厳を基盤とする研究や実践を行う専門家に相応しい高い倫理観・規範意識を持って研究を進める力

#### 2. 高度な専門的知識

gsDP2-1.

教育、心理学、社会学、社会福祉学、看護学の各専攻・学位課程に必要とされる高度な専門的知識・技能

gsDP2-2.

人間の尊厳を基盤としながら、持続可能な社会の実現に貢献できる研究を遂行するために必要な専門的知識を活用する力

#### 3. 社会を先導する力

gsDP3-1.

人間の尊厳をめぐる課題を解決に導く独創性の高い実践力および各専門分野の深化・発展に貢献する力

gsDP3-2.

人間の尊厳をめぐる課題の解決に資する研究成果を学術論文としてまとめ、発信する力

## Ⅱ. カリキュラム・ポリシー(教育課程の編成・実施の方針)

上智大学大学院総合人間科学研究科では、ディプロマ・ポリシーに示す資質・能力等の目標を学生が達成できるようにするため、教育課程編成、学修内容・学修方法、学修成果評価について、以下のようにカリキュラム・ポリシーを定めます。

### 1. 教育課程の編成方法

本研究科では、教育学専攻、心理学専攻、社会学専攻、社会福祉学専攻、看護学専攻の5専攻を設置し、広範な分野についての専門知識と様々な理論と調査・実践・臨床の技能を効果的に修得できるよう、以下のようにカリキュラムを編成しています。

- (1) 博士前期課程および修士課程では、1年次に各専攻分野における基礎科目や、論文作成の基本に習熟するための科目を配置し、2年次には「論文演習」を必修として配置します。また、各専攻分野に関わる講義や演習を選択科目として配置します。さらに、自身の専攻以外の分野についても広く知識を修得するために、他専攻や他研究科の科目を選択可能とします。
- (2) 博士後期課程では、各専攻分野に関わる上級科目や、博士論文作成のための「研究指導」、「論文演習」を配置します。
- (3) 研究倫理については「研究指導」のほか、「論文演習」の科目を通して指導します。また、研究倫理に関する規範意識を身につけるために、研究倫理教育を受ける機会を設けます。

### 2. 学修内容・学修方法

各専攻・学位課程に応じて、修了に必要な知識・技能を修得するため、講義・演習・実習等を組み合わせた様々な授業形態・授業方法による学修・研究指導の機会を提供します。

さらに、課題設定等を通じて授業時間外の学修を促し、学修時間の確保と成果の定着を図ります。

- (1) 博士前期課程および修士課程において、講義では各専攻の専門分野における理論や研究方法、調査・実践・臨床の具体的トピックについて理解し、演習では議論を重ねることにより理解を深め、研究能力を修得し、情報収集力や柔軟な思考力・分析力を身につけます。「論文演習」では、修士論文における研究内容の高度化を目指し、複数の教員による共同指導を行います。
- (2) 博士後期課程では、前期課程で積み上げた基礎知識や修士論文の成果をふまえて、さらに高度な研究を行います。また、研究指導に基づき、国内外の学会・学術誌への論文発表を積極的に行い、自立した研究者としての能力を身につけます。

### 3. 学修成果の評価方法

ディプロマ・ポリシーに示す目標に対する学生の学修到達状況は、シラバス等に明示され

た評価基準・方法に基づき、筆記試験、プレゼンテーション、レポート等を用いて多角的に評価します。学位論文については、審査基準と審査方法を明示し、それに基づき学位論文審査委員会による論文審査および最終試験を厳格に行います。

### Ⅲ. アドミッション・ポリシー(入学者受入れの方針)

上智大学大学院総合人間科学研究科では、ディプロマ・ポリシーに定める人材を育成するため、求める学生像、入学前に身につけていることを求める能力、入学者選抜の方法について、以下のようにアドミッション・ポリシーを定めます。

#### 1. 求める学生像

本研究科では、「他者のために、他者とともに」という本学の教育精神およびのディプロマ・ポリシーで掲げる目標を踏まえ、次のような資質・能力を高めたいと望む学生を求めています。

- (1) 人間の尊厳を基盤とする理論や調査・実践・臨床に関する高度な専門的知識・技能および学際的な深い教養
- (2) 社会の変革に対応できる多角的な視座や課題解決力
- (3) 高度な研究能力や専門性を活かして社会に貢献する力
- (4) 図書館、実験室、演習室などの学内施設や、調査フィールド、教育、医療、福祉の現場、関連する研究機関などの学外施設など、学内外の設備・リソースを積極的に活用して研究や実践・臨床を行う力

#### 2. 入学前に身につけていることを求める能力

入学前には、次の知識・能力・態度を持つことを求めます。

- (5) 教育学、心理学、社会学、社会福祉学、看護学といった総合人間科学研究科の専攻分野に対する強い関心
- (6) 人間の尊厳を基盤とした持続可能な社会の実現に資する専門的な研究を実施するために自ら課題を発見し探究しようとする意欲
- (7) 教育学、心理学、社会学、社会福祉学、看護学のそれぞれ異なるアプローチから、各専攻・学位課程が求める基礎知識と論理的思考力
- (8) 人間の尊厳を基盤とする多角的な研究を遂行する際に必要な語学力やコミュニケーション能力
- (9) 図書館、実験室、演習室などの学内施設や、調査フィールド、教育、医療、福祉の現場、関連する研究機関などの学外施設など、学内外の設備・リソースを利用して、実験、調査、データ解析、実技、実習などを効果的に行うための知識や意欲

#### 3. 入学者選抜の方法

入学者選抜の基本方針として、各専攻・学位課程に応じて複数の受験機会や多様な学生を評価できる入試を提供します。アドミッション・ポリシーに定める「求める学生像」にふさわしい入学者を選抜するにあたり、「入学前に身につけていることを求める能力」を評価するため、出願書類、筆記試験、口述試験の結果により総合的に選抜を実施します。

入学者選抜方法の詳細は大学院入学試験のHPをご覧ください。

[https://adm.sophia.ac.jp/jpn/in\\_ad/innyushi/](https://adm.sophia.ac.jp/jpn/in_ad/innyushi/)

## 教育学専攻の3つのポリシー

### ■ 博士前期課程

#### I. ディプロマ・ポリシー（学位授与の方針）

教育学専攻博士前期課程は、現代社会が直面する国内外の様々な課題に、教育学のアプローチから、人間の尊厳を基盤に理論と実践の両方にわたる研究を通じて、持続可能な社会の実現に貢献できる研究者や高度専門職業人の育成を目的としています。

そうした目的を達成するため、総合人間科学研究科のディプロマ・ポリシーを踏まえ、本専攻博士前期課程の学位プログラムでは、所定の教育課程を修め、学位論文の審査に合格することで、次の資質・能力を身につけたと認められる者に学位を授与します。

#### 1. 専門家としての資質・研究倫理

gmDP1-1.

教育学を中心とし、関連分野も含む社会のさまざまな事象についての幅広い教養と学際性を備えた多角的な思考力

gmDP1-2.

高い倫理観・規範意識を持って研究を進める力

#### 2. 高度な専門的知識

gmDP2-1.

教育学専攻・学位課程に必要とされる幅広い学識と基礎的研究スキル

gmDP2-2.

社会の様々な事象についての情報収集力と柔軟で多角的な分析力

#### 3. 社会を先導する力

gmDP3-1.

課題を解決に導く独創性の高い実践力および教育学の深化・発展に貢献する力

gmDP3-2.

研究成果を学術論文としてまとめ、発信する力

## Ⅱ. カリキュラム・ポリシー(教育課程の編成・実施の方針)

教育学専攻博士前期課程では、ディプロマ・ポリシーに示す資質・能力等の目標を学生が達成できるようにするため、教育課程編成、学修内容・学修方法、学修成果評価について、以下のようにカリキュラム・ポリシーを定めます。

### 1. 教育課程の編成方法

本課程では、専門分野についての高度な知識と様々な理論と実践の技能を効果的に修得できるよう、以下のようにカリキュラムを編成しています。

- (1) 博士前期課程では、講義・演習・研究指導を組み合わせたカリキュラムを編成しています。1年次に各専攻分野における基礎科目(講義・演習)や、論文作成の基本に習熟するための科目を配置し、2年次には「論文演習」を必修として配置します。講義では、教育学の当該領域における主要テーマについて理解できるようにします。演習では、特定トピックについての議論による理解の深化や、調査研究スキルの獲得を目指しています。研究倫理に関する規範意識を身につけるために、研究倫理教育を受ける機会を設けます。
- (2) 博士前期課程では、自身の専攻以外の分野についても広く知識を修得するために、広く英語による科目を開設しています。また、自研究科内の他専攻開設科目や、8単位まで他研究科開設の科目を履修することも可能とします。さらに、他研究機関との委託聴講制度等を活用することで、学びの場における多様性を確保します。これらの科目を受講することにより、社会のさまざまな事象に関する情報収集力、そして幅広い学識と柔軟かつ多角的な思考力・分析力を身につけます。
- (3) 1年次、2年次を通して、自身の研究を進めるために「研究指導」を配置します。課程履修期間中は、指導教員および必要に応じて複数の教員から個別に指導を受けることで、研究能力を向上させます。学生は、2年次の春学期に研究概要を提出し、中間発表会において口頭で説明します。教育学専攻の所属教員および他の大学院生から研究内容についてのフィードバックを得ることで、研究論文の質を高めていきます。

### 2. 学修内容・学修方法

本課程の修了に必要な知識・技能を修得するため、講義・演習等を組み合わせた様々な授業形態・授業方法による学修・研究指導の機会を提供します。

さらに、課題設定等を通じて授業時間外の学修を促し、学修時間の確保と成果の定着を図ります。

- (1) 講義では教育学各分野の専門知識について理解を深め特定のトピックについて理解し、演習では、教育学各分野の専門知識を踏まえて、議論を重ねることにより理解を深め、研究能力を修得し、情報収集力や柔軟な思考力・分析力を身につけます。
- (2) 「論文演習」では、修士論文における研究内容の高度化を目指し、複数の教員による

共同指導を受けます。

### 3. 学修成果の評価方法

ディプロマ・ポリシーに示す目標に対する学生の学修到達状況は、シラバス等に明示された評価基準・方法に基づき、筆記試験、プレゼンテーション、レポート等を用いて多角的に評価します。学位論文については、審査基準と審査方法を明示し、それに基づき学位論文審査委員会による論文審査および最終試験を厳格に行います。

### Ⅲ. アドミッション・ポリシー(入学者受入れの方針)

教育学専攻博士前期課程では、ディプロマ・ポリシーに定める人材を育成するため、求める学生像、入学前に身につけていることを求める能力、入学者選抜の方法について、以下のよう  
にアドミッション・ポリシーを定めます。

#### 1. 求める学生像

本課程では、「他者のために、他者とともに」という本学の教育精神およびディプロマ・ポ  
リシーで掲げる目標を踏まえ、次のような資質・能力を高めたいと望む学生を求めています。

- (1) 人間の尊厳を基盤とする理論や実践に関する高度な専門的知識・技能および学際的な深い教養
- (2) 社会の変革に対応できる多角的な視座や課題解決力
- (3) 高度な研究能力や専門性を活かして社会に貢献する力
- (4) 学内外の設備・リソースを積極的に活用して研究や実践を行う力
- (5) 多様な人材が各人の経験を生かして共に学びあう研究環境の中で、他者との協調や連携を図ることのできる力

#### 2. 入学前に身につけていることを求める能力

入学前には、次の知識・能力・態度を持つことを求めます。

- (1) 教育学専攻の分野に関する強い関心
- (2) 専門的な研究を実施するために自ら課題を発見し探究しようとする意欲
- (3) 教育学専攻の学位課程が求める基礎学力と論理的思考力。基礎学力には、情報を幅広いソースから収集・分析し、自身の考えや研究成果を広く伝えるための外国語運用能力を含む。以上の関心と資質を有する学生であれば、学部での専攻は問わない。
- (4) 研究を遂行する際に必要なコミュニケーション能力。人間の尊厳を尊重する姿勢をもち、人の成長や学びを支える教育、ならびにそれをとりまく社会との関係性に対して、強い関心
- (5) 学内外の設備・リソースを利用して、調査、データ解析、実習、実技、実験などを効果的に行うための知識や意欲

#### 3. 入学者選抜の方法

入学者選抜の基本方針として、複数の受験機会や多様な学生を評価できる入試を提供します。アドミッション・ポリシーに定める「求める学生像」にふさわしい入学者を選抜するにあたり、「入学前に身につけていることを求める能力」を評価するため、出願書類、筆記試験、口述試験の結果により総合的に選抜を実施します。

入学者選抜方法の詳細は大学院入学試験のHPをご覧ください。

[https://adm.sophia.ac.jp/jpn/in\\_ad/innyushi/](https://adm.sophia.ac.jp/jpn/in_ad/innyushi/)

## ■ 博士後期課程

### I. ディプロマ・ポリシー（学位授与の方針）

教育学専攻博士後期課程は、現代社会が直面する国内外の様々な課題に、教育学のアプローチから、人間の尊厳を基盤に理論と実践の両方にわたる研究や教育を通じて現代社会の課題解決にリーダーシップを発揮して取り組むことができる人材の養成を目的としています。

そうした目的を達成するため、総合人間科学研究科のディプロマ・ポリシーを踏まえ、本専攻博士後期課程では、所定の教育課程を修め、学位論文審査に合格することで、次の資質・能力を身につけたと認められる者に学位を授与します。

#### 1. 専門家としての資質・研究倫理

gdDP1-1.

教育学を中心とし、関連分野も含む知識も含む社会のさまざまな事象についての幅広い教養と学際性を備えた多角的な思考力

gdDP1-2.

高い倫理観・規範意識を持って研究を進める力

#### 2. 高度な専門的知識

gdDP2-1.

教育学専攻・学位課程に必要とされる幅広い学識と専門的研究スキル

gdDP2-2.

自立して研究を遂行するために必要な専門的知識を活用する力、またそこで得られた研究結果から新たな知見を学術と政策・実践にもたらす力

#### 3. 社会を先導する力

gdDP3-1.

課題を解決に導く独創性の高い実践力および教育学の深化・発展に貢献する力

gdDP3-2.

研究成果を学術論文としてまとめ、発信する力

## Ⅱ. カリキュラム・ポリシー(教育課程の編成・実施の方針)

教育学専攻博士後期課程では、ディプロマ・ポリシーに示す資質・能力等の目標を学生が達成できるようにするため、教育課程編成、学修内容・学修方法、学修成果評価について、以下のようにカリキュラム・ポリシーを定めます。

### 1. 教育課程の編成方法

本課程では、専門分野における専門知識と様々な理論と実践を効果的に修得できるよう、以下のようにカリキュラムを編成しています。

- (1) 博士後期課程では、関連領域の講義・演習科目である(「上級講義」、「上級演習」)を開設します。これらの科目では、領域における基礎的事項を確認すると同時に、特定のトピックについて少人数クラスで議論を行い、その理解を深めます。研究倫理については、研究倫理に関する規範意識を身につけるために、研究倫理教育を受ける機会を設けます。
- (2) これらの科目に加えて、学生は、博士論文作成のための「論文演習」・「研究指導」の科目を履修します。これらの科目を履修することにより、指導教員から博士論文執筆や研究成果の発信(学術誌への投稿、学会での口頭発表など)についての個別指導を受けることができます。
- (3) さらに、専任教員3名からなる指導委員会が設置され、修学期間中の研究指導を受けることができます。指導委員会のメンバーは、学生の研究課題や調査研究手法を考慮して構成されます。この体制により、学生は、多様な角度から指導を受けながら、研究と博士論文の執筆を進めることができます。講義・演習科目の履修と研究指導を有機的に結びつけたこれらの学びにより、専門分野における情報収集・分析能力、および研究能力を獲得し、自立した研究者としての能力を身につけることができます。

### 2. 学修内容・学修方法

本課程の修了に必要な知識・技能を修得するため、講義・演習等を組み合わせた様々な授業形態・授業方法による学修・研究指導の機会を提供します。

さらに、課題設定等を通じて授業時間外の学修を促し、学修時間の確保と成果の定着を図ります。

- (1) 前期課程で積み上げた基礎知識や修士論文の成果をふまえて、独創的な博士論文の執筆をするために、指導教員が担当する「研究指導」、「論文演習」を中心に科目を履修し、高度なリサーチ能力と課題発見能力を養います。
- (2) 専門的研究を通じて高度な資料分析能力を養うために「上級講義」「上級演習」を履修します。
- (3) 「研究指導」に基づき、国内外の学会・学術誌への論文発表を積極的に行い、自立した

研究者としての能力を身につけます。

### 3. 学修成果の評価方法

ディプロマ・ポリシーに示す目標に対する学生の学修到達状況は、シラバス等に明示された評価基準・方法に基づき、筆記試験、プレゼンテーション、レポート等を用いて多角的に評価します。学位論文については、審査基準と審査方法を明示し、それに基づき学位論文審査委員会による論文審査および最終試験を厳格に行います。

### Ⅲ. アドミッション・ポリシー(入学者受入れの方針)

教育学専攻博士後期課程では、ディプロマ・ポリシーに定める人材を育成するため、求める学生像、入学前に身につけていることを求める能力、入学者選抜の方法について、以下のよう  
にアドミッション・ポリシーを定めます。

#### 1. 求める学生像

本課程では、「他者のために、他者とともに」という本学の教育精神およびディプロマ・ポ  
リシーで掲げる目標を踏まえ、次のような資質・能力を高めたいと望む学生を求めています。

- (1) 人間の尊厳を基盤とする理論や実践に関する高度な専門的知識・技能および学際的  
な深い教養
- (2) 社会の変革に対応できる多角的な視座や課題解決力
- (3) 高度な研究能力や専門性を活かして社会に貢献する力
- (4) 学内外の設備・リソースを積極的に活用して研究や実践を行う力
- (5) 多様な人材が各人の経験を生かして共に学びあう研究環境の中で、他者との協調や  
連携を図ることのできる力

#### 2. 入学前に身につけていることを求める能力

入学前には、次の知識・能力・態度を持つことを求めます。

- (1) 教育学専攻の分野に関する強い関心
- (2) 専門的な研究を実施するために自ら課題を発見し探究しようとする意欲
- (3) 教育学専攻の学位課程が求める基礎学力と論理的思考力。基礎学力には、情報を幅  
広いソースから収集・分析し、自身の考えや研究成果を広く社会に伝えるための外国  
語運用能力を含む。以上の関心と資質を有する学生であれば、本専攻博士前期課程  
を修了した者に限らず、国内の他大学院ならびに留学生を含めた海外の大学院博士  
前期課程(修士課程)の修了者を受け入れる
- (4) 研究を遂行する際に必要なコミュニケーション能力。人間の尊厳を尊重する姿勢をも  
ち、人の成長や学びを支える教育、ならびにそれをとりまく社会との関係性に対し  
て、強い関心
- (5) 学内外の設備・リソースを利用して、調査、データ解析、実習、実技、実験などを効果  
的に行うための知識や意欲

#### 3. 入学者選抜の方法

入学者選抜の基本方針として、複数の受験機会や多様な学生を評価できる入試を提供し  
ます。アドミッション・ポリシーに定める「求める学生像」にふさわしい入学者を選抜するにあ  
たり、「入学前に身につけていることを求める能力」を評価するため、出願書類、筆記試験、

口述試験の結果により総合的に選抜を実施します。

入学者選抜方法の詳細は大学院入学試験のHPをご覧ください。

[https://adm.sophia.ac.jp/jpn/in\\_ad/innyushi/](https://adm.sophia.ac.jp/jpn/in_ad/innyushi/)

## 心理学専攻の3つのポリシー

### ■ 博士前期課程

#### I. ディプロマ・ポリシー（学位授与の方針）

心理学専攻博士前期課程では、基礎心理学コースと臨床心理学コースの2つのコースを設置し、心理学の知識の理解、研究方法の修得や実践を通して、現代社会が直面する課題に対処し、持続可能な社会の実現に貢献できる研究能力を持つ人材、またはこれに加えて高度の専門性が求められる職業を担う人材の育成を目的としています。

そうした目的を達成するため、総合人間科学研究科のディプロマ・ポリシーを踏まえ、本専攻博士前期課程では、所定の教育課程を修め、学位論文の審査に合格することで、次の資質・能力を身につけたと認められる者に学位を授与します。

#### 1. 専門家としての資質・研究倫理

gmDP1-1.

心理学分野を中心とし、関連分野の知識も含め広範に知識を得ることにより、心理学が人間社会に与える影響などを多面的にとらえる力

gmDP1-2.

高い倫理観・規範意識を持って研究を進める力

#### 2. 高度な専門的知識

gmDP2-1.

基礎心理学コース、臨床心理学コースの両コースともに、心の働きの実証的理解、心と行動の普遍性およびその多様性と可塑性の理解、心理学の社会的役割の理解、心を生み出す仕組み(機構)と心理学の諸理論の正確な理解を踏まえて人間についてより深く理解する力

gmDP2-2.

心理学分野で活躍できる専門知識、専門職業人として本学の建学の理念である「隣人性」、「国際性」を達成するために必要な基礎分野および臨床分野(医療、教育、福祉等)における知識や技術、それを的確に伝える力

#### 3. 社会を先導する力

gmDP3-1.

自己の研究成果を適切に評価し、それを社会に還元し、多様な他分野、多職種との連携に貢献するリーダーシップ力

gmDP3-2.

自身の専門領域を深め、学会などでの発表を踏まえ、修士論文としてその成果をまとめる  
とともに、広く発信する力

## Ⅱ. カリキュラム・ポリシー(教育課程の編成・実施の方針)

心理学専攻博士前期課程では、ディプロマ・ポリシーに示す資質・能力等の目標を学生が達成できるようにするため、教育課程編成、学修内容・学修方法、学修成果評価について、以下のようにカリキュラム・ポリシーを定めます。

### 1. 教育課程の編成方法

本課程では、専門分野についての高度な知識と様々な理論と実践を効果的に修得できるよう、以下の趣旨を盛り込んだ科目によってカリキュラムを編成しています。

- (1) 基礎心理学コース・臨床心理学コースともに各専攻分野における基礎科目や、論文作成の基本に習熟し、学修の成果を研究活動として結実させるための「論文演習」を必修科目として配置します。また、各専攻分野に関わる「特殊講義」や「特殊研究」を選択科目として配置します。さらに、自身の専攻以外の分野についても広く知識を修得するために、他専攻の科目を選択可能とします。心理学の専門家としての基盤を作るために、1年次と2年次に、研究法に関する科目、各心理学の専門領域に関する科目を配置します。
- (2) 特に臨床心理学コースにおいては、臨床心理士および公認心理師として必要とされるさまざまな知識や技能を具体的な臨床事例に即して修得し、実習や実践を通してより一層深められるよう、必修科目を配置します。学部生の指導やチューターをする中で、自分自身の学びを深めることができる実習科目を配置します。
- (3) 研究倫理に関する規範意識を身につけるために、研究法に関連する各種科目の中で研究倫理についての学びを深めます。

### 2. 学修内容・学修方法

本課程の修了に必要な知識・技能を修得するため、講義・演習・実習等を組み合わせた様々な授業形態・授業方法による学修・研究指導の機会を提供します。

さらに、課題設定等を通じて授業時間外の学修を促し、学修時間の確保と成果の定着を図ります。

- (1) 講義では心理学の専門知識について理解を深め、演習では議論を重ねることにより研究を展開するために必要な基礎的な思考力を深め、調査研究能力を修得し、情報収集力や分析力を身につけます。
- (2) 「論文演習」では、修士論文の執筆をするため、指導教員を中心とする論文指導を受け、研究テーマに関する知識を深めるとともに、リサーチ能力とプレゼンテーション能力を養います。

### 3. 学修成果の評価方法

ディプロマ・ポリシーに示す目標に対する学生の学修到達状況は、シラバス等に明示され

た評価基準・方法に基づき、筆記試験、プレゼンテーション、レポート等を用いて多角的に評価します。学位論文については、審査基準と審査方法を明示し、それに基づき学位論文審査委員会による論文審査および最終試験を厳格に行います。

### Ⅲ. アドミッション・ポリシー(入学受入れの方針)

心理学専攻博士前期課程では、ディプロマ・ポリシーに定める人材を育成するため、求める学生像、入学前に身につけていることを求める能力、入学選抜の方法について、以下のよう  
にアドミッション・ポリシーを定めます。

#### 1. 求める学生像

本課程では、「他者のために、他者とともに」という本学の教育精神およびディプロマ・ポ  
リシーに掲げる目標を踏まえ、次のような資質・能力を高めたいと望む学生を求めています。

- (1) 心理学に関する基礎から応用分野での高度な専門的知識と、実証的データ収集、解  
析技能、臨床的な実践的知識や技能を身につけ、さらに、心理学の高度な専門的知  
識や自らの研究の成果を論文などの形でまとめ、それを他者に的確に伝えることの  
できる資質・能力
- (2) 社会の変革に対応できる多角的な視座や課題解決力をもち、人間の尊厳を尊重し、  
他者に対する暖かなまなざしをもつと同時に、事象を論理的かつ客観的に分析でき  
る思考力をもつ資質・能力
- (3) 研究能力や専門性を活かしつつ、さまざまな実践の場で他分野の専門家と対等に議  
論するために、知識修得の意欲をもち、柔軟に考え、多様な専門家と協力することで  
社会に貢献する資質・能力
- (4) 学内外の設備・リソースを積極的に活用して研究や実践・臨床を行う資質・能力

#### 2. 入学前に身につけていることを求める能力

入学前には、次の知識・能力・態度を持つことを求めます。

- (1) 心理学専攻の分野に対する強い関心
- (2) 専門的な研究を実施するために自身の研究の目的と手法について考察し、探究しよ  
うとする意欲
- (3) 心理学の領域全般に関する基礎知識と論理的思考力
- (4) 研究を遂行する際に必要な語学力やコミュニケーション能力
- (5) 学内外の設備・リソースを積極的に活用して研究や実践・臨床を行うための知識や意  
欲

#### 3. 入学選抜の方法

入学選抜の基本方針として、複数の受験機会や多様な学生を評価できる入試を提供し  
ます。アドミッション・ポリシーに定める「求める学生像」にふさわしい入学を選抜するにあ  
たり、「入学前に身につけていることを求める能力」を評価するため、出願書類、筆記試験、  
口述試験の結果により総合的に選抜を実施します。

入学者選抜方法の詳細は大学院入学試験のHPをご覧ください。

[https://adm.sophia.ac.jp/jpn/in\\_ad/innyushi/](https://adm.sophia.ac.jp/jpn/in_ad/innyushi/)

## ■ 博士後期課程

### I. ディプロマ・ポリシー（学位授与の方針）

心理学専攻博士後期課程は、現代社会が直面する課題に、心理学の観点から自立して研究活動を行う、または高度に専門的な業務に従事するために必要な高度の研究能力とその基礎となる豊かな学識を養う人材の育成を目的としています。

そうした目的を達成するため、総合人間科学研究科のディプロマ・ポリシーを踏まえ、本専攻博士後期課程では、所定の教育課程を修め、学位論文の審査に合格することで、次の資質・能力を身につけたと認められる者に学位を授与します。

#### 1. 専門家としての資質・研究倫理

gdDP1-1.

心理学分野を中心とし、関連分野の知識も含めて知識を得ることにより、心理学が人間社会に与える影響などを多面的にとらえる力

gdDP1-2.

高い倫理観・規範意識を持って研究を進める力

#### 2. 高度な専門的知識

gdDP2-1.

心理学の多様な分野での知見を深め、臨床的視点をもつ研究者、または研究者の視点をもつ実践家となる力

gdDP2-2.

科学的視点を基盤にした研究者として、また多職種連携を必要とする様々な場で対人支援を実践できる専門家として、自立的に活躍できる専門知識を備え、社会の発展に寄与する創造的な研究開発を行う力

#### 3. 社会を先導する力

gdDP3-1.

自己の研究成果を社会に還元し、持続可能な社会の実現に貢献する力

gdDP3-2.

専門分野を中心に高い専門性や独創性のある研究を行い、それらを専門分野に貢献できる博士論文にまとめ、国内外で発信する力

## II. カリキュラム・ポリシー(教育課程の編成・実施の方針)

心理学専攻博士後期課程では、ディプロマ・ポリシーに示す資質・能力等の目標を学生が達成できるようにするため、教育課程編成、学修内容・学修方法、学修成果評価について、以下のようにカリキュラム・ポリシーを定めます。

### 1. 教育課程の編成方法

本課程では、専門分野における専門知識と様々な理論と実践を効果的に修得できるように、以下の趣旨を盛り込んだ科目によってカリキュラムを編成しています。

- (1) 心理学の研究者・教育者・臨床家として必要な先端的知識、専門的スキルを修得し、それをさまざまな場で発信することができるように、心理学専攻分野に関わる上級科目にあたる上級研究や、博士論文作成のための「研究指導」、「論文演習」を配置します。
- (2) 博士論文の構想発表までに、査読論文2本を執筆します。学部生、博士前期課程の学生に対する心理学研究法などのチューターを通して、心理学の知識やスキルをより深めるとともに、研究者・教育者・臨床家として、それを他者に伝えるためのスキルを修得します。
- (3) 多職種連携を必要とする場での対人支援に関する学びのための科目を配置します。
- (4) 研究倫理に関する規範意識を身につけるために、研究法に関連する各種科目の中で研究倫理についての学びを深めます。

### 2. 学修内容・学修方法

本課程の修了に必要な知識・スキルを修得するため、講義・演習等を組み合わせた様々な授業形態・授業方法による学修・研究指導の機会を提供します。

さらに、課題設定等を通じて授業時間外の学修を促し、学修時間の確保と成果の定着を図ります。

- (1) 前期課程で積み上げた基礎知識や修士論文の成果をふまえて、独創的な博士論文の執筆をするために、指導教員が担当する「研究指導」、「論文演習」を中心に科目を履修し、高度なリサーチ能力と課題発見能力を養います。
- (2) 専門的研究を通じて高度な資料分析能力を養うために「特殊研究」を履修し、「研究指導」に基づき、国内外の学会・学術誌への論文発表を積極的に行い、自立した研究者としての能力を身につけます。

### 3. 学修成果の評価方法

ディプロマ・ポリシーに示す目標に対する学生の学修到達状況は、シラバス等に明示された評価基準・方法に基づき、筆記試験、プレゼンテーション、レポート等を用いて多角的に評価します。学位論文については、審査基準と審査方法を明示し、それに基づき学位論文審査

委員会による論文審査および最終試験を厳格に行います。

### Ⅲ. アドミッション・ポリシー(入学者受入れの方針)

心理学専攻博士後期課程では、ディプロマ・ポリシーに定める人材を育成するため、求める学生像、入学前に身につけていることを求める能力、入学者選抜の方法について、以下のよう  
にアドミッション・ポリシーを定めます。

#### 1. 求める学生像

本課程では、「他者のために、他者とともに」という本学の教育精神およびディプロマ・ポ  
リシーで掲げる目標を踏まえ、次のような資質・能力を高めたいと望む学生を求めています。

- (1) 心理学分野における基礎から応用分野までの高度な専門的知識・技能および学際的  
な深い教養をもち、実証的データ収集、解析技能、臨床的な実践的知識や技能
- (2) 社会の変革に対応できる多角的な視座や課題解決力をもち、また将来、心理学の研  
究者、教育者、実践家として活躍できるような、人間の尊厳を尊重し、他者に対する  
暖かなまなざしをもつと同時に事象を論理的かつ客観的に分析できる思考力
- (3) 心理学の高度な専門的知識や自らの研究の成果を、論文などの形でまとめ、それを  
他者に的確に伝えることを通して社会に貢献する資質・能力
- (4) 学内外の設備・リソースを積極的に活用して研究や実践・臨床を行う資質・能力

#### 2. 入学前に身につけていることを求める能力

入学前には、次の知識・能力・態度を持つことを求めます。

- (1) 心理学専攻の分野に対する強い関心
- (2) 前期課程の研究をふまえて、独創性のある研究を実施するかについて考察し、それ  
を探究しようとする意欲
- (3) 自身の研究領域に関する高度な専門的知識と論理的思考力
- (4) 研究を遂行する際に必要な語学力やコミュニケーション能力
- (5) 学内外の設備・リソースを積極的に活用して研究や実践・臨床を行うための知識や意  
欲

#### 3. 入学者選抜の方法

入学者選抜の基本方針として、多様な学生を評価できる入試を提供します。アドミッシ  
ョン・ポリシーに定める「求める学生像」にふさわしい入学者を選抜するにあたり、「入学前に身  
につけていることを求める能力」を評価するため、出願書類、筆記試験、口述試験の結果に  
より総合的に選抜を実施します。

入学者選抜方法の詳細は大学院入学試験のHPをご覧ください。

[https://adm.sophia.ac.jp/jpn/in\\_ad/innyushi/](https://adm.sophia.ac.jp/jpn/in_ad/innyushi/)

## 社会学専攻の3つのポリシー

### ■ 博士前期課程

#### I. ディプロマ・ポリシー(学位授与の方針)

社会学専攻博士前期課程は、人間の尊厳を守る公正な社会の実現に向けて、社会が直面する様々な変化やそれに付随して生じる社会問題の根源的なメカニズムを理解し、冷静な分析力と機敏な応用力を兼ね備えた人材の育成を目的としています。

そうした目的を達成するため、総合人間科学研究科のディプロマ・ポリシーを踏まえ、本専攻博士前期課程では、所定の教育課程を修め、学位論文の審査に合格することで、次の資質・能力を身につけたと認められる者に学位を授与します。

#### 1. 専門家としての資質・研究倫理

gmDP1-1 社会変動や社会問題について社会学的な研究課題を設定する力

gmDP1-2 専門分野における研究倫理を理解し、倫理基準に沿って行動できる力

#### 2. 高度な専門的知識

gmDP2-1 社会学の専門分野における高度な理論的および経験的知識を理解する力

gmDP2-1 自らの主張を論理的に整理して的確に伝え、修士論文としてまとめる力

#### 3. 社会を先導する力

gmDP3-1 社会学的な研究課題に対して適切な研究方法および分析手法を提案する力

gmDP3-2 研究課題の達成を通じて現代世界における多様な価値の共生に資する力

## II. カリキュラム・ポリシー(教育課程の編成・実施の方針)

社会学専攻博士前期課程では、ディプロマ・ポリシーに示す資質・能力等の目標を学生が達成できるようにするため、教育課程編成、学修内容・学修方法、学修成果評価について、以下のようにカリキュラム・ポリシーを定めます。

### 1. 教育課程の編成方法

本課程では、専門分野についての高度な知識と様々な理論と実践を効果的に修得できるよう、以下のようにカリキュラムを編成しています。

- (1) 社会学の理論的知識を修得するため、「社会学理論」を必修として配置します。また、社会学の各分野の知識を修得するため、「特講」などの選択科目を配置します。さらに、自身の専攻以外の分野についても広く知識を修得するために、他専攻の科目が履修できます。
- (2) 研究を現実の社会問題に応用する能力を修得し、研究倫理に関する規範意識を身につけるため、「社会学の論理」および「社会学方法論」を必修として配置します。
- (3) 修士論文作成のための「論文演習」を必修として配置します。専攻内の複数の教員による指導の機会として、口頭発表の修士論文中間報告会を設けます。
- (4) 「社会学研究法」など一般社団法人社会調査協会から「専門社会調査士科目」の認定をうけた科目を設置し、専門社会調査士の資格取得の機会を設けます。

### 2. 学修内容・学修方法

本課程の修了に必要な知識・技能を修得するため、講義・演習等を組み合わせた様々な授業形態・授業方法による学修・研究指導の機会を提供します。さらに、課題設定等を通じて授業時間外の学修を促し、学修時間の確保と成果の定着を図ります。

- (1) 必修科目では社会学の理論と方法を、講義や学生各自のテーマに落とし込む訓練等を通じて理解し、選択科目では社会学各分野の文献を読解し、参加者のプレゼンテーション・討議によって理解を深めます。これらの科目を通じて思考力を深め、調査研究能力を修得します。
- (2) 「論文演習」では、修士論文の執筆をするため、指導教員を中心とする論文指導を受け、研究テーマに関する知識を深めるとともに、リサーチ能力とプレゼンテーション能力を身につけます。

### 3. 学修成果の評価方法

ディプロマ・ポリシーに示す目標に対する学生の学修到達状況は、シラバス等に明示された評価基準・方法に基づき、筆記試験、プレゼンテーション、レポート等を用いて多角的に評価します。学位論文については、審査基準と審査方法を明示し、それに基づき論文審査および最終試験を厳格に行います。

### Ⅲ. アドミッション・ポリシー(入学者受入れの方針)

社会学専攻博士前期課程では、ディプロマ・ポリシーに定める人材を育成するため、求める学生像、入学前に身につけていることを求める能力、入学者選抜の方法について、以下のよう  
にアドミッション・ポリシーを定めます。

#### 1. 求める学生像

本課程では、「他者のために、他者とともに」という本学の教育精神およびディプロマ・ポ  
リシーで掲げる目標を踏まえ、次のような資質・能力を高めたいと望む学生を求めています。

- (1) 社会学分野における専門的知識・技能および学際的な深い教養
- (2) 社会現象に多角的かつ柔軟に学問的に接近する力
- (3) 自らの関心を学問的に深め、実践の場で発信できる力

#### 2. 入学前に身につけていることを求める能力

入学前には、次の知識・能力・態度を持つことを求めます。

- (1) 社会学の知識を幅広く修得しようとする強い意欲
- (2) 人間の尊厳を守る公正な社会の実現に向けて、自らの関心を学問的に深め、実践の  
場で発信しようとする学修態度
- (3) 前期課程における専門教育を受ける上で必要となる社会学的な知識と学力ならびに  
論理的思考力と表現力

#### 3. 入学者選抜の方法

アドミッション・ポリシーに定める「求める学生像」にふさわしい入学者を選抜するにあたり、「入学前に身につけていることを求める能力」を評価するため、出願書類、筆記試験、口  
述試験の結果により総合的に選抜を実施します。

入学者選抜方法の詳細は大学院入学試験のHPをご覧ください。

[https://adm.sophia.ac.jp/jpn/in ad/innyushi/](https://adm.sophia.ac.jp/jpn/in_ad/innyushi/)

## ■ 博士後期課程

### I. ディプロマ・ポリシー(学位授与の方針)

社会学専攻後期課程は、人間の尊厳を守る公正な社会の実現に向けて、社会が直面する様々な変化やそれに付随して生じる社会問題の根源的なメカニズムを理解し、研究者としての冷静な分析力と機敏な応用力を兼ね備え、また、高度な理論的知識や方法論的技術を駆使して研究論文をまとめる力量を備えた人材の育成を目的としています。

そうした目的を達成するため、総合人間科学研究科のディプロマ・ポリシーを踏まえ、本専攻博士後期課程では、所定の教育課程を修め、学位論文の審査に合格することで、次の資質・能力を身につけたと認められる者に学位を授与します。

#### 1. 専門家としての資質・研究倫理

gdDP1-1 社会学の専門分野における高度な理論的および経験的知識を独自に整理し運用する力

gdDP1-2 専門分野における研究倫理を深く理解し、倫理的に適切に行動できる力

#### 2. 高度な専門的知識

gdDP2-1 社会変動や社会問題について独創性を有する社会学的な研究課題を設定する力

gdDP2-1 自らの主張を論理的に展開して国内外に広く発信し、博士論文としてまとめる力

#### 3. 社会を先導する力

gdDP3-1 社会学的な研究課題に対して適切な研究方法および分析手法を提案し、高度な水準でそれを実施する力

gdDP3-2 研究を通じて現代世界の福祉と創造的進歩に資するような結論の提示または政策を提言する力

## II. カリキュラム・ポリシー(教育課程の編成・実施の方針)

社会学専攻後期課程では、ディプロマ・ポリシーに示す資質・能力等の目標を学生が達成できるようにするため、教育課程編成、学修内容・学修方法、学修成果評価について、以下のよう  
にカリキュラム・ポリシーを定めます。

### 1.教育課程の編成方法

本課程では、研究分野の広範かつ専門的な知識と様々な理論と実践を効果的に修得できる  
よう、以下のようにカリキュラムを編成しています。

- (1) 博士論文作成のための必修科目として「研究指導」を配置します。また複数の専攻教  
員が担当する博士論文資格試験ならびに構想審査の手続きを設けます。その他、専  
攻内で必要に応じて合同研究報告会を設定します。
- (2) 研究倫理について「研究指導」のほか「応用研究」等の授業科目、ならびに上記資格試  
験・構想審査において指導します。
- (3) 高度な社会調査能力を養成するために一般社団法人社会調査協会が認定する「専門  
社会調査士」関連科目を設置し、専門社会調査士の資格取得の機会を設けます。

### 2.学修内容・学修方法

本課程の修了に必要な知識・技能を修得するため、講義・演習等を組み合わせた様々な授  
業形態・授業方法による学修・研究指導の機会を提供します。さらに、課題設定等を通じて  
授業時間外の学修を促し、学修時間の確保と成果の定着を図ります。

- (1) 前期課程で積み上げた基礎知識や修士論文の成果をふまえて、独創的な博士論文の  
執筆をするために、指導教員が担当する「研究指導」を中心に「応用研究」等の上級科  
目を履修し、高度なリサーチ能力と課題発見能力を養います。
- (2) 「研究指導」および専攻内の合同研究報告会を足場に、国内外の学会・学術誌での論  
文発表を積極的に行い、自立した研究者としての能力を身につけます。

### 3.学修成果の評価方法

ディプロマ・ポリシーに示す目標に対する学生の学修到達状況は、シラバス等に明示され  
た評価基準・方法に基づきプレゼンテーション、レポート等を用いて評価します。学位論文に  
ついては、審査基準と審査方法を明示し、それに基づき学位論文審査委員会による論文審  
査および最終試験を厳格に行います。

### Ⅲ. アドミッション・ポリシー(入学受入れの方針)

社会学専攻博士後期課程では、ディプロマ・ポリシーに定める人材を育成するため、求める学生像、入学前に身につけていることを求める能力、入学者選抜の方法について、以下のよう  
にアドミッション・ポリシーを定めます。

#### 1. 求める学生像

本課程では、「他者のために、他者とともに」という本学の教育精神およびディプロマ・ポ  
リシーに掲げる目標を踏まえ、次のような資質・能力を高めたいと望む学生を求めています。

- (1) 社会学分野における高度な専門的知識・技能および学際的な深い教養
- (2) 社会現象に多角的に接近する柔軟な思考力と表現力
- (3) 自らの関心を学問的に深め、実践の場で発信できる力

#### 2. 入学前に身につけていることを求める能力

入学前には、次の知識・能力・態度を持つことを求めます。

- (1) 社会学の知識を高度な水準で修得しようとする強い意欲
- (2) 人間の尊厳を守る公正な社会の実現に向けて、自らの関心を高度な水準で学問的に  
深め、実践の場においても発信しようとする学修態度
- (3) 後期課程における専門教育を受ける上で必要となる社会学の知識ならびに論理的  
思考力と表現力

#### 3. 入学者選抜の方法

アドミッション・ポリシーに定める「求める学生像」にふさわしい入学者を選抜するにあたり、「入学前に身につけていることを求める能力」を評価するため、出願書類、筆記試験、口  
述試験の結果により総合的に選抜を実施します。

入学者選抜方法の詳細は大学院入学試験のHPをご覧ください。

[https://adm.sophia.ac.jp/jpn/in ad/innyushi/](https://adm.sophia.ac.jp/jpn/in%20ad/innyushi/)

## 社会福祉学専攻の3つのポリシー

### ■ 博士前期課程

#### I. ディプロマ・ポリシー(学位授与の方針)

社会福祉学専攻博士前期課程は、人間の尊厳を尊重し、福祉社会の実現と創造的進歩に貢献できる人材の養成を目的としています。

そうした目的を達成するため、総合人間科学研究科のディプロマ・ポリシーを踏まえ、本専攻博士前期課程では、所定の教育課程を修め、学位論文の審査に合格することで、次の資質・能力を身につけたと認められる者に学位を授与します。

#### 1. 専門家としての資質・研究倫理

gmDP1-1.

社会福祉に関わる関連分野の高度な専門知識と実践能力、研究能力

gmDP1-2.

高い倫理観・規範意識を持って研究を進める力

#### 2. 高度な専門的知識

gmDP2-1.

福祉政策・運営管理と福祉臨床の両領域について幅広い知識を修得し、福祉社会を構築する実践能力

gmDP2-2.

理論と実践を統合し、現代社会における福祉に関わる課題を解決に導く多角的な分析能力

#### 3. 社会を先導する力

gmDP3-1.

福祉社会をデザインし作り出す実証研究能力を身につけ、社会福祉分野の深化・発展に貢献する力

gmDP3-2.

福祉臨床の知識・技術を身につけ、政策立案や臨床の現場で指導的役割を果たせる実践能力

## Ⅱ. カリキュラム・ポリシー(教育課程の編成・実施の方針)

社会福祉学専攻博士前期課程では、ディプロマ・ポリシーに示す資質・能力等の目標を学生が達成できるようにするため、教育課程編成、学修内容・学修方法、学修成果評価について、以下のようにカリキュラム・ポリシーを定めます。

### 1. 教育課程の編成方法

本課程では、専門分野についての高度な知識と様々な理論と実践を効果的に修得できるよう、以下のようにカリキュラムを編成しています。

- (1) 博士前期課程では、「社会福祉研究法基礎」、「論文演習」を必修として配置します。また、専攻分野に関わる福祉政策・運営管理系科目と福祉臨床系科目を選択科目として配置します。さらに、自身の専攻以外の分野についても広く知識を修得するために、他専攻の科目が履修できます。
- (2) 研究倫理については「研究指導」のほか、「論文演習」の科目を通して指導します。また、研究倫理に関する規範意識を身につけるために、研究倫理教育を受ける機会を設けます。
- (3) 英語開設科目を通して英語による研究発信の方法・技術を修得します。

### 2. 学修内容・学修方法

本課程の修了に必要な知識・技能を修得するため、講義・演習等を組み合わせた様々な授業形態・授業方法による学修・研究指導の機会を提供します。

さらに、課題設定等を通じて授業時間外の学修を促し、学修時間の確保と成果の定着を図ります。

- (1) 「社会福祉フィールドワーク」と「援助事例分析」「社会政策・経営事例分析」を通して、福祉政策・運営管理と福祉臨床の観点から理論と実践の統合を行い、研究を展開するために必要な基礎的な思考力を深め、調査研究能力を修得し、情報収集力や分析力を身につけます。
- (2) 「論文演習」では、修士論文を執筆するため、指導教員を中心とする論文指導を受け、研究テーマに関する知識を深めるとともに、リサーチ能力とプレゼンテーション能力を身につけます。

### 3. 学修成果の評価方法

ディプロマ・ポリシーに示す目標に対する学生の学修到達状況を、科目等の適切な成績評価等を通じて評価します。成績評価はシラバス等に明示された評価基準・方法に基づき筆記試験、プレゼンテーション、レポート等を用いて多角的に評価します。学位論文については、審査基準と審査方法を明示し、それに基づき学位論文審査委員会による論文審査および最終試験を厳格に行います。

### Ⅲ. アドミッション・ポリシー(入学者受入れの方針)

社会福祉学専攻博士前期課程ではディプロマ・ポリシーに定める人材を育成するため、求める学生像、入学前に身につけていることを求める能力、入学者選抜の方法について、以下のよう  
にアドミッション・ポリシーを定めます。

#### 1. 求める学生像

本課程では、「他者のために、他者とともに」という本学の教育精神およびディプロマ・ポ  
リシーに掲げる目標を踏まえ、次のような資質・能力を高めたいと望む学生を求めています。

- (1) 社会福祉学分野における専門的知識・技能および学際的な深い教養
- (2) 社会の変革に対応できる多角的な視座や課題解決力
- (3) 研究能力や専門性を活かして社会に貢献する力
- (4) 図書館、演習室などの学内施設や、福祉の現場、関連する研究機関などの学外施設  
など、学内外の設備・リソースを積極的に活用して研究や実践・臨床を行う力

#### 2. 入学前に身につけていることを求める能力

入学前には、次の知識・能力・態度を持つことを求めます。

- (1) 社会福祉学専攻の分野に対する強い関心
- (2) 社会福祉学および関連する領域において専門的な研究を実施するために自身の研  
究の目的と手法について考察し、探究しようとする意欲
- (3) 社会福祉学およびその関連する領域全般に関する基礎知識と論理的思考力
- (4) 研究を遂行する際に必要な語学力やコミュニケーション能力
- (5) 図書館、演習室などの学内施設や、福祉の現場、関連する研究機関などの学外施設  
など、学内外の設備・リソースを利用して、調査、データ解析などを効果的に行うた  
めの知識や意欲

#### 3. 入学者選抜の方法

入学者選抜の基本方針として、複数の受験機会や多様な学生を評価できる入試を提供し  
ます。アドミッション・ポリシーに定める「求める学生像」にふさわしい入学者を選抜するにあ  
たり、「入学前に身につけていることを求める能力」を評価するため、出願書類、筆記試験、  
口述試験の結果により総合的に選抜を実施します。

入学者選抜方法の詳細は大学院入学試験のHPをご覧ください。

[https://adm.sophia.ac.jp/jpn/in\\_ad/innyushi/](https://adm.sophia.ac.jp/jpn/in_ad/innyushi/)

## ■ 博士後期課程

### I. ディプロマ・ポリシー(学位授与の方針)

社会福祉学専攻博士後期課程は、人間の尊厳を尊重し、福祉社会の実現と創造的進歩に、自立した研究者および高度専門職業人として貢献できる人材の養成を目的としています。

そうした目的を達成するため、総合人間科学研究科のディプロマ・ポリシーを踏まえ、本専攻博士後期課程では、所定の教育課程を修め、学位論文の審査に合格することで、次の資質・能力を身につけたと認められる者に学位を授与します。

#### 1. 専門家としての資質・研究倫理

gdDP1-1.

社会福祉に関わる関連分野の高度な専門知識と実践能力、研究能力をより高め、独創的な知見を生み出すことができる力

gdDP1-2.

高い倫理観・規範意識を持って研究を進める力

#### 2. 高度な専門的知識

gdDP2-1.

福祉政策・運営管理と福祉臨床の両領域について幅広い知識をミクロ・メゾ・マクロレベルから深め、福祉社会を構築するうえで必要となる高度な分析能力、実証研究能力

gdDP2-2.

理論と実践・臨床を統合し、現代社会における福祉に関わる課題を解決に導く多角的な分析能力研究を遂行するために必要な専門的知識を活用する力

#### 3. 社会を先導する力

gdDP3-1.

自己の研究成果を社会に還元し、福祉社会の実現に貢献する力

gdDP3-2.

学術雑誌への投稿、国際学会等での報告において研究成果を発信・議論し、博士論文としてまとめる力

## II. カリキュラム・ポリシー(教育課程の編成・実施の方針)

社会福祉学専攻博士後期課程では、ディプロマ・ポリシーに示す資質・能力等の目標を学生が達成できるようにするため、教育課程編成、学修内容・学修方法、学修成果評価について、以下のようにカリキュラム・ポリシーを定めます。

### 1. 教育課程の編成方法

博士後期課程では、広範な分野についての専門知識と様々な理論と実践を効果的に修得できるよう、以下のようにカリキュラムを編成しています。

- (1) 博士論文作成のための「研究指導」、上級科目としての「研究法特殊講義」を配置します。
- (2) 研究倫理に関する規範意識を身につけるために、研究倫理教育を受ける機会を設けます。
- (3) 英語開設科目を通して英語による研究発信の方法・技術を修得します。

### 2. 学修内容・学修方法

本課程の修了に必要な知識・技能を修得するため、講義・演習・実習等を組み合わせた様々な授業形態・授業方法による学修・研究指導の機会を提供します。

さらに、課題設定等を通じて授業時間外の学修を促し、学修時間の確保と成果の定着を図ります。

- (1) 前期課程で積み上げた基礎知識や修士論文の成果をふまえて、独創的な博士論文の執筆をするために、指導教員が担当する「研究指導」、「特殊講義」を中心に科目を履修し、高度なリサーチ能力と課題発見能力を養います。
- (2) 専門的研究を通じて高度な資料分析能力を養うために「特殊研究」を履修し、「研究指導」に基づき、国内外の学会・学術誌への論文発表を積極的に行い、自立した研究者としての能力を身につけます。

### 3. 学修成果の評価方法

ディプロマ・ポリシーに示す目標に対する学生の学修到達状況を、科目等の適切な成績評価等を通じて評価します。成績評価はシラバス等に明示された評価基準・方法に基づき、筆記試験、プレゼンテーション、レポート等を用いて多角的に評価します。学位論文については、審査基準と審査方法を明示し、それに基づき学位論文審査委員会による論文審査および最終試験を厳格に行います。

### Ⅲ. アドミッション・ポリシー(入学者受入れの方針)

社会福祉学専攻博士後期課程ではディプロマ・ポリシーに定める人材を育成するため、求める学生像、入学前に身につけていることを求める能力、入学者選抜の方法について、以下のよう  
にアドミッション・ポリシーを定めます。

#### 1. 求める学生像

本課程では、「他者のために、他者とともに」という本学の教育精神およびディプロマ・ポリシーで掲げる目標を踏まえ、次のような資質・能力を高めたいと望む学生を求めています。

- (1) 社会福祉学分野における高度な専門的知識・技能および学際的な深い教養
- (2) 社会の変革に対応できる多角的な視座や課題解決力
- (3) 高度な研究能力や専門性を活かして社会に貢献する力
- (4) 図書館、演習室などの学内施設や、福祉の現場、関連する研究機関などの学外施設など、学内外の設備・リソースを積極的に活用して研究や実践・臨床を行う力

#### 2. 入学前に身につけていることを求める能力

入学前には、次の知識・能力・態度を持つことを求めます。

- (1) 社会福祉学専攻の分野に対する強い関心
- (2) 前期課程の研究をふまえて、独創性のある研究を探究しようとする意欲
- (3) 自身の研究領域に関する高度な専門的知識と論理的思考力
- (4) 研究を遂行する際に必要な語学力やコミュニケーション能力
- (5) 図書館、演習室などの学内施設や、福祉の現場、関連する研究機関などの学外施設など、学内外の設備・リソースを利用して、調査、データ解析などを効果的に行うための知識や意欲

#### 3. 入学者選抜の方法

入学者選抜の基本方針として、複数の受験機会や多様な学生を評価できる入試を提供します。アドミッション・ポリシーに定める「求める学生像」にふさわしい入学者を選抜するにあたり、「入学前に身につけていることを求める能力」を評価するため、出願書類、筆記試験、口述試験の結果により総合的に選抜を実施します。

入学者選抜方法の詳細は大学院入学試験のHPをご覧ください。

[https://adm.sophia.ac.jp/jpn/in\\_ad/innyushi/](https://adm.sophia.ac.jp/jpn/in_ad/innyushi/)

## 看護学専攻の3つのポリシー

### ■ 修士課程

#### I. ディプロマ・ポリシー（学位授与の方針）

看護学専攻修士課程は、人間に対するケアリングをディシプリン(中心的志向)としてとらえるとともに、実践に生かせる研究力ならびに指導力を兼ね備えた人材の養成を目的としています。

そうした目的を達成するため、総合人間科学研究科のディプロマ・ポリシーを踏まえ、本専攻修士課程では、所定の教育課程を修め、学位論文の審査に合格することで次の資質・能力を身につけたと認められる者に学位を授与します。

#### 1. 専門家としての資質・研究倫理

gmDP1-1. 看護学を中心とし、関連分野も含む周辺領域の知識も得ることにより、自らの看護観を再構成する力

gmDP1-2. 高い倫理観を持って研究を進める力

#### 2. 高度な専門的知識

gmDP2-1. 看護学の専門知識を活用して研究課題を設定し、研究プロセスを適切に進められる能力

gmDP2-2. 人々の発達・健康レベルに応じ、その多様性を理解したケアリング力

#### 3. 社会を先導する力

gmDP3-1. 自己の研究成果を適切に評価し、それを国内外で学際的、総合的な視野をもって社会に還元する力

gmDP3-2. 専門分野に関する研究内容について、適切な論文構成や整合性のある論理展開で、修士論文をまとめて発信する力

## II. カリキュラム・ポリシー(教育課程の編成・実施の方針)

看護学専攻修士課程では、ディプロマ・ポリシーに示す資質・能力等の目標を学生が達成できるようにするため、教育課程編成、学修内容・学修方法、学修成果評価について、以下のよう  
にカリキュラム・ポリシーを定めます。

### 1.教育課程の編成方法

本課程では、専門分野についての高度な知識と様々な理論と実践を効果的に修得できるよう、以下のようにカリキュラムを編成しています。

- (1) 研究の遂行と修士論文作成のために、必修科目として研究を通して深めたい専門分野に関する科目と「看護研究法」を、選択科目としてその他の専門分野に関わる演習科目等を配置します。
- (2) また、自身の専攻以外の学問についても広く知識を修得するために、他専攻の科目や他研究科の科目が選択可能です。
- (3) 研究倫理に関する意識を身につけるために「キリスト教と人間論特論」を必修科目として、また選択科目として「倫理学特論」等を設置します。
- (4) 人々の多様性を理解した最善の健康支援を実践するために、ケアリングについて考究する科目を設置します。

### 2.学修内容・学修方法

本課程の修了に必要な知識・技能を修得するため、講義・演習等を組み合わせた様々な授業形態・授業方法による学修・研究指導の機会を提供します。

さらに、課題設定等を通じて授業時間外の学修を促し、学修時間の確保と成果の定着を図ります。

- (1) 講義では研究を通して深めたい専門分野に関する現象や実状について理解し、演習では議論を重ねることにより研究を展開するために必要な基礎的な思考力を深め、情報収集力や分析力を身につけます。さらに、人々の多様性を理解しケアリングについて考究する力を身につけます
- (2) 「看護学特別研究演習」では、研究の遂行と修士論文の執筆をするため、指導教員が中心となる研究指導を受け、テーマに関するリサーチ力と論文執筆力、プレゼンテーション能力を養います。

### 3.学修成果の評価方法

ディプロマ・ポリシーに示す目標に対する学生の学修到達状況は、シラバス等に明示された評価基準・方法に基づき、筆記試験、プレゼンテーション、レポート等を用いて多角的に評価します。学位論文については、審査基準と審査方法を明示し、それに基づき学位論文審査委員会による論文審査および最終試験を厳格に行います。

### Ⅲ. アドミッション・ポリシー(入学者受入れの方針)

看護学専攻修士課程では、ディプロマ・ポリシーに定める人材を育成するため、求める学生像、入学前に身につけていることを求める能力、入学者選抜の方法について、以下のようにアドミッション・ポリシーを定めます。

#### 1. 求める学生像

本課程では、「他者のために、他者とともに」という本学の教育精神およびディプロマ・ポリシーに掲げる目標を踏まえ、次のような資質・能力を高めたいと望む学生を求めています。

- (1) 自らの看護観を再構成し、高い倫理観を持って研究を進める力
- (2) 人々の発達・健康レベルに応じ、背景となる文化や多様性を理解したケアリング力
- (3) 高度な研究能力や専門性を活かして自己の研究成果を社会に還元する力
- (4) 学内外の設備・リソースを積極的に活用して研究や実践を行う力

#### 2. 入学前に身につけていることを求める能力

入学前には、次の知識・能力・態度を持つことを求めます。

- (1) 看護学の領域全般に関する基礎的知識、看護実践力および職業倫理性
- (2) 研究を遂行する際に必要な、柔軟かつ論理的な思考力
- (3) 実践に役立つ看護学の研究を通じて、看護学の発展ならびに国内外の医療健康問題の解決に寄与したいという意欲
- (4) 学内外の設備・リソースを利用して、調査、データ解析などを効果的に行うための知識や意欲

#### 3. 入学者選抜の方法

入学者選抜の基本方針として、複数の受験機会や多様な学生を評価できる入試を提供します。アドミッション・ポリシーに定める「求める学生像」にふさわしい入学者を選抜するにあたり、「入学前に身につけていることを求める能力」を評価するため、出願書類、筆記試験、口述試験の結果により総合的に選抜を実施します。

入学者選抜方法の詳細は大学院入学試験の HP をご覧ください。

[https://adm.sophia.ac.jp/jpn/in\\_ad/innyush](https://adm.sophia.ac.jp/jpn/in_ad/innyush)

## 法学研究科の3つのポリシー

### I. ディプロマ・ポリシー（学位授与の方針）

上智大学大学院法学研究科は、現代社会が直面する国内的・国際的・地球規模の課題に、法学や政治学、その近接分野の学問の知見を動員して解決策を提案し、人間の尊厳という価値を重視する社会の構築に貢献できる研究者や高度専門職業人の育成を目的としています。

そうした目的を達成するため、上智大学大学院のディプロマ・ポリシーを踏まえ、本研究科の学位プログラムでは、所定の教育課程を修め、学位論文または特定課題研究(リサーチ・ペーパー)の審査に合格することで、次の資質・能力を身につけたと認められる者に学位を授与します。

#### 1. 専門家としての資質・研究倫理

gsDP1-1.

制度的・規範的な側面から社会を変革する法学の独自性を踏まえつつ、関連分野の知識も含む幅広い教養と学際性を備えて多角的に思考する力

gsDP1-2.

高い倫理観・規範意識を持って研究を進める力

#### 2. 高度な専門的知識

gsDP2-1.

法学研究科の各専攻・学位課程に必要とされる高度な知識・技能

gsDP2-2.

研究を遂行するために必要な専門的知識を活用する力

#### 3. 社会を先導する力

gsDP3-1.

課題を解決に導く独創性の高い実践力および各専門分野の深化・発展に貢献するリーダーシップ力

gsDP3-2.

研究成果を学術論文としてまとめ、発信する力

## II. カリキュラム・ポリシー(教育課程の編成・実施の方針)

上智大学大学院法学研究科では、ディプロマ・ポリシーに示す資質・能力等の目標を学生が達成できるようにするため、教育課程編成、学修内容・学修方法、学修成果評価について、以下のようにカリキュラム・ポリシーを定めます。

### 1. 教育課程の編成方法

本研究科では、法律学専攻、法曹養成専攻の2つの専攻を設置し、広範な分野についての専門知識と様々な理論と実践を効果的に修得できるよう、以下のようにカリキュラムを編成しています。また(1)～(3)に共通して、研究倫理に関する規範意識を身につけるために、研究倫理教育を受ける機会を設けます。

- (1) 法律学専攻博士前期課程では、自身の専門分野以外にも広範に実定法・基礎法・国際法・政治学諸分野からの知見を深めるべく選択科目を配置します。同時に修士論文・リサーチ・ペーパー作成のための「研究指導」を配置し、広範な関心を一つのテーマに収めさせるよう指導します。また、自身の専攻以外の分野についても広く知識を修得するために、他専攻の科目を選択可能とします。
- (2) 法律学専攻博士後期課程では、各専門分野に関わる選択科目や、博士論文作成のための「研究指導」、「後期論文演習」を配置します。
- (3) 法曹養成専攻専門職学位課程(法科大学院)では、実務法曹を目指すべく司法試験諸科目の修得に努めるのみならず、実務で起こりうる事態を想定した問題意識の涵養や解決策の模索を思考する先端・基礎科目を配置します。

### 2. 学修内容・学修方法

各専攻・学位課程の修了に必要な知識・技能を修得するため、講義・演習等を組み合わせた様々な授業形態・授業方法による学修・研究指導の機会を提供します。

さらに、課題設定等を通じて授業時間外の学修を促し、学修時間の確保と成果の定着を図ります。

- (1) 博士前期課程において、選択科目では法学・政治学に関する諸々のトピックについて知識を深めます。研究指導では、議論を重ねることにより理解を深め、調査研究能力を修得し、情報収集力や柔軟な思考力・分析力を身につけます。2年次の中間報告では、修士論文における研究内容の高度化を目指し、複数の教員による共同指導を受けます。
- (2) 博士後期課程では、前期課程で積み上げた基礎知識や修士論文の成果をふまえて、さらに高度な研究を行います。また、研究指導に基づき、国内外の学会・学術誌への論文発表を積極的に行い、自立した研究者としての能力を身につけます。
- (3) 法曹養成専攻専門職学位課程(法科大学院)では、司法試験諸科目の知識を修得すべく、一方向的な講義ではなく対話・問答によって知識や思考の深化を図るソクラテ

イックメソッドによる授業を中心にインプット・アウトプットの能力を身につけます。

### 3. 学修成果の評価方法

ディプロマ・ポリシーに示す目標に対する学生の学修到達状況は、シラバス等に明示された評価基準・方法に基づき、筆記試験、プレゼンテーション、レポート等を用いて多角的に評価します。学位論文については、審査基準と審査方法を明示し、それに基づき学位論文審査委員会による論文審査および最終試験を厳格に行います。

### Ⅲ. アドミッション・ポリシー(入学者受入れの方針)

上智大学大学院法学研究科では、ディプロマ・ポリシーに定める人材を育成するため、求める学生像、入学前に身につけていることを求める能力、入学者選抜の方法について、以下のように入学者選抜の方針を定めます。

#### 1. 求める学生像

本研究科では、「他者のために、他者とともに」という本学の教育精神およびディプロマ・ポリシーに掲げる目標を踏まえ、次のような資質・能力を高めたいと望む学生を求めています。

- (1) 法学分野における高度な専門的知識・技能および学際的な深い教養
- (2) 社会の変革に対応できる多角的な視座や、制度や規範に立脚した課題解決力、その前提となる多様な意見への傾聴能力
- (3) 高度な研究能力や専門性を活かして社会に貢献する力

#### 2. 入学前に身につけていることを求める能力

入学前には、次の知識・能力・態度を持つことを求めます。

- (1) 法学研究科の専攻分野に対する強い関心
- (2) 専門的な研究を実施するために自ら課題を発見し探究しようとする意欲
- (3) 各専攻・学位課程が求める基礎知識と論理的思考力
- (4) 研究や法律実務上の問題解決を遂行する際に必要な語学力やコミュニケーション能力

#### 3. 入学者選抜の方法

入学者選抜の基本方針として、各専攻・学位課程に応じて複数の受験機会や多様な学生を評価できる入試を提供します。アドミッション・ポリシーに定める「求める学生像」にふさわしい入学者を選抜するにあたり、「入学前に身につけていることを求める能力」を評価するため、出願書類、筆記試験、口述試験の結果により総合的に選抜を実施します。

入学者選抜方法の詳細は大学院入学試験のHPをご覧ください。

<https://adm.sophia.ac.jp/jpn/inad/innyushi/>

## 法律学専攻の3つのポリシー

### ■ 博士前期課程

#### I. ディプロマ・ポリシー（学位授与の方針）

法律学専攻博士前期課程は、現代社会が直面する国内外の政治的・経済的問題、資源・エネルギー・環境・食糧等の地球規模の課題に対応でき、法学の観点から専攻分野における研究能力を持つ人材、またはこれらの能力に加えて高度の専門性が求められる職業を担う人材の育成を目的としています。

そうした目的を達成するため、法学研究科のディプロマ・ポリシーを踏まえ、本専攻博士前期課程では、所定の教育課程を修め、学位論文または特定課題研究(リサーチ・ペーパー)の審査に合格することで、次の資質・能力を身につけたと認められる者に学位を授与します。

#### 1. 専門家としての資質・研究倫理

gmDP1-1.

学部で得た知識を深化させ、人間の尊厳を重んじる社会を構想し実現するための法的・政治的制度設計を行うと同時に、人間の尊厳という価値のあり方を多面的・批判的に検討し考察する能力

#### 2. 高度な専門的知識

gmDP2-1.

社会の諸問題に広く関心を持ち、多様な背景を持ち衝突する諸見解を公平に俯瞰し、制度的・規範的な知識や知恵を背景に共通の価値を模索し対話の基盤を築く能力

#### 3. 社会を先導する力

gmDP3-1.

短兵急な結論を求めず、論理的思考力と共感力を背景に、国際的・学際的知見を駆使する能力。特に博士後期課程への進学を前提に、法制度に関する外国との比較的考察とアカデミックなアウトプットとしての修士論文を完成させる能力、または特定課題研究で得られた学びを卒業後に社会人として活かす能力

## Ⅱ. カリキュラム・ポリシー(教育課程の編成・実施の方針)

法律学専攻博士前期課程では、ディプロマ・ポリシーに示す資質・能力等の目標を学生が達成できるようにするため、教育課程編成、学修内容・学修方法、学修成果評価について、以下のようカリキュラム・ポリシーを定めます。

### 1. 教育課程の編成方法

本課程では、学生が関心に応じて法律学・政治学および近接諸分野の科目を広く履修できるように、幅広く科目を展開すると同時に、その知識を体系的に集積して繋がりを持たせ、最終的には修士論文・リサーチペーパーの形でアウトプットすることで社会に提言・貢献できるように、カリキュラムを編成しています。

- (1) 関心に応じた選択科目や修士論文作成のための「研究指導」、「前期研究演習」、「前期論文演習」を配置します。
- (2) 研究倫理に関する規範意識を身につけるために、「研究指導」において指導教員より綿密な指導を行います。

### 2. 学修内容・学修方法

本課程の修了に必要な知識・技能を修得するため、講義・演習等を組み合わせた様々な授業形態・授業方法による学修・研究指導の機会を提供します。

さらに、課題設定等を通じて授業時間外の学修を促し、学修時間の確保と成果の定着を図ります。

- (1) 学生は全年次・学期を通じて「研究指導」において指導教員と綿密なコミュニケーションをとった上でアウトプットとなる修士論文・リサーチペーパーの骨格となる問題意識・方向性・参照すべき知見を絞り込みます。そして随時アウトプットに向けた指導と助言を受けつつ思考を深めます。
- (2) アウトプットとの直接的な関連性に関わらず重要な含意を有する選択科目を幅広く履修します。
- (3) 研究指導と選択科目の中間に位置する「前期研究演習」と「前期論文演習」において専門・近接分野の重要課題について考察し、アウトプットでは完結しない生涯にわたって探求する際の礎となる知的体力を養います。

### 3. 学修成果の評価方法

ディプロマ・ポリシーに示す目標に対する学生の学修到達状況は、シラバス等に明示された評価基準・方法に基づき、筆記試験、プレゼンテーション、レポート等を用いて多角的に評価します。学位論文については、審査基準と審査方法を明示し、それに基づき学位論文審査委員会による論文審査および最終試験を厳格に実施します。

### Ⅲ. アドミッション・ポリシー(入学者受入れの方針)

法律学専攻博士前期課程では、ディプロマ・ポリシーに定める人材を育成するため、求める学生像、入学前に身につけていることを求める能力、入学者選抜の方法について、以下のよう  
にアドミッション・ポリシーを定めます。

#### 1. 求める学生像

本課程では、「他者のために、他者とともに」という本学の教育精神およびディプロマ・ポ  
リシーで掲げる目標を踏まえ、次のような資質・能力を高めたいと望む学生を求めています。

- (1) 人間の尊厳を始めとする、人間社会の基本的価値に対する深い理解
- (2) 価値観・文化の違いを背景とする多様な意見に対し偏見なく接し、傾聴しようとする  
姿勢
- (3) 安易に出来合いの「正解」に飛びつくことなく、粘り強く調べて考察する能力

#### 2. 入学前に身につけていることを求める能力

入学前には、次の知識・能力・態度を持つことを求めます。

- (1) 法学専攻の分野に対する強い関心
- (2) 専門的な研究を実施するために自身の研究の目的と手法について考察し、探究しよ  
うとする意欲
- (3) 法学の領域全般に関する基礎知識と論理的思考力
- (4) 研究を遂行する際に必要な語学力やコミュニケーション能力

#### 3. 入学者選抜の方法

入学者選抜の基本方針として、複数の受験機会や多様な学生を評価できる入試を提供し  
ます。アドミッション・ポリシーに定める「求める学生像」にふさわしい入学者を選抜するにあ  
たり、「入学前に身につけていることを求める能力」を評価するため、出願書類、筆記試験、  
口述試験の結果により総合的に選抜を実施します。

入学者選抜方法の詳細は大学院入学試験のHPをご覧ください。

[https://adm.sophia.ac.jp/jpn/in\\_ad/innyushi/](https://adm.sophia.ac.jp/jpn/in_ad/innyushi/)

## ■ 博士後期課程

### I. ディプロマ・ポリシー（学位授与の方針）

法律学専攻博士後期課程は、現代社会が直面する国内外の政治的・経済的問題、資源・エネルギー・環境・食糧等の地球規模の課題に対応でき、法学の観点から専攻分野における研究能力と解決策の提言能力を有する人材、またはこれらの能力に加えて諸問題の背景について理論的に解明する能力を持つ人材の育成を目的としています。

そうした目的を達成するため、法学研究科のディプロマ・ポリシーを踏まえ、本専攻博士後期課程では、所定の教育課程を修め、学位論文の審査に合格することで、次の資質・能力を身につけたと認められる者に学位を授与します。

#### 1. 専門家としての資質・研究倫理

gdDP1-1.

博士前期課程までにおける学びを基礎に、人間の尊厳を重視する社会の実現に向け、積極的な提言を行う能力

#### 2. 高度な専門的知識

gdDP2-1.

これまでに修得した高度な専門知に軸足を置きながらも、過去と未来の人類全体を視野に入れ、顕在化していない声にも耳を傾ける能力

#### 3. 社会を先導する力

gdDP3-1.

現在の常識や「いま・ここ」の支配的見解に安住することなく、自己の見解にも批判の目を向けることにより、生涯を通じて絶えずより善き解答を求め疑問を抱き続ける能力

gdDP3-2.

自身の考察の成果を、論文という形で公表して発信し、多くの人に訴えかけると同時に寄せられる批判にも耳を傾け、新たな成果を生み出す能力

## Ⅱ. カリキュラム・ポリシー(教育課程の編成・実施の方針)

法律学専攻博士後期課程では、ディプロマ・ポリシーに示す資質・能力等の目標を学生が達成できるようにするため、教育課程編成、学修内容・学修方法、学修成果評価について、以下のようによりカリキュラム・ポリシーを定めます。

### 1. 教育課程の編成方法

本課程では、学生が博士前期課程での成果を踏まえてより専門的かつ高度な問題意識を展開することを目的とします。関心に応じて法律学・政治学および近接諸分野の科目を広く履修できるよう、多様な科目を展開することは前期課程と同様ですが、博士論文の形でアウトプットすることで社会に提言・貢献できるよう、インプットに対して研究指導・コースワークの比重を高くし、専門性と知見の高度化を目的としてカリキュラムを編成しています。

- (1) 関心に応じた選択科目や、博士論文作成のための「研究指導」、「後期論文演習」を配置します。
- (2) 研究倫理に関する規範意識を身につけるために、「研究指導」において指導教員より綿密な指導を行います。

### 2. 学修内容・学修方法

本課程の修了に必要な知識・技能を修得するため、講義・演習等を組み合わせた様々な授業形態・授業方法による学修・研究指導の機会を提供します。

さらに、課題設定等を通じて授業時間外の学修を促し、学修時間の確保と成果の定着を図ります。

- (1) 前期課程で積み上げた基礎知識や修士論文の成果をふまえて、独創的な博士論文の執筆をするために、指導教員が担当する「研究指導」、「後期論文演習」を中心に科目を履修し、高度なリサーチ能力と課題発見能力を養います。
- (2) 専門的研究を通じて高度な資料分析能力を養成するために多様な選択科目を履修し、「研究指導」に基づき、国内外の学会・学術誌への論文発表を積極的に行い、自立した研究者としての能力を身につけます。

### 3. 学修成果の評価方法

ディプロマ・ポリシーに示す目標に対する学生の学修到達状況は、シラバス等に明示された評価基準・方法に基づき、筆記試験、プレゼンテーション、レポート等を用いて多角的に評価します。学位論文については、審査基準と審査方法を明示し、それに基づき学位論文審査委員会による論文審査および最終試験を厳格に行います。

### Ⅲ. アドミッション・ポリシー(入学受入れの方針)

法律学専攻博士後期課程では、ディプロマ・ポリシーに定める人材を育成するため、求める学生像、入学前に身につけていることを求める能力、入学選抜の方法について、以下のよう  
にアドミッション・ポリシーを定めます。

#### 1. 求める学生像

本課程では、「他者のために、他者とともに」という本学の教育精神およびディプロマ・ポ  
リシーに掲げる目標を踏まえ、次のような資質・能力を高めたいと望む学生を求めています。

- (1) 人間の尊厳を始めとする、人間社会の基本的価値に対する深い理解を有し、それを重視する社会を目指す熱意と提案力
- (2) 対象となる存在が、現に声を上げている人に限らず過去と未来に渡る人類全体である、と認識し、潜在的な問題を発見する想像力
- (3) 現在の通説や自身の見解を相対化し、生涯にわたってより善き解決策を求め、問いかけを続ける忍耐力

#### 2. 入学前に身につけていることを求める能力

入学前には、次の知識・能力・態度を持つことを求めます。

- (1) 法学専攻の分野に対する強い関心
- (2) 前期課程の研究をふまえて、独創性のある研究を如何に実施するかについて考察し、それを探究しようとする意欲
- (3) 自身の研究領域に関する高度な専門的知識と論理的思考力
- (4) 研究を遂行する際に必要な語学力やコミュニケーション能力

#### 3. 入学選抜の方法

入学選抜の基本方針として、多様な学生を評価できる入試を提供します。アドミッ  
ション・ポリシーに定める「求める学生像」にふさわしい入学選抜するにあたり、「入学前に身  
につけていることを求める能力」を評価するため、出願書類、筆記試験、口述試験の結果に  
より総合的に選抜を実施します。

入学選抜方法の詳細は大学院入学試験のHPをご覧ください。

[https://adm.sophia.ac.jp/jpn/in\\_ad/innyushi/](https://adm.sophia.ac.jp/jpn/in_ad/innyushi/)

## 法曹養成専攻の3つのポリシー

### ■ 専門職学位課程

#### I. ディプロマ・ポリシー（学位授与の方針）

法曹養成専攻専門職学位課程(法科大学院)は、「他者のために、他者とともに」という上智大学の教育精神に則り、さまざまな社会の課題に法の専門家として取り組む意欲をもった、高度な専門知識と実務能力、および世界の人々とともに歩む「隣人性」と「国際性」を兼ね備えた人材の育成を目的としています。

そうした目的を達成するため、法学研究科のディプロマ・ポリシーを踏まえ、法曹養成専攻では、(1)各学年において、所定の科目の単位を含む所定の単位数を修得し、所定の成績基準を満たすとともに、各学年(最終学年を除く)の進級試験に合格していること、(2)本専攻に所定の年限在籍し、所定の科目群から定められた科目を含む所定の単位数を修得したうえで前項の成績基準を満たしていること、の2つの要件を充足し、次に掲げる資質・能力等を身につけたと認められる者に学位を授与します。

#### 1. 専門家としての資質・研究倫理

gpDP1-1.

裁判官、検察官、弁護士をはじめとする法律家として社会で幅広く活躍しうる専門的知識、思考力および技能

gpDP1-2.

高い倫理感と、専門家としての強い責任感

gpDP1-3.

専門的知識に加え、幅広い知的好奇心とコミュニケーション能力を備え、高い実務対応能力を有する法律家として活躍する力

#### 2. 高度な専門的知識

gpDP2-1.

先端的な法律問題についての知見を有し、問題解決につなげる応用力

#### 3. 社会を先導する力

gpDP3-1.

キリスト教ヒューマニズムを基盤として物事の本質を見極めることができる智を備え、人類普遍的な価値である、人権の尊重、国際的協調、環境問題への関心に基づいて社会的課題を理解し、課題の解決につながる専門的な知識に基づいた議論をする力

## Ⅱ. カリキュラム・ポリシー(教育課程の編成・実施の方針)

法曹養成専攻専門職学位課程(法科大学院)では、ディプロマ・ポリシーに示す資質・能力等の目標を学生が達成できるようにするため、教育課程編成、学修内容・学修方法、学修成果評価について、以下のようにカリキュラム・ポリシーを定めます。

### 1. 教育課程の編成方法

本課程では、専門分野についての高度な知識と様々な理論と実践を効果的に修得できるよう、以下の5つの柱に即してカリキュラムを編成しています。

- (1) 法律基本科目については、基礎、応用、演習の3つのステップで段階的な履修を可能とするカリキュラムを編成するとともに、段階に応じて法的な問題を解決する能力を涵養する科目を配置します。
  - ① 標準コース入学者(法学未修者)は1年次に入学します。1年次においては、法律基本科目の基礎科目を配置して、各科目の基本的知識の修得を図ります。法律学の学修経験を有しない学生がいることに鑑みて、法律学の学修および法的文書の作成に關する導入的な授業科目を置きます。
  - ② 短縮コース入学者(法学既修者)は2年次に入学します。2年次においては、法律基本科目の応用科目を配置し、基本的知識の修得を前提として、法的な紛争、論点について、法を解釈する能力、紛争において事実関係を整理・理解する能力の涵養を図ります。また、長文の事例問題等を用いつつ、各科目についてのより深い理解と法的紛争解決に向けた力をつけることを目的とする演習科目を配置します。短縮コース入学者(法学既修者)は法律基本科目の基礎科目の多くについて履修が免除されますが、2年次に行政法基礎を履修します。
  - ③ 3年次においては、公法、民事法、刑事法の各分野の総仕上げとして総合科目を配置します。また、2年次に引き続き文書作成力の向上を図る演習科目を置きます。
- (2) 理論と実務の架橋を目指し、多様な実務家との協働のもとで、理論教育で得た知識を実践に活かす能力が段階的に涵養されるよう、実務科目を設置します。標準コース入学者(法学未修者)には、法的な文書作成の基本を学ぶ科目を導入教育として配置します。
- (3) 法曹としての強い責任感と高い倫理観が備わるよう、「法曹倫理」を必修科目とします。
- (4) 法の理念、法が社会で果たす役割についての理解を深める科目を設けます。
- (5) 先端的な法領域を含む、多様な法分野についての科目を選択科目として設けます。なかでも本学の建学の理念、教育精神に立脚した国際法分野、環境法分野に関する先端的な科目を充実させます。

## 2. 学修内容・学修方法

本課程の修了に必要な知識・技能を修得するため、講義・演習・実習等を組み合わせた様々な授業形態・授業方法による学修・研究指導の機会を提供します。

さらに、課題設定等を通じて授業時間外の学修を促し、学修時間の確保と成果の定着を図ります。

具体的な学修内容の設定、学修方法の選択にあたっては、以下の方針に則って行います。

- (1) 学修の進行は、理論的な性格の強い科目から実務的な性格の強い科目に移行します。理論的な科目については、大きな流れとして法律基本科目から、隣接科目、展開・先端科目へと比重が移るような学修を原則とします。
- (2) 理論的な科目については、基礎、応用、演習が重層的に配置されていますので、各段階に応じた学修を行います。基礎、応用段階においても、知識の涵養だけでなく、知識を用いて法的問題を含む具体的事例を解決する能力を養います。
- (3) 実務科目についても、基礎的な科目から実践的な科目に比重が移行するよう、段階的に学修できます。
- (4) 学修方法は科目の特性により、講義、演習、実習などのさまざまな形式をとりますが、少人数で双方向・多方向の討議を重視します。ただし、法律基本科目のうち基礎となる学修においては、各科目の基礎的な知識を蓄積することに主眼を置きつつ、一定の双方向性を確保することを基本とします。
- (5) 学修にあたっては、授業時間外の十分な予習復習が前提とされます。また、一部の講義科目、演習、実習科目においては、事前課題の作成や事後の報告が必要となります。

## 3. 学修成果の評価方法

- 各科目の単位認定に際しては、科目ごとに設定された到達目標に到達し、次のステップに進めるかどうかを基準とした絶対評価で合否を決定します。法律基本科目の基礎科目については各分野の基礎的な知識を獲得していること、応用科目については各分野における議論を理解し、事例として示された紛争に法規定、理論を適切に適用できることが求められます。法律基本科目の演習科目については、上記に加えて、論述問題を読み解き適切な解答文書を作成できることが求められます。具体的な到達目標についてはシラバスに記載されます。他の科目群についても、それぞれの科目が設定し、シラバスに記載された到達目標に到達しているか否かが基準となります。
- 到達目標に到達したと認められる学生については、本専攻の定める成績評価基準に従って相対的に評価します。
- 成績評価方法は、法律基本科目の基礎科目、応用科目では、原則として論述式または記述式の筆記試験を主とします。法律基本科目のうち演習科目、総合科目については、課題や議論への参加を中心に成績評価を行うことがあります。基礎法学・隣接科目、展

開・先端科目、実習を伴わない実務基礎科目については、各科目の特性に応じて、シラバスの記載に基づき筆記試験、レポート、授業参加等の方法で評価します。

- 実習を要する科目など、一部の科目については上記と異なる評価方法をとることがあります。この場合も、設定された到達目標に到達したかどうかを絶対基準で評価して可否を決定することには変わりありません。

### Ⅲ. アドミッション・ポリシー(入学者受入れの方針)

法曹養成専攻専門職学位課程(法科大学院)では、ディプロマ・ポリシーに定める人材を育成するため、求める学生像、入学前に身につけていることを求める能力、入学者選抜の方法について、以下のようにアドミッション・ポリシーを定めます。

#### 1. 求める学生像

本課程は、「他者のために、他者とともに」という本学の教育精神およびディプロマ・ポリシーで掲げる目標を踏まえ、次のような資質・能力を学生に求めています。

- (1) 「法務博士」取得後に、法律家として、社会に貢献する明確なビジョンと意欲
- (2) 本学の教育精神を理解し、キリスト教ヒューマニズムに根ざした法律家として社会に貢献できる能力
- (3) 上智の校章、校歌にもある「Lux Veritatis(真理の光)」の理念、要請に応じられる、勢いにおもねらない、物事の本質を見極めることができる智を備えた真の法律家になる意思と素養

#### 2. 入学前に身につけていることを求める能力

入学前には、次の知識・能力・態度を持つことを求めます。

- 標準コース(法学未修者):論理的思考力、社会問題に関する考え方、柔軟性、人間性
- 短縮コース(法学既修者):法律学の専門知識を前提とする基礎学力、法科大学院の履修の前提として要求される判断力・思考力・分析力、口頭試問に耐え得る論理的思考力や考え方の柔軟性

#### 3. 入学者選抜の方法

アドミッション・ポリシーに定める「求める学生像」にふさわしい入学者を選抜するにあたり、「入学前に身につけていることを求める能力」を評価するため、出願書類、筆記試験、口述試験の結果により総合的に選抜を実施します。

- 「法律家として、社会に貢献する明確なビジョンと意欲」という求める学生像への適合については、志望動機に関する記述および面接試験で審査する。
- 『「他者のために、他者とともに」(for Others with Others)という本学の教育精神』に基づき、本課程は多様性を尊重し、グローバル化を重視する。これらの点については以下のように審査する。
  - (1) 書類審査や面接試験を通じ、法律学以外の分野での専門的学修の成果や社会人経験を正に評価し、他学部卒や社会人について、入学定員の3割を下回らないことに留意して選考することで、多様性の尊重の要請に応える。また、任意に提出された各種資格の証明書類についても、正に評価する。
  - (2) 外国語特別枠入試を設け、提出された証明書にもとづき、外国語能力を正

当に評価することで、グローバル化の要請に対応する。

- 本学の教育理念を理解し、キリスト教ヒューマニズムに根ざした法律家として社会に貢献できる学生」か否かについては、志望動機に関する記述、および面接試験で審査する。
- 勢いにおもねらない、物事の本質を見極めることができる智を備えた真の法律家になる意思と素養」については、出願書類として提出された大学の成績証明書を審査する他、次のとおり審査を行う。
  - (1) 標準コース(法学未修者コース)入試では、一般論述試験、社会問題に関する記述および面接試験での社会問題に関する質問を通じて、理解力・論理的思考力・分析力・表現力を問う。
  - (2) 短縮コース(法学既修者コース)入試では、憲法・民法・刑法・商法・民事訴訟法・刑事訴訟法の6科目法律論文試験を通じて、法律基本科目の基礎的知識の修得および法的思考力・分析力・表現力を審査し、社会問題に関する記述および面接試験を通じて、理解力・論理的思考力を問う。
  - (3) 法曹養成連携協定に基づく5年一貫型特別選抜では、連携協定で定められた厳格な基準に依拠して作成された学部提出の報告書により、憲法・民法・刑法・商法・民事訴訟法・刑事訴訟法に関して短縮コース入学者(法学既修者)と同等の基礎的知識が修得されているか、法的思考力・分析力・表現力があるかを審査する。また、面接試験を通じて、理解力・論理的思考力を問う。
  - (4) 開放型特別選抜および学部3年生特別選抜では、憲法・民法・刑法の法律論文試験を通じて、基本法律科目の基礎的知識の修得、および法的思考力・分析力・表現力を審査し、社会問題に関する記述および面接試験での社会問題に関する質問を通じて、理解力・論理的思考力を問う。

入学者選抜方法の詳細は大学院入学試験のHPをご覧ください。

[https://adm.sophia.ac.jp/jpn/in\\_ad/innyushi/](https://adm.sophia.ac.jp/jpn/in_ad/innyushi/)

## 経済学研究科の3つのポリシー

### I. ディプロマ・ポリシー（学位授与の方針）

上智大学大学院経済学研究科は、経済学や経営学の高度な専門知識と実際的な応用能力を活かして現代の社会や企業が直面する課題の解決に貢献できる高度専門職業人や、深い学識に基づく洞察力を備えた高い水準の研究者の育成を目的としています。

そうした目的を達成するため、上智大学大学院のディプロマ・ポリシーを踏まえ、本研究科の学位プログラムでは、所定の教育課程を修め、学位論文の審査に合格することで、次の資質・能力を身につけたと認められる者に学位を授与します。

#### 1. 専門家としての資質・研究倫理

gsDP1-1.

経済学や経営学の専門性を軸とした幅広い知識と多角的な思考力

gsDP1-2.

高い倫理観・規範意識を持って公正な研究活動を推進する力

#### 2. 高度な専門的知識

gsDP2-1.

本研究科の各専攻・学位課程に必要とされる高度な知識・技能

gsDP2-2.

高度職業専門人や研究者として必要な専門知識を活用する力

#### 3. 社会を先導する力

gsDP3-1.

各専攻分野の知識や技法によって社会課題を探究する高い実践力

gsDP3-2.

研究成果を学術論文として公表し、学術や社会の発展に貢献する力

## Ⅱ. カリキュラム・ポリシー(教育課程の編成・実施の方針)

上智大学大学院経済学研究科では、ディプロマ・ポリシーに示す資質・能力等の目標を学生が達成できるようにするため、教育課程編成、学修内容・学修方法、学修成果評価について、以下のようにカリキュラム・ポリシーを定めます。

### 1. 教育課程の編成方法

本研究科では、経済学専攻、経営学専攻の2専攻を設置し、幅広い分野の専門知識や技能を効果的に修得できるよう、以下のようにカリキュラムを編成しています。

- (1) 博士前期課程では、1年次に各専攻分野の基礎科目を必修または選択科目として配置します。1・2年次を通じて、論文作成の基本に習熟するための「論文演習」を必修または選択科目として、経済学や経営学の幅広い知識を修得するための講義を選択科目として配置し、研究倫理教育や修士論文作成のための「研究指導」を必修科目とします。また、自身の専攻以外の分野についても広く知識を修得するために、他専攻や他研究科の科目を選択可能とします。
- (2) 博士後期課程では、1・2・3年次を通じて各専攻分野に関わる講義を選択必修科目として配置し、研究倫理教育や博士論文作成のための「研究指導」を必修科目とします。また、高度職業専門人としての能力を涵養するために「インターンシップ科目」を選択可能とします。

### 2. 学修内容・学修方法

各専攻・学位課程に応じて、修了に必要な知識・技能を修得するため、講義・演習等を組み合わせた様々な授業形態・授業方法による学修・研究指導の機会を提供します。さらに、課題設定等を通じて授業時間外の学修を促し、学修時間の確保と成果の定着を図ります。

- (1) 博士前期課程において、基礎科目や講義では学位論文作成の基礎となる経済学や経営学の知識や技法を修得します。「論文演習」では、論文作成のための基本を修得します。「研究指導」では、学位論文の作成を通して、研究倫理、課題の設定方法、技法の応用能力を実践的に修得します。
- (2) 博士後期課程では、博士論文の研究計画を踏まえ、経済学や経営学の分野における高度な研究を行います。講義では、自身の研究課題に関連する深い知識や最新の技法を修得します。「研究指導」に基づき、国内外の学会での論文報告や査読付き学術誌への論文発表を積極的に行い、高い研究倫理と自立した研究者としての能力を身につけます。「インターンシップ科目」では、高度職業専門人としての実践力を涵養します。

### 3. 学修成果の評価方法

ディプロマ・ポリシーに示す目標に対する学生の学修到達状況は、シラバス等に明示され

た評価基準・方法に基づき、筆記試験、プレゼンテーション、レポート等を用いて多角的に評価します。学位論文については、審査基準と審査方法を明示し、それに基づき学位論文審査委員会による論文審査および最終試験を厳格に行います。

### Ⅲ. アドミッション・ポリシー(入学者受入れの方針)

上智大学大学院経済学研究科では、ディプロマ・ポリシーに定める人材を育成するため、求める学生像、入学前に身につけていることを求める能力、入学者選抜の方法について、以下のようにアドミッション・ポリシーを定めます。

#### 1. 求める学生像

本研究科では、「他者のために、他者とともに」という本学の教育精神およびディプロマ・ポリシーで掲げる目標を踏まえ、次のような資質・能力を高めたいと望む学生を求めています。

- (1) 経済学や経営学の分野における高度な専門知識・技能および学際的な教養
- (2) 社会や学術の課題を多角的な視点から探求する力
- (3) 高度な専門能力を活かして社会や学術の発展に貢献する力

#### 2. 入学前に身につけていることを求める能力

入学前には、次の知識・能力・態度を持つことを求めます。

- (4) 経済学研究科の専攻分野や社会課題に対する強い関心
- (5) 自ら選択した研究課題を探究しようとする意欲
- (6) 各専攻・学位課程が求める基礎知識
- (7) 研究を遂行する際に必要な英語力やコミュニケーション能力

#### 3. 入学者選抜の方法

入学者選抜の基本方針として、各専攻・学位課程に応じて複数の受験機会や多様な学生を評価できる入試を提供します。アドミッション・ポリシーに定める「求める学生像」にふさわしい入学者を選抜するにあたり、「入学前に身につけていることを求める能力」を評価するため、出願書類、筆記試験、口述試験の結果により総合的に選抜を実施します。

入学者選抜方法の詳細は大学院入学試験のHPをご覧ください。

[https://adm.sophia.ac.jp/jpn/in\\_ad/innyushi/](https://adm.sophia.ac.jp/jpn/in_ad/innyushi/)

## 経済学専攻の3つのポリシー

### ■ 博士前期課程

#### I. ディプロマ・ポリシー（学位授与の方針）

経済学専攻博士前期課程は、現代社会が直面する社会・経済的事象の根本となる構造を経済学の方法論に基づいて理論的に把握することで問題の発見および定式化を行い、問題に対処する方策の設計および社会実装を経済学の理論・実証分析に基づいて可能とする、実践的な応用能力を有する高度専門職業人、深い洞察力を備えた高い水準の研究者の育成を目的としています。

そうした目的を達成するため、経済学研究科のディプロマ・ポリシーを踏まえ、本専攻博士前期課程では、講義科目や論文演習および研究指導などで構成される所定の教育課程を修め、学位論文の審査に合格することで、次の資質・能力を身につけたと認められる者に学位を授与します。

#### 1. 専門家としての資質・研究倫理

gmDP1-1.

経済学分野を中心として、関連の分野も含め広範に知識を得ることにより、現代社会が直面する事象や問題の解決に向けて経済学が果たしうる役割を多面的にとらえる力

gmDP1-2.

高い倫理観・規範意識を持って経済学の研究を進めて社会に還元する力

#### 2. 高度な専門的知識

gmDP2-1.

経済学分野の基礎知識と専門知識を活用して新たな研究課題を設定し、経済を理論的、実証的、歴史的に分析する研究能力

gmDP2-2.

データ処理・分析を通じてデータに潜む知見を表現する力

#### 3. 社会を先導する力

gmDP3-1.

自己の研究成果を適切に評価し、それを社会に還元する力

gmDP3-2.

専門分野に関する研究内容について、適切な論文構成や整合性のある論理展開で修士論文をまとめて発信する力、および、学術論文として完成させる力

## II. カリキュラム・ポリシー(教育課程の編成・実施の方針)

経済学専攻博士前期課程では、ディプロマ・ポリシーに示す資質・能力等の目標を学生が達成できるようにするため、教育課程編成、学修内容・学修方法、学修成果評価について、以下のようにカリキュラム・ポリシーを定めます。

### 1. 教育課程の編成方法

本課程では、専門分野についての高度な知識と様々な理論と実践を効果的に修得できるよう、以下のようにカリキュラムを編成しています。

- (1) 修士論文作成のための「論文演習 I(基礎)」を必修として配置し、それに加えて、「ミクロ経済学特講 I」「マクロ経済学特講 I」「計量経済学特講 I」も必修の基礎科目として配置します。また、各自の研究関心に応じて学修できるよう応用経済学の科目を選択科目として配置する他、自身の専攻以外の分野についても広く知識を修得するために、他研究科の科目や自研究科他専攻科目、さらには委託聴講科目の履修を可能としています。
- (2) 研究倫理に関する規範意識を身につけるために、新入生を対象に研究倫理教育を実施します。また、「研究指導」を通じて研究倫理の遵守を指導します。

### 2. 学修内容・学修方法

本課程の修了に必要な知識・技能を修得するため、講義・演習等を組み合わせた様々な授業形態・授業方法による学修・研究指導の機会を提供します。さらに、課題設定等を通じて授業時間外の学修を促し、学修時間の確保と成果の定着を図ります。

- (3) 講義では特定のトピックについて理解し、特に、1年次コースワークでは、必修の基礎科目である「ミクロ経済学特講 I」「マクロ経済学特講 I」「計量経済学特講 I」において、経済学の理論や分析手法、および、数理的な分析手法を修得します。また、同じく必修の基礎科目である「論文演習 I(基礎)」に加え、選択科目では、最新の研究動向を参考にしながら、現代社会が直面する事象や課題をどのような経済学的視点から分析できるのかを見定める力を身につけます。
- (4) 「論文演習 II(応用)」「プレゼンテーションの技術 I」「プレゼンテーションの技術 II」「研究指導」では、修士論文の執筆をするため、「論文演習 I(基礎)」に引き続き、指導教員が中心となる論文指導を受け、研究テーマに関する知識を深めるとともに、リサーチ能力とプレゼンテーション能力を修得します。

### 3. 学修成果の評価方法

ディプロマ・ポリシーに示す目標に対する学生の学修到達状況は、シラバス等に明示された評価基準・方法に基づき、筆記試験、プレゼンテーション、レポート等を用いて多角的に評価します。学位論文については、審査基準と審査方法を明示し、それに基づき学位論文審査

委員会による論文審査および最終試験を厳格に行います。

### Ⅲ. アドミッション・ポリシー(入学者受入れの方針)

経済学専攻前期課程では、ディプロマ・ポリシーに定める人材を育成するため、求める学生像、入学前に身につけていることを求める能力、入学者選抜の方法について、以下のようにアドミッション・ポリシーを定めます。

#### 1. 求める学生像

本課程では、「他者のために、他者とともに」という本学の教育精神およびディプロマ・ポリシーに掲げる目標を踏まえ、次のような資質・能力を高めたいと望む学生を求めています。

- (1) 経済学分野における専門的知識・技能および多面的な深い教養
- (2) 社会の事象や問題について、経済学の視点から考察・分析することへの関心を持ち、社会の変革に対応できる多角的な視座で課題を解決する力
- (3) 経済学の分析手法に基礎づけられた研究能力や専門性を活かして社会に貢献する力

#### 2. 入学前に身につけていることを求める能力

入学前には、次の知識・能力・態度を持つことを求めます。

- (1) 経済学専攻の分野に対する強い関心
- (2) 専門的な研究を実施するために自身の研究の目的と手法について考察し、探究しようとする意欲
- (3) ミクロ経済学、マクロ経済学、統計・計量経済学についての学部卒業レベルの基礎知識と論理的思考力
- (4) 研究を遂行する際に必要な学部卒業レベルの基礎的な英語力やコミュニケーション能力

#### 3. 入学者選抜の方法

入学者選抜の基本方針として、複数の受験機会や多様な学生を評価できる入試を提供します。アドミッション・ポリシーに定める「求める学生像」にふさわしい入学者を選抜するにあたり、「入学前に身につけていることを求める能力」を評価するため、出願書類、筆記試験、口述試験の結果により総合的に選抜を実施します。

入学者選抜方法の詳細は大学院入学試験のHPをご覧ください。

[https://adm.sophia.ac.jp/jpn/in\\_ad/innyushi/](https://adm.sophia.ac.jp/jpn/in_ad/innyushi/)

## ■ 博士後期課程

### I. ディプロマ・ポリシー（学位授与の方針）

経済学専攻博士後期課程は、現代社会が直面する社会・経済的事象の根本となる構造を経済学の方法論に基づいて理論的に把握することで問題の発見および定式化を行い、問題に対処する方策の設計および社会実装を経済学の理論・実証分析に基づいて可能とする、実的な応用能力を有する高度に専門的な業務に従事する専門職業人、深い洞察力を備えた高い水準の研究者の育成を目的としています。

そうした目的を達成するため、経済学研究科のディプロマ・ポリシーを踏まえ、本専攻博士後期課程では、所定の教育課程を修め、学位論文の審査に合格することで、次の資質・能力を身につけたと認められる者に学位を授与します。

#### 1. 専門家としての資質・研究倫理

gdDP1-1.

経済学分野を中心として幅広い知識を得ることにより、現代社会が直面する事象や問題の解決に向けて高度な専門性に基づいて経済学が果たしうる役割を多面的にとらえる力

gdDP1-2.

現代社会が直面する事象や問題に対して、専門家としての社会的役割を自覚しての解決に向けて取り組む力

gdDP1-3.

高い倫理観・規範意識を持って経済学の研究を進めて社会に還元する力

#### 2. 高度な専門的知識

gdDP2-1.

経済学分野の専門分野において、自己の研究課題を設定し、経済学の適切な枠組みを用いて研究遂行するための高度な研究能力

gdDP2-2.

経済学分野で自立的に活躍できる専門知識を身につけた上で、社会の発展に寄与する創造的かつ独自の学術的な価値を有する研究を行う力

#### 3. 社会を先導する力

gdDP3-1.

自己の研究成果を社会に還元し、持続可能な社会の実現に経済学を駆使して貢献する力

gdDP3-2.

専門分野を中心に高い専門性や独創性のある研究を行い、それらを専門分野に貢献できる学術論文および博士論文にまとめ、査読付き専門雑誌への掲載などを通じて国内外で

発信する力

## II. カリキュラム・ポリシー(教育課程の編成・実施の方針)

経済学専攻博士後期課程では、ディプロマ・ポリシーに示す資質・能力等の目標を学生が達成できるようにするため、教育課程編成、学修内容・学修方法、学修成果評価について、以下のようにカリキュラム・ポリシーを定めます。

### 1. 教育課程の編成方法

本課程では、専門分野における専門知識と様々な理論と実践を効果的に修得できるよう、以下のようにカリキュラムを編成しています。

- (1) 学位論文審査で問われる独自の学術的価値を実現する自立した研究者としての研究遂行能力を身につけるために、経済学の高度な理論や分析手法を修得するためのコースワークを設置し、博士論文作成のための「研究指導」を配置します。
- (2) 研究倫理に関する規範意識を身につけるために、新入生を対象に研究倫理教育を実施します。また、「研究指導」を通じて研究倫理の遵守を指導します。

### 2. 学修内容・学修方法

本課程の修了に必要な知識・技能を修得するため、講義・演習等を組み合わせた様々な授業形態・授業方法による学修・研究指導の機会を提供します。

さらに、課題設定等を通じて授業時間外の学修を促し、学修時間の確保と成果の定着を図ります。

- (1) 博士前期課程で積み上げた基礎知識や修士論文の成果をふまえて、独創的な博士論文の執筆をするために、指導教員が担当する「研究指導」を履修し、また、コースワークとして理論経済学、応用経済学、経済統計の分野の科目を選択必修として1年次から3年次の各年次で履修し、高度なリサーチ能力と課題発見能力を養います。
- (2) 専門的研究を通じて高度な研究遂行能力を養うために「研究指導」で博士論文のテーマ設定や分析手法を身につけ、学内セミナーや国内外の学会・学術誌への論文発表を積極的に行い、自立した研究者としての能力を身につけます。

### 3. 学修成果の評価方法

ディプロマ・ポリシーに示す目標に対する学生の学修到達状況は、シラバス等に明示された評価基準・方法に基づき、筆記試験、プレゼンテーション、レポート等を用いて多角的に評価します。学位論文については、審査基準と審査方法を明示し、それに基づき学位論文審査委員会による論文審査および最終試験を厳格に行います。

### Ⅲ. アドミッション・ポリシー(入学者受入れの方針)

経済学専攻博士後期課程では、ディプロマ・ポリシーに定める人材を育成するため、求める学生像、入学前に身につけていることを求める能力、入学者選抜の方法について、以下のようにアドミッション・ポリシーを定めます。

#### 1. 求める学生像

本課程では、「他者のために、他者とともに」という本学の教育精神およびディプロマ・ポリシーに掲げる目標を踏まえ、次のような資質・能力を高めたいと望む学生を求めています。

- (1) 経済学分野における高度な専門的知識・技能および広範な深い教養
- (2) 経済学の研究・教育や経済学を応用した調査・予測等の業務に従事する意欲
- (3) 経済学の分析手法に基礎づけられた高度な研究能力や専門性を活かして社会に貢献する力

#### 2. 入学前に身につけていることを求める能力

入学前には、次の知識・能力・態度を持つことを求めます。

- (1) 経済学専攻の分野に対する強い関心
- (2) 博士前期課程の研究をふまえて、独創性のある研究の実施について考察し、それを探究しようとする意欲
- (3) 博士前期課程レベルに相当する自身の研究領域に関する高度な専門的知識と論理的思考力
- (4) 研究を遂行する際に必要となる十分な英語力やコミュニケーション能力

#### 3. 入学者選抜の方法

入学者選抜の基本方針として、複数の受験機会や多様な学生を評価できる入試を提供します。アドミッション・ポリシーに定める「求める学生像」にふさわしい入学者を選抜するにあたり、「入学前に身につけていることを求める能力」を評価するため、出願書類、口述試験の結果により総合的に選抜を実施します。

入学者選抜方法の詳細は大学院入学試験のHPをご覧ください。

[https://adm.sophia.ac.jp/jpn/in\\_ad/innyushi/](https://adm.sophia.ac.jp/jpn/in_ad/innyushi/)

## 経営学専攻の3つのポリシー

### ■ 博士前期課程

#### I. ディプロマ・ポリシー（学位授与の方針）

経営学専攻博士前期課程では、経営学、会計学、マーケティングなどの専門分野に関する深い学識を基礎に、実的な応用能力を活かして、現代社会が直面する課題の解決に貢献できる高度職業専門人、人々の生活向上や企業の繁栄に寄与するための深い洞察力を備えた高い水準の研究者の育成を目的としています。

そうした目的を達成するため、経済学研究科のディプロマ・ポリシーを踏まえ、本専攻博士前期課程では、講義科目や論文演習の履修、研究指導などで構成される所定の教育課程を修め、学位論文の審査に合格することで、次の資質・能力を身につけたと認められる者に学位を授与します。

#### 1. 専門家としての資質・研究倫理

gmDP1-1.

経営学を軸とした幅広い知識と多角的な思考力を得ることにより、世界の人々の生活向上や世界の企業のさらなる繁栄に寄与する独創的、先進的研究を行う力

gmDP1-2.

高い倫理観・規範意識を持って経営学の研究を進める力

#### 2. 高度な専門的知識

gmDP2-1.

経営学分野の基礎知識と専門知識を有し、それらを活用して新たな研究課題を設定し、解決するための研究能力

gmDP2-2.

職業専門人や研究者として活躍するために求められる、経営学分野の専門知識および知識を活用する力

#### 3. 社会を先導する力

gmDP3-1.

自己の研究成果を適切に評価し、それを社会に還元する力

gmDP3-2.

専門分野に関する研究内容について、適切な論文構成や整合性のある論理展開で修士論文にまとめて発信する力、および、学術論文として完成させる力

## Ⅱ. カリキュラム・ポリシー(教育課程の編成・実施の方針)

経営学専攻博士前期課程では、ディプロマ・ポリシーに示す資質・能力等の目標を学生が達成できるようにするため、教育課程編成、学修内容・学修方法、学修成果評価について、以下のようにカリキュラム・ポリシーを定めます。

### 1. 教育課程の編成方法

本課程では、経営学、会計学、マーケティングなどの専門分野についての高度な知識および様々な理論と実践を効果的に修得できるよう、以下のようにカリキュラムを編成しています。

- (1) 本課程では、修士論文作成のための「研究指導」、「論文演習」を必修科目として配置します。専攻分野に関わる講義を選択科目として配置します。自身の専攻以外の分野についても広く知識を修得するために、他専攻の科目が履修できます。
- (2) 研究倫理に関する規範意識を身につけるために、新入生を対象に研究倫理教育を実施します。「研究指導」を通して研究倫理の遵守を指導します。

### 2. 学修内容・学修方法

本課程の修了に必要な知識・技能を修得するため、講義・演習等を組み合わせた様々な授業形態・授業方法による学修・研究指導の機会を提供します。さらに、課題設定等を通じて授業時間外の学修を促し、学修時間の確保と成果の定着を図ります。

- (1) 講義では、経営学、会計学、マーケティングなど専攻分野の特定のトピックや研究法について理解します。「論文演習」では議論を重ねることにより研究を展開するために必要な基礎的な思考力を深め、調査研究能力を修得し、情報収集力や分析力を身につけます。
- (2) 「研究指導」では、修士論文の執筆をするため、指導教員が中心となって行う論文指導を受け、研究テーマに関する知識を深めるとともに、論文テーマを設定し、分析枠組みを選定する力、リサーチ能力とプレゼンテーション能力を養います。

### 3. 学修成果の評価方法

ディプロマ・ポリシーに示す目標に対する学生の学修到達状況は、シラバス等に明示された評価基準・方法に基づき、筆記試験、プレゼンテーション、レポート等を用いて多角的に評価します。学位論文については、審査基準と審査方法を明示し、それに基づき学位論文審査委員会による論文審査および最終試験を厳格に行います。

### Ⅲ. アドミッション・ポリシー(入学受入れの方針)

経営学専攻博士前期課程では、ディプロマ・ポリシーに定める人材を育成するため、求める学生像、入学前に身につけていることを求める能力、入学選抜の方法について、以下のよう  
にアドミッション・ポリシーを定めます。

#### 1. 求める学生像

本課程では、「他者のために、他者とともに」という本学の教育精神およびディプロマ・ポリ  
シーで掲げる目標を踏まえ、次のような資質・能力を高めたいと望む学生を求めています。

- (1) 経営学分野における専門的知識・技能および多面的な深い教養
- (2) 社会の変革に対応できる多角的な視座や課題解決力
- (3) 研究能力や専門性を活かして社会に貢献する力

#### 2. 入学前に身につけていることを求める能力

入学前には、次の知識・能力・態度を持つことを求めます。

- (1) 経営学専攻の分野に対する強い関心
- (2) 専門的な研究を実施するために自身の研究の目的と手法について考察し、適切な枠  
組みを用いて分析し、学術的な位置づけを明確にしながら探究しようとする意欲
- (3) 経営学、マーケティング論、会計学の中の少なくとも一つに関する学部卒業レベルの  
基本的な知識と論理的思考力
- (4) 研究を遂行する際に必要な学部卒業レベルの基礎的な英語力とコミュニケーション  
能力

#### 3. 入学選抜の方法

入学選抜の基本方針として、複数の受験機会や多様な学生を評価できる入試を提供し  
ます。アドミッション・ポリシーに定める「求める学生像」にふさわしい入学選抜するにあ  
たり、「入学前に身につけていることを求める能力」を評価するため、出願書類、筆記試験、  
口述試験の結果により総合的に選抜を実施します。

入学選抜方法の詳細は大学院入学試験のHPをご覧ください。

[https://adm.sophia.ac.jp/jpn/in\\_ad/innyushi/](https://adm.sophia.ac.jp/jpn/in_ad/innyushi/)

## ■ 博士後期課程

### I. ディプロマ・ポリシー（学位授与の方針）

経営学専攻博士後期課程では、経営学、会計学、マーケティングなどの専門分野に関する深い学識を基礎に、実的な応用能力を活かして、現代社会が直面する課題の解決に貢献できる高度職業専門人や人々の生活向上や企業の繁栄に寄与するための深い洞察力を備えた高い水準の研究者の育成を目的としています。

そうした目的を達成するため、経済学研究科のディプロマ・ポリシーを踏まえ、本専攻博士後期課程では、所定の教育課程を修め、学位論文の審査に合格することで、次の資質・能力を身につけたと認められる者に学位を授与します。

#### 1. 専門家としての資質・研究倫理

gdDP1-1.

経営学を軸とした幅広い知識と多角的な思考力を得ることにより、自立した研究者として独自の研究を遂行し、研究で得た知見や洞察を用いて世界や社会の発展に貢献する力

gdDP1-2.

高い倫理観・規範意識を持って経営学の研究を進める力

#### 2. 高度な専門的知識

gdDP2-1.

経営学分野において学術性の高い研究課題を設定し、適切な枠組みを用いて考察・分析を行う力

gdDP2-2.

職業専門人や研究者として自立的に活躍するために求められる、経営学分野の専門知識および知識を活用する力

#### 3. 社会を先導する力

gdDP3-1.

自己の研究成果を社会に還元し、持続可能な社会の実現に貢献する力

gdDP3-2.

専門分野を中心に高い専門性や独創性のある研究を行い、それらを専門分野に貢献できる博士論文にまとめ、査読付き学術雑誌への掲載などを通じて国内外に発信する力

## Ⅱ. カリキュラム・ポリシー(教育課程の編成・実施の方針)

経営学専攻博士後期課程では、ディプロマ・ポリシーに示す資質・能力等の目標を学生が達成できるようにするため、教育課程編成、学修内容・学修方法、学修成果評価について、以下のようにカリキュラム・ポリシーを定めます。

### 1. 教育課程の編成方法

本課程では、専門分野における専門知識と様々な理論と実践を効果的に修得できるよう、以下のようにカリキュラムを編成しています。

- (1) 研究課題に対する知見の深まりとその分析能力の高度化を目指すために経営学、会計学、マーケティング論のコースワークを設置し、博士論文作成のための「研究指導」を配置します。
- (2) 研究倫理に関する規範意識を身につけるために、新入生を対象に研究倫理教育を実施します。また「研究指導」を通して研究倫理の遵守を指導します。

### 2. 学修内容・学修方法

本課程の修了に必要な知識・技能を修得するため、講義・演習等を組み合わせた様々な授業形態・授業方法による学修・研究指導の機会を提供します。さらに、課題設定等を通じて授業時間外の学修を促し、学修時間の確保と成果の定着を図ります。

- (1) 博士前期課程で積み上げた基礎知識や修士論文の成果をふまえて、独創的な博士論文の執筆をするために、指導教員が担当する「研究指導」を必修として、経営学・会計学・マーケティング論等の科目を選択必修として、1年次から3年次の各年次で履修し、高度なリサーチ能力と課題発見能力を養います。
- (2) 専門的研究を通じて高度な資料分析能力を養うために「研究指導」で博士論文のテーマ設定、分析枠組みの選択、枠組みに基づく分析を行う力を身につけるとともに、学内セミナーでの研究報告や国内外の学会・学術誌への論文発表を積極的に行い、自立した研究者としての能力を身につけます。

### 3. 学修成果の評価方法

ディプロマ・ポリシーに示す目標に対する学生の学修到達状況は、シラバス等に明示された評価基準・方法に基づき、筆記試験、プレゼンテーション、レポート等を用いて多角的に評価します。学位論文については、審査基準と審査方法を明示し、それに基づき学位論文審査委員会による論文審査および最終試験を厳格に行います。

### Ⅲ. アドミッション・ポリシー(入学受入れの方針)

経営学専攻博士後期課程では、ディプロマ・ポリシーに定める人材を育成するため、求める学生像、入学前に身につけていることを求める能力、入学選抜の方法について、以下のよう  
にアドミッション・ポリシーを定めます。

#### 1. 求める学生像

本課程では、「他者のために、他者とともに」という本学教育の精神およびディプロマ・ポ  
リシーに掲げる目標を踏まえ、次のような資質・能力を高めたいと望む学生を求めています。

- (1) 経営学分野における高度な専門的知識・技能および学際的な深い教養
- (2) 社会の変革に対応できる多角的な視座や課題解決力
- (3) 経営学の高度な研究能力や専門性を活かして社会に貢献する力

#### 2. 入学前に身につけていることを求める能力

入学前には、次の知識・能力・態度を持つことを求めます。

- (1) 経営学専攻の分野に対する強い関心
- (2) 博士前期課程の研究をふまえて、独創性のある研究の実施について考察し、それを  
探究しようとする意欲
- (3) 経営学、マーケティング論、会計学の中の少なくとも一つに関する博士前期課程レベ  
ルの基本的な知識と論理的思考力
- (4) 研究を遂行する際に必要な英語力とコミュニケーション能力

#### 3. 入学選抜の方法

入学選抜の基本方針として、多様な学生を評価できる入試を提供します。アドミッショ  
ン・ポリシーに定める「求める学生像」にふさわしい入学選抜するにあたり、「入学前に身  
につけていることを求める能力」を評価するため、出願書類、筆記試験、口述試験の結果に  
より総合的に選抜を実施します。

入学選抜方法の詳細は大学院入学試験のHPをご覧ください。

[https://adm.sophia.ac.jp/jpn/in\\_ad/innyushi/](https://adm.sophia.ac.jp/jpn/in_ad/innyushi/)

## 言語科学研究科言語学専攻の3つのポリシー

### ■ 博士前期課程

#### I.ディプロマ・ポリシー（学位授与の方針）

言語学専攻博士前期課程は、言語学専攻の中に「言語学一般」「言語聴覚研究」「英語教授法(TESOL)」「日本語教育学」の4つの研究コース・専門分野を設置しています。

「言語学一般」においては、理論言語学・個別言語学・応用言語学に関する高度な専門的知識と専門技能を十分活用して、世界を視野に入れた独創的な研究が行える研究者を育成します。「言語聴覚研究」は、言語聴覚障害学の基礎・応用研究を通して優れた研究者と国家資格を有する言語聴覚士を、「英語教授法(TESOL)」は、英語によるインタラクティブな授業を通して英語教育に携わる教員を、「日本語教育学」は、理論と実践が伴う国内外で広く活躍できる国家資格を有する日本語教師を養成することを目的としています。

そうした目的を達成するため、上智大学大学院のディプロマ・ポリシーを踏まえ、本専攻博士前期課程では、所定の教育課程を修め、学位論文の審査に合格することで次の資質・能力を身につけたと認められる者に学位を授与します。

#### 1. 専門家としての資質・研究倫理

##### gmDP1-1.

言語学・言語聴覚障害学・英語教授法・日本語教育学を中心として、関連分野の知識も含む豊かな教養と学際性を備えた多角的な思考力

##### gmDP1-2.

幅広い言語学の分野から自らの専門領域を深めるため、初年度より各々の分野で所定の科目履修をすることにより得た言語研究の現状を理解し、方法論を習得する力

##### gmDP1-3.

解決すべき問題を研究課題という適切な形式で問う力

##### gmDP1-4.

問題解決のために最もふさわしいデータ収集、および分析を行い、解を見つけ出す力

##### gmDP1-5.

人間の尊厳を重んじ、高い倫理観・規範意識を持って研究を進める力

#### 2. 高度な専門的知識

##### gmDP2-1.

研究コース・専攻分野に必要とされる高度な言語学の専門知識と語学技能。

##### gmDP2-2.

言語学の基礎概念と方法論を広い視野に立って身につけ、学究的な思考方法を学び、特定の専門領域を究明する力

gmDP2-3.

研究を遂行するために、基礎知識を発展させて必要な専門的知識を活用する力

### 3. 社会を先導する力

gmDP3-1.

研究結果の意味づけができ、専門性を活かしながら社会に貢献できる力

gmDP3-2.

課題解決を導く独創性の高い実践力、広範な語学運用能力、および各専門分野の深化・発展に貢献するリーダーシップ力

gmDP3-3.

研究成果を学術論文としてまとめ、専攻言語により世界へ積極的に発信する力

## Ⅱ.カリキュラム・ポリシー(教育課程の編成・実施の方針)

言語学専攻博士前期課程では、ディプロマ・ポリシーに示す資質・能力等の目標を学生が達成できるようにするため、教育課程編成、学修内容・学修方法、学修成果評価について、以下のカリキュラム・ポリシーを定めます。

### 1.教育課程の編成方法

本課程では、言語を学術的に深く考察し、専門分野についての高度な知識と様々な理論と実践を効果的に修得できるよう、以下のようにカリキュラムを編成しています。

- (1) 専門の如何にかかわらず言語に関する基礎的知識を修得します。
- (2) 1年次の必修科目に、言語学一般コースでは「音声学・音韻論基礎」「統辞論基礎」を、言語聴覚研究コースでは「言語聴覚障害学特論」「言語聴覚障害研究法 B(実験計画法)」「言語聴覚障害研究法 D(文献講読)」を、英語教授法コースでは Introduction to TEFL in Japan、Second Language Acquisition、Introduction to Linguistics を、日本語教育学コースでは「日本語教育文法Ⅰ」「第二言語習得Ⅰ」「言語・文化・社会」「日本語教授法概論」を設定しています。
- (3) 学生が各自の専攻以外の分野についても広く知識を修得するために、他専攻および他コースの科目の選択履修を可能にしています。このほか、英語・ドイツ語・フランス語・スペイン語・ポルトガル語・日本語の音声・音韻・統辞法・意味・文体・歴史等に関する科目を置いています。
- (4) 研究倫理に関する規範意識を身につけるため、研究倫理教育を受ける機会を設けます。

### 2.学修内容・学修方法

本課程では、4つの研究コース・専門分野、学位課程に応じた知識・技能を修得するため、遠隔授業を含む講義・演習・実習等を組み合わせた様々な授業形態・授業方法による学修・研究指導の機会を提供します。

- (1) 理論的知識、理論を応用する能力、問題解決能力、批判的思考能力、適切なデータを収集・解析する能力、個々のデータから一般化し理論構築する能力を修得します。
- (2) 各教員の指導に基づき、授業外学修時間を各科目につき毎回190分以上確保し、課題設定等を通じて授業時間外の学修を促し、学修時間の確保と成果の定着を図ります。
- (3) 講義では、4コースそれぞれに応じた専門知識について理解し、演習では、議論を重ねることにより理解を深め、調査研究能力を修得し、情報収集力や論理的かつ柔軟な思考力・分析力を身につけます。
- (4) 学位論文の演習では、修士論文における研究内容の深化を目指します。

### 3.学修成果の評価方法

ディプロマ・ポリシーに示す目標に対する学生の学修到達状況は、シラバス等に明示された評価基準・方法に基づき、筆記試験、プレゼンテーション、ディスカッション、レポート等の提出物を用いて、多角的・総合的に評価します。学位論文については、審査基準と審査方法を明示し、それに基づき、外部委員等も含む学位論文審査委員会が厳正な審査を行います。

### Ⅲ.アドミッション・ポリシー(入学受入れの方針)

言語学専攻博士前期課程では、ディプロマ・ポリシーに定める人材をカリキュラム・ポリシーに沿って専門研究を着実に進めながら育成します。そのため、求める学生像、入学前に身につけていることを求める能力、入学者選抜の方法について、以下のようにアドミッション・ポリシーを定めます。

#### 1.求める学生像

本課程では、「他者のために、他者とともに」という本学の教育精神およびディプロマ・ポリシーに掲げる目標を踏まえ、次のような資質・能力を高めたいと望む学生を求めています。

- (1) 言語学・言語障害学・英語教育学・日本語教育学の分野における専門知識を涵養し、博士後期課程で研究を深化させるために必要な課題設定能力・研究手法を身につける力
- (2) 言語研究を主軸に据えつつ、地球規模のあらゆる問題に関心をもち、それに的確に対応できる複眼的な視座
- (3) 研究倫理を遵守しながら、研究能力や専門性を活かして社会に積極的に貢献するための基礎力

#### 2.入学前に身につけていることを求める能力

入学前には、カリキュラム・ポリシーに掲げた研究課題の遂行に見合う、次のような知識・能力・態度を持っていることを求めます。

- (1) 言語学専攻の専門分野と人文科学に対する広い関心と研究立案能力
- (2) 博士後期課程でより専門的な研究を遂行するための探究心と積極性
- (3) 各研究コース・専門分野が求める基礎知識と博士後期課程の研究に応用できるような論理的思考力
- (4) 研究遂行に不可欠な高度な語学運用能力と研究倫理に対する真摯な態度

#### 3.入学者選抜の方法

入学者選抜の基本方針として、各研究コース・専門分野に応じて、複数の受験機会や国内外から集まる多様な受験者を評価できる入試方法を提供します。アドミッション・ポリシーに定める「求める学生像」にふさわしい入学者を選抜するにあたり、「入学前に身につけていることを求める能力」を評価するため、出願書類、筆記試験(言語学一般/言語聴覚研究/日本語教育学コース)、口述試験の結果により総合的に選抜を実施します。

入学者選抜方法の詳細は大学院入学試験のHPをご覧ください。

[https://adm.sophia.ac.jp/jpn/in\\_ad/innyushi/](https://adm.sophia.ac.jp/jpn/in_ad/innyushi/)

## ■ 博士後期課程

### I. ディプロマ・ポリシー（学位授与の方針）

言語学専攻博士後期課程では、言語という、人間の最も根本を成す能力を深くかつ広く探究することにより、本学の設立目的および使命を果たせる人材の育成を目的としています。そうした目的を達成するため、上智大学大学院のディプロマ・ポリシーを踏まえ、所定の教育課程を修め、学位論文の審査に合格することで、次の資質・能力を身につけたと認められる者に学位を授与します。

#### 1. 専門家としての資質・研究倫理

gdDP1-1.

博士前期課程で身につけた各専門領域の方法論と知識を基に、研究倫理に反することなく、さらにオリジナリティのある研究を行い、その成果をすぐれた学位論文にまとめる力

#### 2. 高度な専門的知識

gdDP2-1.

基礎的な研究方法論と専門的知識を十分に活かし、独力で高度の研究を展開し、持続的にそれを遂行することができる学究的能力

#### 3. 社会を先導する力

gdDP3-1.

言語学および関連諸科学に関する専門的な理論ならびに方法論に習熟した自立した研究者として、国際的に認められるレベルの学術論文を完成させ、国内外で継続的に発信していける力

## Ⅱ. カリキュラム・ポリシー(教育課程の編成・実施の方針)

言語学専攻博士後期課程では、ディプロマ・ポリシーに示す資質・能力等の目標を学生が達成できるようにするため、教育課程編成、学修内容・学修方法、学修成果評価について、以下のカリキュラム・ポリシーを定めます。

### 1. 教育課程の編成方法

本課程では、ディプロマ・ポリシーに沿って言語を学術的に深く考察し、研究分野に特化した知識と様々な理論と実践を効果的に修得できるよう、以下のようにカリキュラムを編成しています。

- (1) 各専門分野に関わる「特殊研究」や、博士論文作成のための「研究指導」「博士論文演習」を配置しています。
- (2) 研究倫理に関する規範意識を身につけるために、研究倫理教育を受ける機会を設けます。

### 2. 学修内容・学修方法

本課程の修了に必要な知識・技能を修得するため、講義・演習等を組み合わせた様々な授業形態・授業方法による学修・研究指導の機会を提供します。

さらに、課題設定等を通じて授業時間外の学修を促し、学修時間の確保と成果の定着を図ります。

- (1) 前期課程で積み上げた基礎知識や修士論文の成果を踏まえて、さらに高度な研究を行います。また、研究指導に基づき、国内外の学会への参加や学術誌への積極的な論文発表を行うことで、複眼的・多角的な視野を備えた自立した研究者としての能力を身につけます。

より具体的には、音声学・音韻論を含む理論言語学、言語聴覚障害学、応用言語学の中から特定のテーマを選び、それについて指導教員による個別面談に基づいた論文指導を受けます。

- (2) また、専門分野の研究を深化させるとともに、関連分野の知見も効果的に採り入れ、専門教養・学識を高めて、独創的な研究を進めます。そして、主として指導教員から研究指導を受け、必要とされた科目を履修します。また、入学2年後に博士学位申請のための博士論文資格試験を受けて合格し、さらに論文2編を査読付きの学術誌に掲載することを必須とします。

### 3. 学修成果の評価方法

ディプロマ・ポリシーに示す目標に対する学生の学修到達状況は、シラバス等に明示された評価基準・方法に基づき、筆記試験、プレゼンテーション、ディスカッション、レポート等の提出物を用いて、多角的・総合的に評価します。学位論文については、審査基準と審査方法

を明示し、それに基づき、外部委員等も含む学位論文審査委員会が厳正な審査を行います。

### Ⅲ. アドミッション・ポリシー(入学者受入れの方針)

言語学専攻博士後期課程では、ディプロマ・ポリシーに定める人材をカリキュラム・ポリシーに沿って専門研究を着実に進めながら育成します。そのため、求める学生像、入学前に身につけていることを求める能力、入学者選抜の方法について、以下のようにアドミッション・ポリシーを定めます。

#### 1. 求める学生像

本課程では、「他者のために、他者とともに」という本学の教育精神およびディプロマ・ポリシーに掲げる目標を踏まえ、次のような資質・能力を高めたいと望む学生を求めています。

- (1) 言語学・言語障害学・英語教育学・日本語教育学の分野における高度な専門的知識・技能および学際的な深い教養を備え、持続的に研究ができる力
- (2) 社会変革に的確に対応できる複眼的な視座や課題解決力
- (3) 高度な研究能力や専門性を活かして社会に積極的に貢献する力

#### 2. 入学前に身につけていることを求める能力

入学前には、カリキュラム・ポリシーに掲げた研究課題の遂行に見合う、次のような知識・能力・態度を持っていることを求めます。

- (1) 言語学専攻の専門分野に対する強い関心と研究遂行への強い意志
- (2) 専門的な研究を実施するために自ら課題を発見し探究しようとする積極性
- (3) 各専門分野が求める基礎知識と論理的思考力
- (4) 研究遂行に必要な高度な語学力とコミュニケーション能力

#### 3. 入学者選抜の方法

入学者選抜の基本方針として、各研究コース・専門分野に応じて、国内外から集まる多様な受験者を評価できる入試方法を提供します。アドミッション・ポリシーに定める「求める学生像」にふさわしい入学者を選抜するにあたり、「入学前に身につけていることを求める能力」を評価するため、出願書類、口述試験の結果により総合的に選抜を実施します。

入学者選抜方法の詳細は大学院入学試験のHPをご覧ください。  
[https://adm.sophia.ac.jp/jpn/in\\_ad/innyushi/](https://adm.sophia.ac.jp/jpn/in_ad/innyushi/)

## グローバル・スタディーズ研究科の3つのポリシー

### I. ディプロマ・ポリシー（学位授与の方針）

上智大学大学院グローバル・スタディーズ研究科は、現代社会が直面する、グローバル化に起因した地球規模の課題について、国際関係、国際協力、地域研究、グローバル・スタディーズのそれぞれ異なるアプローチから考究し、高度な専門的知識・技能を活かして、持続可能な社会の実現に貢献できる研究者や高度専門家の育成を目的としています。

そうした目的を達成するため、上智大学大学院のディプロマ・ポリシーを踏まえ、本研究科の学位プログラムでは、所定の教育課程を修めることで、次の資質・能力を身につけたと認められる者に学位を授与します。

#### 1. 専門家としての資質・研究倫理

gsDP1-1.

偏狭なナショナル思考にとらわれず、グローバルな視野や多様な思考を備えた多角的な分析力・理解力・説明力・表現力

gsDP1-2.

人間の安全保障の重要性を理解し、高い倫理観・規範意識を持って研究を進める力

#### 2. 高度な専門的知識

gsDP2-1.

グローバル・スタディーズ研究科の各専攻・学位課程に必要とされる高度な知識・技能

gsDP2-2.

研究を遂行するために必要な専門的知識を活用する力

#### 3. 社会を先導する力

gsDP3-1.

現代社会が直面する地球規模の課題を有効な解決に導く独創性の高い実践力により各専門分野の深化・発展に貢献するリーダーシップ力

gsDP3-2.

研究成果を学術論文としてまとめ、世界に通用する問題解決を発信する力

## II. カリキュラム・ポリシー(教育課程の編成・実施の方針)

上智大学大学院グローバル・スタディーズ研究科では、ディプロマ・ポリシーに示す資質・能力等の目標を学生が達成できるようにするため、教育課程編成、学修内容・学修方法、学修成果評価について、以下のようにカリキュラム・ポリシーを定めます。

### 1. 教育課程の編成方法

本研究科では、国際関係論専攻、地域研究専攻、グローバル社会専攻、国際協力学専攻の4専攻を設置し、広範な分野についての専門知識と様々な理論と実践を効果的に修得できるよう、以下のようにカリキュラムを編成しています。

- (1) 博士前期課程および修士課程では、各専攻分野における基礎科目や、論文作成の基本に習熟するための科目と論文指導を必修として配置します。アクティブラーニングやフィールドワークを重視し、各専攻分野に関わる授業を選択科目として配置します。また、自身の専攻以外の分野についても広く知識を修得するために、他専攻等の科目を選択可能とします。
- (2) 博士後期課程では、アクティブラーニングやフィールドワークを重視し、各専攻分野における科目を配置し、論文指導を行います。
- (3) 研究倫理に関する規範意識を身につけるために、研究倫理教育を受ける機会を設けます。

### 2. 学修内容・学修方法

各専攻・学位課程に応じて、修了に必要な知識・技能を修得するため、実習・研究指導・論文指導等を組み合わせた様々な授業形態・授業方法による学修・研究指導の機会を提供します。

さらに、課題設定等を通じて授業時間外の学修を促し、学修時間の確保と成果の定着を図ります。

- (1) 博士前期課程および修士課程において、分析・議論を重ねることにより理解を深め、調査研究能力を修得し、偏狭なナショナル思考にとらわれず、グローバルな視野に基づく思考力・分析力を身につけます。「論文指導」では、リサーチ・ペーパーや修士論文における研究内容の高度化を目指し、複数の教員による共同指導を受けます。
- (2) 博士後期課程において、前期課程で積み上げた基礎知識や修士論文の成果をふまえて、さらに高度な研究を行います。また、研究指導に基づき、国内外の学会・学術誌への論文発表を積極的に行い、自主的に国際シンポジウムを開催することに挑戦するなど、自立した研究者としての能力や専門分野の深化・発展に貢献するリーダーシップの力を身につけます。

### 3. 学修成果の評価方法

ディプロマ・ポリシーに示す目標に対する学生の学修到達状況は、シラバス等に明示された評価基準・方法に基づき、筆記試験、プレゼンテーション、レポート等を用いて多角的に評価します。学位論文については、審査基準と審査方法を明示し、それに基づき学位論文審査委員会による論文審査および最終試験を厳格に行います。

### Ⅲ. アドミッション・ポリシー(入学者受入れの方針)

上智大学大学院グローバル・スタディーズ研究科では、ディプロマ・ポリシーに定める人材を育成するため、求める学生像、入学前に身につけていることを求める能力、入学者選抜の方法について、以下のようにアドミッション・ポリシーを定めます。

#### 1. 求める学生像

本研究科では、「他者のために、他者とともに」という本学の教育精神および研究科のディプロマ・ポリシーで掲げる目標を踏まえ、次のような資質・能力を高めたいと望む学生を求めています。

- (1) グローバルな視野に基づき、地球規模から国際問題を考える力
- (2) グローバル・スタディーズにおける高度な専門的知識・技能・言語力およびグローバルな視野に基づく深い教養
- (3) 高度な研究能力や専門性を活かして社会に貢献する力

#### 2. 入学前に身につけていることを求める能力

入学前には、次の知識・能力・態度を持つことを求めます。

- (1) グローバル・スタディーズ研究科の専攻分野に対する強い関心
- (2) 専門的な研究を実施するために自ら課題を発見し探究しようとする意欲
- (3) 各専攻・学位課程が求めるグローバルな視野を身につけるための基礎知識と論理的思考力
- (4) 研究を遂行する際に必要な語学力やコミュニケーション能力

#### 3. 入学者選抜の方法

入学者選抜の基本方針として、各専攻・学位課程に応じて複数の受験機会や多様な学生を評価できる入試を提供します。アドミッション・ポリシーに定める「求める学生像」にふさわしい入学者を選抜するにあたり、「入学前に身につけていることを求める能力」を評価するため、出願書類、筆記試験、口述試験の結果により総合的に選抜を実施します。

入学者選抜方法の詳細は大学院入学試験のHPをご覧ください。

[https://adm.sophia.ac.jp/jpn/in\\_ad/innyushi/](https://adm.sophia.ac.jp/jpn/in_ad/innyushi/)

## 国際関係論専攻の3つのポリシー

### ■ 博士前期課程

#### I. ディプロマ・ポリシー(学位授与の方針)

国際関係論博士前期課程は、世界平和と世界正義の問題に積極的に取り組み、戦争を防止し、多様で自由な国際社会を築けるような問題に関心を持ち、今日の国際社会が直面する諸問題の解決に積極的に貢献できるような研究者や専門家を養成することを目的としています。

そうした目的を達成するため、グローバル・スタディーズ研究科のディプロマ・ポリシーを踏まえ、本専攻博士前期課程では、所定の教育課程を修め、学位論文の審査に合格することで、次の資質・能力を身につけたと認められる者に学位を授与します。

#### 1. 専門家としての資質・研究倫理

gmDP1-1.

国際関係論の諸分野を中心として、関連分野も含め広範に知識を得ることにより、国際関係論が人間社会や地球環境に与える影響などを多面的にとらえる力

gmDP1-2

高い倫理観・規範意識を持って研究を進める力

#### 2. 高度な専門的知識

gmDP2-1.

地球環境・国際社会について幅広い問題に関心を持ち、国際関係の理解に、国際政治学、国際経済学、国際社会学・比較社会学、国際協力論といった学際的な視点や、国家や社会や地域に関する比較の視点からアプローチする力

gmDP2-2.

自己の研究成果を学術論文としてまとめて発信する力

#### 3. 社会を先導する力

gmDP3-1.

本課程で必要とされる高度な知識・技能を身につけて、国際関係論およびその関連領域の知識を理解し、現代の国際関係の事象またはグローバル・イシューを鋭利な問題意識と批判的精神で分析し、問題解決に向けて提言する力

gmDP3-2.

専門分野の研究内容について、適切な論理構成や整合性のある論理展開で、修士論文にまとめて発信する力

## Ⅱ. カリキュラム・ポリシー(教育課程の編成・実施の方針)

国際関係論専攻博士前期課程では、ディプロマ・ポリシーに示す資質・能力等の目標を学生が達成できるようにするため、教育課程編成、学修内容・学修方法、学修成果評価について、以下のようにカリキュラムを定めます。

### 1. 教育課程の編成方法

本課程では、専門分野についての高度な知識と様々な理論と実践を効果的に修得できるよう、以下のようにカリキュラムを編成しています。

- (1) 本課程では、学際的視点と比較の視点を修得すべく、国際政治・比較政治系と国際社会・国際協力系の履修群を二本柱とし、各群から一定の単位を修得し、国際関係論を体系的かつ幅広く研究することができます。
- (2) 国際政治・比較政治系では、国際関係論、国際政治学、比較政治学、平和研究、安全保障など国民国家の安全保障に関連する研究を行うことができます。国際社会・国際協力系では国際経済学、国際社会学・比較社会学、国際協力論など国民国家の枠を超えて、人の安全保障に関連する研究を行うことができます。また、自身の専攻以外の分野についても広く知識を修得するために、他専攻の科目の選択も可能です。
- (3) 各担当教員の下で修士論文作成のための指導を行います。
- (4) 研究倫理に関する規範意識を身につけるために、研究倫理教育を受ける機会を設けます。

### 2. 学修内容・学修方法

本課程の修了に必要な知識・技能を修得するため、講義・演習等を組み合わせた様々な授業形態・授業方法による学修・研究指導の機会を提供します。

さらに、課題設定等を通じて授業時間外の学修を促し、学修時間の確保と成果の定着を図ります。

- (1) 選択必修科目においては、学生は、国際政治・比較政治系では、国際関係論、国際政治学、比較政治学、平和研究、安全保障など国民国家の安全保障に関連する研究を行うことができます。国際社会・国際協力系では国際経済学、国際社会学・比較社会学、国際協力論など国民国家の枠を超えて、人の安全保障に関連する研究を行うことができます。また、自身の専攻以外の分野についても広く知識を修得するために、他専攻の科目の選択も可能です。これらの科目履修を通して人間・生命の尊厳への理解や、豊かな人間性を身につけます。
- (2) 「研究指導」においては、学生は修士論文の作成に取り組む際には、教員の指導を受けつつ、国際関係論の理論や先行研究理解を踏まえて、独自の問題関心にしたがって研究を遂行できます。そして国際社会が直面する諸問題に関する問題意識が明確かつテーマ設定が適切で、国際関係論およびその関連領域の知識の向上に寄与でき

るように、学位論文執筆を進めます。

- (3) 学生は博士前期課程での研究を発展させるべく、主指導教員と副指導教員の複数指導体制によって研究指導を受けます。学生は、複数の教員の指導によって幅広い知識と視野を得て、独自の研究を円滑に進めることができます。

### 3. 学修成果の評価方法

ディプロマ・ポリシーに示す目標に対する学生の学修到達状況は、シラバス等に明示された評価基準・方法に基づいて、レポートやプレゼンテーション等を用いて多角的に評価します。学位論文については、シラバス等に明示された審査基準と審査方法に基づき専攻の教員による論文の精査および口述試験を行い、結果を総合して厳正に審査します。

### Ⅲ. アドミッション・ポリシー(入学者受け入れの方針)

国際関係論専攻博士前期課程では、ディプロマ・ポリシーに定める人材を育成するため、求める学生像、入学前に身につけていることを求める能力、入学者選抜の方法について、以下のようにアドミッション・ポリシーを定めます。

#### 1. 求める学生像

本課程では、「他者のために、他者とともに」という本学の教育精神およびディプロマ・ポリシーに掲げる目標を踏まえ、次のような資質・能力を高めたいと望む学生を求めています。

- (1) 地球環境の保全と人々の安全を実現しようとする確固たる研究関心と知識
- (2) グローバル社会への貢献への強い意志と社会の変革に対応できる多角的な視座や問題解決能力
- (3) 高度な研究能力や専門性を活かして社会に貢献する力

#### 2. 入学前に身につけていることを求める能力

入学前には、次の知識・能力・態度を持つことを求めます。

- (1) 国際関係の諸問題を多角的に研究することを目標とし研究を行うための十分な能力
- (2) 専門的な研究を実施するために自身の研究の目的と手法について考察し、探究しようとする意欲
- (3) 本課程が求める基礎知識と論理的思考力
- (4) 研究を遂行する際に必要な語学力やコミュニケーション能力

#### 3. 入学者選抜の方法

入学者選抜の基本方針として、多様な学生を評価できる入試を提供します。アドミッション・ポリシーに定める「求める学生像」にふさわしい入学者を選抜するにあたり、「入学前に身につけていることを求める能力」を評価するため、出願書類、筆記試験、口述試験の結果により総合的に選抜を実施します。

## ■ 博士後期課程

### I. ディプロマ・ポリシー(学位授与の方針)

国際関係論専攻博士後期課程では、世界における平和と正義の問題に積極的に取り組み、戦争を防止し、多様で自由なグローバル社会を築けるような問題関心を持ち、国際関係論の観点から自立して研究活動を行う、または高度に専門的な業務に従事するために必要な高度な研究能力とその基礎となる豊かな学識を養う人材の育成を目的としています。

そうした目的を達成するため、グローバルスタ・ディーズ研究科のディプロマ・ポリシーを踏まえ、本専攻博士後期課程では、所定の教育課程を修め、学位論文の審査に合格することで、次の資質・能力を身につけたと認められる者に学位を授与します。

#### 1. 専門家としての資質・研究倫理

gdDP1-1.

国際関係論の分野を中心として、関連する学際分野なども含めて知識を得ることにより、国際関係論が人間社会や地球環境に与える影響などを多面的にとらえる力

gdDP1-2.

高い倫理観・規範意識を持ちつつ、対象分野に関する新しい知見の発見、ないしは既存の知見に対する新しい解釈を提示する力

#### 2. 高度な専門的知識

gdDP2-1.

国際関係論の分野で自己の研究課題を設定し、それを解決するための高度な研究能力

gdDP2-2.

国際関係論の分野で自立的に活躍できる専門知識を身につけるとともに、社会の発展に寄与する創造的な研究開発を行う力

#### 3. 社会を先導する力

gdDP3-1.

自己の研究成果を社会に還元し、持続可能な社会の実現に貢献する力

gdDP3-2.

専門分野を中心に高い専門性や独創性のある研究を行い、それらを専門分野に貢献できる博士論文にまとめ、国内外で発信する力

## Ⅱ. カリキュラム・ポリシー(教育課程の編成・実施の方針)

国際関係論専攻博士後期課程では、ディプロマ・ポリシーに示す資質・能力等の目標を学生が達成できるようにするため、教育課程編成、学修内容・学修方法、学修成果評価について、以下のようにカリキュラム・ポリシーを定めます。

### 1. 教育課程の編成方法

本課程では、研究分野に特化した知識と様々な理論と実践を効果的に修得できるよう、以下のようにカリキュラムを編成しています。

- (1) 博士論文作成のための「研究指導」を配置します。
- (2) 研究倫理に関する規範意識を身に付けるために、「研究指導」において適切な指導を行います

### 2. 学修内容・学修方法

本課程の修了に必要な知識・技能を修得するため、講義・演習等を組み合わせた様々な授業形態・授業方法による学修・研究指導の機会を提供します。

さらに、課題設定等を通じて授業時間外の学修を促し、学修時間の確保と成果の定着を図ります。

- (1) 本課程では、学際的な研究を遂行できるように複数の専門領域を学ぶことを学生に期待しています。博士論文の第一段階では、複数の専門科目に関する幅広い知識と視野を得ることを目指します。所定の数の単位の修得をした上で、国際関係論で開設されている2科目を選択して受験する「博士論文資格試験」により、論文執筆に必要な専門分野の知識を十分に修得できたか否かの判定を受けます。
- (2) 博士論文の第二段階では、指導教員の指導によって独自の「博士論文計画書」の作成を目指します。学会での報告や学会誌への投稿を行いつつ、それらの研究成果に基づき具体的で体系的な博士論文執筆計画書を作成し、審査を受けます。審査合格後、最終の博士論文執筆の段階に至ります。
- (3) 学生は、上記の学修内容を履修しつつ、指導教授やその他の教員と相談しながら、博士論文の執筆を進めます。学外では学会発表や論文発表を行うことで博士論文の内容の充実を図っていきます。

### 3. 学修成果の評価方法

ディプロマ・ポリシーに示す目標に対する学生の学修到達状況は、シラバス等に明示された評価基準・方法に基づき、筆記試験、プレゼンテーション、レポート等を用いて多角的に評価します。学位論文については、審査基準と審査方法を明示し、それに基づき学位論文審査委員会による論文審査および最終試験を厳格に行います。

### Ⅲ. アドミッション・ポリシー(入学者受け入れの方針)

国際関係論専攻博士後期課程では、ディプロマ・ポリシーに定める人材育成のため、求める学生像、入学前に身につけていることを求める能力、入学者選抜の方法について、以下のよう  
にアドミッション・ポリシーを定めます。

#### 1. 求める学生像

本課程では、「他者のために、他者とともに」という本学の教育精神およびディプロマ・ポ  
リシーに掲げる目標を踏まえ、次のような資質・能力を高めたいと望む学生を求めています。

- (1) グローバル社会、グローバル政治、グローバル経済の諸問題の研究をとおして、今日  
の国際社会が直面する諸問題の解決に積極的に貢献できると期待しうる研究能力と  
学識
- (2) 社会の変革に対応できる多角的な視座や課題解決力
- (3) 高度な研究能力や専門性を活かして社会に貢献する力

#### 2. 入学前に身につけていることを求める能力

入学前には、次の知識・能力・態度を持つことを求めます。

- (1) 「求める学生像」に掲げる資質・能力を高めながら優秀な博士論文を執筆し、博士号  
を取得する意志と能力
- (2) 専門的な研究を実施するために自身の研究の目的と手法について考察し、探究しよ  
うとする意欲
- (3) 本課程が求める基礎知識と論理的思考力
- (4) 研究を遂行する際に必要な語学力やコミュニケーション能力

#### 3. 入学者選抜の方法

入学者選抜の基本方針として、多様な学生を評価できる入試を提供します。アドミッショ  
ン・ポリシーに定める「求める学生像」にふさわしい入学者を選抜するにあたり、「入学前に身  
につけていることを求める能力」を評価するため、出願書類、筆記試験、口述試験の結果に  
より総合的に選抜を実施します。

入学者選抜方法の詳細は大学院入学試験のHPをご覧ください。

[https://adm.sophia.ac.jp/jpn/in\\_ad/innyushi/](https://adm.sophia.ac.jp/jpn/in_ad/innyushi/)

## 地域研究専攻の3つのポリシー

### ■ 博士前期課程

#### I. ディプロマ・ポリシー（学位授与の方針）

地域研究専攻博士前期課程は、現場の視点を重視した地域立脚型のアプローチに基づき、歴史的・文化的背景に配慮しながら、グローバル・イシューを分析し、その解決を目指すフィールドワークの力量を有する人材の養成を目的としています。

そうした目的を達成するため、グローバル・スタディーズ研究科のディプロマ・ポリシーを踏まえ、本専攻博士前期課程では、所定の教育課程を修め、学位論文の審査に合格することで、次の資質・能力を身につけたと認められる者に学位を授与します。

#### 1. 専門家としての資質・研究倫理

gmDP1-1.

東アジア、東南アジア、南アジア、中東、アフリカ、ヨーロッパ、ラテンアメリカの各地域の言語を用い、フィールドワークを基盤として地域の諸課題を多面的にとらえる力

gmDP1-2.

高い倫理観・規範意識を持って研究を進める力

#### 2. 高度な専門的知識

gmDP2-1.

国単位ではなく、国境を越えた地域の視点で、グローバルな諸現象を学術的に解明する力

gmDP2-2.

複数の学問を組み合わせた学際的な研究によって、既存の学問ではとらえきれない課題を分析する力

#### 3. 社会を先導する力

gmDP3-1.

自己の研究成果を社会に還元し、地域社会の多様性とグローバルな市民社会を支える力

gmDP3-2.

専門分野に関して十分な先行研究の精査を行った上で、的確な論文構成や整合性のある論理展開により修士論文にまとめて発信する力

## Ⅱ. カリキュラム・ポリシー(教育課程の編成・実施の方針)

地域研究専攻博士前期課程では、ディプロマ・ポリシーに示す資質・能力等の目標を学生が達成できるようにするため、教育課程編成、学修内容・学修方法、学修成果評価について、以下のようにカリキュラム・ポリシーを定めます。

### 1. 教育課程の編成方法

本課程では、専門分野についての高度な知識と様々な理論と実践を効果的に修得できるよう、以下のようにカリキュラムを編成しています。

- (1) 地域研究の基盤を作るための方法論や視点を養う基礎科目として「地域研究方法論」、「地域調査方法論」、「生態人類学」の3つの科目と、修士論文作成のための「研究指導」を必修としています。
- (2) 特定地域に特化した選択科目以外に、研究対象とする地域や方法論の相対化を促すために「地域からみたグローバリゼーション」などを地域間比較科目として配置しています。その他、自身の専攻以外の分野についても広く知識を修得するために、他専攻や他研究科の科目、分野横断型科目を履修できます。
- (3) 研究倫理に関する規範意識を身につけるために、研究倫理教育を受ける機会を設けます。

### 2. 学修内容・学修方法

本課程の修了に必要な知識・技能を修得するため、講義・演習等を組み合わせた様々な授業形態・授業方法による学修・研究指導の機会を提供します。

さらに、課題設定等を通じて授業時間外の学修を促し、学修時間の確保と成果の定着を図ります。

- (1) 講義では研究手法等、演習では対象地域における先行研究を踏まえた議論を重ねることによって、研究を展開するために必要な思考力を深めるとともに、適切な研究の方法論を身につけます。
- (2) 「研究指導」では、修士論文の執筆のために、指導教員を中心とする論文指導を受けます。研究に必要な知識と、現地調査の手法やプレゼンテーション能力を身につけます。
- (3) 現地調査の準備から、計画の作成、調査の実施、報告までの過程について複数の教員が指導する選択科目「フィールドワーク1」および「フィールドワーク2」などの履修を通じてフィールドワークを実践する力をつけます。

### 3. 学修成果の評価方法

ディプロマ・ポリシーに示す目標に対する学生の学修到達状況は、シラバス等に明示された評価基準・方法に基づき、プレゼンテーションやレポート等を用いて多角的に評価します。

学位論文については、審査基準と審査方法を明示し、それに基づき学位論文審査委員会による論文審査および最終試験を厳格に行います。

### Ⅲ. アドミッション・ポリシー(入学者受入れの方針)

地域研究専攻博士前期課程では、ディプロマ・ポリシーに定める人材を育成するため、求める学生像、入学前に身につけていることを求める能力、入学者選抜の方法について、以下のように入学者選抜の方針を定めます。

#### 1. 求める学生像

本課程では、「他者のために、他者とともに」という本学の教育精神およびディプロマ・ポリシーに掲げる目標を踏まえ、次のような資質・能力を高めたいと望む学生を求めています。

- (1) 東アジア、東南アジア、南アジア、中東、アフリカ、ヨーロッパ、ラテンアメリカなど諸地域における固有の現象や問題、ならびにグローバルな諸課題を理解するための専門的知識や技能、および研究に必要な言語運用能力
- (2) 学問的な探求心を課題解決に展開する論理的思考力
- (3) 専門知識や技能、言語運用能力を活かして社会に貢献する力

#### 2. 入学前に身につけていることを求める能力

入学前には、次の知識・能力・態度を持つことを求めます。

- (1) 東アジア、東南アジア、南アジア、中東、アフリカ、ヨーロッパ、ラテンアメリカなどの諸地域に関する基礎知識、固有の現象や問題、ならびにグローバルな諸課題への強い関心
- (2) 専門的な研究を実施するために自身の研究の目的と手法について考察し、探究しようとする意欲と論理的思考力
- (3) 研究を遂行する際に必要な語学力やコミュニケーション能力

#### 3. 入学者選抜の方法

入学者選抜の基本方針として、複数の受験機会や多様な学生を評価できる入試を提供します。アドミッション・ポリシーに定める「求める学生像」にふさわしい入学者を選抜するにあたり、「入学前に身につけていることを求める能力」を評価するため、出願書類、筆記試験、口述試験の結果により総合的に選抜を実施します。

入学者選抜方法の詳細は大学院入学試験のHPをご覧ください。

[https://adm.sophia.ac.jp/jpn/in\\_ad/innyushi/](https://adm.sophia.ac.jp/jpn/in_ad/innyushi/)

## ■ 博士後期課程

### I. ディプロマ・ポリシー（学位授与の方針）

地域研究専攻博士後期課程は、グローバル・イシューの課題解決のための適切かつ独創的な地域へのアプローチと方法論に基づき、関連学問分野の発展に貢献する高度な学術水準を満たした研究や教育に従事する人材の育成を目的としています。

そうした目的を達成するため、グローバル・スタディーズ研究科のディプロマ・ポリシーを踏まえ、本専攻博士後期課程では、所定の教育課程を修め、学位論文の審査に合格することで、次の資質・能力を身につけたと認められる者に学位を授与します。

#### 1. 専門家としての資質・研究倫理

gdDP1-1.

研究対象地域における固有の課題を中心に、関連する学問分野も含めた知識をもとに、研究課題の解明に必要な言語の運用とフィールドワークを通じて地域の諸課題を多面的にとらえる力

gdDP1-2.

高い倫理観・規範意識を持って研究を進める力

#### 2. 高度な専門的知識

gdDP2-1.

学際的な共同研究を視野に入れて研究課題を設定し、学術的に貢献する力

gdDP2-2.

研究対象地域に関する幅広い専門知識をもとに、グローバル・イシューの解決に寄与する力

#### 3. 社会を先導する力

gdDP3-1.

自己の研究成果を社会に還元し、グローバル・イシューの分析や解決に貢献する力

gdDP3-2.

高い専門性に基づく方法論や知識をもとに研究を展開し、独自性がある博士論文をまとめ、国内外で発信する力

## II. カリキュラム・ポリシー(教育課程の編成・実施の方針)

地域研究専攻博士後期課程では、ディプロマ・ポリシーに示す資質・能力等の目標を学生が達成できるようにするため、教育課程編成、学修内容・学修方法、学修成果評価について、以下のようにカリキュラム・ポリシーを定めます。

### 1. 教育課程の編成方法

本課程では、専門分野における専門知識と様々な理論と実践を効果的に修得できるよう、以下のようにカリキュラムを編成しています。

- (1) フィールドワークによる独創的な資料の入手および研究手法を確立するために、主査となる指導教員による個別の「研究指導」を配置します。
- (2) 研究テーマを多角的に究めるために、副査をはじめ複数の教員が指導にあたります。
- (3) 研究倫理に関する規範意識を身につけるために、研究倫理教育を受ける機会を設けます。

### 2. 学修内容・学修方法

本課程の修了に必要な知識・技能を修得するため、演習と研究指導等を組み合わせた様々な授業形態・授業方法による学修・研究指導の機会を提供します。

さらに、授業外における課題設定等を通じて授業時間外の学修を促し、学修時間の確保と成果の定着を図ります。

- (1) 演習では、他分野、他地域を研究対象とする院生と幅広く議論することにより、課題発見能力を養います。
- (2) 「研究指導」では、博士論文執筆のために、指導教員を中心とする論文指導を受けます。その過程で、研究に必要な言語運用能力と、論理的思考力を身につけます。

### 3. 学修成果の評価方法

ディプロマ・ポリシーに示す目標に対する学生の学修到達状況は、シラバス等に明示された評価基準・方法に基づき、プレゼンテーションやレポート等を用いて多角的に評価します。学位論文については、審査基準と審査方法を明示し、それに基づき学位論文審査委員会による論文審査および最終試験を厳格に行います。

### Ⅲ. アドミッション・ポリシー(入学者受入れの方針)

地域研究専攻博士後期課程では、ディプロマ・ポリシーに定める人材を育成するため、求める学生像、入学前に身につけていることを求める能力、入学者選抜の方法について、以下のよう  
にアドミッション・ポリシーを定めます。

#### 1. 求める学生像

本課程では、「他者のために、他者とともに」という本学の教育精神およびディプロマ・ポリシーで掲げる目標を踏まえ、次のような資質・能力を高めたいと望む学生を求めています。

- (1) 東アジア、東南アジア、南アジア、中東、アフリカ、ヨーロッパ、ラテンアメリカなど諸地域に関する幅広い専門的知識や技能、および資料の入手や分析に必要な高度な言語運用能力
- (2) 研究課題の解明に不可欠な多角的な視座や研究遂行力
- (3) 学術的な専門知識や技能、高い言語運用能力を活かして、地域社会および国際社会に貢献する力

#### 2. 入学前に身につけていることを求める能力

入学前には、次の知識・能力・態度を持つことを求めます。

- (1) 東アジア、東南アジア、南アジア、中東、アフリカ、ヨーロッパ、ラテンアメリカなどの諸地域に関する専門知識、固有の現象や問題、ならびにグローバルな諸課題への強い関心
- (2) 高度な研究を実施するために自身の研究の目的と手法について考察し、国内外の研究動向を探究しようとする意欲と論理的思考力
- (3) 研究を遂行する際に必要な高い言語運用力やコミュニケーション能力

#### 3. 入学者選抜の方法

入学者選抜の基本方針として、多様な学生を評価できる入試を提供します。アドミッション・ポリシーに定める「求める学生像」にふさわしい入学者を選抜するにあたり、「入学前に身につけていることを求める能力」を評価するため、出願書類、口述試験の結果により総合的に選抜を実施します。

入学者選抜方法の詳細は大学院入学試験のHPをご覧ください。

[https://adm.sophia.ac.jp/jpn/in\\_ad/innyushi/](https://adm.sophia.ac.jp/jpn/in_ad/innyushi/)

## Three Policies of the Graduate Program in Global Studies(GPGS)

### ■ Master's Program

#### **I. Diploma Policy (Degree Conferral Policy)**

The Graduate Program in Global Studies (GPGS) explores societal, cultural, and economic developments in a globalizing world. Students may pursue an M.A. degree in one of three Areas: Global Studies, Japanese Studies, or International Business and Development Studies. Each Area aims to educate scholars and professionals with research capabilities in their specialized fields and global perspectives required for working in diverse contexts.

Following the diploma policy of the Graduate School of Global Studies, the M.A. degree is granted to students who have completed the prescribed curriculum in their chosen area and produced a M.A. thesis or graduation project with a passing grade, thereby demonstrating the following abilities:

#### **1. Professional Qualities and Research Ethics**

gmDP1-1.

The ability to address the various challenges facing humanity in the context of globalization by acquiring broad interdisciplinary background knowledge relevant to the study of Global Studies, Japanese Studies, or International Business and Development Studies.

gmDP1-2.

The ability to conduct research with a high level of ethical principles.

#### **2. Specialized Knowledge**

gmDP2-1.

The ability to apply appropriate methods and in-depth knowledge to identify and address research problems in their chosen area of study.

gmDP2-2.

The ability to appropriately evaluate and interpret academic research and explain how their own results contribute to academic research and society more broadly.

### **3.Leadership in Society**

gmDP3-1.

The ability to utilize expert knowledge and training to contribute to global society, and to assume leadership roles in various social arenas, such as education, business, and community development.

gmDP3-2.

The ability to present research findings in a master's thesis or graduation project that demonstrates clear structure, logical development, and expertise in the field.

## **II. Curriculum Policy (Curriculum Design and Implementation Policy)**

In the GPGS M.A. Program, the curriculum policy is designed to help students achieve the goals outlined in the diploma policy. These goals include developing specific skills and abilities. This policy covers curriculum development, learning content and methods, and the method of evaluation of learning outcomes.

### **1. Curriculum Design and Organization**

The curriculum is designed for students to effectively acquire specialized and general knowledge across a wide range of disciplines taught within the areas of Global Studies, Japanese Studies, and International Business and Development Studies.

- (1) Foundational and core courses in each of the three areas introduce students to a wide range of perspectives that comprise the interdisciplinary areas of Global Studies, Japanese Studies, and International Business and Development Studies.
- (2) Specialized seminars are offered as elective courses to gain knowledge in specific topics within each area. To broaden their knowledge beyond their specializations, students may take courses from other areas in the GPGS or other programs in the Graduate School of Global Studies.
- (3) M.A. students may complete their degree on the “thesis track” or “credit track.” The thesis track offers an opportunity for more intensive guidance from the student’s supervising professor on a research paper. The credit track offers an opportunity for additional coursework and a graduation project guided by the supervisor.
- (4) Opportunities for learning about research ethics will be provided to help students gain a strong sense of ethical responsibility in research.

### **2. Learning Content and Methods**

The program helps students develop knowledge and skills through various educational formats, including lectures, seminars, and tutorials, with opportunities for research guidance. Student-led workshops,

fieldwork, and other activities beyond the classroom provide opportunities to develop advanced academic skills.

- (1) In foundational and core courses, students gain an understanding of general concepts and develop the critical thinking skills necessary for graduate study.
- (2) In specialized seminars, students deepen their knowledge and understanding of theories necessary for research through readings, discussions, methodological training, writing, presentations, and practical activities.
- (3) Students receive guidance from the supervising professor while writing a thesis or producing a graduation project. The supervisor provides constructive feedback to foster research and presentation skills.

### **3.Methods for Assessing Learning Outcomes**

Student achievement of the goals in the Diploma Policy is assessed through appropriate course grading. All evaluations are based on the criteria and methods stated in the syllabus. M.A. theses and graduation projects are evaluated by supervising faculty members according to the academic standards of the area.

### **III. Admission Policy (Student Admissions Policy)**

In the GPGS M.A. Program, the following admission policy has been established to identify candidates for the educational programs defined in the diploma policy, specifying the desired student profile, the expected competencies prior to admission, and the admissions screening methods.

#### **1.Desired Student Profile**

Based on the university's educational spirit, "For Others, With Others," and the goals outlined in the diploma policy, the GPGS seeks students who are prepared to develop the following qualities and abilities:

- (1) Specialized knowledge and skills, as well as general education relevant to the specific area in the GPGS.
- (2) Language abilities required for graduate study as well as a high level of academic abilities relevant to their proposed area of study.
- (3) The willingness to contribute to society.

#### **2.Expected Competencies Prior to Admission**

Applicants are expected to possess the following knowledge, abilities, and attitudes before enrollment:

- (1) A strong background in and demonstrated interest in the fields taught by faculty in the relevant area in the GPGS.
- (2) Fundamental knowledge and logical thinking skills demonstrated through previous academic studies.
- (3) English language proficiency and communication skills necessary for conducting research. Additional language skills may be required depending on the proposed area of study.

#### **3.Admissions Screening Methods**

The selection policy aims to create fair admission opportunities for a diverse range of students. A committee of professors conducts a comprehensive evaluation, reviewing application documents and assessing a wide range of abilities, to select students who meet the profile outlined in the admission policy.

For detailed information on the selection process, please refer to the graduate school admissions website:

Three Policies of the Graduate Program in Global Studies(GPGS)  
Master's Program

III. Admission Policy (Student Admissions Policy)

[https://adm.sophia.ac.jp/eng/admissions/graduate\\_p/english\\_g2/gs/](https://adm.sophia.ac.jp/eng/admissions/graduate_p/english_g2/gs/)

## ■ Doctoral Program

### **I. Diploma Policy (Degree Conferral Policy)**

The Graduate Program in Global Studies (GPGS) explores societal, cultural, and economic developments in a globalizing world. Students may pursue a Ph.D. degree in one of two Areas: Global Studies or Japanese Studies. Each Area aims to educate scholars and professionals with research capabilities in their specialized fields and global perspectives required for working in diverse contexts.

Following the diploma policy of the Graduate School of Global Studies, the Ph.D. degree is granted to students who have completed the prescribed curriculum in their chosen area and successfully defended a completed Ph.D. dissertation, thereby demonstrating the following abilities:

#### **1. Professional Qualities and Research Ethics**

gdDP1-1.

The ability to address the various challenges facing humanity in the context of globalization by acquiring broad interdisciplinary background knowledge relevant to the study of Global Studies or Japanese Studies.

gdDP1-2.

The ability to conduct advanced and innovative research with a high level of ethical principles.

gdDP1-3.

The ability to organize research findings in the form of conference presentations, journal articles, or other appropriate academic publications in their chosen area of study.

#### **2. Advanced Specialized Knowledge**

gdDP2-1.

The ability to apply appropriate methods and in-depth knowledge to identify and address challenging and complex research problems in their chosen area of study.

gdDP2-2.

The ability to comprehensively evaluate and interpret academic research and explain how their own research results contribute to academic research and society more broadly.

### **3. Leadership in Society**

gdDP3-1.

The ability to utilize expert knowledge and training to contribute to global society and to assume leadership roles in academia and other professional arenas, such as education, business, and community development.

gdDP3-2.

The ability to compile and communicate one's research findings in the form of a Ph.D. dissertation that makes an original and important contribution to broader human knowledge and to the specialized field.

gdDP3-3.

The ability to participate in professional academic life through workshops, conferences, publications, and activities that disseminate academic knowledge to a broader public.

## **II. Curriculum Policy (Curriculum Design and Implementation Policy)**

In the GPGS Ph.D. Program, the curriculum policy is designed to help students achieve the goals outlined in the diploma policy. These goals include developing specific skills and abilities. This policy covers curriculum development, learning content and methods, and the method of evaluation of learning outcomes.

### **1. Curriculum Design and Organization**

The curriculum is designed for students to effectively acquire specialized and general knowledge across a wide range of disciplines taught within the areas of Global Studies and Japanese Studies.

- (1) Students complete relevant coursework to gain knowledge in specific topics within their chosen fields.
- (2) Students complete qualifying exams to ensure their readiness to conduct research in their respective fields.
- (3) Ph.D. supervisors advise students throughout the process of planning, researching, and writing the Ph.D. dissertation.
- (4) Opportunities for learning about research ethics will be provided to help students gain a strong sense of ethical responsibility in research.

### **2. Learning Content and Methods**

The program helps students develop knowledge and skills through various educational formats, including lectures, seminars, and tutorials. Student-led workshops, conferences, fieldwork, and other activities beyond the classroom provide opportunities to develop advanced academic skills.

- (1) Through course work students gain specialized knowledge in their respective fields.
- (2) Through preparation for qualifying exams, students gain the broad and deep academic knowledge required for writing a Ph.D. dissertation.
- (3) While writing a Ph.D. dissertation, students receive guidance from their supervising professor. The supervisor provides detailed feedback to improve the quality of the research, while also helping

students develop essential skills such as data analysis, critical thinking, and presentation abilities.

### **3.Methods for Assessing Learning Outcomes**

Student achievement of the goals in the Diploma Policy is assessed through appropriate course grading. All evaluations are based on the criteria and methods stated in the syllabus. Ph.D. dissertations are evaluated according to the academic standards of the area by a committee of scholars, one of whom must be outside the GPGS.

### **III. Admission Policy (Student Admissions Policy)**

In the GPGS Ph.D. Program, the following admission policy has been established to identify candidates for the educational programs defined in the diploma policy, specifying the desired student profile, the expected competencies prior to admission, and the admissions screening methods.

#### **1.Desired Student Profile**

Based on the university's educational spirit, "For Others, With Others," and the goals outlined in the diploma policy, the GPGS seeks students who are prepared to develop the following qualities and abilities:

- (1) Specialized knowledge and skills, as well as a broad academic education relevant to their plan of study.
- (2) Language abilities required for graduate study as well as a high level of academic abilities relevant to their plan of study.
- (3) A deep commitment to academic research and a willingness to contribute to society.

#### **2.Expected Competencies Prior to Admission**

Applicants are expected to possess the following knowledge, abilities, and attitudes before enrollment:

- (1) A strong background in and demonstrated interest in the fields taught by faculty in the relevant area in the GPGS.
- (2) Fundamental knowledge and logical thinking skills demonstrated through previous academic studies.
- (3) English language proficiency and communication skills necessary for conducting research. Additional language skills may be required depending on the proposed area of study.
- (4) A clearly structured and grounded research plan and demonstrated commitment to academic research.

#### **3.Admissions Screening Methods**

The selection policy aims to create fair admission opportunities for a diverse range of students. A committee of professors conducts a comprehensive evaluation, reviewing application documents and assessing a wide range of abilities, to select students who meet the profile outlined in the admission policy.

For detailed information on the selection process, please refer to the graduate school admissions website:

[https://adm.sophia.ac.jp/eng/admissions/graduate\\_p/english\\_g2/gs/](https://adm.sophia.ac.jp/eng/admissions/graduate_p/english_g2/gs/)

## Three Policies of the Graduate Program in Global Studies Master's in Japanese Studies (Japanese Studies Area)

### ■ Master's Program

#### I. Diploma Policy (Degree Conferral Policy)

The M.A. course in Japanese Studies in the Graduate Program in Global Studies (GPGS) focuses on the study of Japan in a regional and global context. The curriculum aims to educate scholars with specialized research capabilities and broad knowledge of topics within Japanese studies.

Following the diploma policy of the GPGS, the M.A. degree in Japanese Studies is granted to students who have completed the prescribed curriculum and produced a M.A. thesis or graduation project with a passing grade, thereby demonstrating the following abilities:

#### 1. Professional Qualities and Research Ethics

gmDP1-1.

The ability to understand Japan in a regional and global context by acquiring broad background knowledge on relevant issues facing Japan and diverse theoretical and practical approaches for engaging with them.

gmDP1-2.

The ability to conduct research with a high level of ethical principles.

#### 2. Specialized Knowledge

gmDP2-1.

The ability to apply appropriate methods and in-depth knowledge to identify and address research problems in Japanese studies.

gmDP2-2.

The ability to appropriately evaluate and interpret academic research and explain their own results contribute to academic research and society more broadly.

#### 3. Leadership in Society

gmDP3-1.

The ability to utilize expert knowledge and training to contribute to society, and take on leadership roles in various social arenas, such as education, cultural exchange, public policy, and community development.

gmDP3-2.

The ability to present research findings in a master's thesis or graduation project that demonstrates clear structure, logical development, and expertise in the field.

## **II. Curriculum Policy (Curriculum Design and Implementation Policy)**

In the M.A. Area in Japanese Studies, the following curriculum policy is designed to help students achieve the goals outlined in the diploma policy. These goals include developing specific skills and abilities. This policy covers curriculum development, learning content and methods, and the method of evaluation of learning outcomes.

### **1. Curriculum Design and Organization**

The curriculum is designed for students to effectively acquire generalized knowledge across a wide range of disciplines taught within the area of Japanese studies, as well as specialized methods, theories, and practices for conducting research on a topic in Japanese studies.

- (1) "Introduction to Japanese Studies" is a required course that introduces students to fundamental research methods and to key issues in Japanese studies.
- (2) Students can take specialized seminars in specific topics in Japanese Studies as elective courses. To broaden their knowledge beyond their specialization, students may take courses from other areas in the GPGS or other programs in the Graduate School of Global Studies.
- (3) Students may complete their degree on the "thesis track" or "credit track." The thesis track offers an opportunity for more intensive guidance from the student's supervising professor on a research paper. The credit track offers an opportunity for additional coursework and a graduation project guided by the supervisor.
- (4) "Thesis Seminar" and "Graduation Project" are mandatory courses that support the completion of the master's thesis or the graduation project.
- (5) Opportunities for learning about research ethics will be provided to help students gain a strong sense of ethical responsibility in research.

### **2. Learning Content and Methods**

The program helps students develop knowledge and skills through

various educational formats, including lectures, seminars, and tutorials, with opportunities for research guidance. Student-led workshops, fieldwork, and other activities beyond the classroom provide opportunities to develop advanced academic skills.

- (1) In "Introduction to Japanese Studies," students are introduced to fundamental research methods and key issues in Japanese studies.
- (2) In other specialized seminars, students deepen their knowledge and understanding of theories necessary for research through readings, discussions, methodological training, writing, presentations, and practical activities.
- (3) Students receive guidance from the supervising professor while writing a thesis or producing a graduation project. The supervisor provides constructive feedback to foster research and presentation skills.

### **3.Methods for Assessing Learning Outcomes**

Student achievement of the goals in the Diploma Policy is assessed through appropriate course grading. All evaluations are based on the criteria and methods stated in the syllabus. M.A. theses and graduation projects are evaluated by supervising faculty members according to the academic standards of the area.

### **III. Admission Policy (Student Admissions Policy)**

In the M.A. Area in Japanese Studies, the following admission policy has been established to identify candidates for the educational programs defined in the diploma policy, specifying the desired student profile, the expected competencies prior to admission, and the admissions screening methods.

#### **1.Desired Student Profile**

Based on the university's educational spirit, "For Others, With Others," and the goals outlined in the diploma policy, the program seeks students who are prepared to develop the following qualities and abilities:

- (1) Specialized knowledge and skills, as well as general education relevant to Japanese Studies.
- (2) Language abilities required for graduate study as well as a high level of academic abilities relevant to their proposed area of study.
- (3) The willingness to contribute to society.

#### **2.Expected Competencies Prior to Admission**

Applicants are expected to possess the following knowledge, abilities, and attitudes before enrollment:

- (1) A strong background in and demonstrated interest in the fields taught by faculty in the M.A. Program in Japanese Studies.
- (2) Fundamental knowledge and logical thinking skills demonstrated through previous academic studies.
- (3) English and Japanese language proficiency and communication skills necessary for conducting research. Additional language skills may be required depending on the proposed area of study.

#### **3.Admissions Screening Methods**

The selection policy aims to create fair admission opportunities for a diverse range of students. A committee of professors conducts a comprehensive evaluation, reviewing application documents and assessing a wide range of abilities, to select students who meet the profile outlined in the admission policy.

For detailed information on the selection process, please refer to the graduate school admissions website:

[https://adm.sophia.ac.jp/eng/admissions/graduate\\_p/english\\_g2/gs/](https://adm.sophia.ac.jp/eng/admissions/graduate_p/english_g2/gs/)

## Three Policies of the Graduate Program in Global Studies Ph.D. in Japanese Studies (Japanese Studies Area)

### ■ Doctoral Program

#### I. Diploma Policy (Degree Conferral Policy)

The Ph.D. course in Japanese Studies in the Graduate Program in Global Studies (GPGS) focuses on the study of Japan in regional and global contexts. The Ph.D. course in Japanese Studies prepares candidates for academic positions in Japanese Studies programs or for other academic and research positions.

Following the diploma policy of the GPGS, the Ph.D. degree in Japanese Studies is granted to students who have completed the prescribed curriculum and successfully defended a completed Ph.D. dissertation, thereby demonstrating the following abilities:

#### 1. Professional Qualities and Research Ethics

gdDP1-1.

The ability to understand Japan in a transnational, regional, and global contexts by acquiring broad interdisciplinary background on relevant issues facing Japan and theoretical approaches to them.

gdDP1-2.

The ability to conduct advanced and innovative research with a high level of ethical principles.

gdDP2-3.

The ability to organize research findings in the form of conference presentations, academic journal articles, or other appropriate publications in the specialized field.

#### 2. Advanced Specialized Knowledge

gdDP2-1.

The ability to apply appropriate methods and in-depth knowledge to identify and address challenging and complex research problems in Japanese studies.

gdDP2-2.

The ability to comprehensively evaluate and interpret academic

research and explain how their own research results contribute to academic research and society more broadly.

### **3. Leadership in Society**

gdDP3-1.

The ability to utilize expert knowledge and training to contribute to assume leadership roles in academia and other professional arenas, such as museums, government organizations, etc.

gdDP3-2.

The ability to compile and communicate one's research findings in the form of a Ph.D. dissertation that makes an original and important contribution to broader human knowledge and to the specialized field.

gdDP3-3.

The ability to participate in professional academic life through workshops, conferences, publications, and activities that disseminate academic knowledge to a broader public.

## **II. Curriculum Policy (Curriculum Design and Implementation Policy)**

In the Ph.D. Program in Japanese Studies, the curriculum policy is designed to help students achieve the goals outlined in the diploma policy. These goals include developing specific skills and abilities. This policy covers curriculum development, learning content and methods, and the method of evaluation of learning outcomes.

### **1. Curriculum Design and Organization**

The curriculum is designed for students to effectively acquire generalized knowledge across a wide range of disciplines taught within the area of Japanese studies, as well as specialized methods, theories, and practices for conducting research on a topic within the scope of Japanese studies.

- (1) Students complete relevant coursework to gain knowledge in specific topics within Japanese studies.
- (2) Students complete qualifying exams consisting of three parts: a language exam, three disciplinary exams, and an oral exam.
- (3) Ph.D. supervisors advise students throughout the process of planning, researching, and writing the Ph.D. dissertation.
- (4) Opportunities for learning about research ethics will be provided to help students gain a strong sense of ethical responsibility in research.

### **2. Learning Content and Methods**

The program helps students develop knowledge and skills through various educational formats, including lectures, seminars, and tutorials. Student-led workshops, conferences, fieldwork, and other activities beyond the classroom provide opportunities to develop advanced academic skills.

- (1) Through course work students gain a specialized knowledge in Japanese studies.
- (2) Through preparation for qualifying exams, students gain the broad and deep academic knowledge required for writing a Ph.D. dissertation in Japanese studies.
- (3) While writing a Ph.D. dissertation, students receive guidance from

their supervising professor. The supervisor provides detailed feedback to improve the quality of the research, while also helping students develop essential skills such as data analysis, critical thinking, and presentation abilities.

### **3.Methods for Assessing Learning Outcomes**

Student achievement of the goals in the Diploma Policy is assessed through appropriate course grading. All evaluations are based on the criteria and methods stated in the syllabus. Ph.D. dissertations are evaluated according to the academic standards of the area by a committee of scholars, one of whom must be outside the GPGS.

### **III. Admission Policy (Student Admissions Policy)**

In the Ph.D. Program in Japanese Studies, the following admission policy has been established to identify candidates for the educational programs defined in the diploma policy, specifying the desired student profile, the expected competencies prior to admission, and the admissions screening methods.

#### **1.Desired Student Profile**

Based on the university's educational spirit, "For Others, With Others," and the goals outlined in the diploma policy, the program seeks students who are prepared to develop the following qualities and abilities:

- (1) Specialized knowledge and skills, as well as a broad academic education relevant to their plan of study.
- (2) Language abilities required for graduate study as well as a high level of academic abilities relevant to their plan of study.
- (3) A deep commitment to academic research and a willingness to contribute to society.

#### **2.Expected Competencies Prior to Admission**

Applicants are expected to possess the following knowledge, abilities, and attitudes before enrollment:

- (1) A strong background in Japanese Studies and demonstrated interest in the fields taught by faculty in the Ph.D. Program in Japanese Studies.
- (2) Fundamental knowledge and logical thinking skills demonstrated through previous academic studies.
- (3) English and Japanese language proficiency and communication skills necessary for conducting research. Additional language skills may be required depending on the proposed area of study.
- (4) A clearly structured and grounded research plan and demonstrated commitment to academic research.

#### **3.Admissions Screening Methods**

The selection policy aims to create fair admission opportunities for a diverse range of students. A committee of professors conducts a

comprehensive evaluation, reviewing application documents and assessing a wide range of abilities, to select students who meet the profile outlined in the admission policy.

For detailed information on the selection process, please refer to the graduate school admissions website:

[https://adm.sophia.ac.jp/eng/admissions/graduate\\_p/english\\_g2/gs/](https://adm.sophia.ac.jp/eng/admissions/graduate_p/english_g2/gs/)

## Three Policies of the Graduate Program in Global Studies Master's in International Business and Development Studies (International Business and Development Area)

### ■ Master's Program

#### I. Diploma Policy (Degree Conferral Policy)

The M.A. course in International Business and Development Studies in the Graduate Program in Global Studies (GPGS) provides an exploration of global business practices and developmental strategies. This interdisciplinary curriculum combines insights from international business, marketing, finance and accounting, economics, development studies, and related disciplines. The area trains professionals with a broad knowledge of international business and development studies, alongside specialized expertise in their fields.

Following the diploma policy of the GPGS, the M.A. degree in International Business and Development Studies is granted to students who have completed the prescribed curriculum and produced a M.A. thesis or graduation project with a passing grade, thereby demonstrating the following abilities:

#### 1. Professional Qualities and Research Ethics

gmDP1-1.

The ability to develop advanced analytical skills and practical expertise necessary for addressing complex challenges in international business and development.

gmDP1-2.

The ability to conduct research with a high level of ethical principles.

#### 2. Specialized Knowledge

gmDP2-1.

The ability to apply appropriate methods and in-depth knowledge to identify and address research problems in International Business and Development Studies.

gmDP2-2.

The ability to appropriately evaluate and interpret academic research

and explain how their own results contribute to academic research and society more broadly.

### **3. Leadership in Society**

gmDP3-1.

The ability to utilize expert knowledge and training to contribute to global society, and to assume leadership roles and professional positions in diverse sectors, including multinational corporations, non-governmental organizations, and international agencies.

gmDP3-2.

The ability to present research findings in a master's thesis or graduation project that demonstrates clear structure, logical development, and expertise in the field.

## **II. Curriculum Policy (Curriculum Design and Implementation Policy)**

In the M.A. Area in International Business and Development Studies, the following curriculum policy is designed to help students achieve the goals outlined in the diploma policy. These goals include developing specific skills and abilities. This policy covers curriculum development, learning content and methods, and the method of evaluation of learning outcomes.

### **1. Curriculum Design and Organization**

The curriculum is designed for students to effectively acquire generalized knowledge across a wide range of disciplines taught within the field of the International Business and Development Studies Area, as well as specialized methods, theories, and practices for conducting research on a topic in International Business and Development Studies.

- (1) Courses on international business and development studies introduce students to a wide range of perspectives that form international business, marketing, finance, economics, and development studies.
- (2) To broaden their knowledge beyond their specialization, students may take courses from other areas in the GPGS or other programs in the Graduate School of Global Studies.
- (3) Students may complete their degree on the “thesis track” or “credit track.” The thesis track offers an opportunity for more intensive guidance from the student’s supervising professor on a research paper. The credit track offers an opportunity for additional coursework and a graduation project guided by the supervisor.
- (4) “Thesis Seminar” and “Graduation Project” are mandatory courses that support the completion of the master’s thesis or the graduation project.
- (5) Opportunities for learning about research ethics will be provided to help students gain a strong sense of ethical responsibility in research.

## **2.Learning Content and Methods**

The program helps students develop knowledge and skills through various educational formats, including lectures, seminars, and tutorials, with opportunities for research guidance. Student-led workshops, fieldwork, and other activities beyond the classroom provide opportunities to develop advanced academic skills.

- (1) Courses on international business and development studies prepare students with the advanced analytical skills and practical expertise needed to address complex issues in international business and development studies. In these courses, students deepen their knowledge and understanding of theories necessary for research through readings, discussions, methodological training, writing, presentations, and practical activities.
- (2) Students receive guidance from the supervising professor while writing a thesis or producing a graduation project. The supervisor provides constructive feedback to foster research and presentation skills.

## **3.Methods for Assessing Learning Outcomes**

Student achievement of the goals in the Diploma Policy is assessed through appropriate course grading. All evaluations are based on the criteria and methods stated in the syllabus. M.A. theses and graduation projects are evaluated by supervising faculty members according to the academic standards of the area.

### **III. Admission Policy (Student Admissions Policy)**

In the M.A. Area in International Business and Development Studies, the following admission policy has been established to identify candidates for the educational programs defined in the diploma policy, specifying the desired student profile, the expected competencies prior to admission, and the admissions screening methods.

#### **1.Desired Student Profile**

Based on the university's educational spirit, "For Others, With Others," and the goals outlined in the diploma policy, the program seeks students who are prepared to develop the following qualities and abilities:

- (1) Specialized knowledge and skills as well as general education relevant to International Business and Development Studies.
- (2) Language abilities required for graduate study as well as a high level of academic abilities relevant to their proposed area of study.
- (3) The willingness to contribute to society.

#### **2.Expected Competencies Prior to Admission**

Applicants are expected to possess the following knowledge, abilities, and attitudes before enrollment:

- (1) A strong background in and demonstrated interest in the fields taught by faculty in the M.A. Program in International Business and Development Studies.
- (2) Fundamental knowledge and logical thinking skills demonstrated through previous academic studies.
- (3) English language proficiency and communication skills necessary for conducting research. Additional language skills may be required depending on the proposed area of study.

#### **3.Admissions Screening Methods**

The selection policy aims to create fair admission opportunities for a diverse range of students. A committee of professors conducts a comprehensive evaluation, reviewing application documents and assessing a wide range of abilities, to select students who meet the profile outlined in the admission policy.

For detailed information on the selection process, please refer to the  
graduate school admissions website:

[https://adm.sophia.ac.jp/eng/admissions/graduate\\_p/english\\_g2/gs/](https://adm.sophia.ac.jp/eng/admissions/graduate_p/english_g2/gs/)

## Three Policies of the Graduate Program in Global Studies Master's in Global Studies (Global Studies Area)

### ■ Master's Program

#### **I. Diploma Policy (Degree Conferral Policy)**

The M.A. course in Global Studies in the Graduate Program in Global Studies (GPGS) explores social, political, and cultural developments in today's globalizing world. Courses incorporate theories and methods from anthropology, history, political science, religious studies, sociology, and other disciplines to present a comprehensive perspective on global issues. The Global Studies Area aims to develop specialized research capabilities while providing a broad knowledge of topics within Global Studies.

Following the diploma policy of the GPGS, the M.A. degree in Global Studies is granted to students who have completed the prescribed curriculum and produced a M.A. thesis or graduation project with a passing grade, thereby demonstrating the following abilities:

#### **1. Professional Qualities and Research Ethics**

gmDP1-1.

The ability to address the various challenges facing humanity in the context of globalization by acquiring broad background knowledge of global issues and diverse theoretical and practical approaches for engaging with them.

gmDP1-2.

The ability to conduct research with a high level of ethical principles.

#### **2. Specialized Knowledge**

gmDP2-1.

The ability to apply appropriate methods and in-depth knowledge to identify and address research problems in Global Studies.

gmDP2-2.

The ability to appropriately evaluate and interpret academic research and explain how their own results contribute to academic research and society more broadly.

### **3. Leadership in Society**

gmDP3-1.

The ability to utilize expert knowledge and training to contribute to global society, and to contribute to addressing global issues such as sustainable development, health, social inequality, or education.

gmDP3-2.

The ability to present research findings in a master's thesis or graduation project that demonstrates clear structure, logical development, and expertise in the field.

## **II. Curriculum Policy (Curriculum Design and Implementation Policy)**

In the M.A. Area in Global Studies, the following curriculum policy is designed to help students achieve the goals outlined in the diploma policy. These goals include developing specific skills and abilities. This policy covers curriculum development, learning content and methods, and the method of evaluation of learning outcomes.

### **1. Curriculum Design and Organization**

The curriculum is designed for students to effectively acquire generalized knowledge across a wide range of disciplines taught within the Global Studies Area, as well as specialized methods, theories, and practices for conducting research on a topic in Global Studies.

- (1) "Introduction to Global Studies" is a required two-course series that introduces students to various perspectives on Global Studies, including its cultural, political, and economic dimensions.
- (2) Students can take specialized seminars in specific topics in Global Studies as elective courses. To broaden their knowledge beyond their specialization, students may take courses from other areas in the GPGS or other programs in the Graduate School of Global Studies.
- (3) Students may complete their degree on the "thesis track" or "credit track." The thesis track offers an opportunity for more intensive guidance from the student's supervising professor on a research paper. The credit track offers an opportunity for additional coursework and a graduation project guided by the supervisor.
- (4) "Thesis Seminar" and "Graduation Project" are mandatory courses that support the completion of the master's thesis or the graduation project.
- (5) Opportunities for learning about research ethics will be provided to help students gain a strong sense of ethical responsibility in research.

### **2. Learning Content and Methods**

The program helps students develop knowledge and skills through

various educational formats, including lectures, seminars, and tutorials, with opportunities for research guidance. Student-led workshops, fieldwork, and other activities beyond the classroom provide opportunities to develop advanced academic skills.

- (1) In "Introduction to Global Studies," students gain an understanding of the general scope of Global Studies and develop the critical thinking skills necessary for graduate study.
- (2) In other specialized seminars, students deepen their knowledge and understanding of theories necessary for research through readings, discussions, methodological training, writing, presentations, and practical activities.
- (3) Students receive guidance from the supervising professor while writing a thesis or producing a graduation project. The supervisor provides constructive feedback to foster research and presentation skills.

### **3.Methods for Assessing Learning Outcomes**

Student achievement of the goals in the Diploma Policy is assessed through appropriate course grading. All evaluations are based on the criteria and methods stated in the syllabus. M.A. theses and graduation projects are evaluated by supervising faculty members according to the academic standards of the area.

### **III. Admission Policy (Student Admissions Policy)**

In the M.A. Area in Global Studies, the following admission policy has been established to identify candidates for the educational programs defined in the diploma policy, specifying the desired student profile, the expected competencies prior to admission, and the admissions screening methods.

#### **1.Desired Student Profile**

Based on the university's educational spirit, "For Others, With Others," and the goals outlined in the diploma policy, the program seeks students who are prepared to develop the following qualities and abilities:

- (1) Specialized knowledge and skills, as well as general education relevant to Global Studies.
- (2) Language abilities required for graduate study as well as a high level of academic abilities relevant to their proposed area of study.
- (3) The willingness to contribute to society.

#### **2.Expected Competencies Prior to Admission**

Applicants are expected to possess the following knowledge, abilities, and attitudes before enrollment:

- (1) A strong background in and demonstrated interest in the fields taught by faculty in the M.A. Program in Global Studies.
- (2) Fundamental knowledge and logical thinking skills demonstrated through previous academic studies.
- (3) English language proficiency and communication skills necessary for conducting research. Additional language skills may be required depending on the proposed area of study.

#### **3.Admissions Screening Methods**

The selection policy aims to create fair admission opportunities for a diverse range of students. A committee of professors conducts a comprehensive evaluation, reviewing application documents and assessing a wide range of abilities, to select students who meet the profile outlined in the admission policy.

For detailed information on the selection process, please refer to the graduate school admissions website:

[https://adm.sophia.ac.jp/eng/admissions/graduate\\_p/english\\_g2/gs/](https://adm.sophia.ac.jp/eng/admissions/graduate_p/english_g2/gs/)

## Three Policies of the Graduate Program in Global Studies Ph.D. in Global Studies (Global Studies Area)

### ■ Doctoral Program

#### **I. Diploma Policy (Degree Conferral Policy)**

The Ph.D. course in Global Studies in the Graduate Program in Global Studies (GPGS) explores social, political, and cultural developments in today's globalizing world utilizing theories and methods from anthropology, political science, religious studies, philosophy, sociology, and other disciplines. The Global Studies Ph.D. area aims to educate scholars capable of excellent academic research in their specialized fields and with the expertise required for professional academic and research roles.

Following the diploma policy of the GPGS, the Ph.D. degree in Global Studies is granted to students who have completed the prescribed curriculum and successfully defended a completed Ph.D. dissertation, thereby demonstrating the following abilities:

#### **1. Professional Qualities and Research Ethics**

gdDP1-1.

The ability to address the various challenges facing humanity in the context of globalization by acquiring broad interdisciplinary background knowledge of global issues and theoretical approaches to them.

gdDP1-2.

The ability to conduct advanced and innovative research with a high level of ethical principles.

gdDP2-3.

The ability to organize research findings in the form of conference presentations, academic journal articles, or other appropriate publications in the specialized field.

#### **2. Advanced Specialized Knowledge**

gdDP2-1.

The ability to apply appropriate methods and in-depth knowledge to

identify and address challenging and complex research problems in global studies.

gdDP2-2.

The ability to comprehensively evaluate and interpret academic research and explain how their own research results contribute to academic research and society more broadly.

### **3. Leadership in Society**

gdDP3-1.

The ability to utilize expert knowledge and training to contribute to assume leadership roles in academia and contribute to addressing global issues such as sustainable development, social inequality, health, education, etc.

gdDP3-2.

The ability to compile and communicate one's research findings in the form of a Ph.D. dissertation that makes an original and important contribution to broader human knowledge and to the specialized field.

gdDP3-3.

The ability to participate in professional academic life through workshops, conferences, publications, and activities that disseminate academic knowledge to a broader public.

## **II. Curriculum Policy (Curriculum Design and Implementation Policy)**

In the Ph.D. Program in Global Studies, the curriculum policy is designed to help students achieve the goals outlined in the diploma policy. These goals include developing specific skills and abilities. This policy covers curriculum development, learning content and methods, and the method of evaluation of learning outcomes.

### **1. Curriculum Design and Organization**

The curriculum is designed for students to effectively acquire generalized knowledge across a wide range of disciplines taught within the area of global studies, as well as specialized methods, theories, and practices for conducting research on a topic within the scope of global studies.

- (1) Students complete relevant coursework to gain knowledge in specific topics within global studies.
- (2) Students complete qualifying exams in two specialized areas relevant to their dissertation research and an exam in global studies (normally fulfilled by completing the two-course series “Introduction to Global Studies I & II” at the Ph.D. level).
- (3) Ph.D. supervisors advise students throughout the process of planning, researching, and writing the Ph.D. dissertation.
- (4) Opportunities for learning about research ethics will be provided to help students gain a strong sense of ethical responsibility in research.

### **2. Learning Content and Methods**

The program helps students develop knowledge and skills through various educational formats, including lectures, seminars, and tutorials. Student-led workshops, conferences, fieldwork, and other activities beyond the classroom provide opportunities to develop advanced academic skills.

- (1) Through course work students gain specialized knowledge in global studies.
- (2) Through preparation for qualifying exams, students gain the broad and deep academic knowledge required for writing a Ph.D.

dissertation in global studies.

- (3) While writing a Ph.D. dissertation, students receive guidance from their supervising professor. The supervisor provides detailed feedback to improve the quality of the research, while also helping students develop essential skills such as data analysis, critical thinking, and presentation abilities.

### **3.Methods for Assessing Learning Outcomes**

Student achievement of the goals in the Diploma Policy is assessed through appropriate course grading. All evaluations are based on the criteria and methods stated in the syllabus. Ph.D. dissertations are evaluated according to the academic standards of the area by a committee of scholars, one of whom must be outside the GPGS.

### **III. Admission Policy (Student Admissions Policy)**

In the Ph.D. Program in Global Studies, the following admission policy has been established to identify candidates for the educational programs defined in the diploma policy, specifying the desired student profile, the expected competencies prior to admission, and the admissions screening methods.

#### **1.Desired Student Profile**

Based on the university's educational spirit, "For Others, With Others," and the goals outlined in the diploma policy, the program seeks students who are prepared to develop the following qualities and abilities:

- (1) Specialized knowledge and skills, as well as a broad academic education relevant to their plan of study.
- (2) Language abilities required for graduate study as well as a high level of academic abilities relevant to their plan of study.
- (3) A deep commitment to academic research and a willingness to contribute to society.

#### **2.Expected Competencies Prior to Admission**

Applicants are expected to possess the following knowledge, abilities, and attitudes before enrollment:

- (1) A strong background in and demonstrated interest in the fields taught by faculty in the Ph.D. Program in Global Studies.
- (2) Fundamental knowledge and logical thinking skills demonstrated through previous academic studies.
- (3) English language proficiency and communication skills necessary for conducting research. Additional language skills may be required depending on the proposed area of study.
- (4) A clearly structured and grounded research plan and demonstrated commitment to academic research.

#### **3.Admissions Screening Methods**

The selection policy aims to create fair admission opportunities for a diverse range of students. A committee of professors conducts a comprehensive evaluation, reviewing application documents and

assessing a wide range of abilities, to select students who meet the profile outlined in the admission policy.

For detailed information on the selection process, please refer to the graduate school admissions website:

[https://adm.sophia.ac.jp/eng/admissions/graduate\\_p/english\\_g2/gs/](https://adm.sophia.ac.jp/eng/admissions/graduate_p/english_g2/gs/)

## 国際協力学専攻の3つのポリシー

### ■ 修士課程

#### I. ディプロマ・ポリシー（学位授与の方針）

国際協力学専攻修士課程は、一国では解決できない、さまざまな「グローバルな課題」に対処し、国際社会の連帯を必要とする和平調停や平和構築、国際的な教育開発、持続可能な社会の促進などの分野で、幅広い知見と実践力を兼ね備えた人の育成を目的としています。

そうした目的を達成するため、グローバル・スタディー研究科のディプロマ・ポリシーを踏まえ、本専攻修士課程では、所定の教育課程を修め、学位論文またはリサーチ・ペーパーの審査に合格することで、次の資質・能力を身につけたと認められる者に学位を授与します。

#### 1. 専門家としての資質・研究倫理

gmDP1-1.

和平調停・平和構築や、国際教育開発論、持続可能な社会の促進など、国際協力の分野で、国際社会のこれまでの取り組みや現状に関する深い知見を持ち、さまざまな課題解決のために実践的かつ実現可能な政策や方策を見つけ出す力

gmDP1-2.

高い倫理観・規範意識を持ち、研究を進める力

#### 2. 高度な専門的知識

gmDP2-1.

国際協力を推進する上で関連する和平調停・平和構築論、国際関係論、国際教育開発論、持続可能な開発論、地域研究など幅広い専門分野の知識

gmDP2-2.

先行研究をふまえ、的確な構成、緻密な分析、明快、論理的で説得力のある学位論文もしくはリサーチ・ペーパーを書く力

#### 3. 社会を先導する力

gmDP3-1.

自己の研究成果を適切に評価し、それを社会に還元する力

gmDP3-2.

専門分野に関する研究内容や提言について、国の内外で適切に発信する力

## II. カリキュラム・ポリシー(教育課程の編成・実施の方針)

国際協力学専攻修士課程では、ディプロマ・ポリシーに示す資質・能力等の目標を学生が達成できるようにするため、教育課程編成、学修内容・学修方法、学修成果評価について、以下のようにカリキュラム・ポリシーを定めます。

### 1. 教育課程の編成方法

本課程では、専門分野についての高度な知識と様々な理論と実践を効果的に修得できるよう、以下のようにカリキュラムを編成しています。

- (1) 本課程では、上のディプロマ・ポリシーを達成するために、①「平和構築・国際関係論」、②「国際教育開発論」、③「持続可能な社会の促進」の三つを柱に、カリキュラムを編成しています。
- (2) 中核科目でこの専攻の学位のために必要な基本的な教養や知識を学ぶことができます。それに加えて専門科目で、その知見をさらに深め、専門性と実践力を高めるカリキュラムを編成しています。また、自らの関心分野にあわせて、グローバル・スタディーズ研究科全体の科目を自由に履修することができ、専門性を高めることができます。
- (3) 授業の多くが英語でも開講されており、英語で国際的な仕事をするための研修にもなるよう、設計されています。
- (4) 研究倫理に関する規範意識を身につけるために、研究倫理教育を受ける機会を設けます。

### 2. 学修内容・学修方法

本課程の修了に必要な知識・技能を修得するため、講義・演習・実習等を組み合わせた様々な授業形態・授業方法による学修・研究指導の機会を提供します。

さらに、課題設定等を通じて授業時間外の学修を促し、学修時間の確保と成果の定着を図ります。

- (1) 講義では「平和構築・国際関係論」、「国際教育開発論」、「持続可能な社会の促進」など個別のトピックについて理解し、演習では国際協力の課題に関する議論を重ねることにより研究を展開するために必要な基礎的な思考力を深め、調査研究能力を修得し、情報収集力や分析力を身につけます。
- (2) 修士論文については、指導教員を中心とする論文指導を受け、研究テーマに関する知識を深めるとともに、リサーチ能力とプレゼンテーション能力を養いつつ、論文を完成させます。リサーチ・ペーパーも同様です。
- (3) 本専攻に属する多くの教員が、国際機関や JICA、研究所などでの実務経験を有しており、グローバル課題の解決に関与する組織で働く上で必要な基礎的な教養や知識および技能を学ぶことができます。

### 3. 学修成果の評価方法

ディプロマ・ポリシーに示す目標に対する学生の学修到達状況は、シラバス等に明示された評価基準・方法に基づき、筆記試験、プレゼンテーション、レポート等を用いて多角的に評価します。学位論文については、審査基準と審査方法を明示し、それに基づき学位論文審査委員会による論文審査および最終試験を厳格に行います。

### Ⅲ. アドミッション・ポリシー(入学者受入れの方針)

国際協力学専攻修士課程では、ディプロマ・ポリシーに定める人材を育成するため、求める学生像、入学前に身につけていることを求める能力、入学者選抜の方法について、以下のよう  
にアドミッション・ポリシーを定めます。

#### 1. 求める学生像

本課程では、「他者のために、他者とともに」という本学の教育精神およびディプロマ・ポ  
リシーで掲げる目標を踏まえ、次のような資質・能力を高めたいと望む学生を求めています。

- (1) 国際社会の政治的、経済的、社会的動きをよく理解し、グローバルな課題に対する国際社会の対応を、国際システム、国家、地域社会レベルから分析する能力
- (2) 将来、グローバルな課題解決に向け、役割を担うために必要な強い意思や能力
- (3) 高い学問的探求心を持ち、同時に政策実現のための分析力、論理的思考力、表現力
- (4) 国際社会で通用する英語力とコミュニケーション能力

#### 2. 入学前に身につけていることを求める能力

入学前には、次の知識・能力・態度を持つことを求めます。

- (1) 国際協力学専攻の分野に対する強い関心
- (2) 専門的な研究を実施するために自身の研究の目的と手法について考察し、探究しようとする意欲
- (3) 国際協力学の領域に関する基礎知識と論理的思考力
- (4) 研究を遂行する際に必要な語学力やコミュニケーション能力

#### 3. 入学者選抜の方法

入学者選抜の基本方針として、複数の受験機会や多様な学生を評価できる入試を提供します。アドミッション・ポリシーに定める「求める学生像」にふさわしい入学者を選抜するにあたり、「入学前に身につけていることを求める能力」を評価するため、出願書類、筆記試験、口述試験の結果により総合的に選抜を実施します。

入学者選抜方法の詳細は大学院入学試験のHPをご覧ください。

[https://adm.sophia.ac.jp/jpn/in\\_ad/innyushi/](https://adm.sophia.ac.jp/jpn/in_ad/innyushi/)

## 理工学研究科理工学専攻の3つのポリシー

### ■ 博士前期課程

#### I. ディプロマ・ポリシー（学位授与の方針）

理工学専攻博士前期課程は、現代科学・技術の各学問領域でその進歩に寄与する幅広い専門知識と、人間社会や地球環境に与える影響を総合的にとらえる複合知を兼ね備え、持続可能な人間社会に貢献できる知的人材を養成することを目的としています。

そうした目的を達成するため、上智大学大学院のディプロマ・ポリシーを踏まえ、本専攻の各学問領域では、所定の教育課程を修め、学位論文の審査に合格することで、次の資質・能力を身につけたと認められる者に学位を授与します。

#### 1. 専門家としての資質・研究倫理

gmDP1-1.

理工学を中心とし、関連分野も含む広範に知識を得ることにより、理工学が人間社会や地球環境に与える影響などを多面的にとらえる力

gmDP1-2.

グローバル化の進展に対応するための、社会で活躍できるレベルの英語力

gmDP1-3.

高い倫理観・規範意識を持って研究を進める力

#### 2. 高度な専門的知識

gmDP2-1.

理工学分野の基礎知識と専門知識を活用して新たな研究課題を設定し、解決するための研究能力

gmDP2-2.

理工学分野で活躍できる応用知識を用いて、新技術の開発や新分野の開拓をできる力

#### 3. 社会を先導する力

gmDP3-1.

自己の研究成果を適切に評価し、それを社会に還元する力

gmDP3-2.

専門分野に関する研究内容について、適切な論文構成や整合性のある論理展開で修士論文にまとめて発信する力

## II. カリキュラム・ポリシー(教育課程の編成・実施の方針)

理工学専攻博士前期課程では、ディプロマ・ポリシーに示す資質・能力等の目標を学生が達成できるようにするため、教育課程編成、学修内容・学修方法、学修成果評価について、以下のようにカリキュラム・ポリシーを定めます。

### 1. 教育課程の編成方法

本課程では、専門分野についての高度な知識と様々な理論と実践を効果的に修得できるよう、以下のようにカリキュラムを編成しています。

- (1) 専攻のもとに9領域(機械工学領域、電気・電子工学領域、応用化学領域、化学領域、数学領域、物理学領域、生物科学領域、情報学領域、グリーンサイエンス・エンジニアリング領域)を設け、専門性に配慮したカリキュラム構成としています。
- (2) 「領域」ごとのカリキュラム体制をとり、学部教育との一貫性にも配慮しながら、複合知を兼ね備えた専門能力を養成します。
- (3) 修士論文作成のための「大学院演習 IA,IB,IIA,IIB」を必修科目として配置します。専攻分野に関わる「自研究科自領域科目」を選択科目として配置します。また、自己の専門領域以外の分野についても広く知識を修得するために、他領域の科目や理工共通領域科目が履修できます。
- (4) 科学技術英語や英語で行われる科目の受講、研究成果の英語発表、英語論文の執筆などにより、社会で活躍できるレベルの英語力を養成します。
- (5) 研究倫理に関する規範意識を身につけるために、研究倫理教育を受ける機会を設けます。

### 2. 学修内容・学修方法

本課程の修了に必要な知識・技能を修得するため、講義・演習を組み合わせた様々な授業形態・授業方法による学修・研究指導の機会を提供します。

さらに、課題設定等を通じて授業時間外の学修を促し、学修時間の確保と成果の定着を図ります。

- (1) 「自研究科自領域科目」では各領域における特定のトピックについて理解し、「大学院演習 IA,IB,IIA,IIB」では議論を重ねることにより研究を展開するために必要な基礎的な思考力を深め、調査研究能力を修得し、情報収集力や分析力を身につけます。
- (2) 「研究指導」では、修士論文の執筆を可能とするため、指導教員が中心となって論文指導を受け、研究テーマに関する知識を深めるとともに、リサーチ能力とプレゼンテーション能力を養います。

### 3. 学修成果の評価方法

ディプロマ・ポリシーに示す目標に対する学生の学修到達状況は、シラバス等に明示された評価基準・方法に基づき、筆記試験、プレゼンテーション、レポート等を用いて多角的に評価します。学位論文については、審査基準と審査方法を明示し、それに基づき学位論文審査委員会による論文審査および最終試験を厳格に行います。

### Ⅲ. アドミッション・ポリシー(入学受入れの方針)

理工学専攻博士前期課程では、ディプロマ・ポリシーに定める人材を育成するため、求める学生像、入学前に身につけていることを求める能力、入学選抜の方法について、以下のよう  
にアドミッション・ポリシーを定めます。

#### 1. 求める学生像

本課程では、「他者のために、他者とともに」という本学の教育精神およびディプロマ・ポ  
リシーに掲げる目標を踏まえ、次のような資質・能力を高めたいと望む学生を求めています。

- (1) 現代科学・技術の学問分野の進歩に寄与する専門性と、人間社会や地球環境に与える影響を総合的にとらえる学際性
- (2) 基礎学力と研究意欲を備え、理工学に関する専門知識を深め、複合的な知識を修得しようとする意欲
- (3) 研究能力や専門性を活かして社会に貢献する力

#### 2. 入学前に身につけていることを求める能力

入学前には、次の知識・能力・態度を持つことを求めます。

- (1) 現代科学・技術の学問分野に対する強い関心
- (2) 専門的な研究を実施するために自己の研究の目的と手法について考察し、探究しようとする意欲
- (3) 理工学の領域全般に関する基礎知識と論理的思考力
- (4) 研究を遂行する際に必要な語学力やコミュニケーション能力

#### 3. 入学選抜の方法

入学選抜の基本方針として、複数の受験機会や多様な学生を評価できる入試を提供します。アドミッション・ポリシーに定める「求める学生像」にふさわしい入学選抜するにあたり、「入学前に身につけていることを求める能力」を評価するため、出願書類、筆記試験、口述試験の結果により総合的に選抜を実施します。

入学選抜方法の詳細は大学院入学試験のHPをご覧ください。

[https://adm.sophia.ac.jp/jpn/in\\_ad/innyushi/](https://adm.sophia.ac.jp/jpn/in_ad/innyushi/)

## ■ 博士後期課程

### I. ディプロマ・ポリシー（学位授与の方針）

理工学専攻博士後期課程は、現代科学・技術の各学問領域で国際レベルの研究能力と、人間社会や地球環境に与える影響を総合的にとらえる複合知を兼ね備え、各専門分野で自立して研究・開発を遂行でき、持続可能な人間社会に貢献できると見なされる専門的人材を養成することを目的としています。

そうした目的を達成するため、上智大学大学院のディプロマ・ポリシーを踏まえ、本専攻の各学問領域では、所定の教育課程を修め、学位論文の審査に合格することで、次の資質・能力を身につけたと認められる者に学位を授与します。

#### 1. 専門家としての資質・研究倫理

gdDP1-1.

理工学を中心とし、関連分野を含む知識を得ることにより、理工学が人間社会や地球環境に与える影響などを多面的にとらえる力

gdDP1-2.

グローバル化の進展の先頭に立ち、国際社会において独立して活躍できるレベルの英語力

gdDP1-3.

高い倫理観・規範意識を持って研究を進める力

#### 2. 高度な専門的知識

gdDP2-1.

理工学の専門分野において、自己の研究課題を設定し、それを解決するための高度な研究能力

gdDP2-2.

理工学で自立的に活躍できる専門知識を身につけるとともに、社会の発展に寄与する創造的な研究開発を行う力

#### 3. 社会を先導する力

gdDP3-1.

自己の研究成果を社会に還元し、持続可能な社会の実現に貢献する力

gdDP3-2.

専門分野を中心に高い専門性や独創性のある研究を行い、それらを専門分野に貢献できる博士論文にまとめ、国内外で発信する力

## II. カリキュラム・ポリシー(教育課程の編成・実施の方針)

理工学専攻博士後期課程では、ディプロマ・ポリシーに示す資質・能力等の目標を学生が達成できるようにするため、教育課程編成、学修内容・学修方法、学修成果評価について、以下のようにカリキュラム・ポリシーを定めます。

### 1. 教育課程の編成方法

本課程では、研究分野に特化した知識と様々な理論と実践を効果的に修得し、自立して研究開発を遂行できる力を涵養するため、以下のようにカリキュラムを編成しています。

- (1) 専攻のもとに9領域(機械工学領域、電気・電子工学領域、応用化学領域、化学領域、数学領域、物理学領域、生物科学領域、情報学領域、グリーンサイエンス・エンジニアリング領域)を設け、専門性に配慮したカリキュラム構成としています。
- (2) 「領域」ごとのカリキュラム体制をとり、学部教育および博士前期課程との一貫性にも配慮しながら、複合知を兼ね備えた専門能力を養成します。
- (3) 自己の専門分野において教員の研究指導を受けながら集中して研究を遂行し、研究テーマと周辺について深い専門知識を得るとともに、研究の進め方、まとめ方などを学び、研究の集大成として博士論文を提出します。
- (4) 博士論文作成のための「研究指導」、「大学院演習 IIIA, IIIB, IVA, IVB, VA, VB」を配置します。
- (5) 研究成果の英語発表、英語論文の執筆などにより、国際社会において独立して活躍できるレベルの英語力を養成します。
- (6) 研究倫理に関する規範意識を身につけるために、研究倫理教育を受ける機会を設けます。

### 2. 学修内容・学修方法

本課程の修了に必要な知識・技能を修得するため、講義・演習等を組み合わせた様々な授業形態・授業方法による学修・研究指導の機会を提供します。

さらに、課題設定等を通じて授業時間外の学修を促し、学修時間の確保と成果の定着を図ります。

- (1) 前期課程で積み上げた基礎知識や修士論文の成果をふまえて、独創的な博士論文の執筆を可能とするために、指導教員が担当する「研究指導」、「大学院演習 IIIA, IIIB, IVA, IVB, VA, VB」を中心に科目を履修し、高度なリサーチ能力と課題発見能力を養います。
- (2) 専門的研究を通じて高度な資料分析能力を養うため、「研究指導」に基づき、国内外の学会・学術誌への論文発表を積極的に行い、自立した研究者としての能力を身につけます。

### 3. 学修成果の評価方法

ディプロマ・ポリシーに示す目標に対する学生の学修到達状況は、シラバス等に明示された評価基準・方法に基づき、筆記試験、プレゼンテーション、レポート等を用いて多角的に評価します。学位論文については、審査基準と審査方法を明示し、それに基づき学位論文審査委員会による論文審査および最終試験を厳格に行います。

### Ⅲ. アドミッション・ポリシー(入学受入れの方針)

理工学専攻博士後期課程では、ディプロマ・ポリシーに定める人材を育成するため、求める学生像、入学前に身につけていることを求める能力、入学選抜の方法について、以下のよう  
にアドミッション・ポリシーを定めます。

#### 1. 求める学生像

本課程では、「他者のために、他者とともに」という本学の教育精神およびディプロマ・ポ  
リシーで掲げる目標を踏まえ、次のような資質・能力を高めたいと望む学生を求めています。

- (1) 現代科学・技術の学問分野の進歩に寄与する専門性と、人間社会や地球環境に与える影響を総合的にとらえる学際性
- (2) 各専門分野で自立して研究を行う能力
- (3) 高度な研究能力や専門性を活かして社会に貢献する力

#### 2. 入学前に身につけていることを求める能力

入学前には、次の知識・能力・態度を持つことを求めます。

- (1) 現代科学・技術の学問分野に対する強い関心
- (2) 前期課程の研究をふまえて、独創性のある研究を実施・探究しようとする意欲
- (3) 自己の研究領域に関する高度な専門的知識と論理的思考力
- (4) 研究を遂行する際に必要な語学力やコミュニケーション能力

#### 3. 入学選抜の方法

入学選抜の基本方針として、複数の受験機会や多様な学生を評価できる入試を提供します。アドミッション・ポリシーに定める「求める学生像」にふさわしい入学選抜するにあたり、「入学前に身につけていることを求める能力」を評価するため、出願書類、筆記試験、口述試験の結果により総合的に選抜を実施します。

入学選抜方法の詳細は大学院入学試験のHPをご覧ください。

[https://adm.sophia.ac.jp/jpn/in\\_ad/innyushi/](https://adm.sophia.ac.jp/jpn/in_ad/innyushi/)

## 理工学専攻機械工学領域の3つのポリシー

### ■ 博士前期課程

#### I. ディプロマ・ポリシー（学位授与の方針）

理工学専攻機械工学領域博士前期課程は、現代の科学技術において進展に寄与する高度な専門性を備えるとともに、技術が人間社会や地球環境に及ぼす影響を総合的にとらえる学際的視野をもち、社会に貢献できる人材を養成することを目的としています。

そうした目的を達成するため、理工学専攻のディプロマ・ポリシーを踏まえ、本領域博士前期課程では、所定の教育課程を修め、学位論文の審査に合格することで、次に示す資質・能力を備えたと認められる者に学位を授与します。

#### 1. 専門家としての資質・研究倫理

gmDP1-1.

機械工学分野を中心として、関連分野も含め広範に知識を得ることにより、機械工学が人間社会や地球環境に与える影響を多面的にとらえる力

gmDP1-2.

グローバル化の進展に対応し、社会で活躍できるレベルの英語力

gmDP1-3.

高い倫理観・規範意識を持って研究を進める力

#### 2. 高度な専門的知識

gmDP2-1.

機械工学分野の基礎知識と専門知識を活用して新たな研究課題を設定し、解決するための研究能力

gmDP2-2.

機械工学および関連分野で活躍できる応用知識を用いて、新技術の開発や新分野の開拓をできる力

#### 3. 社会を先導する力

gmDP3-1.

自己の研究成果を適切に評価し、それを社会に還元する力

gmDP3-2.

専門分野における研究内容を、論理的で整合性のある論文にまとめ、修士論文として発信する力

## II. カリキュラム・ポリシー(教育課程の編成・実施の方針)

理工学専攻機械工学領域博士前期課程では、ディプロマ・ポリシーに示す資質・能力等の目標を学生が達成できるようにするため、教育課程編成、学修内容・学修方法、学修成果評価について、以下のようにカリキュラム・ポリシーを定めます。

### 1. 教育課程の編成方法

本課程では、専門分野の高度な知識と様々な理論および実践を効果的に修得できるよう、以下のようにカリキュラムを編成しています。

- (1) 機械工学領域以外の科目や理工共通領域科目を履修し、専門分野を超えた広範な知識を修得し、学際的な視野を広げます。
- (2) 材料力学、機械力学、熱工学、流体工学、精密工学、制御工学、材料科学、物理学、数学など、機械工学領域が提供する科目を履修し、これらの専門知識を深めます。それらを基礎に、特定のテーマに関する研究を行い、テーマに関連する深い専門知識を修得するとともに、研究の進め方やまとめ方、研究倫理を学びます。
- (3) 科学技術英語や英語で行われる科目の受講、研究成果の英語発表、英語論文の執筆を通じて、国際的に通用する実践的な英語力を養成します。

### 2. 学修内容・学修方法

機械工学領域の修了に必要な知識と技能を修得するため、講義、演習など多様な授業形式を組み合わせ、学修と研究指導の機会を提供します。さらに、課題設定等を通じて授業時間外の学修を促し、学修時間の確保と成果の定着を図ります。

- (1) 機械工学領域では材料力学、機械力学、熱工学などのトピックについて理解し、「大学院演習 IA, IB, IIA, IIB」では議論を重ねることにより研究を展開するための基礎的な思考力を深め、調査研究能力を習得し、情報収集力や分析力を身につけます。
- (2) 「研究指導」では、修士論文の執筆を可能とするため、指導教員が中心となって論文指導を受け、研究テーマに関連する知識を深めるとともに、リサーチ能力とプレゼンテーション能力を養います。

### 3. 学修成果の評価方法

ディプロマ・ポリシーに示す目標に対する学生の修学到達状況は、シラバス等に明示された評価基準・方法に基づき、筆記試験、プレゼンテーション、レポート等を用いて多面的に評価します。学位論文については、審査基準と審査方法を明示し、それに基づき学位論文審査委員会による論文審査および最終試験を厳格に行います。

### Ⅲ. アドミッション・ポリシー(入学者受入れの方針)

理工学専攻機械工学領域博士前期課程では、ディプロマ・ポリシーに定める人材を育成するため、求める学生像、入学前に身につけていることを求める能力、入学者選抜の方法について、以下のようにアドミッション・ポリシーを定めます。

#### 1. 求める学生像

本課程では、「他者のために、他者とともに」という本学の教育精神およびディプロマ・ポリシーで掲げる目標を達成するため、次のような資質・能力を高めたいと望む学生を求めています。

- (1) 機械工学分野の発展に寄与する専門性と、その技術が人間社会や地球環境に与える影響を総合的にとらえる学際性
- (2) 基礎学力と研究意欲を備え、機械工学に関する専門知識を深め、複合的な知識を修得しようとする意欲
- (3) 機械工学を通じて社会に貢献しようとする強い意志を持ち、研究能力や専門性を活かして社会に貢献する力

#### 2. 入学前に身につけていることを求める能力

入学前には、以下の知識・能力・態度を持つことを求めます。

- (1) 機械工学分野に対する強い関心と理解
- (2) 専門的な研究を実施するために、自己の研究の目的と手法について深く考察し、探究しようとする強い意欲
- (3) 機械工学に関連する材料力学、機械力学、熱工学、流体工学、精密工学、制御工学、材料科学、物理学、数学などの基礎知識と論理的思考力
- (4) 研究を遂行するために必要な英語力やコミュニケーション能力

#### 3. 入学者選抜の方法

入学者選抜の基本方針として、多様な学生を評価できる入試を提供し、アドミッション・ポリシーに定める「求める学生像」にふさわしい入学者を選抜するにあたり、「入学前に身につけていることを求める能力」を評価するため、出願書類、筆記試験、口述試験の結果を総合的に評価し、選抜を実施します。

入学者選抜方法の詳細は大学院入学試験のHPをご覧ください。

[https://adm.sophia.ac.jp/jpn/in\\_ad/innyushi/](https://adm.sophia.ac.jp/jpn/in_ad/innyushi/)

## ■ 博士後期課程

### I. ディプロマ・ポリシー（学位授与の方針）

理工学専攻機械工学領域博士後期課程では、機械工学における高度な専門性を身につけ、人間社会や地球環境に与える影響を総合的にとらえる学際性を持ち、自立して研究開発を遂行できる人材を養成することを目的としています。

そうした目的を達成するため、理工学専攻のディプロマ・ポリシーを踏まえ、本領域博士後期課程では、所定の教育課程を修め、学位論文の審査に合格することで、次の資質・能力を身につけたと認められる者に学位を授与します。

#### 1. 専門家としての資質・研究倫理

gdDP1-1.

機械工学分野を中心とし、関連する学際分野も含む知識を得ることにより、機械工学が人間社会や地球環境に与える影響などを多面的にとらえる力

gdDP1-2.

グローバル化の進展の先頭に立ち、国際社会で独立して活躍できるレベルの英語力

gdDP1-3.

高い倫理観・規範意識を持って研究を遂行する力

#### 2. 高度な専門的知識

gdDP2-1.

機械工学分野において、自己の研究課題を設定し、その解決に向けて高度な研究を遂行する能力

gdDP2-2.

機械工学分野において自立的に活躍できる専門知識を身につけ、社会の発展に寄与する創造的な研究開発を行う力

#### 3. 社会を先導する力

gdDP3-1.

自己の研究成果を社会に還元し、持続可能な社会の実現に貢献する力

gdDP3-2.

高い専門性や独創性を備えた研究を行い、それを専門分野に貢献できる博士論文にまとめ、国内外で発信する力

## II. カリキュラム・ポリシー(教育課程の編成・実施の方針)

理工学専攻機械工学領域博士後期課程では、ディプロマ・ポリシーに示す資質・能力の目標を学生が達成できるようにするため、教育課程編成、学修内容・学修方法、学修成果評価について、以下のようにカリキュラム・ポリシーを定めます。

### 1. 教育課程の編成方法

本課程では、研究分野に特化した知識や理論、実践を効果的に修得し、自立して研究開発を遂行できる力を涵養するため、以下のようにカリキュラムを編成しています。

- (1) 関連する学際分野の知識も幅広く修得し、技術が人間社会や地球環境に与える影響を多面的にとらえる能力を養います。
- (2) 指導教員のもとで「研究指導」や「大学院演習 IIIA, IIIB, IVA, IVB, VA, VB」を履修し、研究の進め方やまとめ方を学びます。
- (3) 機械工学領域の専門科目を中心に履修し、材料力学、機械力学、熱工学、流体力学などの高度な専門知識を修得します。それらを基礎に、特定のテーマに関する研究を行い、テーマに関連する深い専門知識を修得するとともに、研究の進め方やまとめ方、研究倫理を学びます。
- (4) 博士論文作成に必要な研究指導を受け、研究成果を集大成として博士論文にまとめます。
- (5) 科学技術英語や英語で行われる科目を履修し、研究成果を英語で発表する機会を通じて、国際社会で活躍できる英語力を養成します。

### 2. 学修内容・学修方法

機械工学領域の修了に必要な知識と技能を修得するため、講義や演習などを組み合わせた授業形態と研究指導を提供します。さらに、課題設定等を通じて授業時間外の学修を促し、学修時間の確保と成果の定着を図ります。

- (1) 前期課程で培った基礎知識や修士論文の成果を基に、独創的な博士論文の作成を目指します。指導教員が担当する「研究指導」や「大学院演習 IIIA, IIIB, IVA, IVB, VA, VB」を通じて、高度なリサーチ能力や課題発見能力を養います。
- (2) 資料分析能力の強化: 専門的な研究を通じ、資料収集・分析能力を向上させ、研究成果を国内外の学会や学術誌で発表します。

### 3. 学修成果の評価方法

学生の学修成果は、ディプロマ・ポリシーに示された目標に基づき、各科目の成績評価において筆記試験、プレゼンテーション、レポートなどを用いて多角的に評価します。博士論文に関しては、審査基準と方法を明示し、学位論文審査委員会が厳格に審査および最終試験を行います。

### Ⅲ. アドミッション・ポリシー(入学者受入れの方針)

理工学専攻機械工学領域博士後期課程では、ディプロマ・ポリシーに定める人材を育成するため、求める学生像、入学前に身につけていることを求める能力、入学者選抜の方法について、以下のようにアドミッション・ポリシーを定めます。

#### 1. 求める学生像

本課程では、「他者のために、他者とともに」という本学の教育精神およびディプロマ・ポリシーに掲げる目標を踏まえ、次のような資質・能力を高めたいと望む学生を求めています。

- (1) 機械工学分野の発展に寄与し、その技術が人間社会や地球環境に与える影響を多面的にとらえる学際性
- (2) 機械工学分野において自立して研究を行い、新たな知見や技術を創造する能力
- (3) 高度な研究能力や専門性を活かして社会に貢献する力

#### 2. 入学前に身につけていることを求める能力

入学前には、次の知識・能力・態度を持つことを求めます。

- (1) 機械工学分野および現代科学・技術に対する強い関心
- (2) 前期課程で培った知識と研究成果を基に、独創的かつ創造的な研究を追求しようとする強い意欲
- (3) 自己の研究領域における高度な専門的知識と論理的思考力
- (4) 研究を遂行するために必要な英語力およびコミュニケーション能力

#### 3. 入学者選抜の方法

入学者選抜の基本方針として、多様な学生を評価できる入試を提供し、アドミッション・ポリシーに定める「求める学生像」にふさわしい入学者を選抜するにあたり、「入学前に身につけていることを求める能力」を評価するため、出願書類、筆記試験、口述試験の結果を総合的に評価し、選抜を実施します。

入学者選抜方法の詳細は大学院入学試験のHPをご覧ください。

[https://adm.sophia.ac.jp/jpn/in\\_ad/innyushi/](https://adm.sophia.ac.jp/jpn/in_ad/innyushi/)

## 理工学専攻電気・電子工学領域の3つのポリシー

### ■ 博士前期課程

#### I. ディプロマ・ポリシー（学位授与の方針）

理工学専攻電気・電子工学領域博士前期課程では、電気・電子工学および関連分野の発展に寄与し、専門知識を用いて人間社会の発展や地球環境の保全に貢献できる人材の養成を目的としています。

そうした目的を達成するため、理工学専攻のディプロマ・ポリシーを踏まえ、本領域博士前期課程では、所定の教育課程を修め、学位論文の審査に合格することで、次の資質・能力を身につけたと認められる者に学位を授与します。

#### 1. 専門家としての資質・研究倫理

gmDP1-1.

電気・電子工学分野を中心として、自然科学分野あるいは社会科学分野との学際分野も含め広範に学ぶことにより、電気・電子工学が人間社会や地球環境に与える影響などを多面的にとらえる力

gmDP1-2.

グローバル化の進展に対応するための、社会で活躍できるレベルの英語力

#### 2. 高度な専門的知識

gmDP2-1.

電気・電子工学分野の基礎知識と専門知識を活用して新たな研究課題を設定し、解決するための研究能力

gmDP2-2.

電気・電子工学分野で活躍できる応用知識を用いて、新技術の開発や新分野の開拓をできる力

#### 3. 社会を先導する力

gmDP3-1.

自己の研究成果を適切に評価し、それを社会に還元する力

gmDP3-2.

専門分野に関する研究内容について、適切な論文構成や整合性のある論理展開で修士論文にまとめて発信する力

## II. カリキュラム・ポリシー(教育課程の編成・実施の方針)

理工学専攻電気・電子工学領域博士前期課程では、ディプロマ・ポリシーに示す資質・能力等の目標を学生が達成できるようにするため、教育課程編成、学修内容・学修方法、学修成果評価について、以下のようにカリキュラム・ポリシーを定めます。

### 1. 教育課程の編成方法

本課程では、専門分野についての高度な知識と様々な理論と実践を効果的に修得できるよう、以下のようにカリキュラムを編成しています。

- (1) 電気・電子工学領域以外の領域、および理工共通領域科目を受講することにより、自己の専門領域以外の分野について広く知識を得られます。
- (2) 電気・電子工学領域が提供する半導体、電力、情報通信などに関する科目を受講し、これらについて専門知識を得られます。また、特定のテーマについて研究を行い、このテーマと周辺について深い専門知識を得るとともに、研究の進め方、まとめ方、研究倫理などを学びます。
- (3) 科学技術英語や英語で行われる科目の受講、研究成果の英語発表、英語論文の執筆などにより、社会で活躍できるレベルの英語力に向上できます。

### 2. 学修内容・学修方法

本課程の修了に必要な知識・技能を修得するため、講義・演習を組み合わせた様々な授業形態・授業方法による学修・研究指導の機会を提供します。

さらに、課題設定等を通じて授業時間外の学修を促し、学修時間の確保と成果の定着を図ります

- (1) 「自研究科自領域科目」では電気・電子工学について理解し、「大学院演習 IA,IB,IIA,IIB」では議論を重ねることにより研究を展開するために必要な基礎的な思考力を深め、調査研究能力を修得し、情報収集力や分析力を身につけます。
- (2) 「研究指導」では、修士論文の執筆をするため、指導教員を中心とする論文指導を受け、研究テーマに関する知識を深めるとともに、リサーチ能力とプレゼンテーション能力を養います。

### 3. 学修成果の評価方法

ディプロマ・ポリシーに示す目標に対する学生の学修到達状況は、シラバス等に明示された評価基準・方法に基づき、筆記試験、プレゼンテーション、レポート等を用いて多角的に評価します。学位論文については、審査基準と審査方法を明示し、それに基づき学位論文審査委員会による論文審査および最終試験を厳格に行います。

### Ⅲ. アドミッション・ポリシー(入学受入れの方針)

理工学専攻電気・電子工学領域博士前期課程では、ディプロマ・ポリシーに定める人材を育成するため、求める学生像、入学前に身につけていることを求める能力、入学選抜の方法について、以下のようにアドミッション・ポリシーを定めます。

#### 1. 求める学生像

本課程では、「他者のために、他者とともに」という本学の教育精神およびディプロマ・ポリシーに掲げる目標を踏まえ、次のような資質・能力を高めたいと望む学生を求めています。

- (1) 現代科学・技術の学問分野の進歩に寄与する専門性と、人間社会や地球環境に与える影響を総合的にとらえる学際性
- (2) 基礎学力と研究意欲を備え、電気・電子工学に関する専門知識を深め、複合的な知識を修得しようとする意欲
- (3) 研究能力や専門性を活かして社会に貢献する力

#### 2. 入学前に身につけていることを求める能力

入学前には、次の知識・能力・態度を持つことを求めます。

- (1) 現代科学・技術の学問分野に対する強い関心
- (2) 専門的な研究を実施するために研究の目的と手法について考察し、探究しようとする意欲
- (3) 理工学の領域全般に関する基礎知識と論理的思考力
- (4) 研究を遂行する際に必要な語学力やコミュニケーション能力

#### 3. 入学選抜の方法

入学選抜の基本方針として、複数の受験機会や多様な学生を評価できる入試を提供します。アドミッション・ポリシーに定める「求める学生像」にふさわしい入学選抜にあたり、「入学前に身につけていることを求める能力」を評価するため、出願書類、筆記試験、口述試験の結果により総合的に選抜を実施します。

入学選抜方法の詳細は大学院入学試験のHPをご覧ください。

[https://adm.sophia.ac.jp/jpn/in\\_ad/innyushi/](https://adm.sophia.ac.jp/jpn/in_ad/innyushi/)

## ■ 博士後期課程

### I. ディプロマ・ポリシー（学位授与の方針）

理工学専攻電気・電子工学領域博士後期課程では、電気・電子工学および関連分野の発展に寄与し、専門知識を用いて人間社会の発展や地球環境の保全に貢献できる人材の養成を目的としています。

そうした目的を達成するため、理工学専攻のディプロマ・ポリシーを踏まえ、本領域博士後期課程では、所定の教育課程を修め、学位論文の審査に合格することで、次の資質・能力を身につけたと認める者に学位を授与します。

#### 1. 専門家としての資質・研究倫理

gdDP1-1.

電気・電子工学分野を中心として、関連する学際分野なども含めて知識を得ることにより、電気・電子工学が人間社会や地球環境に与える影響などを多面的にとらえる力

gdDP1-2.

グローバル化の進展の先頭に立ち、国際社会において独立して活躍できるレベルの英語力

gdDP1-3.

高い倫理観・規範意識を持って研究を進める力

#### 2. 高度な専門的知識

gdDP2-1.

電気・電子工学の専門分野において、自己の研究課題を設定し、それを解決するための高度な研究能力

gdDP2-2.

電気・電子工学で自立的に活躍できる応用知識を用いて、社会の発展に寄与する創造的な研究開発を行う力

#### 3. 社会を先導する力

gdDP3-1.

自己の研究成果を社会に還元し、持続可能な社会の実現に貢献する力

gdDP3-2.

専門分野を中心に高い専門性や独創性のある研究を行い、それらを専門分野に貢献できる博士論文にまとめ、国内外で発信する力

## II. カリキュラム・ポリシー(教育課程の編成・実施の方針)

理工学専攻電気・電子工学領域博士後期課程では、ディプロマ・ポリシーに示す資質・能力等の目標を学生が達成できるようにするため、教育課程編成、学修内容・学修方法、学修成果評価について、以下のようにカリキュラム・ポリシーを定めます。

### 1. 教育課程の編成方法

本課程では、研究分野に特化した知識と様々な理論と実践を効果的に修得し、自立して研究開発を遂行できる力を涵養するため、以下のようにカリキュラムを編成しています。

- (1) 電気・電子工学領域独自のカリキュラム編成をとり、学部教育および博士前期課程との一貫性にも配慮しながら、複合知を兼ね備えた専門能力を養成します。
- (2) 自己の専門分野において教員の研究指導を受けながら集中して研究を遂行し、このテーマと周辺について深い専門知識を得るとともに、研究の進め方、まとめ方などを学び、研究の集大成として博士論文を提出します。
- (3) 博士論文作成のための「研究指導」、「大学院演習 IIIA, IIIB, IVA, IVB, VA, VB」を配置します。
- (4) 研究倫理に関する規範意識を身につけるために、研究倫理教育を受ける機会を設けます。
- (5) 研究成果の英語発表、英語論文の執筆などにより、国際社会において独立して活躍できるレベルの英語力を養成します。

### 2. 学修内容・学修方法

本課程の修了に必要な知識・技能を修得するため、講義・演習等を組み合わせた様々な授業形態・授業方法による学修・研究指導の機会を提供します。さらに、課題設定等を通じて授業時間外の学修を促し、学修時間の確保と成果の定着を図ります。

- (1) 前期課程で積み上げた基礎知識や修士論文の成果をふまえて、独創的な博士論文の執筆を可能とするために、指導教員が担当する「研究指導」、「大学院演習 IIIA, IIIB, IVA, IVB, VA, VB」を中心に科目を履修し、高度なリサーチ能力と課題発見能力を養います。
- (2) 専門的研究を通じて高度な資料分析能力を養うために「研究指導」に基づき、国内外の学会・学術誌への論文発表を積極的に行い、自立した研究者としての能力を身につけます。

### 3. 学修成果の評価方法

ディプロマ・ポリシーに示す目標に対する学生の学修到達状況は、シラバス等に明示された評価基準・方法に基づき、筆記試験、プレゼンテーション、レポート等を用いて多角的に評価します。学位論文については、審査基準と審査方法を明示し、それに基づき学位論文審査

委員会による論文審査および最終試験を厳格に行います。

### Ⅲ. アドミッション・ポリシー(入学者受入れの方針)

理工学専攻電気電子工学領域博士後期課程では、ディプロマ・ポリシーに定める人材を育成するため、求める学生像、入学前に身につけていることを求める能力、入学者選抜の方法について、以下のようにアドミッション・ポリシーを定めます。

#### 1. 求める学生像

本課程では、「他者のために、他者とともに」という本学の教育精神およびディプロマ・ポリシーに掲げる目標を踏まえ、次のような資質・能力を高めたいと望む学生を求めています。

- (1) 現代科学・技術の学問分野の進歩に寄与する専門性と、人間社会や地球環境に与える影響を総合的にとらえる学際性
- (2) 各専門分野で自立して研究を行う能力
- (3) 高度な研究能力や専門性を活かして社会に貢献する力

#### 2. 入学前に身につけていることを求める能力

入学前には、次の知識・能力・態度を持つことを求めます。

- (1) 電気・電子工学に関連する現代科学・技術に対する強い関心
- (2) 前期課程で培った知識と研究成果を基に、独創的かつ創造的な研究を追求しようとする意欲
- (3) 自己の研究領域に関する高度な専門的知識と論理的思考力
- (4) 研究を遂行する際に必要な語学力やコミュニケーション能力

#### 3. 入学者選抜の方法

入学者選抜の基本方針として、複数の受験機会や多様な学生を評価できる入試を提供します。アドミッション・ポリシーに定める「求める学生像」にふさわしい入学者を選抜するにあたり、「入学前に身につけていることを求める能力」を評価するため、出願書類、筆記試験、口述試験の結果により総合的に選抜を実施します。

入学者選抜方法の詳細は大学院入学試験のHPをご覧ください。

[https://adm.sophia.ac.jp/jpn/in\\_ad/innyushi/](https://adm.sophia.ac.jp/jpn/in_ad/innyushi/)

## 理工学専攻応用化学領域の3つのポリシー

### ■ 博士前期課程

#### I. ディプロマ・ポリシー（学位授与の方針）

理工学専攻応用化学領域博士前期課程では、応用化学分野の発展に寄与する専門性と、人間社会の発展や地球環境の保全に貢献できる人材を養成することを目的としています。

そうした目的を達成するため、理工学専攻のディプロマ・ポリシーを踏まえ、本領域博士前期課程では、所定の教育課程を修め、学位論文の審査に合格することで、次の資質・能力を身につけたと認められる者に学位を授与します。

#### 1. 専門家としての資質・研究倫理

gmDP1-1.

理工学分野を中心とし、関連分野も含めて広範に知識を得ることにより修得される、化学技術や化学物質が人間社会や地球環境に与える影響などを多面的にとらえる力

gmDP1-2.

グローバル化の進展への対応に必要とされる、社会で活躍できるレベルの英語力

gmDP1-3.

高い倫理観・規範意識と、それらに則って研究を進める力

#### 2. 高度な専門的知識

gmDP2-1.

応用化学分野の基礎知識と専門知識を活用して新たな研究課題を設定し、解決するための研究能力

gmDP2-2.

応用化学分野で活用できる知識と、持続可能な人類の発展に資する新しい化学製品・化学技術の開発や新しい化学工業分野を開拓できる力

#### 3. 社会を先導する力

gmDP3-1.

自己の研究成果を適切に評価し、それを社会に還元する力

gmDP3-2.

専門分野に関する研究内容について、適切な論文構成や整合性のある論理展開で修士論文にまとめて発信する力

## II. カリキュラム・ポリシー(教育課程の編成・実施の方針)

応用化学領域博士前期課程では、ディプロマ・ポリシーに示す資質・能力等の目標を学生が達成できるようにするため、教育課程編成、学修内容・学修方法、学修成果評価について、以下のようにカリキュラム・ポリシーを定めます。

### 1. 教育課程の編成方法

本課程では、専門分野についての高度な知識と様々な理論と実践を効果的に修得できるよう、以下のようにカリキュラムを編成しています。

- (1) 応用化学を中心としたカリキュラム編成をとり、学部教育との一貫性にも配慮しながら、複合知を兼ね備えた専門能力を養成します。
- (2) 修士論文作成のための「大学院演習 IA,IB,IIA,IIB」を必修として配置します。有機合成化学、高分子化学、無機工業化学、工業物理化学および環境化学工学などに関する科目を「自領域科目」の選択科目として配置します。また、自領域以外の分野についても広く知識を修得するために、他領域の科目や理工共通領域科目を配置します。
- (3) 科学技術英語や英語で行われる科目の受講、研究成果の英語発表、英語論文の執筆などにより、社会で活躍できるレベルの英語力を養います。
- (4) 研究倫理に関する規範意識を身につけるために、研究倫理教育を受ける機会を設けます。

### 2. 学修内容・学修方法

本課程の修了に必要な知識・技能を修得するため、講義・演習等を組み合わせた様々な授業形態・授業方法による学修・研究指導の機会を提供します。

さらに、課題設定等を通じて授業時間外の学修を促し、学修時間の確保と成果の定着を図ります。

- (1) 「自領域科目」では特定のトピック(有機合成化学、高分子化学、無機工業化学、工業物理化学および環境化学工学など)について理解し、「大学院演習 IA,IB,IIA,IIB」では議論を重ねることにより、研究を展開するために必要な基礎的な思考力を深め、調査研究能力を修得し、情報収集力や分析力を養います。
- (2) 「研究指導」では、修士論文の執筆をするため、指導教員を中心とする論文指導を受け、研究テーマに関する知識を深めるとともに、リサーチ能力とプレゼンテーション能力を養います。

### 3. 学修成果の評価方法

ディプロマ・ポリシーに示す目標に対する学生の学修到達状況は、シラバス等に明示された評価基準・方法に基づき、筆記試験、プレゼンテーション、レポート等を用いて多角的に評

価します。学位論文については、審査基準と審査方法を明示し、それに基づき学位論文審査委員会による論文審査および最終試験を厳格に行います。

### Ⅲ. アドミッション・ポリシー(入学者受入れの方針)

工学専攻応用化学領域博士前期課程では、ディプロマ・ポリシーに定める人材を育成するため、求める学生像、入学前に身につけていることを求める能力、入学者選抜の方法について、以下のようにアドミッション・ポリシーを定めます。

#### 1. 求める学生像

本課程では、「他者のために、他者とともに」という本学の教育精神およびディプロマ・ポリシーに掲げる目標を踏まえて、次のような資質・能力を高めたいと望む学生を求めています。

- (1) 応用化学分野の進歩に寄与する専門性と、人間社会や地球環境に与える影響を総合的にとらえる学際性
- (2) 持続可能な人類の発展に貢献できる多角的な視座や課題解決力
- (3) 専門性、研究能力および英語力を活かして社会に貢献する力

#### 2. 入学前に身につけていることを求める能力

入学前には、次の知識・能力・態度を持つことを求めます。

- (1) 応用化学分野に対する強い関心
- (2) 専門的な研究を実施するために自身の研究の目的と手法について考察し、探究しようとする意欲
- (3) 物理化学、無機化学、有機化学など応用化学の領域全般に関する基礎知識と論理的思考力
- (4) 研究を遂行する際に必要な英語力やコミュニケーション能力

#### 3. 入学者選抜の方法

入学者選抜の基本方針として、複数の受験機会や多様な学生を評価できる入試を提供します。アドミッション・ポリシーに定める「求める学生像」にふさわしい入学者を選抜するにあたり、「入学前に身につけていることを求める能力」を評価するため、出願書類、筆記試験、口述試験の結果を総合し、判断します。

入学者選抜方法の詳細は大学院入学試験のHPをご覧ください。

[https://adm.sophia.ac.jp/jpn/in\\_ad/innyushi/](https://adm.sophia.ac.jp/jpn/in_ad/innyushi/)

## ■ 博士後期課程

### I. ディプロマ・ポリシー（学位授与の方針）

理工学専攻応用化学領域博士後期課程では、応用化学分野の発展に寄与する高度な専門性と、人間社会や地球環境に与える影響を総合的にとらえる学際性をもち、自立して研究・開発を遂行できる人材を養成することを目的としています。

そうした目的を達成するため、理工学専攻のディプロマ・ポリシーを踏まえ、本領域博士後期課程では、所定の教育課程を修め、学位論文の審査に合格することで、次の資質・能力を身につけたと認められる者に学位を授与します。

#### 1. 専門家としての資質・研究倫理

gdDP1-1.

理工学分野を中心とし、関連する学際分野なども含めて知識を得ることにより修得される、化学技術や化学物質が人間社会や地球環境に与える影響などを多面的にとらえる力

gdDP1-2.

グローバル化の進展の先頭に立ち、国際社会において独立して活躍できるレベルの英語力

gdDP1-3.

高い倫理観・規範意識と、それらに則って研究を進める力

#### 2. 高度な専門的知識

gdDP2-1.

応用化学分野において、自己の研究課題を設定し、それを解決するための高度な研究能力

gdDP2-2.

応用化学分野で活用できる知識と、持続可能な人類の発展や幸福に寄与する創造的な研究開発を行う力

#### 3. 社会を先導する力

gdDP3-1.

自己の研究成果を社会に還元し、持続可能な社会の実現に貢献する力

gdDP3-2.

専門分野を中心に高い専門性や独創性のある研究を行い、それらを専門分野に貢献できる博士論文にまとめ、国内外で発信する力

## II. カリキュラム・ポリシー(教育課程の編成・実施の方針)

理工学専攻応用化学領域博士後期課程では、ディプロマ・ポリシーに示す資質・能力等の目標を学生が達成できるようにするため、教育課程編成、学修内容・学修方法、学修成果評価について、以下のようにカリキュラム・ポリシーを定めます。

### 1. 教育課程の編成方法

本課程では、研究分野に特化した知識と様々な理論と実践を効果的に修得し、自立して研究開発を遂行できる力を涵養するため、以下のようにカリキュラムを編成しています。

- (1) 応用化学を中心としたカリキュラム編成をとり、学部教育および博士前期課程との一貫性にも配慮しながら、複合知を兼ね備えた専門能力を養成します。
- (2) 自己の専門分野において教員の研究指導を受けながら集中して研究を遂行し、テーマと周辺について深い専門知識を得るとともに、研究の進め方、まとめ方などを学び、研究の集大成として博士論文を作成し、提出します。
- (3) 博士論文作成のための「研究指導」、「大学院演習 IIIA, IIIB, IVA, IVB, VA, VB」を配置します。
- (4) 英語で行われる科目の受講、研究成果の英語発表、英語論文の執筆などにより、社会で活躍できるレベルの英語力を養います。
- (5) 研究倫理に関する規範意識を身につけるために、研究倫理教育を受ける機会を設けます。

### 2. 学修内容・学修方法

本課程の修了に必要な知識・技能を修得させるため、講義・演習等を組み合わせた様々な授業形態・授業方法による学修・研究指導の機会を提供します。

さらに、課題設定等を通じて、授業時間外の学修を促し、学修時間の確保と成果の定着化を図ります。

- (1) 前期課程で積み上げた基礎知識や修士論文の成果を踏まえて、独創的な博士論文の執筆をするために、指導教員が担当する「研究指導」、「大学院演習 IIIA, IIIB, IVA, IVB, VA, VB」を中心に科目を履修し、持続可能な人類の発展や幸福に寄与する高度なリサーチ能力と課題発見能力を養います。
- (2) 専門的研究を通じて高度な資料分析能力を養うために「研究指導」に基づき、国内外の学会・学術誌への論文発表を積極的に行い、自立した研究者としての能力を身につけます。

### 3. 学修成果の評価方法

ディプロマ・ポリシーに示す目標に対する学生の学修到達状況は、シラバス等に明示された評価基準・方法に基づき、筆記試験、プレゼンテーション、レポート等を用いて多角的に評

価します。学位論文については、審査基準と審査方法を明示し、それに基づき学位論文審査委員会による論文審査および最終試験を厳格に行います。

### Ⅲ. アドミッション・ポリシー(入学者受入れの方針)

理工学専攻応用化学領域博士後期課程では、ディプロマ・ポリシーに定める人材を育成するため、求める学生像、入学前に身につけていることを求める能力、入学者選抜の方法について、以下のようにアドミッション・ポリシーを定めます。

#### 1. 求める学生像

本課程では、「他者のために、他者とともに」という本学の教育精神およびディプロマ・ポリシーに掲げる目標を踏まえて、次のような資質・能力を高めたいと望む学生を求めています。

- (1) 応用化学分野の進歩に寄与する専門性と、人間社会や地球環境に与える影響を総合的にとらえる学際性
- (2) 応用化学分野で自立して研究を行う能力
- (3) 専門性、研究能力および語学力を活かして社会に貢献する力

#### 2. 入学前に身につけていることを求める能力

入学前には、次の知識・能力・態度を持つことを求めます。

- (1) 応用化学分野に対する強い関心
- (2) 前期課程の研究を踏まえて、独創性のある研究を探究しようとする意欲
- (3) 応用化学に関する高度な専門的知識と論理的思考力
- (4) 研究を遂行する際に必要な語学力やコミュニケーション能力

#### 3. 入学者選抜の方法

入学者選抜の基本方針として、複数の受験機会や多様な学生を評価できる入試を提供します。アドミッション・ポリシーに定める「求める学生像」にふさわしい入学者を選抜するにあたり、「入学前に身につけていることを求める能力」を評価するため、出願書類、筆記試験、口述試験の結果を総合し、判断します。

入学者選抜方法の詳細は大学院入学試験のHPをご覧ください。

[https://adm.sophia.ac.jp/jpn/in\\_ad/innyushi/](https://adm.sophia.ac.jp/jpn/in_ad/innyushi/)

## 理工学専攻化学領域の3つのポリシー

### ■ 博士前期課程

#### I. ディプロマ・ポリシー（学位授与の方針）

理工学専攻化学領域博士前期課程は、化学および関連分野の発展に寄与し、専門知識を用いて人間社会の発展や地球環境の保全に貢献できる人材を養成することを目的としています。

そうした目的を達成するため、理工学専攻のディプロマ・ポリシーを踏まえ、本領域博士前期課程では、所定の教育課程を修め、学位論文の審査に合格することで、次の資質・能力を身につけたと認められる者に学位を授与します。

#### 1. 専門家としての資質・研究倫理

gmDP1-1.

化学を中心とし、関連分野も含む広範な知識を得ることにより、化学が人間社会や地球環境に与える影響などを多面的にとらえる力

gmDP1-2.

グローバル化の進展に対応するための、社会で活躍できるレベルの英語力

gmDP1-3.

高い倫理観・規範意識を持って研究を進める力

#### 2. 高度な専門的知識

gmDP2-1.

化学およびその関連学問分野の基礎知識と専門知識を活用して新たな研究課題を設定し、解決するための研究能力

gmDP2-2.

化学およびその周辺分野の高度な知識に基づき、真理の探究および人類の発展や幸福に寄与する創造的な研究を行う能力

#### 3. 社会を先導する力

gmDP3-1.

自己の研究成果を適切に評価し、それを社会に還元する力

gmDP3-2.

専門分野に関する研究内容について、論理的かつ適切・明快な表現を用いて、研究論文や研究発表として公表する力

## II. カリキュラム・ポリシー(教育課程の編成・実施の方針)

理工学専攻化学領域博士前期課程では、ディプロマ・ポリシーに示す資質・能力等の目標を学生が達成できるようにするため、教育課程編成、学修内容・学修方法、学修成果評価について、以下のようにカリキュラム・ポリシーを定めます。

### 1. 教育課程の編成方法

本課程では、専門分野についての高度な知識と様々な理論と実践を効果的に修得できるよう、以下のようにカリキュラムを編成しています。

- (1) 修士論文作成のための「大学院演習 IA,IB,IIA,IIB」を必修として配置します。化学を基盤とする専門性を育む「化学領域科目」を選択科目として配置します。また、自己の専門領域以外の分野についても広く知識を修得するために、他領域の科目および理工共通領域科目が履修できます。
- (2) 科学技術英語や英語で行われる科目の受講、研究成果の英語発表、英語論文の執筆などにより、社会で活躍できるレベルの英語力を養成します。
- (3) 研究倫理に関する規範意識を身につけるために、研究倫理教育を受ける機会を設けます。

### 2. 学修内容・学修方法

本課程の修了に必要な知識・技能を修得するため、講義・演習を組み合わせた様々な授業形態・授業方法による学修・研究指導の機会を提供します。

さらに、課題設定等を通じて授業時間外の学修を促し、学修時間の確保と成果の定着を図ります。

- (4) 「化学領域科目」では物理化学、無機・分析化学、有機化学のトピックについて理解し、「大学院演習 IA,IB,IIA,IIB」では議論を重ねることにより研究を展開するために必要な基礎的な思考力を深め、調査研究能力を修得し、情報収集力や分析力を身につけます。
- (5) 「研究指導」では、修士論文の執筆をするため、指導教員を中心とする論文指導を受け、研究テーマに関する知識を深めるとともに、リサーチ能力とプレゼンテーション能力を養います。

### 3. 学修成果の評価方法

ディプロマ・ポリシーに示す目標に対する学生の学修到達状況は、シラバス等に明示された評価基準・方法に基づき、筆記試験、プレゼンテーション、レポート等を用いて多角的に評価します。学位論文については、審査基準と審査方法を明示し、それに基づき学位論文審査委員会による論文審査および最終試験を厳格に行います。

### Ⅲ. アドミッション・ポリシー(入学者受入れの方針)

理工学専攻化学領域博士前期課程では、ディプロマ・ポリシーに定める人材を育成するため、求める学生像、入学前に身につけていることを求める能力、入学者選抜の方法について、以下のようにアドミッション・ポリシーを定めます。

#### 1. 求める学生像

本課程では、「他者のために、他者とともに」という本学の教育精神およびディプロマ・ポリシーに掲げる目標を踏まえ、次のような資質・能力を高めたいと望む学生を求めています。

- (1) 化学分野における専門的知識・技能および学際的な深い教養
- (2) 基礎学力と研究意欲を備え、化学に関する専門知識を深め、複合的な知識を修得しようとする意欲
- (3) 研究能力や専門性を活かして社会に貢献する力

#### 2. 入学前に身につけていることを求める能力

入学前には、次の知識・能力・態度を持つことを求めます。

- (1) 化学の学問分野に対する強い関心
- (2) 専門的な研究を実施するために自己の研究の目的と手法について考察し、探究しようとする意欲
- (3) 化学全般に関する基礎知識と論理的思考力
- (4) 研究を遂行する際に必要な語学力やコミュニケーション能力

#### 3. 入学者選抜の方法

入学者選抜の基本方針として、複数の受験機会や多様な学生を評価できる入試を提供します。アドミッション・ポリシーに定める「求める学生像」にふさわしい入学者を選抜するにあたり、「入学前に身につけていることを求める能力」を評価するため、出願書類、筆記試験、口述試験の結果により総合的に選抜を実施します。

入学者選抜方法の詳細は大学院入学試験のHPをご覧ください。

[https://adm.sophia.ac.jp/jpn/in\\_ad/innyushi/](https://adm.sophia.ac.jp/jpn/in_ad/innyushi/)

## ■ 博士後期課程

### I. ディプロマ・ポリシー（学位授与の方針）

理工学専攻化学領域博士後期課程は、化学および関連分野の発展に寄与し、専門知識を用いて人間社会の発展や地球環境の保全に貢献できる人材を養成することを目的としています。

そうした目的を達成するため、理工学専攻のディプロマ・ポリシーを踏まえ、本領域博士後期課程では、所定の教育課程を修め、学位論文の審査に合格することで、次の資質・能力を身につけたと認められる者に学位を授与します。

#### 1. 専門家としての資質・研究倫理

gdDP1-1.

化学を中心とし、関連する学際分野をも含む広範で高度な知識を得ることにより、化学が人間社会や地球環境に与える影響などを多面的にとらえる力

gdDP1-2.

グローバル化の進展の先頭に立ち、国際社会にて独立して活躍できるレベルの英語力

gdDP1-3.

高い倫理観・規範意識を持って研究を進める力

#### 2. 高度な専門的知識

gdDP2-1.

化学およびその関連専門分野において、自己の研究課題を設定し、それを解決するための高度な研究能力

gdDP2-2.

化学およびその周辺領域に跨がる学際分野の専門知識に基づき、真理の探究および人類の発展や幸福に寄与する創造的な研究を行う能力

#### 3. 社会を先導する力

gdDP3-1.

自己の研究成果を社会に還元し、持続可能な社会の実現に貢献する力

gdDP3-2.

専門分野に関する研究内容について、論理的かつ適切・明快な表現を用いて、研究論文や研究発表として公表する力

## II. カリキュラム・ポリシー(教育課程の編成・実施の方針)

理工学専攻化学領域博士後期課程では、ディプロマ・ポリシーに示す資質・能力等の目標を学生が達成できるようにするため、教育課程編成、学修内容・学修方法、学修成果評価について、以下のようにカリキュラム・ポリシーを定めます。

### 1. 教育課程の編成方法

本課程では、研究分野に特化した知識と様々な理論と実践を効果的に修得し、自立して研究開発を遂行できる力を涵養するため、以下のようにカリキュラムを編成しています。

- (1) 化学を中心としたカリキュラム編成をとり、学部教育および博士前期課程との一貫性にも配慮しながら、複合知を兼ね備えた専門能力を養成します。
- (2) 自己の専門分野において教員の研究指導を受けながら集中して研究を遂行し、このテーマと周辺について深い専門知識を得るとともに、研究の進め方、まとめ方などを学び、研究の集大成として博士論文を提出します。
- (3) 博士論文作成のための「研究指導」、「大学院演習 IIIA, IIIB, IVA, IVB, VA, VB」を配置します。
- (4) 研究成果の英語発表、英語論文の執筆などにより、国際社会にて独立して活躍できるレベルの英語力を養成します。
- (5) 研究倫理に関する規範意識を身につけるために、研究倫理教育を受ける機会を設けます。

### 2. 学修内容・学修方法

本課程の修了に必要な知識・技能を修得するため、講義・演習等を組み合わせた様々な授業形態・授業方法による学修・研究指導の機会を提供します。

さらに、課題設定等を通じて授業時間外の学修を促し、学修時間の確保と成果の定着を図ります。

- (1) 前期課程で積み上げた基礎知識や修士論文の成果をふまえて、独創的な博士論文の執筆をするために、指導教員が担当する「研究指導」、「大学院演習 IIIA, IIIB, IVA, IVB, VA, VB」を中心に科目を履修し、高度なリサーチ能力と課題発見能力を養います。
- (2) 専門的研究を通じて高度な資料分析能力を養うために「研究指導」に基づき、国内外の学会・学術誌への論文発表を積極的に行い、自立した研究者としての能力を身につけます。

### 3. 学修成果の評価方法

ディプロマ・ポリシーに示す目標に対する学生の学修到達状況は、シラバス等に明示された評価基準・方法に基づき、筆記試験、プレゼンテーション、レポート等を用いて多角的に評

価します。学位論文については、審査基準と審査方法を明示し、それに基づき学位論文審査委員会による論文審査および最終試験を厳格に行います。

### Ⅲ. アドミッション・ポリシー(入学者受入れの方針)

理工学専攻化学領域博士後期課程では、ディプロマ・ポリシーに定める人材を育成するため、求める学生像、入学前に身につけていることを求める能力、入学者選抜の方法について、以下のようにアドミッション・ポリシーを定めます。

#### 1. 求める学生像

本課程では、「他者のために、他者とともに」という本学の教育精神およびディプロマ・ポリシーに掲げる目標を踏まえ、次のような資質・能力を高めたいと望む学生を求めています。

- (1) 化学の進歩に寄与する専門性と、人間社会や地球環境に与える影響を総合的にとらえる学際性
- (2) 各専門分野で自立して研究を行う能力
- (3) 高度な研究能力や専門性を活かして社会に貢献する力

#### 2. 入学前に身につけていることを求める能力

入学前には、次の知識・能力・態度を持つことを求めます。

- (1) 化学の学問分野に対する強い関心
- (2) 前期課程の研究をふまえて、独創性のある研究課題について考察し、それを探究しようとする意欲
- (3) 自己の研究領域に関する高度な専門的知識と論理的思考力
- (4) 研究を遂行する際に必要な語学力やコミュニケーション能力

#### 3. 入学者選抜の方法

入学者選抜の基本方針として、複数の受験機会や多様な学生を評価できる入試を提供します。アドミッション・ポリシーに定める「求める学生像」にふさわしい入学者を選抜するにあたり、「入学前に身につけていることを求める能力」を評価するため、出願書類、筆記試験、口述試験の結果により総合的に選抜を実施します。

入学者選抜方法の詳細は大学院入学試験のHPをご覧ください。

[https://adm.sophia.ac.jp/jpn/in\\_ad/innyushi/](https://adm.sophia.ac.jp/jpn/in_ad/innyushi/)

## 理工学専攻数学領域の3つのポリシー

### ■ 博士前期課程

#### I. ディプロマ・ポリシー（学位授与の方針）

理工学専攻数学領域博士前期課程は、数学の発展とその応用に寄与し、その専門知識を社会や次世代に伝えることで人間社会の発展に貢献できる人材を養成することを目的としています。

そうした目的を達成するため、理工学専攻のディプロマ・ポリシーを踏まえ、本領域博士前期課程では、所定の教育課程を修め、学位論文の審査に合格することで次の資質・能力を身につけたと認められる者に学位を授与します。

#### 1. 専門家としての資質・研究倫理

gmDP1-1.

数学の基礎知識に加え、数学以外の分野も含め広範に知識を得ることにより、数学の基礎およびその社会への応用について多面的にとらえる力

gmDP1-2.

グローバル化の進展に対応するための、社会で活躍できるレベルの英語力

gmDP1-3.

高い倫理観・規範意識を持って研究を進める力

#### 2. 高度な専門的知識

gmDP2-1.

数学分野の基礎知識と専門知識を活用して新たな研究課題を設定し、解決するための研究能力

gmDP2-2.

数学分野で活躍できる応用知識を用いて、真理の探究や理論の発展を可能にする力

#### 3. 社会を先導する力

gmDP3-1.

自己の研究成果および過去から現在までの数学の研究成果の蓄積を適切に評価し、それを広く社会や次世代に伝えることのできる力

gmDP3-2.

数学に関する研究内容について、専門的な知識の理解に基づく適切な論文構成や整合性のある論理展開で修士論文にまとめて発信する力

## II. カリキュラム・ポリシー(教育課程の編成・実施の方針)

理工学専攻数学領域博士前期課程では、ディプロマ・ポリシーに示す資質・能力等の目標を学生が達成できるようにするため、教育課程編成、学修内容・学修方法、学修成果評価について、以下のようにカリキュラム・ポリシーを定めます。

### 1. 教育課程の編成方法

本課程では、専門分野についての高度な知識と様々な理論と実践を効果的に修得できるよう、以下のようにカリキュラムを編成しています。

- (1) 数学を中心としたカリキュラム編成をとり、学部教育との一貫性にも配慮しながら、複合知を兼ね備えた専門能力を養成します。
- (2) 修士論文作成のための「大学院演習 IA,IB,IIA,IIB」を必修として配置します。専攻分野に関わる「数学領域科目」を代数系・幾何系・解析系の各分野から偏りなく選択科目として配置します。また、自己の専門領域以外の分野についても広く知識を修得するために、他領域の科目や理工共通領域科目が履修できます。
- (3) 科学技術英語や英語で行われる科目の受講、研究成果の英語発表、英語論文の執筆などを通して、社会で活躍できるレベルに英語力を向上させます。
- (4) 研究倫理に関する規範意識を身につけるために、研究倫理教育を受ける機会を設けます。

### 2. 学修内容・学修方法

本課程の修了に必要な知識・技能を修得するため、講義・演習・実習等を組み合わせた様々な授業形態・授業方法による学修・研究指導の機会を提供します。

さらに、課題設定等を通じて授業時間外の学修を促し、学修時間の確保と成果の定着を図ります。

- (1) 「数学領域科目」のうち講義科目では解析学・代数学・幾何学・数理統計などに関する科目を受講し、学部教育に引き続いて数学全般についての理解を深めるとともに、自身の興味に沿って指導教員の助言を得ながら特定の専門的なトピックについても専門知識を得ます。「数学ゼミナール IA,IB,IIA,IIB」では、自分の専門とする分野の文献を自ら講読・発表して、専門知識を得るとともに問題意識を涵養します。
- (2) 「大学院演習 IA,IB,IIA,IIB」では議論を重ねることにより研究を展開するために必要な基礎的な思考力を深め、調査研究能力を修得し、情報収集力や分析力を身につけます。
- (3) 「研究指導」では、修士論文の執筆をするため、指導教員を中心とする論文指導を受け、研究テーマに関する知識を深めるとともにリサーチ能力と自身の研究内容を既存研究の中で正しく位置づけながら適切にプレゼンテーションするための能力を養います。

### 3. 学修成果の評価方法

ディプロマ・ポリシーに示す目標に対する学生の学修到達状況は、シラバス等に明示された評価基準・方法に基づき、筆記試験、プレゼンテーション、レポート等を用いて多角的に評価します。学位論文については、審査基準と審査方法を明示し、それに基づき学位論文審査委員会による論文審査および最終試験を厳格に行います。

### Ⅲ. アドミッション・ポリシー(入学者受入れの方針)

理工学専攻数学領域博士前期課程では、ディプロマ・ポリシーに定める人材を育成するため、求める学生像、入学前に身につけていることを求める能力、入学者選抜の方法について、以下のようにアドミッション・ポリシーを定めます。

#### 1. 求める学生像

本課程では、「他者のために、他者とともに」という本学の教育精神およびディプロマ・ポリシーに掲げる目標を踏まえ、次のような資質・能力を高めたいと望む学生を求めています。

- (1) 数学分野の進歩に寄与する専門性と、人間の社会や文化に与える影響を総合的にとらえる学際性
- (2) 基礎学力と研究意欲を備え、数学に関する専門知識を深め、複合的な知識を修得しようとする意欲
- (3) 研究能力や専門性を活かして社会に貢献する力

#### 2. 入学前に身につけていることを求める能力

入学前には、次の知識・能力・態度を持つことを求めます。

- (4) 数学に対する強い関心
- (5) 数学の専門的な研究を実施するために自身の研究の目的と手法について考察し、探究しようとする意欲
- (6) 数学の基礎分野および解析学・代数学・幾何学・数理統計などのうち、自らの専門とする分野などに関する基礎知識と論理的思考力
- (7) 研究を遂行する際に必要な語学力やコミュニケーション能力

#### 3. 入学者選抜の方法

入学者選抜の基本方針として、複数の受験機会や多様な学生を評価できる入試を提供します。アドミッション・ポリシーに定める「求める学生像」にふさわしい入学者を選抜するにあたり、「入学前に身につけていることを求める能力」を評価するため、出願書類、筆記試験、口述試験の結果により総合的に選抜を実施します。

入学者選抜方法の詳細は大学院入学試験のHPをご覧ください。

[https://adm.sophia.ac.jp/jpn/in\\_ad/innyushi/](https://adm.sophia.ac.jp/jpn/in_ad/innyushi/)

## ■ 博士後期課程

### I. ディプロマ・ポリシー（学位授与の方針）

理工学専攻数学領域博士後期課程は、数学の発展とその応用に寄与する高度な専門性を身につけ、社会や次世代に伝えるとともに、その及ぼす影響を総合的にとらえる学際性を持ち、自立して研究を遂行できる人材を養成することを目的としています

そうした目的を達成するため、理工学専攻のディプロマ・ポリシーを踏まえ、本領域博士後期課程では、所定の教育課程を修め、学位論文の審査に合格することで次の資質・能力を身につけたと認められる者に学位を授与します。

#### 1. 専門家としての資質・研究倫理

gdDP1-1.

数学の基礎知識を発展させ独創的で新規性が見られる知見の創出を行い、関連する学際分野なども含めて知識を得ることにより、数学とその応用が社会に及ぼす影響などを多面的にとらえる力

gdDP1-2.

グローバル化の進展の先頭に立ち、国際社会においてして活躍できるレベルの英語力

gdDP1-3.

高い倫理観・規範意識を持って研究を進める力

#### 2. 高度な専門的知識

gdDP2-1.

数学分野において、自己の研究課題を設定し、それを解決するための高度な研究能力

gdDP2-2.

数学分野で自立的に活躍できる専門知識を用いて、真理の探究・理論の発展により社会の発展に寄与できる力

#### 3. 社会を先導する力

gdDP3-1.

自己の研究成果および過去から現在までの数学の研究成果の蓄積を広く社会や次世代に伝えて、持続可能な社会の実現に貢献する力

gdDP3-2.

数学に関する専門的な知識の理解と独創的な発想を持ち、自立した研究者として、国際的なレベルの学術論文を完成させ、国内外で発信する力

## II. カリキュラム・ポリシー(教育課程の編成・実施の方針)

理工学専攻数学領域博士後期課程では、ディプロマ・ポリシーに示す資質・能力等の目標を学生が達成できるようにするため、教育課程編成、学修内容・学修方法、学修成果評価について、以下のようにカリキュラム・ポリシーを定めます。

### 1. 教育課程の編成方法

本課程では、研究分野に特化した知識と様々な理論と実践を効果的に修得し、自立して研究開発を遂行できる力を涵養するため、以下のようにカリキュラムを編成しています。

- (1) 数学を中心としたカリキュラム編成をとり、学部教育および博士前期課程との一貫性にも配慮しながら、複合知を兼ね備えた専門能力を養成します。
- (2) 自己の専門分野において教員の研究指導を受けながら集中して研究を遂行し、このテーマと周辺について深い専門知識を得るとともに、研究の進め方、まとめ方などを学び、研究の集大成として博士論文を提出します。
- (3) 博士論文作成のための「研究指導」、「大学院演習 IIIA, IIIB, IVA, IVB, VA, VB」を配置します。
- (4) 科学技術英語や英語で行われる科目の受講、研究成果の英語発表、英語論文の執筆などを通して、社会で活躍できるレベルに英語力を向上させます。
- (5) 研究倫理に関する規範意識を身につけるために、研究倫理教育を受ける機会を設けます。

### 2. 学修内容・学修方法

本課程の修了に必要な知識・技能を修得するため、講義・演習等を組み合わせた様々な授業形態・授業方法による学修・研究指導の機会を提供します。

さらに、課題設定等を通じて授業時間外の学修を促し、学修時間の確保と成果の定着を図ります。

- (1) 前期課程で積み上げた基礎知識や修士論文の成果をふまえて、独創的な博士論文の執筆をするために、指導教員が担当する「研究指導」、「大学院演習 IIIA, IIIB, IVA, IVB, VA, VB」を中心に科目を履修し、高度なリサーチ能力と課題発見能力を養います。
- (2) 専門的研究を通じて高度な資料分析能力を養うために「研究指導」に基づき、国内外の学会・学術誌への論文発表を積極的に行い、自立した研究者としての能力を身につけます。

### 3. 学修成果の評価方法

ディプロマ・ポリシーに示す目標に対する学生の学修到達状況は、シラバス等に明示された評価基準・方法に基づき、筆記試験、プレゼンテーション、レポート等を用いて多角的に評

価します。

学位論文については、審査基準と審査方法を明示し、それに基づき学位論文審査委員会による論文審査および最終試験を厳格に行います。

### Ⅲ. アドミッション・ポリシー(入学者受入れの方針)

理工学専攻数学領域博士後期課程では、ディプロマ・ポリシーに定める人材を育成するため、求める学生像、入学前に身につけていることを求める能力、入学者選抜の方法について、以下のようにアドミッション・ポリシーを定めます。

#### 1. 求める学生像

本課程では、「他者のために、他者とともに」という本学の教育精神およびディプロマ・ポリシーに掲げる目標を踏まえ、次のような資質・能力を高めたいと望む学生を求めています。

- (1) 数学分野の進歩に寄与する専門性と、人間の社会や文化に与える影響を総合的にとらえる学際性
- (2) 数学分野で自立して研究を行う能力
- (3) 高度な研究能力や専門性を活かして社会に貢献する力

#### 2. 入学前に身につけていることを求める能力

入学前には、次の知識・能力・態度を持つことを求めます。

- (1) 数学に対する強い関心
- (2) 前期課程の研究をふまえて、独創性のある研究を遂行することによって、新しい知識を探究しようとする意欲
- (3) 自己の研究領域に関する高度な専門的知識と論理的思考力
- (4) 研究を遂行する際に必要な語学力やコミュニケーション能力

#### 3. 入学者選抜の方法

入学者選抜の基本方針として、複数の受験機会や多様な学生を評価できる入試を提供します。アドミッション・ポリシーに定める「求める学生像」にふさわしい入学者を選抜するにあたり、「入学前に身につけていることを求める能力」を評価するため、出願書類、筆記試験、口述試験の結果により総合的に選抜を実施します。

入学者選抜方法の詳細は大学院入学試験のHPをご覧ください。

[https://adm.sophia.ac.jp/jpn/in\\_ad/innyushi/](https://adm.sophia.ac.jp/jpn/in_ad/innyushi/)

## 理工学専攻物理学領域の3つのポリシー

### ■ 博士前期課程

#### I. ディプロマ・ポリシー（学位授与の方針）

理工学専攻物理学領域博士前期課程は、物理学および関連分野の発展に寄与し、専門知識を用いて人間社会の発展や地球環境の保全に貢献できる人材を養成することを目的としています。

そうした目的を達成するため、理工学専攻のディプロマ・ポリシーを踏まえ、本領域博士前期課程では、所定の教育課程を修め、学位論文の審査に合格することで、次の資質・能力を身につけたと認められる者に学位を授与します。

#### 1. 専門家としての資質・研究倫理

gmDP1-1.

物理学を中心として、物理学以外の自然科学分野あるいは社会科学分野との学際分野を含む広範な知識を得ることにより、物理学が人間社会や地球環境に与える影響などを多面的にとらえる力

gmDP1-2.

グローバル化の進展に対応するために、社会で活躍できるレベルの英語力

gmDP1-3.

高い倫理観・規範意識を持って研究を進める力

#### 2. 高度な専門的知識

gmDP2-1.

物理学分野の基礎知識と専門知識を活用して新たな研究課題を設定し、解決するための研究能力

gmDP2-2.

物理学分野で活躍できる応用知識を用いて、新技術の開発や新分野の開拓をできる力

#### 3. 社会を先導する力

gmDP3-1.

自己の研究成果を適切に評価し、それを社会に還元する力

gmDP3-2.

専門分野に関する研究内容について、適切な論文構成や整合性のある論理展開で修士論文にまとめて発信する力

## II. カリキュラム・ポリシー(教育課程の編成・実施の方針)

理工学専攻物理学領域博士前期課程では、ディプロマ・ポリシーに示す資質・能力等の目標を学生が達成できるようにするため、教育課程編成、学修内容・学修方法、学修成果評価について、以下のようにカリキュラム・ポリシーを定めます。

### 1. 教育課程の編成方法

本課程では、専門分野における高度な知識と様々な理論と実践を効果的に修得できるよう、以下のようにカリキュラムを編成しています。

- (1) 物理学領域が提供する原子核物理、物性物理、光物性、原子・分子などに関する科目を配置します。
- (2) 物理学領域以外の領域、および理工共通領域科目を配置し、自己の専門領域以外の分野について広く知識を修得します。
- (3) 特定のテーマについて研究を行い、このテーマと周辺について深い専門知識を得るとともに、研究の進め方、まとめ方、研究倫理などを養成します。
- (4) 科学技術英語や英語で行われる科目の受講、研究成果の英語発表、英語論文の執筆などにより、英語力を養成します。

### 2. 学修内容・学修方法

本課程の修了に必要な知識・技能を修得するため、講義・演習・実習等を組み合わせた様々な授業形態・授業方法による学修・研究指導の機会を提供します。

さらに、課題設定等を通じて授業時間外の学修を促し、学修時間の確保と成果の定着を図ります。

- (1) 「自研究科自領域科目」では物理学領域で展開される研究課題について理解し、「大学院演習」では議論を重ねることにより研究を展開するために必要な基礎的な思考力を深め、調査研究能力を修得し、情報収集力や分析力を身につけます。
- (2) 「研究指導」では、修士論文の執筆をするため、指導教員を中心とする論文指導を受け、研究テーマに関する知識を深めるとともに、リサーチ能力とプレゼンテーション能力を養います。

### 3. 学修成果の評価方法

ディプロマ・ポリシーに示す目標に対する学生の学修到達状況は、シラバス等に明示された評価基準・方法に基づき、筆記試験、プレゼンテーション、レポート等を用いて多角的に評価します。学位論文については、審査基準と審査方法を明示し、それに基づき学位論文審査委員会による論文審査および最終試験を厳格に行います。

### Ⅲ. アドミッション・ポリシー(入学者受入れの方針)

理工学専攻物理学領域博士前期課程では、ディプロマ・ポリシーに定める人材を育成するため、求める学生像、入学前に身につけていることを求める能力、入学者選抜の方法について、以下のようにアドミッション・ポリシーを定めます。

#### 1. 求める学生像

本課程では、「他者のために、他者とともに」という本学の教育精神およびディプロマ・ポリシーで掲げる目標を踏まえ、次のような資質・能力を高めたいと望む学生を求めています。

- (1) 自然現象の理解や物理法則の解明に対する強い興味に基づいて現代科学・技術の学問分野の進歩に寄与する専門性と、人間社会や地球環境に与える影響を総合的にとらえる学際性
- (2) 基礎学力と研究意欲を備え、物理学に関する専門知識を深め、複合的な知識を修得しようとする意欲
- (3) 研究能力や専門性を活かして社会に貢献する力

#### 2. 入学前に身につけていることを求める能力

入学前には、次の知識・能力・態度を持つことを求めます。

- (1) 物理学領域の分野に対する強い関心
- (2) 物理学領域で専門的な研究を実施するために自己の研究の目的と手法について考察し、探究しようとする意欲
- (3) 物理学領域で研究を遂行するために必要な基礎数学、電磁気学、熱統計力学、量子力学、化学物理などに関する基礎知識と論理的思考力
- (4) 物理学領域で研究を遂行する際に必要な英語力やコミュニケーション能力

#### 3. 入学者選抜の方法

入学者選抜の基本方針として、複数の受験機会や多様な学生を評価できる入試を提供します。アドミッション・ポリシーに定める「求める学生像」にふさわしい入学者を選抜するにあたり、「入学前に身につけていることを求める能力」を評価するため、出願書類、筆記試験、口述試験の結果により総合的に選抜を実施します。

入学者選抜方法の詳細は大学院入学試験のHPをご覧ください。

[https://adm.sophia.ac.jp/jpn/in\\_ad/innyushi/](https://adm.sophia.ac.jp/jpn/in_ad/innyushi/)

## ■ 博士後期課程

### I. ディプロマ・ポリシー（学位授与の方針）

理工学専攻物理学領域博士後期課程は、物理学における高度な専門性を身につけ、人間社会や地球環境に与える影響を総合的にとらえる学際性をもち、自立して研究開発を遂行できる人材の育成を目的としています。

そうした目的を達成するため、理工学専攻のディプロマ・ポリシーを踏まえ、本領域博士後期課程では、所定の教育課程を修め、学位論文の審査に合格することで、次の資質・能力を身につけたと認められる者に学位を授与します。

#### 1. 専門家としての資質・研究倫理

gdDP1-1.

理学を中心として、関連する学際分野の知識も含む知識を得ることにより、物理学が人間社会や地球環境に与える影響などを多面的にとらえる力

gdDP1-2.

グローバル化の進展の先頭に立ち、国際社会において独立して活躍できるレベルの英語力

gdDP1-3.

高い倫理観・規範意識を持って研究を進める力

#### 2. 高度な専門的知識

gdDP2-1.

物理学分野において、自己の研究課題を設定し、それを解決するための高度な研究能力

gdDP2-2.

物理学分野で自立的に活躍できる応用知識を用いて、社会の発展に寄与する創造的な研究開発を行う力

#### 3. 社会を先導する力

gdDP3-1.

自己の研究成果を社会に還元し、持続可能な社会の実現に貢献する力

gdDP3-2.

専門分野を中心に高い専門性や独創性のある研究を行い、それらを専門分野に貢献できる博士論文にまとめ、国内外で発信する力

## II. カリキュラム・ポリシー(教育課程の編成・実施の方針)

理工学専攻物理学領域博士後期課程では、ディプロマ・ポリシーに示す資質・能力等の目標を学生が達成できるようにするため、教育課程編成、学修内容・学修方法、学修成果評価について、以下のようにカリキュラム・ポリシーを定めます。

### 1. 教育課程の編成方法

本課程では、研究分野に特化した知識と様々な理論と実践を効果的に修得し、自立して研究開発を遂行できる力を涵養するため、以下のようにカリキュラムを編成しています。

- (1) 物理学を中心としたカリキュラム編成をとり、学部教育および博士前期課程との一貫性にも配慮しながら、複合知を兼ね備えた専門能力を養成します。
- (2) 自己の専門分野において教員の研究指導を受けながら集中して研究を遂行し、このテーマと周辺について深い専門知識を得るとともに、研究の進め方、まとめ方などを学び、研究の集大成として博士論文を提出します。
- (3) 博士論文作成のための「研究指導」、「大学院演習 IIIA, IIIB, IVA, IVB, VA, VB」を配置します。
- (4) 得られた研究成果を国内外にて英語で発表し、また英語論文を執筆投稿し、必要に応じて海外の研究機関にて研究を行い、これらにより英語力を養成します。
- (5) 研究倫理に関する規範意識を身につけるために、研究倫理教育を受ける機会を設けます。

### 2. 学修内容・学修方法

本課程の修了に必要な知識・技能を修得するため、講義・演習等を組み合わせた様々な授業形態・授業方法による学修・研究指導の機会を提供します。

さらに、課題設定等を通じて授業時間外の学修を促し、学修時間の確保と成果の定着を図ります。

- (1) 前期課程で積み上げた基礎知識や修士論文の成果をふまえて、独創的な博士論文の執筆をするために、指導教員が担当する「研究指導」、「大学院演習」を中心に科目を履修し、高度なリサーチ能力と課題発見能力を養います。
- (2) 専門的研究を通じて高度な資料分析能力を養うために「研究指導」に基づき、国内外の学会・学術誌への論文発表を積極的に行い、自立した研究者としての能力を身につけます。

### 3. 学修成果の評価方法

ディプロマ・ポリシーに示す目標に対する学生の学修到達状況は、シラバス等に明示された評価基準・方法に基づき、筆記試験、プレゼンテーション、レポート等を用いて多角的に評価します。学位論文については、審査基準と審査方法を明示し、それに基づき学位論文審査

委員会による論文審査および最終試験を厳格に行います。

### Ⅲ. アドミッション・ポリシー(入学者受入れの方針)

理工学専攻物理学領域博士後期課程では、ディプロマ・ポリシーに定める人材を育成するため、求める学生像、入学前に身につけていることを求める能力、入学者選抜の方法について、以下のようにアドミッション・ポリシーを定めます。

#### 1. 求める学生像

本課程では、「他者のために、他者とともに」という本学の教育精神およびディプロマ・ポリシーに掲げる目標を踏まえ、次のような資質・能力を高めたいと望む学生を求めています。

- (1) 自然現象の理解や物理法則の解明に対する強い興味に基づいて現代科学・技術の学問分野の進歩に寄与する専門性と、人間社会や地球環境に与える影響を総合的にとらえる学際性
- (2) 物理学の専門分野で自立して研究を行う能力
- (3) 高度な研究能力や専門性を活かして社会に貢献する力

#### 2. 入学前に身につけていることを求める能力

入学前には、次の知識・能力・態度を持つことを求めます。

- (1) 物理学領域の分野に対する強い関心
- (2) 前期課程の研究をふまえて、独創性のある研究を実施・探究しようとする意欲
- (3) 物理学領域に関する高度な専門的知識と論理的思考力
- (4) 物理学領域の研究を遂行する際に必要な英語力やコミュニケーション能力

#### 3. 入学者選抜の方法

入学者選抜の基本方針として、複数の受験機会や多様な学生を評価できる入試を提供します。アドミッション・ポリシーに定める「求める学生像」にふさわしい入学者を選抜するにあたり、「入学前に身につけていることを求める能力」を評価するため、出願書類、筆記試験、口述試験の結果により総合的に選抜を実施します。

入学者選抜方法の詳細は大学院入学試験のHPをご覧ください。

[https://adm.sophia.ac.jp/jpn/in\\_ad/innyushi/](https://adm.sophia.ac.jp/jpn/in_ad/innyushi/)

## 理工学専攻生物科学領域の3つのポリシー

### ■ 博士前期課程

#### I. ディプロマ・ポリシー（学位授与の方針）

理工学専攻生物科学領域博士前期課程は、多彩な生物現象を広く理解し、生物科学の進歩に寄与する専門性と、学際的研究分野への応用可能な知識を持ち、人間社会に貢献できる人材を養成することを目的としています。

そうした目的を達成するため、理工学専攻のディプロマ・ポリシーを踏まえ、本領域博士前期課程では、所定の教育課程修得し、学位論文の審査に合格することで、次の資質・能力を身につけたと認められるものに学位を授与します。

#### 1. 専門家としての資質・研究倫理

gmDP1-1.

生物科学分野を中心として、関連分野や生命倫理などの問題も含め広範に知識を得ることにより、生物科学が人間社会や地球環境に与える影響などを多角的にとらえる力

gmDP1-2.

グローバル化の進展に対応するための、社会で活躍できるレベルの英語力

gmDP1-3.

高い倫理観・規範意識を持って研究を進める力

#### 2. 高度な専門的知識

gmDP2-1.

生物科学分野の基礎知識と専門知識、および生命倫理を活用して新たな研究課題を設定し、解決するための研究能力

gmDP2-2.

生物科学分野とそれが関わるあらゆる学際分野で活躍できる応用知識を用いて、新技術の開発や新分野の開拓をできる力

#### 3. 社会を先導する力

gmDP3-1.

自己の研究成果を適切に評価し、それを社会に還元する力

gmDP3-2.

適切な論文構成や整合性のある論理展開で修士論文にまとめて発信する力

## II. カリキュラム・ポリシー(教育課程の編成・実施の方針)

理工学専攻生物科学領域博士前期課程では、ディプロマ・ポリシーに示す資質・能力等の目標を学生が達成できるようにするため、教育課程編成、学修内容・学修方法、学修成果評価について、以下のようにカリキュラム・ポリシーを定めます。

### 1. 教育課程の編成方法

本課程では、生物科学分野についての高度な知識と様々な理論と実践を効果的に修得できるように、以下のようにカリキュラムを編成しています。

- (1) 生物科学に関する分子・細胞・個体レベルの視点に立った科目を提供し、学部教育との一貫性にも配慮しながら、複合知を兼ね備えた専門能力を養成します。
- (2) 修士論文作成のための「大学院演習 IA,IB,IIA,IIB」を必修として配置します。専攻領域に関わる「自研究科自領域科目」を選択科目として配置します。また、自己の専門領域以外の分野についても広く知識を修得するために、他領域の科目や理工共通領域科目、また他研究科の科目が履修できます。
- (3) 科学技術英語や英語で行われる科目の受講、研究成果の英語発表、英語論文の執筆などにより、社会で活躍できるレベルの英語力を養成します。
- (4) 研究倫理に関する規範意識を身につけるために、研究倫理教育を受ける機会を設けます。

### 2. 学修内容・学修方法

本課程の修了に必要な知識・技能を修得するため、講義・演習を組み合わせた様々な授業形態・授業方法による学修・研究指導の機会を提供します。

さらに、課題設定等を通じて授業時間外の学修を促し、学修時間の確保と成果の定着を図ります。

- (1) 生物科学領域が提供する分子・細胞・個体レベルの視点に立った科目を受講し、生命に関する最先端の専門知識を身につけます。「大学院演習 IA,IB,IIA,IIB」では議論を重ねることにより研究を展開するために必要な基礎的な思考力を深め、調査研究能力を修得し、情報収集力や分析力を身につけます。
- (2) 「研究指導」では、修士論文の執筆をするため、指導教員を中心とする論文指導を受け研究テーマに関する知識を深めるとともに、リサーチ能力とプレゼンテーション能力を養います。

### 3. 学修成果の評価方法

ディプロマ・ポリシーに示す目標に対する学生の学修到達状況は、シラバス等に明示された評価基準・方法に基づき、筆記試験、プレゼンテーション、レポート等を用いて多角的に評価します。学位論文については、審査基準と審査方法を明示し、それに基づき学位論文審査

委員会による論文審査および最終試験を厳格に行います。

### Ⅲ. アドミッション・ポリシー(入学者受入れの方針)

理工学専攻生物科学領域博士前期課程では、ディプロマ・ポリシーに定める人材を育成するため、求める学生像、入学前に身につけていることを求める能力、入学者選抜の方法について、以下のようにアドミッション・ポリシーを定めます。

#### 1. 求める学生像

本課程では、「他者のために、他者とともに」という本学の教育精神およびディプロマ・ポリシーに掲げる目標を踏まえ、次のような資質・能力を高めたいと望む学生を求めています。

- (1) 生物科学の学問分野の進歩に寄与する専門性と、人間社会や地球環境に与える影響を総合的にとらえる学際性
- (2) 基礎学力と研究意欲を備え、生物科学に関する専門知識を深め、複合的な知識を修得しようとする意欲
- (3) 研究能力や専門性を活かして社会に貢献する力

#### 2. 入学前に身につけていることを求める能力

入学前には、次の知識・能力・態度を持つことを求めます。

- (1) 生物科学の学問分野に対する強い関心
- (2) 生物科学の専門的な研究を実施するために自己の研究の目的と手法について考察し、探究しようとする意欲
- (3) 理工学の領域全般に関する基礎知識と論理的思考力
- (4) 研究を遂行する際に必要な英語力やコミュニケーション能力

#### 3. 入学者選抜の方法

入学者選抜の基本方針として、複数の受験機会や多様な学生を評価できる入試を提供します。アドミッション・ポリシーに定める「求める学生像」にふさわしい入学者を選抜するにあたり、「入学前に身につけていることを求める能力」を評価するため、出願書類、筆記試験、口述試験の結果により総合的に選抜を実施します。

入学者選抜方法の詳細は大学院入学試験のHPをご覧ください。

[https://adm.sophia.ac.jp/jpn/in\\_ad/innyushi/](https://adm.sophia.ac.jp/jpn/in_ad/innyushi/)

## ■ 博士後期課程

### I. ディプロマ・ポリシー（学位授与の方針）

理工学専攻生物科学領域博士後期課程は、生物科学の進歩に寄与する専門性と、人間社会や地球環境に与える影響を総合的にとらえる学際性を持ち、生物科学分野で自立して研究・開発を遂行できる人材を養成することを目的としています。

そうした目的を達成するため、理工学専攻のディプロマ・ポリシーを踏まえ、本領域博士後期課程では、所定の教育課程を修め、学位論文の審査に合格することで、次の資質・能力を身につけたと認められる者に学位を授与します。

#### 1. 専門家としての資質・研究倫理

gdDP1-1.

生物科学分野を中心として、関連する学際分野や生命倫理なども含めて知識を得ることにより、生物科学が人間社会や地球環境に与える影響などを多面的にとらえる力

gdDP1-2.

グローバル化の進展の先頭に立ち、国際社会にて独立して活躍できるレベルの英語力

gdDP1-3.

高い倫理観・規範意識を持って研究を進める力

#### 2. 高度な専門的知識

gdDP2-1.

生物科学分野において、自己の研究課題を設定し、それを解決するための高度な研究能力

gdDP2-2.

生物科学分野で自立的に活躍できる専門知識を用いて、社会の発展に寄与する創造的な研究開発を行う力

#### 3. 社会を先導する力

gdDP3-1.

自己の研究成果を社会に還元し、持続可能な社会の実現に貢献する力

gdDP3-2.

生物科学分野を中心に高い専門性や独創性のある研究を行い、それらを生物科学分野に貢献できる学術論文、博士論文にまとめ、国内外で発信する力

## II. カリキュラム・ポリシー(教育課程の編成・実施の方針)

理工学専攻生物科学領域博士後期課程では、ディプロマ・ポリシーに示す資質・能力等の目標を学生が達成できるようにするため、教育課程編成、学修内容・学修方法、学修成果評価について、以下のようにカリキュラム・ポリシーを定めます。

### 1. 教育課程の編成方法

本課程では、生命科学分野の研究に特化した知識と様々な理論と実践を効果的に修得し、自立して研究開発を遂行できる力を涵養するため、以下のようにカリキュラムを編成しています。

- (1) 生命科学を中心としたカリキュラム編成をとり、学部教育および博士前期課程との一貫性にも配慮しながら、複合知を兼ね備えた専門能力を養成します。
- (2) 生物科学分野において教員の研究指導を受けながら集中して研究を遂行し、このテーマと周辺について深い専門知識を得るとともに、研究の進め方、まとめ方などを学び、研究の集大成として博士論文を提出します。
- (3) 博士論文作成のための「研究指導」、「大学院演習 IIIA, IIIB, IVA, IVB, VA, VB」を配置します。
- (4) 研究成果の英語発表、英語論文の執筆などにより、国際社会において独立して活躍できるレベルの英語力を養成します。
- (5) 研究倫理に関する規範意識を身につけるために、研究倫理教育を受ける機会を設けます。

### 2. 学修内容・学修方法

本課程の修了に必要な知識・技能を修得するため、講義・演習等を組み合わせた様々な授業形態・授業方法による学修・研究指導の機会を提供します。

さらに、課題設定等を通じて授業時間外の学修を促し、学修時間の確保と成果の定着を図ります。

- (1) 前期課程で積み上げた基礎知識や修士論文の成果をふまえて、独創的な博士論文の執筆をするために、指導教員が担当する「研究指導」、「大学院演習 IIIA, IIIB, IVA, IVB, VA, VB」を中心に科目を履修し、高度なリサーチ能力と課題発見能力を養います。
- (2) 生物科学分野の専門的研究を通じて高度な資料分析能力を養うため、「研究指導」に基づき、国内外の学会・学術誌への論文発表を積極的に行い、自立した研究者としての能力を身につけます。

### 3. 学修成果の評価方法

ディプロマ・ポリシーに示す目標に対する学生の学修到達状況は、シラバス等に明示され

た評価基準・方法に基づき、筆記試験、プレゼンテーション、レポート等を用いて多角的に評価します。学位論文については、審査基準と審査方法を明示し、それに基づき学位論文審査委員会による論文審査および最終試験を厳格に行います。

### Ⅲ. アドミッション・ポリシー(入学者受入れの方針)

理工学専攻生物科学領域博士後期課程では、ディプロマ・ポリシーに定める人材を育成するため、求める学生像、入学前に身につけていることを求める能力、入学者選抜の方法について、以下のようにアドミッション・ポリシーを定めます。

#### 1. 求める学生像

本課程では、「他者のために、他者とともに」という本学の教育精神およびディプロマ・ポリシーに掲げる目標を踏まえ、次のような資質・能力を高めたいと望む学生を求めています。

- (1) 生物科学分野の進歩に寄与する専門性と、人間社会や地球環境に与える影響を総合的にとらえる学際性
- (2) 生物科学分野で自立して研究を行う能力
- (3) 高度な研究能力や専門性を活かして社会に貢献する力

#### 2. 入学前に身につけていることを求める能力

入学前には、次の知識・能力・態度を持つことを求めます。

- (1) 生物科学の学問分野に対する強い関心
- (2) 前期課程の研究をふまえて、独創性のある研究を実施・探究しようとする意欲
- (3) 生物科学領域に関する高度な専門的知識と論理的思考力
- (4) 研究を遂行する際に必要な英語力やコミュニケーション能力

#### 3. 入学者選抜の方法

入学者選抜の基本方針として、複数の受験機会や多様な学生を評価できる入試を提供します。アドミッション・ポリシーに定める「求める学生像」にふさわしい入学者を選抜するにあたり、「入学前に身につけていることを求める能力」を評価するため、出願書類、筆記試験、口述試験の結果により総合的に選抜を実施します。

入学者選抜方法の詳細は大学院入学試験のHPをご覧ください。

[https://adm.sophia.ac.jp/jpn/in\\_ad/innyushi/](https://adm.sophia.ac.jp/jpn/in_ad/innyushi/)

## 理工学専攻情報学領域の3つのポリシー

### ■ 博士前期課程

#### I. ディプロマ・ポリシー（学位授与の方針）

理工学専攻情報学領域博士前期課程では、情報学および関連分野の発展に寄与し、専門知識を用いて人間社会の発展や地球環境の保全に貢献できる人材を養成することを目的としています。

そうした目的を達成するため、理工学専攻のディプロマ・ポリシーを踏まえ、本領域博士前期課程では、所定の教育課程を修め、学位論文の審査に合格することで、次の資質・能力を身につけたと認められる者に学位を授与します。

#### 1. 専門家としての資質・研究倫理

gmDP1-1.

情報学を中心とし、関連分野も含む広範に知識を得ることにより、情報学が人間社会や地球環境に与える影響などを多面的にとらえる力

gmDP1-2.

グローバル化の進展に対応するための、社会で活躍できるレベルの英語力

gmDP1-3.

高い倫理観・規範意識を持って研究を進める力

#### 2. 高度な専門的知識

gmDP2-1.

情報学分野の基礎知識と専門知識を活用して新たな研究課題を設定し、解決するための研究能力

gmDP2-2.

情報学分野で活躍できる応用知識を用いて、新技術の開発や新分野の開拓をできる力

#### 3. 社会を先導する力

gmDP3-1.

自己の研究成果を適切に評価し、それを社会に還元する力

gmDP3-2.

専門分野に関する研究内容について、適切な論文構成や整合性のある論理展開で修士論文にまとめて発信する力

## II. カリキュラム・ポリシー(教育課程の編成・実施の方針)

理工学専攻情報学領域博士前期課程では、ディプロマ・ポリシーに示す資質・能力等の目標を学生が達成できるようにするため、教育課程編成、学修内容・学修方法、学修成果評価について、以下のようにカリキュラム・ポリシーを定めます。

### 1. 教育課程の編成方法

本課程では、専門分野についての高度な知識と様々な理論と実践を効果的に修得できるよう、以下のようにカリキュラムを編成しています。

- (1) 情報学を中心としたカリキュラム編成をとり、学部教育との一貫性にも配慮しながら、複合知を兼ね備えた専門能力を養成します。
- (2) 修士論文作成のための「研究指導」、「大学院演習 IA,IB,IIA,IIB」を必修として配置します。これらの科目を通して、研究倫理についても指導します。専攻分野に関わる「自研究科自領域科目」を選択科目として配置します。また、自己の専門領域以外についても広く知識を修得するために、他領域の科目や理工共通領域科目、また他研究科の科目が履修できます。
- (3) 科学技術英語や英語で行われる科目の受講、研究成果の英語発表、英語論文の執筆などにより、社会で活躍できるレベルの英語力に向上させます。

### 2. 学修内容・学修方法

本課程の修了に必要な知識・技能を修得するため、講義・演習を組み合わせた様々な授業形態・授業方法による学修・研究指導の機会を提供します。

さらに、課題設定等を通じて授業時間外の学修を促し、学修時間の確保と成果の定着を図ります。

- (1) 「自研究科自領域科目」では情報学に関する人間情報、情報通信、社会情報などのトピックについて理解し、「大学院演習 IA,IB,IIA,IIB」では議論を重ねることにより研究を展開するために必要な基礎的な思考力を深め、調査研究能力を修得し、情報収集力や分析力を身につけます。
- (2) 「研究指導」では、修士論文の執筆をするため、指導教員を中心とする論文指導を受け、研究テーマに関する知識を深めるとともに、リサーチ能力とプレゼンテーション能力を養います。

### 3. 学修成果の評価方法

ディプロマ・ポリシーに示す目標に対する学生の学修到達状況は、シラバス等に明示された評価基準・方法に基づき、筆記試験、プレゼンテーション、レポート等を用いて多角的に評価します。学位論文については、審査基準と審査方法を明示し、それに基づき学位論文審査委員会による論文審査および最終試験を厳格に行います。

### Ⅲ. アドミッション・ポリシー(入学者受入れの方針)

理工学専攻情報学領域博士前期課程では、ディプロマ・ポリシーに定める人材を育成するため、求める学生像、入学前に身に付けていることを求める能力、入学者選抜の方法について、以下のようにアドミッション・ポリシーを定めます。

#### 1. 求める学生像

本課程では、「他者のために、他者とともに」という本学の教育精神およびディプロマ・ポリシーに掲げる目標を踏まえ、次のような資質・能力を高めたいと望む学生を求めています。

- (1) 情報学を中心とした現代科学・技術の学問分野の進歩に寄与する専門性と、人間社会や地球環境に与える影響を総合的にとらえる学際性
- (2) 基礎学力と研究意欲を備え、情報学に関する専門知識を深め、複合的な知識を修得しようとする意欲
- (3) 研究能力や専門性を活かして社会に貢献する力

#### 2. 入学前に身につけていることを求める能力

入学前には、次の知識・能力・態度を持つことを求めます。

- (1) 情報学を中心とした現代科学・技術の学問分野に対する強い関心
- (2) 専門的な研究を実施するために研究の目的と手法について考察し、探究しようとする意欲
- (3) 情報学の領域全般に関する基礎知識と論理的思考力
- (4) 研究を遂行する際に必要な英語力やコミュニケーション能力

#### 3. 入学者選抜の方法

入学者選抜の基本方針として、複数の受験機会や多様な学生を評価できる入試を提供します。アドミッション・ポリシーに定める「求める学生像」にふさわしい入学者を選抜するにあたり、「入学前に身につけていることを求める能力」を評価するため、出願書類、筆記試験、口述試験の結果により総合的に選抜を実施します。

入学者選抜方法の詳細は大学院入学試験のHPをご覧ください。

[https://adm.sophia.ac.jp/jpn/in\\_ad/innyushi/](https://adm.sophia.ac.jp/jpn/in_ad/innyushi/)

## ■ 博士後期課程

### I. ディプロマ・ポリシー（学位授与の方針）

理工学専攻情報学領域博士後期課程は、現代科学・技術の情報学を中心とする領域でその進歩に寄与する専門性と、人間社会や地球環境に与える影響を総合的にとらえる学際性を持ち、情報学を中心とする専門分野で自立して研究・開発を遂行できる人材を養成することを目的としています。

そうした目的を達成するため、理工学専攻のディプロマ・ポリシーを踏まえ、本領域博士後期課程では、所定の教育課程を修め、学位論文の審査に合格することで、次の資質・能力を身につけたと認められる者に学位を授与します。

#### 1. 専門家としての資質・研究倫理

gdDP1-1.

情報学を中心とし、関連する学際分野なども含めて知識を得ることにより、情報学が人間社会や地球環境に与える影響などを多面的にとらえる力

gdDP1-2.

グローバル化の進展の先頭に立ち、国際社会において独立して活躍できるレベルの英語力

gdDP1-3.

高い倫理観・規範意識を持って研究を進める力

#### 2. 高度な専門的知識

gdDP2-1.

情報学分野において、自己の研究課題を設定し、それを解決するための高度な研究能力

gdDP2-2.

情報学分野で自立的に活躍できる専門知識を用いて、社会の発展に寄与する創造的な研究開発を行う力

#### 3. 社会を先導する力

gdDP3-1.

自己の研究成果を社会に還元し、持続可能な社会の実現に貢献する力

gdDP3-2.

専門分野を中心に高い専門性や独創性のある研究を行い、それらを専門分野に貢献できる博士論文にまとめ、国内外で発信する力

## II. カリキュラム・ポリシー(教育課程の編成・実施の方針)

理工学専攻情報学領域博士後期課程では、ディプロマ・ポリシーに示す資質・能力等の目標を学生が達成できるようにするため、教育課程編成、学修内容・学修方法、学修成果評価について、以下のようにカリキュラム・ポリシーを定めます。

### 1. 教育課程の編成方法

本課程では、専門分野における専門知識と様々な理論と実践を効果的に修得し、自立して研究開発を遂行できる力を涵養するため、以下のようにカリキュラムを編成しています。

- (1) 情報学を中心としたカリキュラム編成をとり、学部教育および博士前期課程との一貫性にも配慮しながら、複合知を兼ね備えた専門能力を養成します。
- (2) 自己の専門分野において教員の研究指導を受けながら集中して研究を遂行し、研究テーマと周辺について深い専門知識を得るとともに、研究の進め方、まとめ方などを学び、研究の集大成として博士論文を提出します。
- (3) 博士論文作成のための「研究指導」、「大学院演習 IIIA, IIIB, IVA, IVB, VA, VB」を配置します。これらの科目を通して、研究倫理についても指導します。
- (4) 研究成果の英語発表、英語論文の執筆などにより、国際社会において独立して活躍できるレベルの英語力を養成します。

### 2. 学修内容・学修方法

本課程の修了に必要な知識・技能を修得するため、講義・演習等を組み合わせた様々な授業形態・授業方法による学修・研究指導の機会を提供します。

さらに、課題設定等を通じて授業時間外の学修を促し、学修時間の確保と成果の定着を図ります。

- (1) 前期課程で積み上げた基礎知識や修士論文の成果をふまえて、独創的な博士論文の執筆をするために、指導教員が担当する「研究指導」、「大学院演習 IIIA, IIIB, IVA, IVB, VA, VB」を中心に科目を履修し、高度なリサーチ能力と課題発見能力を養います。
- (2) 専門的研究を通じて高度な資料分析能力を養うために「研究指導」に基づき、国内外の学会・学術誌への論文発表を積極的に行い、自立した研究者としての能力を身につけます。

### 3. 学修成果の評価方法

ディプロマ・ポリシーに示す目標に対する学生の学修到達状況は、シラバス等に明示された評価基準・方法に基づき、筆記試験、プレゼンテーション、レポート等を用いて多角的に評価します。学位論文については、審査基準と審査方法を明示し、それに基づき学位論文審査委員会による論文審査および最終試験を厳格に行います。

### Ⅲ. アドミッション・ポリシー(入学者受入れの方針)

理工学専攻情報学領域博士後期課程では、ディプロマ・ポリシーに定める人材を育成するため、求める学生像、入学前に身につけていることを求める能力、入学者選抜の方法について、以下のようにアドミッション・ポリシーを定めます。

#### 1. 求める学生像

本課程では、「他者のために、他者とともに」という本学の教育精神およびディプロマ・ポリシーで掲げる目標を踏まえ、次のような資質・能力を高めたいと望む学生を求めています。

- (1) 情報学を中心とした現代科学・技術の学問分野の進歩に寄与する専門性と、人間社会や地球環境に与える影響を総合的にとらえる学際性
- (2) 情報学や関連する分野で自立して研究を行う能力
- (3) 本学の教育精神“他者のために、他者とともに(For Others, With Others)”に基づき、高度な研究能力や専門性を活かして社会に貢献する力

#### 2. 入学前に身につけていることを求める能力

入学前には、次の知識・能力・態度を持つことを求めます。

- (1) 情報学を中心とする現代科学・技術の学問分野に対する強い関心
- (2) 前期課程の研究をふまえて、独創性のある研究を実施・探究しようとする意欲
- (3) 自己の研究領域に関する高度な専門的知識と論理的思考力
- (4) 研究を遂行する際に必要な語学力やコミュニケーション能力

#### 3. 入学者選抜の方法

入学者選抜の基本方針として、複数の受験機会や多様な学生を評価できる入試を提供します。アドミッション・ポリシーに定める「求める学生像」にふさわしい入学者を選抜するにあたり、「入学前に身につけていることを求める能力」を評価するため、出願書類、筆記試験、口述試験の結果により総合的に選抜を実施します。

入学者選抜方法の詳細は大学院入学試験のHPをご覧ください。

[https://adm.sophia.ac.jp/jpn/in\\_ad/innyushi/](https://adm.sophia.ac.jp/jpn/in_ad/innyushi/)

## 理工学専攻グリーンサイエンス・エンジニアリング領域の3つのポリシー

### ■ 博士前期課程

#### I. ディプロマ・ポリシー（学位授与の方針）

理工学専攻グリーンサイエンス・エンジニアリング領域博士前期課程は、地球環境科学、工学および関連分野の発展に寄与し、専門知識を用いて人間社会の発展や地球環境の保全に貢献できる人材を養成することを目的としています。

そうした目的を達成するために、理工学専攻のディプロマ・ポリシーを踏まえ、本領域博士前期課程では、所定の教育課程を修め、学位論文の審査に合格することで、次の資質・能力を身につけたと認められる者に学位を授与します。

#### 1. 専門家としての資質・研究倫理

gmDP1-1.

地球環境科学、工学を中心として、それ以外の自然科学分野あるいは社会科学分野などの学際分野も含めて広範に知識を得ることにより、技術が人間社会や地球環境に与える影響などを多面的にとらえる力

gmDP1-2.

グローバル化の進展に対応するため、社会において他を先導できる高いレベルの英語力

gmDP1-3.

高い倫理観・規範意識を持って研究を進める力

#### 2. 高度な専門的知識

gmDP2-1.

地球環境科学、工学の基礎知識と専門知識を活用して新たな研究課題を設定し、解決するための研究能力

gmDP2-2.

地球環境科学、工学で活躍できる応用知識を用いて、新技術の開発や新分野の開拓ができる力

#### 3. 社会を先導する力

gmDP3-1.

自己の研究成果を適切に評価し、それを社会に還元する力

gmDP3-2.

専門分野に関する研究内容について、適切な論文構成や整合性のある論理展開で修士論文にまとめて発信する力

## II. カリキュラム・ポリシー(教育課程の編成・実施の方針)

理工学専攻グリーンサイエンス・エンジニアリング領域博士前期課程では、ディプロマ・ポリシーに示す資質・能力等の目標を学生が達成できるようにするため、教育課程編成、学修内容・学修方法、学修成果評価について、以下のようにカリキュラム・ポリシーを定めます。

### 1. 教育課程の編成方法

本課程では、専門分野についての高度な知識と様々な理論と実践を効果的に修得できるよう、以下のようにカリキュラムを編成しています。

- (1) 「GREEN SCIENCE AND ENGINEERING」、「MASTER'S THESIS TUTORIAL AND EXERCISE」などの本領域が提供する科目を受講し、これらについての専門知識が得られるような科目を配置します。
- (2) 本領域以外の領域、および理工共通領域科目を受講することにより、自己の専門領域以外の分野について広く知識が得られるような科目を配置します。
- (3) 特定のテーマについて研究を行い、このテーマと周辺について深い専門知識を得るとともに、研究の進め方、まとめ方、研究倫理などが学べるような科目を配置します。
- (4) 英語で行われる科目の受講、研究成果の英語発表、英語論文の執筆などにより、英語力の向上をはかります。

### 2. 学修内容・学修方法

本課程の修了に必要な知識・技能を修得するため、講義・演習・実習等を組み合わせた様々な授業形態・授業方法による学修・研究指導の機会を提供します。

さらに、課題設定等を通じて授業時間外の学修を促し、学修時間の確保と成果の定着を図ります。

- (1) 「自研究科自領域科目」では地球環境科学、工学および関連分野について理解し、「MASTER'S THESIS TUTORIAL AND EXERCISE IA,IB,IIA,IIB」では議論を重ねることにより研究を展開するために必要な基礎的な思考力を深め、調査研究能力を修得し、情報収集力や分析力を身につけます。
- (2) 「THESIS GUIDANCE」では、修士論文の執筆をするため、指導教員が中心となって論文指導を受け、研究テーマに関する知識を深めるとともに、リサーチ能力とプレゼンテーション能力を養います。

### 3. 学修成果の評価方法

ディプロマ・ポリシーに示す目標に対する学生の学修到達状況は、シラバス等に明示された評価基準・方法に基づき、筆記試験、プレゼンテーション、レポート等を用いて多角的に評価します。学位論文については、審査基準と審査方法を明示し、それに基づき学位論文審査

委員会による論文審査および最終試験を厳格に行います。

### Ⅲ. アドミッション・ポリシー(入学者受入れの方針)

理工学専攻グリーンサイエンス・エンジニアリング領域博士前期課程では、ディプロマ・ポリシーに定める人材を育成するため、求める学生像、入学前に身につけていることを求める能力、入学者選抜の方法について、以下のようにアドミッション・ポリシーを定めます。

#### 1. 求める学生像

本課程では、「他者のために、他者とともに」という本学の教育精神およびディプロマ・ポリシーに掲げる目標を踏まえ、次のような資質・能力を高めたいと望む学生を求めています。

- (1) 現代科学・技術の学問分野の進歩に寄与する専門性と、人間社会や地球環境に与える影響を総合的にとらえる学際性
- (2) 基礎学力と研究意欲を備え、地球環境科学、工学に関する専門知識を深め、複合的な知識を修得しようとする意欲
- (3) 研究能力や専門性を活かして社会に貢献する力

#### 2. 入学前に身につけていることを求める能力

入学前には、次の知識・能力・態度を持つことを求めます。

- (1) 地球環境科学、工学領域の分野に対する強い関心
- (2) 地球環境科学、工学領域で専門的な研究を実施するために自己の研究の目的と手法について考察し、探究しようとする意欲
- (3) 地球環境科学、工学領域で研究を遂行するために必要な基礎知識と論理的思考力
- (4) 地球環境科学、工学領域で研究を遂行する際に必要な英語力やコミュニケーション能力

#### 3. 入学者選抜の方法

入学者選抜の基本方針として、複数の受験機会や多様な学生を評価できる入試を提供します。アドミッション・ポリシーに定める「求める学生像」にふさわしい入学者を選抜するにあたり、「入学前に身につけていることを求める能力」を評価するため、出願書類の結果により総合的に選抜を実施します。

入学者選抜方法の詳細は大学院入学試験のHPをご覧ください。

[https://adm.sophia.ac.jp/jpn/in\\_ad/innyushi/](https://adm.sophia.ac.jp/jpn/in_ad/innyushi/)

## Three Policies of the Green Science and Engineering Division, Graduate Program in Science and Technology

### ■ Master's Program

#### I. Diploma Policy (Degree Conferral Policy)

The Master's Program in Green Science and Engineering aims to contribute to the development of earth environmental science, engineering, and related fields, fostering human resources who can utilize their expertise to advance human society and preserve the global environment.

Following the diploma policy of the Graduate Program of Science and Technology, students who complete the prescribed curriculum and pass the thesis review will be awarded a degree, recognizing that they have acquired the following skills and competencies.

#### 1. Professional Qualities and Research Ethics

##### gmDP1-1.

The ability to comprehensively understand the impacts of technology on human society and the global environment by acquiring extensive knowledge in earth environmental science and engineering, as well as interdisciplinary fields including other natural sciences and social sciences.

##### gmDP1-2.

Advanced English language skills that enable leadership in society, in response to the progress of globalization.

##### gmDP1-3.

The ability to conduct research with a high level of ethical principles.

#### 2. Specialized Knowledge

##### gmDP2-1.

The research ability to identify and solve new research issues by utilizing basic and specialized knowledge in earth environmental science and engineering.

##### gmDP2-2.

The ability to develop new technologies and pioneer new fields by

applying practical knowledge in earth environmental science and engineering.

### **3. Leadership in Society**

#### **gmDP3-1.**

The ability to appropriately evaluate one's own research results and contribute them to society.

#### **gmDP3-2.**

The ability to compile and communicate one's research content in a master's thesis with appropriate structure and coherent logical development in the specialized field.

## **II. Curriculum Policy (Curriculum Design and Implementation Policy)**

In the Master's Program of the Green Science and Engineering major, the curriculum policy is designed to support students in meeting the goals set in the diploma policy, which outlines the knowledge and skills they need. This policy sets guidelines for curriculum development, learning content and methods, and the method of evaluation of learning outcomes, as explained below.

### **1. Curriculum Design and Organization**

In this program, the curriculum is organized so that students can effectively acquire advanced knowledge and various theories and practices in specialized fields:

- (1) By taking courses offered by this major, such as "GREEN SCIENCE AND ENGINEERING" and "MASTER'S THESIS TUTORIAL AND EXERCISE", students gain specialized knowledge.
- (2) By taking courses outside of this major and in the common areas of science and engineering, students acquire a broad knowledge outside of their own specialized fields.
- (3) Courses are arranged so that students can conduct research on specific themes, gaining deep specialized knowledge on these themes and their surroundings, as well as learning research methods, summarization skills, and research ethics.
- (4) Courses conducted in English, as well as presenting research results and writing papers in English, are implemented to improve English proficiency.

### **2. Learning Content and Methods**

To gain the knowledge and skills needed to complete this program, students learn through a combination of lectures, seminars, practical training and other teaching methods that provide both learning and research opportunities. They also complete assignments and independent study outside of class to support their learning:

- (1) In "Department-Specific Major Courses," students understand earth environmental science, engineering, and related fields, and in "MASTER'S THESIS TUTORIAL AND EXERCISE IA, IB, IIA, IIB,"

students deepen their fundamental thinking abilities required for research development through repeated discussions, acquiring research abilities, information collection capabilities, and analytical skills.

- (2) In "THESIS GUIDANCE," students receive thesis guidance primarily from their academic advisor, deepening their knowledge related to their research theme while cultivating research and presentation abilities.

### **3. Methods for Assessing Learning Outcomes**

The degree of students' achievement toward the goals indicated in the diploma policy is evaluated using multiple methods such as written examinations, presentations, and reports, based on the evaluation criteria and methods specified in the syllabus, etc. Regarding master's theses, the thesis evaluation committee conducts rigorous thesis examinations and final tests based on clearly defined evaluation criteria and methods.

### **III. Admission Policy (Student Admissions Policy)**

In the Master's Program of the Green Science and Engineering major, the following admission policy has been established to prepare students in line with the goals of the Diploma Policy, specifying the desired student profile, the expected competencies prior to admission, and the admissions screening methods.

#### **1. Desired Student Profile**

This program seeks students who are eager to build and develop the following knowledge and skills, in line with the university's educational spirit "For Others, With Others" and the goals set out in the diploma policy:

- (1) Expertise that contributes to the advancement of modern scientific and technological academic fields, and an interdisciplinary approach to comprehensively understand the impact on human society and the global environment.
- (2) A desire to acquire basic academic skills and research enthusiasm, deepen expertise in science and engineering, and gain complex knowledge.
- (3) The ability to contribute to society by utilizing research capabilities and expertise.

#### **2. Expected Competencies Prior to Admission**

Before enrolling, students are expected to have the following foundational knowledge, skills, and attitudes:

- (1) A strong interest in the fields of earth environmental science and engineering.
- (2) The motivation to consider and explore the purpose and methods of their own research to conduct specialized research in the fields of earth environmental science and engineering.
- (3) Basic knowledge and logical thinking skills necessary to carry out research in the fields of earth environmental science and engineering.
- (4) English proficiency and communication skills necessary to conduct research in the fields of earth environmental science and engineering.

### **3. Admissions Screening Methods**

The basic policy of student selection is to offer entrance exams that evaluate a diverse range of students and provide multiple opportunities for applicants. To admit students who fit the “desired student profile ” specified in the admission policy, we comprehensively evaluate applicants based on their application documents to assess the abilities required before admission.

For details on the admissions screening methods, please visit the Graduate School Admissions website.

[https://adm.sophia.ac.jp/jpn/in\\_ad/innyushi/](https://adm.sophia.ac.jp/jpn/in_ad/innyushi/)

## ■ 博士後期課程

### I. ディプロマ・ポリシー（学位授与の方針）

理工学専攻グリーンサイエンス・エンジニアリング領域博士後期課程は、地球環境科学、工学における高度な専門性を身につけ、人間社会や地球環境に与える影響を総合的にとらえる学際性を持ち、自立して研究開発を遂行できる人材を養成することを目的としています。

そうした目的を達成するため、理工学専攻のディプロマ・ポリシーを踏まえ、本領域博士後期課程では、所定の教育課程を修め、学位論文の審査に合格することで、次の資質・能力を身につけたと認められる者に学位を授与します。

#### 1. 専門家としての資質・研究倫理

gdDP1-1.

地球環境科学・工学の専門分野を中心として、関連する学際分野なども含めて知識を得ることにより、地球環境科学、工学が人間社会や地球環境に与える影響などを多面的にとらえる力

gdDP1-2.

グローバル化の進展を踏まえ、国際社会において独立して活躍できるレベルの英語力

gdDP1-3.

高い倫理観・規範意識を持って研究を進める力

#### 2. 高度な専門的知識

gdDP2-1.

地球環境科学、工学の専門分野において、自己の研究課題を設定し、それを解決するための高度な研究能力

gdDP2-2.

地球環境科学、工学で自立的に活躍できる応用知識を用いて、社会の発展に寄与する創造的な研究開発を行う力

#### 3. 社会を先導する力

gdDP3-1.

自己の研究成果を社会に還元し、持続可能な社会の実現に貢献する力

gdDP3-2.

専門分野を中心に高い専門性や独創性のある研究を行い、それらを専門分野に貢献できる博士論文にまとめ、国内外で発信する力

## II. カリキュラム・ポリシー(教育課程の編成・実施の方針)

理工学専攻グリーンサイエンス・エンジニアリング領域博士後期課程では、ディプロマ・ポリシーに示す資質・能力等の目標を学生が達成できるようにするため、教育課程編成、学修内容・学修方法、学修成果評価について、以下のようにカリキュラム・ポリシーを定めます。

### 1. 教育課程の編成方法

本課程では、研究分野に特化した知識と様々な理論と実践を効果的に修得し、自立して研究開発を遂行できる力を涵養するため、以下のようにカリキュラムを編成しています。

- (1) 地球環境科学、工学における高度な専門性と関連分野の広範な専門能力を養成します。
- (2) 自己の専門分野において教員の研究指導を受けながら集中して研究を遂行し、このテーマと周辺について深い専門知識を得るとともに、研究の進め方、まとめ方などを学び、研究の集大成として博士論文を提出します。
- (3) 博士論文作成のための「DR. THESIS GUIDANCE」、「DR. DISSERTATION TUTORIAL AND EXERCISE IIIA, IIIB, IVA, IVB, VA, VB」を配置します。
- (4) 得られた研究成果を国内外にて英語で発表し、また英語論文を執筆投稿し、必要に応じて海外の研究機関にて研究を行い、総合的な英語力を向上させます。
- (5) 研究倫理に関する規範意識を身につけるために、研究倫理教育を受ける機会を設けます。

### 2. 学修内容・学修方法

本課程の修了に必要な知識・技能を修得するため、講義・演習等を組み合わせた様々な授業形態・授業方法による学修・研究指導の機会を提供します。

さらに、課題設定等を通じて授業時間外の学修を促し、学修時間の確保と成果の定着を図ります。

- (1) 前期課程で積み上げた基礎知識や修士論文の成果をふまえて、独創的な博士論文の執筆をするために、指導教員が担当する「DR. THESIS GUIDANCE」、「DR. DISSERTATION TUTORIAL AND EXERCISE IIIA, IIIB, IVA, IVB, VA, VB」を中心に科目を履修し、高度なリサーチ能力と課題発見能力を養います。
- (2) 専門的研究を通じて高度な資料分析能力を養うために「DR. THESIS GUIDANCE」に基づき、国内外の学会・学術誌への論文発表を積極的に行い、自立した研究者としての能力を身につけます。

### 3. 学修成果の評価方法

ディプロマ・ポリシーに示す目標に対する学生の学修到達状況は、シラバス等に明示された評価基準・方法に基づき、筆記試験、プレゼンテーション、レポート等を用いて多角的に評

価します。学位論文については、審査基準と審査方法を明示し、それに基づき学位論文審査委員会による論文審査および最終試験を厳格に行います。

### Ⅲ. アドミッション・ポリシー(入学者受入れの方針)

理工学専攻グリーンサイエンス・エンジニアリング領域博士後期課程では、ディプロマ・ポリシーに定める人材を育成するため、求める学生像、入学前に身につけていることを求める能力、入学者選抜の方法について、以下のようにアドミッション・ポリシーを定めます。

#### 1. 求める学生像

本課程では、「他者のために、他者とともに」という本学の教育精神およびディプロマ・ポリシーに掲げる目標を踏まえ、次のような資質・能力を高めたいと望む学生を求めています。

- (1) 現代科学・技術の学問分野の発展に寄与する専門性と、人間社会や地球環境に与える影響を総合的にとらえる学際性
- (2) 地球環境科学、工学の専門分野で自立して研究を行う能力
- (3) 高度な研究能力や専門性を活かして社会に貢献する力

#### 2. 入学前に身につけていることを求める能力

入学前には、次の知識・能力・態度を持つことを求めます。

- (1) 地球環境科学、工学領域の分野に対する強い関心
- (2) 前期課程の研究をふまえて、独創性のある研究を実施・探究しようとする意欲
- (3) 地球環境科学、工学領域に関する高度な専門的知識と論理的思考力
- (4) 地球環境科学、工学領域の研究を遂行する際に必要な英語力やコミュニケーション能力

#### 3. 入学者選抜の方法

入学者選抜の基本方針として、多様な学生を評価できる入試を提供します。アドミッション・ポリシーに定める「求める学生像」にふさわしい入学者を選抜するにあたり、「入学前に身につけていることを求める能力」を評価するため、出願書類の結果により総合的に選抜を実施します。

入学者選抜方法の詳細は大学院入学試験のHPをご覧ください。

[https://adm.sophia.ac.jp/jpn/in\\_ad/innyushi/](https://adm.sophia.ac.jp/jpn/in_ad/innyushi/)

## ■ Doctoral Program

### **I. Diploma Policy (Degree Conferral Policy)**

The Doctoral Program in the Green Science and Engineering aims to cultivate human resources who possess advanced expertise in earth environmental science and engineering, understand the interdisciplinary impacts on human society and the global environment, and can independently conduct research and development.

Following the diploma policy of the Graduate Program of Science and Technology, students who complete the prescribed curriculum and pass the thesis review will be awarded a degree, recognizing that they have acquired the following skills and competencies.

#### **1. Professional Qualities and Research Ethics**

gdDP1-1.

The ability to comprehensively understand the impacts of earth environmental science and engineering on human society and the global environment by acquiring knowledge in the specialized fields of earth environmental science and engineering, as well as related interdisciplinary fields.

gdDP1-2.

English proficiency at a level that enables independent activity in the international community, considering the progress of globalization.

gdDP1-3.

The ability to conduct research with a high level of ethical principles.

#### **2. Specialized Knowledge**

gdDP2-1.

Advanced research ability to identify and solve one's own research issues in the specialized fields of earth environmental science and engineering.

gdDP2-2.

The ability to conduct creative research and development that contributes to societal development by applying practical knowledge in earth environmental science and engineering, independently.

### **3. Leadership in Society**

gdDP3-1.

The ability to return one's own research results to society and contribute to the realization of a sustainable society.

gdDP3-2.

The ability to conduct highly specialized and original research in the specialized fields, compile these into a doctoral dissertation that contributes to the specialized fields, and disseminate them domestically and internationally.

## **II. Curriculum Policy (Curriculum Design and Implementation Policy)**

In the Doctoral Program of the Green Science and Engineering major, the curriculum policy is designed to support students in meeting the goals set in the diploma policy, which outlines the knowledge and skills they need. This policy sets guidelines for curriculum development, learning content and methods, and the method of evaluation of learning outcomes, as explained below.

### **1. Curriculum Design and Organization**

In this program, the curriculum is organized so that students can effectively acquire specialized knowledge and various theories and practices in their research fields, fostering the ability to independently conduct research and development:

- (1) Fostering advanced expertise in earth environmental science and engineering, as well as broad specialized capabilities in related fields.
- (2) Conducting concentrated research in one's specialized field under the guidance of faculty, gaining deep specialized knowledge on the theme and its surroundings, as well as learning research methods, summarization skills, etc., and ultimately submitting a doctoral dissertation.
- (3) Providing courses such as "DR. THESIS GUIDANCE" and "DR. DISSERTATION TUTORIAL AND EXERCISE IIIA, IIIB, IVA, IVB, VA, VB" for the creation of the doctoral dissertation.
- (4) Presenting research results in English both domestically and internationally, writing and submitting English papers, and conducting research at overseas research institutions as needed to improve overall English proficiency.
- (5) Offering opportunities for research ethics education to instill a sense of ethics regarding research norms.

### **2. Learning Content and Methods**

To gain the knowledge and skills needed to complete this program, students learn through a combination of lectures, seminars, and other teaching methods that provide both learning and research

opportunities. They also complete assignments and independent study outside of class to support their learning:

- (1) Building on the foundational knowledge and master's thesis results accumulated in the master's program, students take courses centered around "DR. THESIS GUIDANCE" and "DR. DISSERTATION TUTORIAL AND EXERCISE IIIA, IIIB, IVA, IVB, VA, VB," guided by their academic advisor, to cultivate advanced research abilities and problem-solving skills.
- (2) Actively presenting papers at domestic and international conferences and academic journals based on "DR. THESIS GUIDANCE" to develop advanced material analysis skills through specialized research and acquire the ability to act as independent researchers.

### **3. Methods for Assessing Learning Outcomes**

The degree of students' achievement toward the goals indicated in the diploma policy is evaluated using multiple methods such as written examinations, presentations, and reports, based on the evaluation criteria and methods specified in the syllabus, etc. Regarding doctoral theses, the thesis evaluation committee conducts rigorous thesis examinations and final tests based on clearly defined evaluation criteria and methods.

### **III. Admission Policy (Student Admissions Policy)**

In the Doctoral Program of the Green Science and Engineering major, to prepare students in line with the goals of the Diploma Policy, the following admission policy has been established, specifying the desired student profile, the expected competencies prior to admission, and the admissions screening methods.

#### **1. Desired Student Profile**

This program seeks students who are eager to build and develop the following knowledge and skills, in line with the university's educational spirit "For Others, With Others" and the goals set out in the diploma policy:

- (1) Expertise that contributes to the advancement of modern scientific and technological academic fields, and an interdisciplinary approach to comprehensively understand the impact on human society and the global environment.
- (2) The ability to independently conduct research in the specialized fields of earth environmental science and engineering.
- (3) The ability to contribute to society by utilizing advanced research capabilities and expertise.

#### **2. Expected Competencies Prior to Admission**

Before enrolling, students are expected to have the following foundational knowledge, skills, and attitudes:

- (1) A strong interest in the fields of earth environmental science and engineering.
- (2) The motivation to conduct and explore original research based on the studies conducted in the master's program.
- (3) Advanced specialized knowledge and logical thinking skills related to earth environmental science and engineering.
- (4) English proficiency and communication skills necessary to conduct research in the fields of earth environmental science and engineering.

#### **3. Admissions Screening Methods**

The basic policy of student selection is to offer entrance exams that

evaluate a diverse range of students. To select students who fit the “desired student profile” specified in the admission policy, we comprehensively evaluate applicants based on their application documents to assess the abilities required before admission.

For details on the admissions screening methods, please visit the Graduate School Admissions website.

[https://adm.sophia.ac.jp/jpn/in\\_ad/innyushi/](https://adm.sophia.ac.jp/jpn/in_ad/innyushi/)

## 地球環境学研究科地球環境学専攻の3つのポリシー

### ■ 博士前期課程

#### I. ディプロマ・ポリシー（学位授与の方針）

地球環境学専攻博士前期課程は、地球環境問題や環境学の専門家として、環境関連の社会科学と自然科学についての幅広い専門知識と様々な理論と実践を体得し、持続可能な社会の実現に貢献できる人材の養成を目的としています。

そうした目的を達成するため、上智大学大学院のディプロマ・ポリシーを踏まえ、本専攻博士前期課程では、所定の教育課程を修め、学位論文またはリサーチ・ペーパーの審査に合格することで、次の資質・能力を身につけたと認められる者に学位を授与します。

#### 1. 専門家としての資質・研究倫理

gmDP1-1.

環境学を中心とし、関連分野も含む幅広い教養と学際性を備えた多角的な思考力

gmDP1-2.

高い倫理観・規範意識を持って研究を進める力

#### 2. 高度な専門的知識

gmDP2-1.

地球環境問題や環境学についての幅広い専門的知見

gmDP2-2.

地球環境問題や環境学についての幅広い実践的知識

#### 3. 社会を先導する力

gmDP3-1.

地球環境学の解明すべき研究課題に対して、社会科学と自然科学の知識の総合化や理論と実践の結合などによるオリジナリティーのある研究能力を身につけ、研究・開発を行うことができる力

gmDP3-2.

自らの主張を論理的に記述し、口頭で伝達することができ、社会に情報を発信することができる力

gmDP3-3.

前項を実現する方法として、オリジナリティーのある学術論文を執筆できる能力

gmDP3-4.

フィールドワークから得られた情報を解釈して社会へ還元できる能力

## II. カリキュラム・ポリシー(教育課程の編成・実施の方針)

地球環境学専攻博士前期課程には、日本語コースと、英語だけで必要単位が取得可能な国際環境コースが存在します。ディプロマ・ポリシーに示す資質・能力等の目標を学生が達成できるようにするため、教育課程編成、学修内容・学修方法、学修成果評価について、どちらのコースにも共通するカリキュラム・ポリシーを、以下の通り定めます。

### 1. 教育課程の編成方法

本課程では、専門分野についての高度な知識と様々な理論と実践を効果的に修得できるよう、以下のようにカリキュラムを編成しています。

- (1) 国際社会の持続可能な方向への移行を先導できる人材に必要な、環境ガバナンスや社会デザインのための基礎的素養を獲得するための科目群を配置します。
- (2) さらに、そのように移行してゆく人間社会や、それと相互作用しながら変化してゆく自然環境を絶えずモニタリングし、得られた情報を解釈して社会へ還元できる専門的人材に必要な技法を修得するための科目群を設置します。
- (3) 研究倫理に関する規範意識を身につけるために、研究倫理教育を受ける機会を設けます。

### 2. 学修内容・学修方法

本専攻の修了に必要な知識・技能を修得するため、講義・演習等を組み合わせた様々な授業形態・授業方法による学修・研究指導の機会を提供します。

さらに、課題設定等を通じて授業時間外の学修を促し、学修時間の確保と成果の定着を図ります。

- (1) 講義では環境法、環境政策、リモートセンシング等の環境計測手法など、多様なトピックについて全般的な知識や技能を獲得します。
- (2) 演習では、各教員の専門分野により近い高度な知識や技能を身につけます。
- (3) 「研究指導」では、修士論文／リサーチ・ペーパーにおける研究内容の高度化を目指します。

なお、(1)(2)どちらにおいても、学問的・文化的なバックグラウンドの異なる多様な学生たちが討議することを通じて、自身の専門性を生かしながら他者と協同するためのコミュニケーション能力を醸成することを重視します。

### 3. 学修成果の評価方法

ディプロマ・ポリシーに示す目標に対する学生の学修到達状況は、シラバス等に明示された評価基準・方法に基づき、筆記試験、プレゼンテーション、レポート等を用いて多角的に評価します。学位論文については、審査基準と審査方法を明示し、それに基づき論文審査および最終試験を厳格に行います。

### Ⅲ. アドミッション・ポリシー(入学者受入れの方針)

地球環境学専攻博士前期課程では、ディプロマ・ポリシーに定める人材を育成するため、求める学生像、入学前に身につけていることを求める能力、入学者選抜の方法について、以下のようにアドミッション・ポリシーを定めます。

#### 1. 求める学生像

本課程では、「他者のために、他者とともに」という本学の教育精神およびディプロマ・ポリシーで掲げる目標を踏まえ、次のような資質・能力を高めたいと望む学生を求めています。

- (1) 環境問題に関する専門的知識・技能および学際的な教養
- (2) 環境ガバナンスや社会デザインのための基礎的素養や、自然環境をモニタリングするための基礎的な能力
- (3) 社会の変革に対応できる多角的な視座や課題解決力
- (4) 高度な研究能力や専門性を活かして社会に貢献する力

#### 2. 入学前に身につけていることを求める能力

入学前には、次の知識・能力・態度を持つことを求めます。

- (1) 社会科学、自然科学、あるいは人文科学に関する基礎知識と論理的思考力
- (2) 複数の領域にまたがる学問的知見を身につけ、発展させようという意欲
- (3) 研究を遂行する際に必要な語学力やコミュニケーション能力
- (4) 地域、企業、行政や NPO などの場で、他者との協働を通じて、環境問題の解決に具体的に貢献するという意志

#### 3. 入学者選抜の方法

入学者選抜の基本方針として、複数の受験機会や多様な学生を評価できる入試を提供します。アドミッション・ポリシーに定める「求める学生像」にふさわしい入学者を選抜するにあたり、「入学前に身につけていることを求める能力」を評価するため、出願書類、筆記試験、口述試験の結果により総合的に選抜を実施します。

入学者選抜方法の詳細は大学院入学試験の HP をご覧ください。

[https://adm.sophia.ac.jp/jpn/in\\_ad/innyushi/](https://adm.sophia.ac.jp/jpn/in_ad/innyushi/)

## Three Policies of the Graduate Program in Global Environmental Studies

### ■ Master's Program

#### I. Diploma Policy (Degree Conferral Policy)

The Master's Program in Global Environmental Studies aims to develop professionals with broad expertise in both the social and natural sciences related to the environment. Through gaining knowledge of various theories and practical approaches, graduates will be able to contribute to building a sustainable society.

Following the diploma policy of the Sophia University Graduate School, students who complete the required coursework and pass the evaluation of their master's thesis or research paper will be awarded a degree, recognizing that they have acquired the following skills and competencies.

#### 1. Professional Qualities and Research Ethics

gmDP1-1.

The ability to think from multiple perspectives with broad knowledge of environmental studies and related fields, applying an interdisciplinary approach.

gmDP1-2.

The ability to conduct research with a high level of ethical principles.

#### 2. Specialized Knowledge

gmDP2-1.

Broad expert knowledge in global environmental issues and environmental studies.

gmDP2-2.

Extensive practical knowledge in global environmental issues and environmental studies.

#### 3. Leadership in Society

gmDP3-1.

The ability to pursue original research by integrating knowledge from social and natural sciences while applying both theory and practice.

gmDP3-2.

The ability to share research findings with society through clear writing and oral presentations.

gmDP3-3.

The ability to structure academic papers logically and present well-organized arguments in writing.

gmDP3-4.

The ability to interpret information obtained from the fieldwork and return it to society

## **II. Curriculum Policy (Curriculum Design and Implementation Policy)**

The Master's Program in Global Environmental Studies offers two courses of study: the International Graduate Course, where students can earn the necessary credits entirely in English, and the Japanese Course. To support students in meeting the goals set in the diploma policy, which outlines the knowledge and skills they need, a shared curriculum policy applies to both courses of study. This policy sets guidelines for curriculum development, learning content and methods, and the method of evaluation of learning outcomes, as explained below.

### **1. Curriculum Design and Organization**

This program is designed to effectively help students acquire advanced knowledge in their field, along with various theories and practical skills, through the following curriculum structure:

- (1) Courses are arranged to help students acquire foundational knowledge in environmental governance and social design, which are essential for leading the transition toward a more sustainable global society.
- (2) Additional courses are provided to prepare students with the techniques needed to monitor evolving human societies and their interactions with the changing natural environment, interpret the data collected, and apply their findings to benefit society.
- (3) Opportunities for research ethics education are provided to help students develop an awareness of ethical standards in research.

### **2. Learning Content and Methods**

To gain the knowledge and skills needed to complete this program, students learn through a combination of lectures, seminars, and other teaching methods that provide both learning and research opportunities. They also complete assignments and independent study outside of class to support their learning:

- (1) In lectures, students acquire general knowledge and skills on a wide range of topics, including environmental laws, environmental policies, and environmental monitoring techniques such as remote sensing.

(2) In seminars, students gain more advanced knowledge and skills closely related to the specialized fields of each instructor.

(3) In "Research Guidance," students receive support to strengthen their master's thesis or research papers.

In both (1) and (2), students develop communication skills for working collaboratively by applying their own expertise in discussions with students from different academic and cultural backgrounds.

### **3.Methods for Assessing Learning Outcomes**

Student achievement of the goals in the Diploma Policy is assessed through appropriate course grading. All evaluations are based on the criteria and methods stated in the syllabus. For the thesis, the evaluation criteria and methods will be clearly defined, and both the thesis review and final examination will be carefully reviewed according to these standards.

### **III. Admission Policy (Student Admissions Policy)**

In the Master's Program in Global Environmental Studies, the following admission policy has been established to prepare students in line with the goals of the Diploma Policy, specifying the desired student profile, the expected competencies prior to admission, and the admissions screening methods.

#### **1.Desired Student Profile**

Based on the university's educational spirit "For Others, With Others" and the goals outlined in the Diploma Policy, this program seeks students who are eager to build and develop the following knowledge and skills:

- (1) Specialized knowledge and skills related to environmental issues, along with a interdisciplinary foundation that connects environmental studies with other fields
- (2) A general understanding of environmental governance and social design, as well as the ability to monitor changes in the natural environment
- (3) The ability to analyze and respond to social change from multiple perspectives, along with strong problem-solving skills
- (4) The ability to apply advanced research skills and expertise to address real-world challenges

#### **2.Expected Competencies Prior to Admission**

Before enrolling, students are expected to have the following foundational knowledge, skills, and attitudes:

- (1) A basic understanding of the social sciences, natural sciences, humanities, and logical thinking skills
- (2) A motivation to gain and expand knowledge across multiple fields
- (3) Language and communication skills necessary to carry out research
- (4) A strong commitment to to actively address environmental challenges though working with others in local communities, businesses, government, or NGOs

#### **3.Admissions Screening Methods**

The admissions process is designed to assess students from diverse backgrounds. To identify students who align with the “Desired Student Profile” described in the Admission Policy, the selection process evaluates whether applicants have the necessary knowledge and skills before enrollment. This is done through a review of application documents and oral examinations that assess a range of skills.

The Graduate School Admissions website should be visited for details on admissions screening methods.

[https://adm.sophia.ac.jp/eng/admissions/graduate\\_p/english\\_g2/ges/](https://adm.sophia.ac.jp/eng/admissions/graduate_p/english_g2/ges/)

## 地球環境学専攻の3つのポリシー

### ■ 博士後期課程

#### I. ディプロマ・ポリシー（学位授与の方針）

地球環境学専攻博士後期課程は、地球環境学に関する国際レベルの研究能力を有していると認められ、また、自立して研究・開発が遂行でき、持続可能な社会の実現に貢献できると見なされる専門的人材の養成を目的としています。

そうした目的を達成するため、上智大学大学院のディプロマ・ポリシーを踏まえ、本専攻博士後期課程では、所定の教育課程を修め、学位論文の審査に合格することで、次の資質・能力を身につけたと認められる者に学位を授与します。

#### 1. 専門家としての資質・研究倫理

gdDP1-1.

環境学分野を中心として、関連分野の知識も含む幅広い教養と学際性を備えた多角的な思考力

gesDP1-2.

高い倫理観・規範意識を持って研究を進める力

#### 2. 高度な専門的知識

gdDP2-1.

地球環境問題や環境学についての専門家として求められる高度な専門的知見

gdDP2-2.

地球環境問題や環境学についての専門家として社会に貢献するための実践的知識

#### 3. 社会を先導する力

gdDP3-1.

地球環境学の解明すべき研究課題に対して、社会科学と自然科学の知識の総合化や理論と実践の結合などによるオリジナリティーのある研究能力を身につけ、自立して研究・開発を行うことができる力

gdDP3-2.

自らの主張を論理的に記述し、口頭で伝達することができ、社会に情報を発信することができる力

gdDP3-3.

前項を実現する方法として、オリジナリティーのある学術論文を執筆し、外部発表できる能力

gdDP3-4.

高度の専門性が求められる社会の多様な方面で活躍し得る高度の研究能力

## II. カリキュラム・ポリシー(教育課程の編成・実施の方針)

地球環境学専攻博士後期課程には、英語だけでも必要単位が取得可能な国際環境コースと、日本語コースとが存在します。ディプロマ・ポリシーに示す資質・能力等の目標を学生が達成できるようにするため、教育課程編成、学修内容・学修方法、学修成果評価について、どちらのコースにも共通するカリキュラム・ポリシーを、以下の通り定めます。

### 1. 教育課程の編成方法

本課程では、研究分野に特化した知識と様々な理論と実践を効果的に修得できるよう、カリキュラムを編成しています。

- (1) より具体的には、博士前期課程で修得したことを生かしながら、地球環境学の発展に貢献できる独立した研究者となるトレーニングを行うための科目群を設置します。
- (2) 研究倫理に関する規範意識を身につけるために、「研究指導」の科目を設けるほか、研究倫理教育を受ける機会を設けます。

### 2. 学修内容・学修方法

本課程の修了に必要な知識・技能を修得するため、講義・演習等を組み合わせた様々な授業形態・授業方法による学修・研究指導の機会を提供します。

さらに、課題設定等を通じて授業時間外の学修を促し、学修時間の確保と成果の定着を図ります。

- (1) 前期課程で積み上げた基礎知識をさらに拡充するため、産業エコロジー、海洋政策、廃棄物管理などの多彩な科目群の中から関心のある科目を選択し、学修を深めます。
- (2) 修士論文の成果等をふまえて、さらに高度な研究を行います。
- (3) 講義・演習・その他の研究指導に基づき、国内外の学会・学術誌への論文発表を積極的に行い、自立した研究者としての能力を身につけます。

### 3. 学修成果の評価方法

ディプロマ・ポリシーに示す目標に対する学生の学修到達状況は、シラバス等に明示された評価基準・方法に基づき、筆記試験、プレゼンテーション、レポート等を用いて多角的に評価します。学位論文については、審査基準と審査方法を明示し、それに基づき論文審査および最終試験を厳格に行います。

### Ⅲ. アドミッション・ポリシー(入学者受入れの方針)

地球環境学専攻博士後期課程では、ディプロマ・ポリシーに定める人材を育成するため、求める学生像、入学前に身につけていることを求める能力、入学者選抜の方法について、以下のようにアドミッション・ポリシーを定めます。

#### 1. 求める学生像

本課程では、「他者のために、他者とともに」という本学の教育精神およびディプロマ・ポリシーで掲げる目標を踏まえ、博士前期課程までに培った次のような資質・能力をさらに高めたいと望む学生を求めています。

- (1) 環境問題に関する高度な専門的知識・技能および学際的な深い教養
- (2) 環境ガバナンスや社会デザインのための基礎的素養や、自然環境をモニタリングするための基礎的な能力
- (3) 社会の変革に対応できる多角的な視座や課題解決力
- (4) 高度な研究能力や専門性を活かして社会に貢献する力

#### 2. 入学前に身につけていることを求める能力

入学前には、次の知識・能力・態度を持つことを求めます。

- (1) 自身の研究領域に関する高度な専門的知識と論理的思考力
- (2) 研究を遂行する際に必要な語学力やコミュニケーション能力
- (3) 高度で独創的な研究を行い、学会での研究報告や学術誌への積極的な論文発表を行うとともに、優秀な博士論文を執筆し、博士号を取得することへの意欲
- (4) 修了後には、国内外の研究機関や地域、企業、行政、NPO、国際機関などで、他者との協働を通じて、環境問題についての研究・教育活動、環境問題の解決のための活動に具体的に貢献するという意志

#### 3. 入学者選抜の方法

入学者選抜の基本方針として、多様な学生を評価できる入試を提供します。アドミッション・ポリシーに定める「求める学生像」にふさわしい入学者を選抜するにあたり、「入学前に身につけていることを求める能力」を評価するため、出願書類、筆記試験、口述試験の結果により総合的に選抜を実施します。

入学者選抜方法の詳細は大学院入学試験のHPをご覧ください。

[https://adm.sophia.ac.jp/jpn/in\\_ad/innyushi/](https://adm.sophia.ac.jp/jpn/in_ad/innyushi/)

## ■ Doctoral Program

### **I. Diploma Policy (Degree Conferral Policy)**

The Doctoral Program in Global Environmental Studies aims to prepare individuals with extensive knowledge of theories, practices, and specialized expertise, allowing them to contribute to building a sustainable society.

Following the diploma policy of the Sophia University Graduate School, students who complete the required coursework and pass the evaluation of their doctoral thesis will be awarded a degree, recognizing that they have acquired the following skills and competencies.

#### **1. Professional Qualities and Research Ethics**

gdDP1-1.

The ability to think from multiple perspectives with broad knowledge of environmental studies and related fields, applying an interdisciplinary approach.

gdDP1-2.

The ability to conduct research with a high level of ethical principles.

#### **2. Specialized Knowledge**

gdDP2-1.

Advanced expert knowledge in global environmental issues and environmental studies.

gdDP2-2.

Advanced practical knowledge in global environmental issues and environmental studies to contribute to society.

#### **3. Leadership in Society**

gdDP3-1.

The ability to pursue original research by integrating knowledge from social and natural sciences while applying both theory and practice.

gdDP3-2.

The ability to share research findings with society through clear writing and oral presentations.

gdDP3-3.

The ability to structure academic papers logically, present well-organized arguments in writing and publish them externally.

gdDP3-4.

The high level of expertise and capability to research required in various parts of society

## **II. Curriculum Policy (Curriculum Design and Implementation Policy)**

The Doctoral Program in Global Environmental Studies offers two courses of study: an International Environmental Course, where students can earn the required credits entirely in English, and a Japanese-language course. To support students in meeting the goals set in the diploma policy, which outlines the knowledge and skills they need, a shared curriculum policy applies to both courses of study. This policy sets guidelines for curriculum development, learning content and methods, and the method of evaluation of learning outcomes.

### **1. Curriculum Design and Organization**

This program is designed to effectively help students acquire advanced knowledge in their field, along with various theories and practical skills, through the following curriculum structure:

- (1) More specifically, students take a set of courses designed to help them become independent researchers who can advance research in global environmental studies, expanding on the knowledge gained in the Master's Program.
- (2) To help students develop an understanding of research ethics, they take a "Research Guidance" course along with additional opportunities to study research ethics.

### **2. Learning Content and Methods**

To gain the knowledge and skills needed to complete this program, students learn through a combination of lectures, seminars, and other teaching methods that provide both learning and research opportunities. They also complete assignments and independent study outside of class to support their learning:

- (1) To further expand the foundational knowledge acquired in the first semester, students will choose subjects of interest from a diverse range of courses, such as industrial ecology, marine policy, and waste management, to deepen their learning.
- (2) Building on the foundational knowledge and research from their Master's thesis, students will conduct in-depth research at the doctoral level.

- (3) Based on the knowledge and experience gained from lectures, seminars, and research guidance, students will present their research at domestic and international conferences and submit papers to academic journals, which helps them build the skills needed to become independent researchers.

### **3.Methods for Assessing Learning Outcomes**

Student achievement of the goals in the Diploma Policy is assessed through appropriate course grading. All evaluations are based on the criteria and methods stated in the syllabus. For the doctoral thesis, the evaluation criteria and methods will be clearly defined, and both the thesis review and final examination will be carefully reviewed according to these standards.

### **III. Admission Policy (Student Admissions Policy)**

In the Doctoral Program in Global Environmental Studies, the following admission policy has been established to prepare students in line with the goals of the Diploma Policy, specifying the desired student profile, the expected competencies prior to admission, and the admissions screening methods.

#### **1.Desired Student Profile**

Based on the university's educational philosophy "For Others, With Others," and the goals outlined in the Diploma Policy, this program seeks students who are eager to further develop the following knowledge and skills cultivated through their Master's studies:

- (1) Highly specialized knowledge and skills related to environmental issues, along with a strong interdisciplinary foundation that connects environmental studies with other fields
- (2) A general understanding of environmental governance and social design, as well as the ability to monitor changes in the natural environment
- (3) The ability to analyze and respond to social change from multiple perspectives, along with strong problem-solving skills
- (4) The ability to apply advanced research skills and expertise to address real-world challenges

#### **2.Expected Competencies Prior to Admission**

Before enrolling, students are expected to have the following foundational knowledge, skills, and attitudes:

- (1) Advanced expertise in their research field and advanced logical thinking skills
- (2) Language skills and communication abilities necessary to carry out research
- (3) Motivation to conduct original, high-quality research, present at academic conferences, publish in academic journals, and write a high-quality doctoral thesis to earn a doctoral degree
- (4) Commitment to contributing meaningfully to environmental research, education, or efforts to address environmental challenges through collaborations with research institutions, local

communities, private companies, government, NPOs, and international organizations, both in Japan and internationally

### **3. Admissions Screening Methods**

The admissions process is designed to assess students from diverse backgrounds. To identify students who align with the “desired student profile” described in the Admission Policy, the selection process evaluates whether applicants have the necessary knowledge and skills before enrollment. This is done through a review of application documents and oral examinations that assess a range of skills.

The Graduate School Admissions website should be visited for details on admissions screening methods.

[https://adm.sophia.ac.jp/eng/admissions/graduate\\_p/english\\_g2/ges/](https://adm.sophia.ac.jp/eng/admissions/graduate_p/english_g2/ges/)

## 応用データサイエンス学位プログラムの3つのポリシー

### ■ 修士課程

#### I. ディプロマ・ポリシー(学位授与の方針)

上智大学大学院応用データサイエンス学位プログラムは、現代社会が直面するエネルギー・環境・食糧等の地球規模の課題にデータサイエンスの手法を駆使し、持続可能な社会の実現に貢献できる専門職業人の育成を目的としています。

そうした目的を達成するため、上智大学大学院のディプロマ・ポリシーを踏まえ、本学位プログラムでは、所定の教育課程を修め、特定課題の審査に合格することで、次の資質・能力を身につけたと認められる者に学位を授与します。

#### 1. 専門家としての資質・研究倫理

gmDP1-1

自らの研究成果を論理的に整理して的確に伝えることができる力

gmDP1-2

データの取得や応用に際して、高い倫理と規範意識を持って臨むことができる力

gmDP1-3

最新の研究成果や先進技術を追い求め修得し続けることのできる自己推進力

#### 2. 高度な専門知識

gmDP2-1

データサイエンスおよび関連分野における最先端の専門知識を活かす力

gmDP2-2

様々なデータを科学的に分析し、それを各々の問題に適用し、社会課題や学術への貢献を行うとともに、新手法の開発や新分野の開拓を行うことができる力

#### 3. 社会を先導する力

gmDP3-1

データサイエンスに関する基礎と専門知識を有するとともに、それらの理論を礎に実務に応用展開しデータ活用社会を牽引する力

gmDP3-2

特定課題での研究活動を通して修得する、人間社会や地球環境に与える影響などを多面的・重層的に捉えた課題解決ができる洞察力と実行力

## II. カリキュラム・ポリシー(教育課程の編成・実施の方針)

上智大学大学院応用データサイエンス学位プログラムでは、ディプロマ・ポリシーに示す資質・能力等の目標を学生が達成できるようにするため、教育課程編成、学修内容・学修方法、学修成果評価について、以下のようにカリキュラム・ポリシーを定めます。

### 1. 教育課程の編成方法

本学位プログラムでは、データサイエンスの手法を様々な分野に応用し、データ活用社会を牽引する力を養成するために、データサイエンスの基礎知識やスキルおよびリテラシーや学術的な視点、実務に活用・応用できる実践力を修得するための幅広い専門科目を配置し修得できるよう、以下のようにカリキュラムを編成しています。

- (1) データサイエンスの基礎から実践まで幅広い分野を俯瞰し、本プログラムで学ぶ内容の理解を促すための必修科目として「応用データサイエンス特論」を1年次春学期に配置します。
- (2) データサイエンスおよび関連分野に関する学術的な視点や専門知識および実務で応用するための視点やスキルを修得できる講義科目を1年次から配置します。
- (3) 特定課題作成と口頭報告の能力を修得するための必修科目として、学術的なアプローチによる指導を行う「演習 A」、それと並行して実社会での動向や事例を踏まえた指導を行う「演習 B」を2年次に配置するとともに、両科目を横断する形での合同研究報告会を実施します。
- (4) データサイエンスの基礎スキルやリテラシーの修得とあわせ、データを扱う上で配慮すべき倫理的側面の理解を促す講義・演習科目を設けます。また、研究倫理に関する規範意識を身につけるために、研究倫理教育を受ける機会を設けます。
- (5) データサイエンスを応用した実例を体感し、データの収集、分析、活用等の実践力を修得するための実践系科目、学術的な応用力を養成するための様々な学問分野における分析手法や応用事例を学ぶ連携科目等を選択可能にします。

### 2. 学修内容・学修方法

本学位プログラムの修了に必要な知識・技能を修得するため、必修科目を中心に多くの科目においてディスカッション(議論・討論)やプレゼンテーション(発表)、演習(実作業)による学修・研究指導の機会を提供します。

さらに、課題設定等を通じて授業時間外の学修を促し、学修時間の確保と成果の定着を図ります。

- (1) 1年次春学期必修科目の「応用データサイエンス特論」では、各教員の専門分野の概説を中心とした輪講形式を通じて、多様な課題の解決に取り組む力を身につけます。
- (2) 2年次必修科目の「演習 A」及び「演習 B」では、特定課題に繋がる課題研究や文献講

読、および実践演習を通じて、1年次に引き続き、高度職業専門人として求められる伝達力、実行力、洞察力などを強化します。

- (3) 選択科目では、実作業中心の演習形式でのプログラミング関係科目、および講義形式を基本としつつも必要に応じて実作業(演習や実習)が盛り込まれる内容を通じて、最先端の専門知識を中心に身につけます。
- (4) 選択科目を1～2年次に自由に履修可能となるよう配置することで、学生のバックグラウンド(学習歴や職務経験)や興味・関心に応じ、柔軟な対処力や自己推進力などを身につけます。
- (5) 各専門科目におけるディスカッションや演習、そして関連学会への参加などを通じて、データ活用社会の即戦力や牽引力、新手法開発力や分野開拓力を身につけます。

### 3.学修成果の評価方法

ディプロマ・ポリシーに示す目標に対する学生の学修到達状況は、シラバス等に明示された評価基準・科目等に基づき、実習、演習課題のプレゼンテーション等を用いて多角的に評価します。特定課題については、審査基準と審査方法を明示し、それに基づき特定課題審査会による特定課題審査を厳格に行います。

### Ⅲ. アドミッション・ポリシー(入学者受入れの方針)

上智大学大学院応用データサイエンス学位プログラムでは、ディプロマ・ポリシーに定める人材を育成するため、求める学生像、入学前に身につけていることを求める能力、入学者選抜の方法について、以下のようにアドミッション・ポリシーを定めます。

#### 1. 求める学生像

本学位プログラムでは、「他者のために、他者とともに」という本学の教育精神および本学位プログラムのディプロマ・ポリシーで掲げる目標を踏まえ、次のような資質・能力を高めたいと望む学生を求めています。

- (1) データサイエンスおよび関連分野における最先端の専門知識
- (2) 応用データサイエンスの知識・技術を用いて、現代社会の課題解決に取り組む実践的思考力
- (3) 社会の変革と技術の発展の両方に対応し、データの科学的活用を用いて新たな分野を社会で開拓・発展させる応用実践力
- (4) 高い倫理観のもとにデータの科学的活用を用いて人間社会の発展に貢献する力

#### 2. 入学前に身につけていることを求める能力

入学前には、次の知識・能力・態度を持つことを求めます。

- (1) データサイエンスの社会実践に対する強い関心
- (2) 専門的な研究を実施するために自ら課題を発見し探究しようとする意欲
- (3) 研究を遂行する際に必要な語学力やコミュニケーション能力
- (4) データサイエンス領域全般に関する基礎知識と論理的思考力

#### 3. 入学者選抜の方法

入学者選抜の基本方針として、多様な受験機会を設け多様な学生を評価できる入試を提供します。アドミッション・ポリシーに定める「求める学生像」にふさわしい入学者を選抜するにあたり、「入学前に身につけていることを求める能力」を評価するため、出願書類、筆記試験、口述試験の結果により総合的に選抜を実施します。

入学者選抜方法の詳細は大学院入学試験の HP をご覧ください。

[https://adm.sophia.ac.jp/jpn/in\\_ad/innyushi/](https://adm.sophia.ac.jp/jpn/in_ad/innyushi/)